

ミンフイ  
明慧報告書



# 中国で 起きている 20年間におよぶ 法輪功への迫害

ミンフイ  
明慧グループ



## さらに海外へ...

法輪功としても知られる法輪大法の心身修煉法は、1992年に公に伝えだされた後、口コミにより急速に広まりました。法輪功の人気急増および伝統的価値観への復興力に直面し、中国共産党は組織的な逮捕、投獄、洗脳、拷問、さらには大量殺害などの手法を用いて、法輪功を根絶するための前代未聞のキャンペーンを開始したのです。

凄まじい迫害の中、法輪功学習者は平和的な手段で迫害に抵抗し続けており、法輪功を学ぼうとする新しい学習者も増えています。

一億人に対するこの残忍な迫害はどのように行われてきたのか、中国共産党がいかに関国に浸透しこのキャンペーンを世界的に展開してきたのか、さらにこの歴史的な瞬間は世界中の経済、一般市民、政治指導層にとって何を意味しているのか、お読み解きください。

本書の情報は、ほかのどこでも見ることのできない、過去20年間に亘って明慧ネットのボランティアにより収集された直接の情報をもとに編集されたものです。

私達、そしてあなた達の家族や友人に捧げます

微力ながらも、あなた自身そしてあなたの  
愛する人々に明るい未来が築かれますように

刻まれつつある歴史においてこの重要な瞬間に  
証人そして一部分となり、記録していきます

ミンファイ  
**明慧二十周年報告書**

中国で起きている  
20年間にもおよぶ  
法輪功への迫害

ミンファイ  
明慧グループ

Copyright © 2019 Minghui.org & Minghui  
Publishing Center Corporation

# 目次

この報告書について	14
概説	16
憎悪への扇動に基づく暴力的な抑圧	16
拷問による「転向」キャンペーン	17
迫害に遭う中、法輪功は支持され、学習者も増えた	18
より多くの国際的リーダーが行動を起こしている	19
序論	20
江沢民の虐殺政策	20
迫害の概要	20
第一部 法輪功への迫害	23
要旨	23
第1章 拘留施設	24
1.1 洗脳班	24
1.1.1 中国の多角化された拘留システムの超法規的部門	24
1.1.2 大規模で潤沢な資金に支えられるネットワーク	25
1.1.3 学習者の信念の破壊に使用された手法	26
1.1.3 (a) 専断的な拘留条件	26
1.1.3 (b) 高度な秘密性	26
1.1.3 (c) 未知の薬物投与	27
1.1.3 (d) 集中的な洗脳	27
1.1.3 (e) 偽りと欺瞞	28
1.1.4 洗脳班での死亡	28
1.1.5 湖北省の例：「私が言えば法律だ」	28
1.1.5 (a) 恣意的な拘禁及び拷問	29
1.1.5 (b) 殴打と薬物投与	29
1.1.5 (c) 洗脳班：資金と運営	30
1.1.5 (d) 強制収容所よりも劣悪	30
1.1.5 (e) 心身に対する系統的虐待	31
1.2 強制労働収容所	37
1.2.1 強制労働は中国の法律と世界人権宣言に違反する	32
1.2.2 「衛生」箸が労働収容所内の状況を暴露する	33
1.2.2 (a) 北京市労働教育局での「衛生」箸の製造	33
1.2.2 (b) 天津市双口強制労働収容所で作られた「衛生」箸とバーベキュー串	34
1.2.2 (c) 大連強制労働収容所で作られた箸の唯一の衛生基準：袋に毛髪が混ざっていないこと	3

1.2.3 労働収容所での更なる酷使	35
1.2.3 (a) 髪製品専門の河南省第三労働収容所	35
1.2.3 (b) 天津市建新強制労働収容所におけるひどい衛生状態	35
1.2.3 (c) 黒竜江省ジャムス強制労働収容所における有害物質	36
1.2.3 (d) 山東省第一女性強制労働収容所で生産された有名ブランドの寝具類	36
1.2.3 (e) 吉林省黒嘴子女性強制労働収容所での不可能なノルマ	37
1.2.4 労働収容所が廃止された後、被拘禁者はより隠れた施設に移された	37
<b>1.3 精神科病院</b>	<b>38</b>
1.3.1 労働収容所との類似点	39
1.3.2 精神衛生コードの抜け穴により、健康な人は意志に反する安康病院での監禁を強いられる	39
1.3.3 学習者を虐待する際の精神薬の乱用	40
1.3.4 精神的虐待は若い女性を狂気に追いやった	40
1.3.4 (a) 精神的虐待によるさらに多くの死亡例	41
<b>1.4 ゴム印同様の司法制度</b>	<b>42</b>
1.4.1 記者会見を開くことによる逮捕	42
1.4.2 ポスター貼りによる投獄	43
1.4.3 オリンピック期間中、または他の「敏感な」時期の逮捕例	44
1.4.4 襲撃者の代わりに、警察は殴られて意識を失った女性を逮捕	44
1.4.5 一つの警察署で数人の死、及び無数の残虐行為	45
1.4.5 (a) 高炳栄さん：精神障害、拷問されたのち死亡	45
1.4.5 (b) 崔存義さん：五本の肋骨が折れて、肺全体が真っ黒に	45
1.4.5 (c) 趙軍さん：爪楊枝で指の爪裏を刺され、不具になるまで拷問を受け、息子は人質に	46
1.4.5 (d) 黄国棟さん：部屋中が血まみれ	46
1.4.6 学習者に有罪判決を下すための警察、検察、及び裁判所の法的手順の違反	47
(a) 警察は訴追の証拠を提示できない	48
(b) 江沢民に対する合法的な告訴が訴追の証拠となった	48
(c) 「81日間の拘留」の欠落	49
(d) 裁判所職員は張さんに、弁護士を解雇するよう圧力をかけた	49
(e) 裁判所事務官は張さんの法定代理人の請求について虚偽を伝える	49
(f) 弁護士ではない弁護人の辞退を余儀なくされた家族	50
1.4.7 秘密裏に行われる裁判所聴聞会の1ヵ月前に事前決定された判決	51
1.4.8 中国国営テレビに割り込み事実を放送したため、刑を受けた	51
1.4.8 (a) 江沢民が秘密の命令を発する	51
1.4.8 (b) 7人の学習者が逮捕直後に死亡	52
1.4.8 (c) 判決を言い渡された15人の学習者	52
1.4.8 (d) 歴史的影響	53
<b>1.5 投獄された学習者の権利への侵害</b>	<b>53</b>
1.5.1 遼寧省女性刑務所とその「矯正区」	54
1.5.1 (a) 矯正区で使用された手法	54
(1) 学習者の意志を挫く	54
(2) 学習者を拷問するよう受刑者を扇動する	54
(3) 集団処罰を利用して憎悪を扇動する	55
1.5.2 黒竜江省女性刑務所は、受刑者らに学習者を拷問するよう指示した	55

1.5.2 (a) 刑期の短縮が犯罪者による学習者への攻撃の見返りとなった	55
1.5.2 (b) 刑務所内病院は健康な学習者を拷問する	56
1.5.3 天津の男性が7年刑期中の5年目にやっと訴えることを許された	57
1.5.4 投獄された女性の弁護士宛ての手紙が刑務所に差し止められた	57
1.5.5 刑務所は、信仰のため11年の実刑を強いられた学習者への受刑者による暴行を無視	58
1.5.5 (a) 刑務所で被った頭部の外傷	58
1.5.5 (b) 内密に刑を宣告され、刑務所で虐待を受ける	58
1.5.6 脳卒中患者が医療仮釈放を拒否され、信仰のための服役中に刑務所で死亡	59
1.5.7 法輪功の煉功をしたため、投獄中の女性が4か月間家族訪問を認められなかった	59
<b>第2章 雇用、教育、住宅及び経済的安全保障の拒否</b>	<b>67</b>
2.1 迫害における学校システムの役割	62
2.1.1 否定された教育機会	62
2.1.2 生徒と教師に対する洗脳	63
2.2 雇用機会の拒否及び個人財産の押収	64
2.2.1 雇用主によって解雇された学習者	64
2.2.2 強制的に閉鎖された民間企業	65
2.3 住む場所がない	66
2.4 家荒らし	67
2.5 強奪	68
2.6 年金の留保	69
2.7 現存する全体主義国家	70
2.7.1 パスポートと身分証明書の無効化	70
2.7.2 常時監視	71
2.8 学習者に敵対する家族	73
<b>第3章 学習者の子どもたちの苦しみ</b>	<b>76</b>
3.1 子どもへの洗脳	77
3.1.1 洗脳キャンペーンの背景にあるCACA	78
3.1.2 小学校から始まる洗脳	78
3.1.3 その他の洗脳形態	79
3.2 早期死亡	79
3.3 孤児	81
3.4 引き離された家族	83
3.5 狂気に追い込まれた	85
3.6 暴力と残虐行為	86
3.7 拘留	88
3.8 レイプ	90
<b>第4章 拷問の手法</b>	<b>97</b>
4.1 殴打	91
4.1.1 素手での殴打	91
4.1.2 道具を用いる殴打	92
4.2 強制灌食	94
4.3 ストレスの多い姿勢	95
4.3.1 小さな椅子に座らされる	95

4.3.2 許昌労働収容所のロープ縛り	96
4.3.3 女性は「拘束衣」の拷問で死亡	96
4.3.4 鎖で手と足を繋がれた	97
4.3.5 悪名高い馬三家労働収容所での引き伸ばし拷問	97
4.3.6 死人ベッド	98
4.4 感覚爆撃	98
4.4.1 極端な暑さ	98
4.4.2 凍結	99
4.4.3 耳をつんざくような騒音	99
4.4.4 嗅覚と味覚に対する攻撃	99
4.4.5 動物及び昆虫による咬傷	100
4.5 生理的欲求への制限	100
4.5.1 食事の剥奪	100
4.5.2 睡眠の剥奪	101
4.5.3 トイレの利用禁止	103
4.5.4 シャワーや生活必需品の購入禁止	103
4.6 電気ショック	103
4.7 水責めと窒息	104
4.8 独房監禁	105
4.9 強姦、性的暴行及び性的屈辱	106
4.9.1 女性への性的拷問	107
4.9.2 男性への性的拷問	108
<b>第5章 迫害致死</b>	<b>109</b>
5.1 当局が家族の同意なしに投獄された女性の生命維持装置を外す	109
5.1.1 李さんを死に至らせた主な出来事	109
5.2 遼寧省の女性が入所後13日で死亡	110
5.3 逮捕から逃れようとした河北省の女性が転落死	110
5.4 金順女さんの死	111
5.5 他の死亡事例	112
<b>第6章 身体的損傷と心的外傷</b>	<b>116</b>
6.1 身体的拷問及び虐待の結果	117
6.2 家族の苦境—当事者たちの言葉	119
<b>第7章 臓器狩り 前代未聞の犯罪</b>	<b>123</b>
7.1 合法的供給源が不足する中、短い待機時間で得られる豊富な臓器	123
7.2 行方不明の学習者	123
7.2.1 特定されていない学習者	124
7.2.2 他の地域への移送	124
7.3 軍の関与	125
7.4 強制的な血液検査	126
7.5 証人事例	126
7.6 電話調査での自白	127
<b>第8章 中国国外にまで拡大した迫害</b>	<b>129</b>
8.1 海外の学習者に対する暴力及び脅威	129

8.1.1	中国政府関係者の南アフリカ訪問中、オーストラリア人学習者が撃たれた	129
8.1.2	中国共産党のスタッフが情報を盗むために学習者の家に侵入	130
8.1.3	米国の地で、中国領事館が攻撃及び他の憎悪犯罪を扇動	130
8.1.4	中国の外交官が国家訪問中の暴力と混乱に責任を負う	131
8.1.5	香港における学習者と観光客に対する脅迫と攻撃	132
8.2	他国での迫害及び学習者の中国への送還	132
8.3	外国公務員及び市民団体に対する脅迫	135
8.3.1	平和的抗議活動への妨害	135
8.3.2	コミュニティ活動への妨害	136
8.3.3	神韻公演への妨害	137
8.3.4	立法への干渉	138
8.3.5	学習者の信用を落とすことを目的とした詐欺的な電子メールキャンペーン	139
8.3.6	贅沢な接待と恐喝で政治的影響力を買う	139
8.4	国際的なメディア系列の検閲	141
8.5	中国国外の事業に対する圧力	142
8.6	学術機関への浸透	143
8.6.1	孔子学院	143
8.6.2	中国人留学生及び学者協会 (CSSAs)	144
8.6.3	留学生からの収入を脅迫し、海外の大学を検閲	146
8.7	学習者に渡航制限を課す	147
8.8	学習者に中国共産党のためのスパイ活動を強要	148
<b>第二部</b>	<b>迫害における主な加害者</b>	<b>151</b>
	<i>要旨</i>	<i>151</i>
	<b>第9章 主な加害者たち</b>	<b>152</b>
9.1	江沢民の役割	152
9.1.1	迫害政策	152
9.1.1 (a)	名誉毀損	153
9.1.1 (b)	経済の破綻	153
9.1.1 (c)	身体の破壊	153
9.1.2	ネットで迫害を暴露した学習者への報復	153
9.1.3	江の犯した罪	156
9.1.3 (a)	中国憲法	156
9.1.3 (b)	中国刑法	157
9.1.3 (c)	人道に対する犯罪	159
9.1.3 (d)	ジェノサイド	160
9.2	他の主要加害者	161
9.2.1	羅幹	161
9.2.2	曾慶紅	162
9.2.3	劉京	162
9.2.4	周永康	163
9.2.5	李嵐清	164
	<b>第10章 迫害を主導する組織</b>	<b>165</b>

10.1 共有されたリーダーシップと資源	165
10.2 警察、司法、刑罰制度の統制	165
10.3 610弁公室	166
10.3.1 設立と拡大	167
10.3.2 違法性	168
10.3.3 組織体制	168
10.3.4 人員構成	169
10.3.5 政府部門と営利企業に対する統制	170
<b>第11章 迫害の共犯者</b>	<b>173</b>
11.1 コミュニティレベルの当局	173
11.2 外資系企業及び報道機関	173
11.2.1 テクノロジー企業が検閲と監視のインフラ構築を支援	174
11.2.2 外資系企業、中共からの検閲と学習者の解雇要求に応じる	174
11.2.3 国際報道機関は中共のプロパガンダを繰り返す	174
11.3 迫害の実施に加担した中国政府関係者	175
11.3.1 李東生	175
11.3.2 薄熙来	176
11.3.3 聞世震	176
11.3.4 王茂林	176
11.3.5 丁世癸	176
11.3.6 張行湘	177
<b>第12章 江沢民に対する20万件を超える提訴</b>	<b>178</b>
要旨	178
12.1 江沢民に対する刑事告訴の事例	178
12.2 統計データの要約	181
12.3 学習者に対する報復	182
12.3.1 報復の例	182
12.3.1 (a) 遼寧省朝陽市で判決を受けた36人	182
12.3.1 (b) 中国の元独裁者を訴えたために判決を受けた夫婦	184
12.3.1 (c) 警察は学習者に嫌がらせをする「ドアを叩く」キャンペーンを開始	185
12.4 社会的支持の増大	186
12.4.1 2016年報告書：1万4千人を超える人々が江沢民に対する起訴を呼びかける	186
12.4.2 台湾：新北市議会が元中国指導者の起訴を支持する決議を可決	186
12.4.3 江沢民に対する法的措置を支持する請願書に260万人以上が署名	187
<b>第三部 法輪功の現状</b>	<b>188</b>
要旨	188
<b>第13章 中国国内で迫害に立ち向かう</b>	<b>189</b>
13.1 初期の陳情及び抗議	189
13.2 対面で人に伝える	191
13.3 資料の配布及び横断幕・ポスターの掲示	192
13.4 加害者に対して個人的に手紙を送る	193
13.5 電話やインターネットを利用した情報発信	194

第14章 中国国外で迫害の実態を伝える	196
14.1 中国大使館及び領事館における抗議活動	196
14.2 集会と請願	196
14.3 SOSウォーク&自由への歩み	197
14.4 地域のイベントや観光名所で呼びかける	197
14.4.1 カナダ・オタワ	197
14.4.2 アメリカ合衆国・ニューヨーク州	198
14.4.3 ドイツ・ハンブルク	198
14.4.4 トルコ・アンタルヤ	198
14.4.5 ブラジル・サンパウロ	199
14.4.6 台湾・苗栗	199
14.4.7 オーストラリア・シドニー：中国人観光客が法輪功を学び、中共から脱退する 科学者カップルが中共から脱退	199 199
14.5 国際美術展	200
14.6 ドキュメンタリー映画	200
14.6.1 『フリーチャイナ：信じる勇気』	201
14.6.2 『馬三家からの手紙』	201
14.7 中国国内の学習者の釈放を確保するために働きかける国際関係者	201
第15章 迫害の中、新たに法輪功を学び始める人々	203
15.1 中国：拘留中に法輪功を学んだ元囚人の体験談	203
15.2 インド：法輪大法がチベット人学校に歓迎されている	204
(1) 中国での迫害の様子の展示	205
(2) アイデアと取り組み	206
15.3 インドネシア：中等教育学校の500人の生徒と教師が法輪功の功法を学ぶ	208
15.4 アメリカ合衆国：ソフトウェア開発者の精神的な旅	208
(1) 健康がすぐに回復した	209
(2) より幸せな家庭	209
(3) 仕事により励むようになった	210
(4) 社会全体へのメリット	210
15.5 中国人旅行者は海外旅行中に法輪功の事実を求める	211
15.6 台湾：法輪大法により、新しい学習者が生き生きとした生活を取り戻す	211
(1) 答えを探し求める	212
(2) 法輪大法と修煉法に出会う	213
(3) 李先生と大法が私を沼地から救い出し、元気を取り戻すように導いて下さった	214
15.7 韓国・ソウル：新人学習者たちが経験を共有	214
(1) 生きる意味を見つける	214
(2) 健康になり、強いエネルギーを感じるようになった	215
(3) 「真・善・忍」に同化していく幸せな暮らし	216
15.8 マンハッタン：天梯書店は法輪功を学ぶための便利な方法を提供	216
第16章 国際社会からの支援	217
16.1 他国で訴えられた中国政府関係者	217
16.1.1 スペインの裁判所は拷問とジェノサイドの罪で共産党幹部らを起訴した	217
16.1.2 アルゼンチン連邦判事は加害者の江沢民と羅幹の逮捕を命じる	218

1 6.1.2 (a) 江と羅は被告人になった	218
1 6.1.2 (b) 迫害の事実を調査するため、証拠集めで判事は自ら米国に	219
1 6.2 各国政府の行動	219
1 6.2.1 オーストラリア政府は学習者の救出を支援	219
1 6.2.2 カナダ政府は中国に収監されていた2人の兄弟を救出	221
1 6.2.3 台湾は迫害に関与した中国政府関係者の入国を拒否	222
1 6.2.4 米国政府による措置	222
1 6.2.4 (a) 米務省、年次報告書に懸念を示す	222
1 6.2.4 (b) 2018年CECC年次報告書：中国では法輪功への迫害が続いている 極端な弾圧	223
FBIによる捜査を呼びかける	224
1 6.2.4 (c) 国務省は人権侵害者に対してより厳しいビザ審査を課す	224
1 6.2.4 (d) 米国の指導者が信教の自由を訴え、学習者と会談	225
(1) トランプ大統領がホワイトハウスで学習者と面会	225
(2) 第二回宗教自由推進閣僚会議での法輪功迫害に関する発表	226
(3) 下院議長と元議員が中国の人権侵害を非難	226
(4) マイク・ペンス副大統領は、法輪功を含む中国で迫害されている宗教団体の代表者と会合	22
7	
1 6.3 非政府組織が取った行動	227
1 6.3.1 フリーダムハウス、法輪功迫害に関する報告書を公表	227
1 6.3.2 アムネスティ・インターナショナルは「緊急行動」の通知を発表	228
1 6.4 決議、宣言及び支援の手紙	229
1 6.4.1 各方面からの支援	229
1 6.4.2 ドイツは中国における20年間に及ぶ法輪功迫害を非難	230
1 6.5 臓器狩りに対する国際社会の反応	230
1 6.5.1 決議	231
1 6.5.1 (a) 欧州議会	231
1 6.5.1 (b) 米国下院	231
(1) イリアナ・ロス＝レイティネン下院議員「学習者への迫害が続いていることを非難する」	23
1	
(2) エリオット・エンゲル下院議員「強制的な臓器摘出は陰惨で衝撃的」	232
(3) クリス・スミス下院議員「法輪功への迫害は大いなる恐怖の一つ」	232
1 6.5.1 (c) 米国の州議会	232
1 6.5.1 (d) イタリア上院	233
1 6.5.2 臓器売買法の強化	233
1 6.5.2 (a) イスラエル	233
1 6.5.2 (b) スペイン	234
1 6.5.2 (c) イタリア	234
1 6.5.2 (d) 台湾	234
1 6.5.2 (e) クロアチア	235
1 6.5.2 (f) チェコ共和国	235
1 6.5.2 (g) ベルギー	236
1 6.5.2 (h) カナダ	236
1 6.5.3 米国・国際宗教自由委員会：中国での臓器摘出を強調	236

1 6.5.3 (a) 信教の自由に対する継続的かつ重大な違反	237
1 6.5.3 (b) 学習者への迫害は現在も続いている	237
1 6.5.3 (c) 信教の自由の継続的な悪化	237
1 6.5.4 人民法廷：臓器狩りが今日も続いていると結論づけた	238
<b>付録 法輪功迫害に関する三つの重要な事実</b>	<b>239</b>
<b>要旨</b>	<b>239</b>
<i>付録1：1999年4月25日の平和的陳情</i>	<i>239</i>
A1.1 概要	240
A1.1.1 背景	240
A1.1.2 問題点	240
A1.1.3 なぜそれが重要なのか	240
A1.2 簡単な事実	240
A1.2.1 学習者はなぜ中共中央委員会に訴えたのか？	241
A1.2.2 1999年4月25日に何人が陳情に行ったのか？	241
A1.2.3 学習者は何を求めていたのか？	241
A1.2.4 陳情に行った人々はどのように行動したのか？	241
A1.2.5 陳情はどのように終了したか？	241
A1.2.6 未解決の一件	242
A1.3 分析	242
A1.3.1 出来事の順序	242
A1.3.2 集まった理由	243
A1.3.3 明確になった点	245
<i>付録2：天安門広場焼身自殺のデマ</i>	<i>247</i>
A2.1 概要	247
A2.1.1 背景	247
A2.1.2 問題点	247
A2.1.3 なぜそれが重要なのか	248
A2.2 簡単な事実	248
A2.3 分析	248
A2.3.1 犠牲者の劉春玲は法輪功を習っておらず、鈍的外傷で死亡した	248
A2.3.2 王進東を取り巻く数々の矛盾点	249
A2.3.3 12歳の少女は気管切開後に歌う	249
A2.3.4 警察は現場に消防設備を用意していた	250
A2.3.5 法輪功は自殺と殺人を禁じている	251
<i>付録3：1,400人の死亡疑惑</i>	<i>253</i>
A3.1 概要	253
A3.1.1 背景	253
A3.1.2 問題点	253
A3.1.3 なぜそれが重要なのか	253
A3.2 分析	253
A3.2.1 法輪功が精神病と自殺を誘発するとの主張	254
A3.2.2 薬と医療に関する法輪功の教え	255

A 3.2.3 中国政権が法輪功をどのように嵌めたか	256
グラフと写真	260
参考文献	308

## この報告書について

政治的粛清である文化大革命から天安門広場での大虐殺まで、中国共産党（以下、中共）は長い間、国にとって脅威とみなした特定グループを悪魔に仕立て上げ、中国国民を動員してこれらのグループを攻撃することを繰り返してきた。こうして、この政党は自身の危機に注がれる注目を効果的に反らしてきたのだ。

1990年代末、当時の中国共産党総書記・江沢民は、ロコミで普及していった精神修養を提唱する法輪功（ファールンゴン、法輪大法[ファールンダーファー]としても知られる）に焦点を合わせた。確認された死者数は数千人に及び、立証された拷問事例は数十万に達し、さらに数千万人の平和的な精神を重んじる法輪功学習者（以下、学習者）から、最も基本的な自由を奪う残忍なキャンペーンを起こした。

1999年7月20日に始まった中国政府による弾圧の直前、北米のボランティアグループは6月25日に明慧（ミンフイ）ネットを立ち上げた（日本語版は2001年7月より）。それ以来、中国本土の勇敢な学習者たちのサポートのもと、明慧ネットは暴力的弾圧キャンペーンに関する膨大な真実の情報を報道し、迫害に反対する世界中の学習者たちの努力を伝え、学習者コミュニティに体験と情報を分かち合う場を提供してきた。

20年来、明慧ネットは10以上の定期刊行物を発行してきた。毎週金曜日、無償で「資料提供拠点」を運営する中国の学習者たちが資料をダウンロード、印刷し、地元での配布を行っている。中国の学習者たちにとって、明慧の出版物はどのように自己権利を保護し、自身の修煉を向上させ、迫害に立ち向かうかにおいて手助けとなる。また、これらの雑誌、冊子、ビデオは学習者たちが隣人や友人に法輪功を理解してもらう際にも役立っている。

中共によるインターネット検閲、及び法輪功に対する圧倒的な宣伝活動による攻撃が続く中、迫害を受けている学習者たちの不屈の努力によって、中国の国民は法輪功に関する真実と最新の情報にアクセスできる。「法輪大法は素晴らしい」と認識し、法輪功の理念である「真・善・忍」に共感を持つようになった人々の中で、法輪功を修煉し始めた人もいれば、健康の増進または家族関係の改善を経験する人もいた。

法輪功ニュースレポートと体験交流文章を日々掲載し、ラジオ番組を制作し、さらに年に一度、中国全土の学習者たちのためのオンライン交流会を開催することにより、明慧ネットという自由な場で、学習者たちは絶えず精神的向上を目指して努力し、互いに励まし合ってきた。

中国で最大のボランティアネットワークを持つ明慧ネットは、迫害が続く真っ只中でオンライン検閲を切り抜け、直接得た情報を報道できる世界で唯一の報道機関であった。これまでに、明慧ネットは112,000件以上の迫害事例及び105,500人の加害者名簿のデータベースを構築してきた。長年来、外部による資金援助は一切なく、完全に献身的なボランティアたちの時間、知識、専門的スキルによる貢献を頼りにしてきた明慧ネットは、法輪功の公式情報源となった。

中共による法輪功への根絶キャンペーンは根本的に失敗し、加害者らもいずれはその責任を問われるだろう。迫害はかつてなく残忍で複雑であり、当初から無益であることが立証され、しかも最終的に中共自身の崩壊を引き起こすであろう。明慧ネットの迫害に関するリアルタイムの完全な考証記録は、国際社会が適時にこの残虐行為を緩和させ、最終的には終わらせることを可能にした。迫害に立ち向かう学習者たちの努力が20年目を迎える2019年に際し、私達は意思決定者たちが、学習者を対象に行われてきた人権侵害をはっきりと理解できるよう、そして「真・善・忍」という宇宙特性を学ぶ者達を支援する方法を見出すために、この画期的な報告書を呈する。

## 概 説

法輪功としても知られている法輪大法は、宇宙の原則である「真・善・忍」に基づく古来の精神鍛練法である。1992年に李洪志先生によって初めて一般市民に教えられて以来、修煉により心身ともに効果を実感した人々が次々と家族や友人に紹介し、法輪功はわずか数年のうちに中国で爆発的な人気を集めた。

当初、中国政府は法輪功を推進していたが、後に恐怖と不信が指導層に広まった。それは、法輪功を学習する人数が急増したこと、法輪功の価値観が共産党の暴力と闘争の信条に合わず、政権の独裁支配にとって潜在的脅威と見なされたからである。

### 憎悪への扇動に基づく暴力的な抑圧

1996年、国営メディアは法輪功に対する組織的攻撃を始めた。優美な音楽に従い（気功の動作を）煉功する人々で溢れる全国各地の公園（法輪功の煉功場所）は政府の職員と私服警官の監視下に置かれ、当時の全国ベストセラーである法輪功書籍の出版も突然禁じられた。

1999年4月、直近に掲載された法輪功を攻撃する記事の誤りを指摘するため、ある雑誌の事務所の外に集まった学習者らが暴行され、逮捕された人もいた。釈放は北京の中央政府に訴えるようにと当局者に言われ、約10,000人の学習者が国家陳情局の外に静かに集まった。当日の夜、朱鎔基首相と面談した後、彼らの懸念は払拭された。この出来事は「4・25陳情」として知られるようになった（詳細は付録1を参照）。

しかし、党指導層は後にこの平和的陳情を中央政府全体に対する「包囲」と特徴づけ、1999年7月20日に発動した全国におよぶ法輪功への全面的撲滅キャンペーンを正当化する理由に用いた。各煉功場のボランティアスタッフらが一夜のうちに拘束され、数日中に他の学習者らも拘留されるようになった。

憲法上の権利である信仰の実践を政府に請願するため、数十万人の学習者がそれぞれ北京へ行って天安門広場で横断幕を掲げ、国家陳情局に行ったが、逮捕・拘束に遭うだけであった。身元を明らかにした人々は故郷の地方自治体に身柄を引き渡され、中共の連座政策から家族や同僚を保護するために身元の開示を拒否した人々の多くは他の場所に移され、その後、姿を消した。

まもなく、集中的な宣伝活動が始まり、国営メディアは法輪功の実践により1,400人が死亡したとの虚偽の情報を流した。弾圧に対する国民の支持が冷淡だと見て、政権は後に天安門広場で学習者を自称する何人かが自分の身に火を放つ光景を演出した。「焼身自殺」事件はでっち上げとしてすぐに暴かれたが、ダメージは避けられなかった。現在、大多数の中国国民が法輪功を強く嫌悪しており、修煉団体に対する共産党の暴力的な弾圧をそれとなく容認している。

## 拷問による「転向」キャンペーン

法輪功への迫害の核心である「転向」キャンペーンは学習者に信奉を放棄させるもので、手法は穏やかな説得から体系的洗脳、そして身体および心理的拷問に及ぶ。法輪功を放棄する「保証書」を書くことに同意する学習者は早期に釈放されたものの、その多くは後に他の学習者を転向させる事に参加させられた。

このキャンペーンは法輪功を根絶するために中央共産党指導部が特設した超法規的機関である610弁公室を通じて、江沢民集団によって動かされている。任務の遂行のため、610弁公室は国の司法組織、法執行機関、刑罰制度、及びあらゆる政府レベルの機関に対する支配権を与えられている。

中国全土の学習者は組織的に監視され、逮捕され、または洗脳班（公式的に「法制教育センター」として知られている）、闇の監獄、強制労働所（閉鎖される2013年まで）、刑務所、拘留所、薬物リハビリテーション施設、または精神病院に連行される。監禁中、彼らは看守と、当局に唆された受刑者によって日常的に虐待され、拷問される。拷問の一般的な手段には殴打、灌食（鼻や口から胃へゴム管を差し込み、高濃度の食塩水、ラー油などを注入する拷問）、耐え難い体位での身体拘束、感覚的な衝撃、電気ショック、水責めと窒息、独房監禁、性的暴行などがある。さらに、学習者は睡眠、食事、水分補給、トイレなどの生理的欲求を奪われることがよくある。

迫害により、4,300名以上の学習者の死亡が確認され、さらに多くは中国の臓器移植産業の需要を満たすために殺された。拷問の生存者の多くは永久的損傷、障害、麻痺、精神的トラウマを負い、最極端な場合は精神異常に陥った。学習者の家族は引き裂かれ、親族や子どもたちは当局による絶え間ない嫌がらせを恐れながら生活している。

身体的損傷に加えて、学習者たちは解雇や停学を強いられ、住居から追い出され、安定した経済保障も奪われ、年金の支給停止のほか、日常的に警察による罰金やゆすりに直面している。多くは単に信奉のために解雇され、学校から追放されている。この差別は家族にも波及し、一部地域の当局は学習者に信念を放棄させるため、子どもの教育や仕事をもって公然と脅かしている。

迫害は中国の全ての子どもにも及んでいる。小学校から、生徒たちは教科書に書かれている反法輪功プロパガンダと、義務的非難活動により洗脳されるようになっている。強制的に両親から引き離された後に若くして死亡した学習者の子どももいれば、自身も法輪功を修煉したことで当局による虐待や拷問で死に至った子どももいて、迫害で両親を失い孤児になった子どももいれば、両親が拷問される場面を見させられた後狂気に追い込まれた子どももいた。

学習者の信念に対する訴追には法的根拠がないため、逮捕から投獄までの各段階における法的手続きは省かれ、または公然と法に違反するものであった。警察は捜査令状がないまま学習者の家を荒らし回り、裁判所は見せしめ裁判を開き、予め定められた判決を言い渡し、弁護士による訴訟書類の閲覧、クライアントとの面会及び裁判での弁護を認めなかった。学習者の権利を守ろうとする

弁護士は日常的に脅迫、さらに暴行や拷問に直面することになる。刑期満了後でも、一部の学習者は釈放されず、直接洗脳班に連行され、更なる虐待を受けることになっている。

共産政権は迫害キャンペーンを国外まで延伸させ、迫害を周知させようとする学習者に対して身体的攻撃や駆り立てを行い、中国の政府当局の海外訪問中、法輪功デモ参加者に対し不法な妨害、逮捕、または接近拒否を行うよう外国の政府と警察に圧力をかけた。中共と関連がある組織や個人も、迫害が知られるのを防ぐため、学習者及び怯えている中国人観光客に嫌がらせをした。

## 迫害に遭う中、法輪功は支持され、学習者も増えた

検閲と監視がある中で、中国の学習者は迫害に抵抗し、その残虐さに対する人々の認識を高めるために、口コミやパンフレットと記念品の配布、公共エリアでのポスター貼り、役人宛ての手紙、電話、オンラインメッセージ送信などを辛抱強く続けた。特に注目すべきなのは、明慧ネットからダウンロードしたデザインを利用し、大衆向けの情報資料を作成するため、学習者たちが自宅に設けた、至る所に遍在する小さな資料制作拠点である。

中国以外の学習者たちは、中国での迫害に加担している加害者たちに思い止まらせるための電話をかけ、中国にいる人々が検閲を突破し情報に自由にアクセスできるソフトウェアを開発し、世界中の観光地で真実の情報を伝えるブースを設置することにより、彼らの努力を補完した。地域行事で学習者に会うほか、人々はこのテーマに関する美術展やドキュメンタリー映画を通じて法輪功を知った。

世界中の人権団体、高官、立法機関も発言し、中国での迫害の終結を求める決議を可決した。スペインとアルゼンチンの裁判所は中共の最高幹部らを拷問と集団虐殺の容疑で起訴した。米国国務省とアメリカ合衆国議会行政中国問題委員会（CECC）は年次報告書で法輪功への迫害にハイライトを当て、迫害の停止を呼びかけた。

これらの複数の努力の結果、多くの中国人は自問し始め、法輪功に対する新たな見方を受け入れ始めた。中国の一部の警察と政府高官は迫害に加担することをやめ、自らの権限範囲内で学習者を保護することさえし始めた。近年、中国での学習者の逮捕と刑の宣告件数は減少している。書籍購入希望者の需要を満たすため、学習者たちは迫害期間中ずっと自分で本を印刷していた中で、法輪功書籍に対する出版禁止令は2011年に静かに解除された。それにもかかわらず、政権の全体的な迫害政策と機器はまだ稼働し続けている。

前中共指導者の江沢民が最初に迫害を始めた時、江は3カ月で法輪功を「敗北させる」と明言した。しかし、この精神の鍛練法は20年来繁栄し続けてきた。中国にいる学習者たちは圧力と拷問の前で信念を守り続け、拘留中に放棄の署名を強いられた人々の多くは釈放後に放棄を取り消す声明を発表した。煉功点（気功教室）または独学を通じて法輪功を習い始める人は着々と増えてい

る。今日、80カ国以上の人々が法輪功を実践しており、その書籍は40以上の言語に翻訳されている。

## より多くの国際的リーダーが行動を起こしている

最近の進展の多くは、迫害の加害者に責任を迫及することに焦点が合わせられている。2015年以来、20万人を超える学習者は中国の最高裁判所に対し、江沢民に対する刑事告訴を行い、江を裁判にかけるための申立てには数百万もの署名が集められた。

2019年、米国政府は法輪功への迫害に参加した中国当局者を含む人権侵害者に対し、ビザ審査をより厳格化すると発表した。米国政府の提出要請に応じ、明慧ネットはこのような加害者に関する身元、家族形成、資産などの情報を収集し始めた。

2019年7月16～18日、米務省主催の第二回「宗教の自由を促進するための閣僚会議」において、現職及び元議員たちは中国での人権侵害について議論した。信仰グループを弾圧するための大量監視技術や人工知能などの技術開発に、西側企業が中国政権と協力したことも問題視された。トランプ大統領は夫が未だ中国で投獄されたままの法輪功修煉者を含む宗教迫害の生存者たちと面会した。

迫害の20年目にあたる2019年7月20日、米国CECCは中国共産党に対し、法輪功修煉者に対して行った「驚愕且つ容認できない人権侵害」をやめるよう求める声明を発表した。さらに、22名の米国上院議員と下院議員は、過去20年間の修煉者たちの努力を称賛する手紙を送ってきた。ドイツ連邦外務省は迫害の終結、及び政権による学習者からの臓器狩りに関する独立調査を求める声明も発表した。

# 序 論

## 江沢民の虐殺政策

1999年7月20日、前中共総書記・江沢民は法輪功に対する迫害を発動させ、「3カ月で法輪功を全滅させる」と明言し、彼らの「名誉を汚し、経済を破綻させ、肉体を消滅させる」との命令を下した。

中国の学習者は憲法上の権利である信仰、言論、集会の自由を否定されただけでなく、居住、雇用、教育、生存権まで奪われた。法輪功を実践していると認めただけで、その人は社会で足場を失い、命と財産も危険に晒されることになる。学習者は恣意的な拘束、ゆすり、財産の没収、職場または学校からの追放、年金の支給拒否、家宅搜索、及び水道光熱の急停止に晒されている。多くは刑務所、労働収容所、洗脳班、拘置所、薬物リハビリテーションセンター、または精神病院で拘留され、拷問されて死に至り、または身体や精神障害を持つようになった。一部の学習者は拘留中にレイプまたは性的暴行を受けていた。

過ぎ去った20年間にわたり、江沢民及びその集団は学習者への中傷、一般大衆に対する脅迫、賄賂、浸透等を通じて、人々の学習者への憎悪を駆り立ててきた。中共は自身の危機と被害妄想を緩和するため、平均して10年ごとに迫害するグループを選ぶというほぼ100年の歴史を持っている。江沢民は同じ脚本集に従い、迫害を正当化するために法輪功を「邪悪なカルト」と名付けることから始めた。この名称は事実上でも法的にもサポートされていない。それにもかかわらず、中共のキャンペーンにより、学習者たちは中国社会で最も抑圧された集団となっている。

## 迫害の概要

明慧ネットが収集した情報によると、1999年7月20日から2019年7月10日まで、少なくとも250万から300万件の学習者の逮捕件数があった（一部は複数回逮捕された）。

これらの逮捕は四つのカテゴリーに分類される。1) 中華人民共和国治安管理処罰法に基づく行政拘禁。2) 洗脳班での違法拘留。通常、「法制教育センター」と称されていて、学習者の「思想転向」を行うために設けられている。3) 現在は機能していない労働収容所での拘禁。4) 中華人民共和国の刑事訴訟法に基づく刑事拘禁。

さらに、1,000万人近くの名前を特定できない学習者が信念を訴えたために逮捕され、秘密の強制収容所に連れて行かれ、そこで中共の科学研究のモルモット、または不本意な臓器提供の供給源となった。死亡者数は未知であり、彼らの遺体は家族にも知らされないまま火葬された。

これらの学習者は家族、隣人、または雇用主を保護しようと、逮捕時に身元の開示を拒否したため、名前は特定されていない。これらの学習者に関する情報がないために、彼らが如何なる迫害を強いられたとしても、その真実は我々の人権侵害の概要に含まれることはない。集団虐殺が終焉を迎える際、より多くの内部の人が中共に対する不利な証言をするために一步踏み出すことを信じている。また、我々は臨床試験での人体実験、または臓器狩りを強いられた学習者の事例の収集と蓄積に取り組んでいる。

法輪功への迫害は共産党、政府、軍隊、保健システム、法執行機関、最高人民検察院（法的監督と検察のための国家機関）、及び司法当局の連動により行われている。既得権益を保護しようとして、これらの事業体は各自の犯罪及び検閲情報の隠蔽を企てているため、明慧ネットが収集できる情報は氷山の一角にすぎない。それでも、明慧ネットは過去20年間に大量の直接入手したデータを集めた。紙面の都合上、この報告書はウェブサイトに掲載された膨大な迫害事例のごく一部のみを取り上げている。

この報告書で取り上げられている事例は、法輪功への迫害が全国的であり、都市部と農村部の両方に及んでいることを示している。学習者は中国の計31の行政区で迫害に遭い、それらは安徽省、北京市、重慶市、福建省、甘粛省、広東省、広西チワン族自治区、貴州省、海南省、河北省、黒竜江省、河南省、湖北省、湖南省、内モンゴル自治区、江蘇省、江西省、吉林省、遼寧省、寧夏回族自治区、青海省、陝西省、山東省、上海市、山西省、四川省、天津市、チベット自治区、新疆ウイグル自治区、雲南省、浙江省である。

迫害の犠牲者は政府職員から、軍人、警察官、裁判官、検察官、弁護士、教授、教師、学生、学者、起業家、技術者、芸術家、医療従事者、経営者、ジャーナリスト、サービス労働者、主婦、農民、退職者、自営業者、失業者、僧侶、道士までのあらゆる職業の人である。

彼らは教育、科学、政府、農業、林業、畜産、ハードウェア、照明、セラミック、プラスチック、工芸、繊維、輸送、金融、保険、ユーティリティ、自動車、鉄鋼、エレクトロニクス、食品、飲料、郵便業務、メディア、航空、軍事、エネルギー、鉱業、娯楽、文学及び芸術分野で働いている。

また、被害者には幼児から90代の高齢者まで、あらゆる年齢層及び性別の人々が含まれていて、妊婦と障害者も免れていない。明慧ネットが蓄積してきた記述によると、学習者に使用されていた拷問方法は100種類以上あり、殴打、電気ショック、強制灌食（ゴム管を鼻/口から胃まで差し込み、高濃度の食塩水、ラー油などを流し込む）、眠らせない、様々な姿勢で吊し上げ、食事を与えない、トイレに行かせない、強制堕胎、熱湯、アイロンまたは熱い油による火傷、引きずり、性的虐待、鞭打ち、苦役の労働、独房監禁などがある。

迫害は多大な生命と財産の損失をもたらした。2019年9月10日時点で、明慧ネットは4,343人の学習者の迫害致死事例を確認した。これは実際の死亡者数より遥かに少なく、多くの場

合、特に臓器狩りに関するものは隠されたままであり、亡くなった多くの学習者の遺体は証拠隠滅のため強制的に火葬された。

また、明慧ネットは2019年7月10日時点で、少なくとも86,050人の学習者がどこかで逮捕されたことがあり、28,143人が労働収容所で過ごし、17,963人が判決を受け、18,838人が洗脳班に連れて行かれ、809人が精神病院に監禁されたことがあることを確認した。また、519,040件の拷問事例が記録されている。過去20年間にわたる迫害により、数え切れないほどの人々が差別、雇用の打ち切り、所得喪失、精神的トラウマ、家族の離散、怪我、身体障害、または死に苦しんでいる。

# 第一部 法輪功への迫害

## 要旨

学習者たちは信念を堅持するがゆえ、刑務所や洗脳班、強制労働キャンプ、精神病院、及び他の拘留施設で組織的に拘束され、収監中は洗脳、強制労働、そして拷問の対象となっている。法輪功の実践は如何なる法律にも違反していないにもかかわらず、中国の形式に過ぎない司法制度は事前に決められた刑を言い渡すのである。

拘禁の他、学習者たちは信念を守っただけで、雇用、教育、住居、経済的安定も奪われた。当局は学習者から金を巻き上げ、年金を停止させ、資産を意のままに押収し、身分証やパスポートを無効とし、顔認識、電気通信、及び他の監視技術により常時監視を行っている。

学習者の子どもは学校教育、雇用、及び親による保護を与えられない。孤児になった子、警察に襲われた子、または両親が拷問される場面を見させられて狂気に追い込まれた子どももいる。洗脳キャンペーンは義務教育活動や教科書に拡大し、法輪功に対する憎しみは全世代に植え付けられた。

4,300人以上の学習者の拷問致死が確認され、怪我、身体障害、精神的トラウマの影に覆われた命は数えきれない。一般的な手法は殴打、強制灌食、耐え難い体勢での身体拘束、感覚的な衝撃、基本的欲求の制限、電気ショック、水責めと窒息、長期の独房監禁及び性的拷問などがある。

中国政権は迫害を中国本土の外まで拡大させ、大使館と中共関連組織を介して、世界中に関心を呼びかけている学習者たちの努力を妨害している。また、路上で学習者に対する暴力を扇動し、学習者を偵察するための密告者を募集し、中国当局者の訪問中に平和的にデモを行う学習者の権利を違法に制限するよう、外国政府に圧力をかけたこともある。

## 第1章 拘留施設

1999年7月に法輪功に対する全国規模の迫害キャンペーンを開始して以来、中国共産党政権は刑務所、労働収容所、洗脳班、及び他の施設を利用して学習者を拘束してきた。

公的な刑務所制度は、裁判後も信念を諦めないことで有罪判決を言い渡される学習者を投獄するために使用されている。中国法務省の報告によると、2012年時点で、中国全土に681箇所の刑務所がある。注目すべき点は、中国の法廷制度は法輪功への迫害においてゴム印として機能し、事前に定めておいた判決を言い渡すために、見せかけの裁判を形式的に開くだけであるということだ。

すでに廃止された労働収容所制度によると、当局は裁判なしで最長4年間学習者を拘留することができる。2009年の国連人権理事会報告書では、中国の代表団は労働を通じた再教育システムが「他国の矯正システムに似ていて、刑を下すほどではない罪を犯した者に適用している」と述べた。報告書によると、中国全土に190,000人を収容する320箇所の労働収容所があると推定される。

実際、労働収容所は罪を犯していない良心犯を拘留するために使用されていたため、国際社会からの高まる圧力を受け、中国政権は2013年後半に制度を廃止した。しかし、学習者に対する拘留は止まなかった。それ以来、政権は労働収容所の代わりに司法管轄外の洗脳班の利用を強化したのである。

### 1.1 洗脳班<sup>(1)</sup>

正確には、中国のどの拘禁施設も洗脳班として明確にラベル付けされておらず、むしろ、公式に「法制教育センター」、または「薬物リハビリテーションセンター」とラベル付けされている。労働収容所（行政処罰システム）や刑務所（正式な刑事処罰システム）と異なり、洗脳班には行政上または刑事上の手続きに従う法的義務がない。1999年6月10日、法輪功を迫害するために特設された超法規的機関である610弁公室は2001年に洗脳班を設置した後、中国全土の従属する610弁公室らがそれに続いた。

洗脳では学習者の信念を揺るがすことができないと見た中共は拷問を用い始め、多くの治癒不能な身体障害や精神的トラウマをもたらし、命を奪う結果となった。

#### 1.1.1 中国の多角化された拘留システムの超法規的部門

洗脳は長い間、中共が政治的反体制派、または統治に対する脅威とみなす市民グループを改心させる戦術であった。法輪功への迫害は、真・善・忍の原則に従って生きる学習者に信念を放棄させ

るよう、洗脳を中心に展開していた。610弁公室の指令に基づき、各政府機関、近隣委員会、企業、ひいては学校、ホテルや個人住宅などのあらゆる場所で洗脳班を設置することができる。何より、警察署、拘留所、労働収容所、刑務所などの正式な収容施設には独自の洗脳班があるのだ。

設置から運営まで、これらの洗脳班は違法である。一部の当局者はこれを一種の自宅軟禁だと主張している。しかし、自宅軟禁は裁判所の承認が必要であるが、洗脳班で誰かを拘束するには如何なる法的手続きも書類も必要としない。

さらに、これらの施設の警察と看守は通常の警察官よりも権限があり、学習者を意のままに逮捕、拘束、釈放することができる。また、人を拘束できる期間の制限もない。責任者は被拘禁者の会話、食事、睡眠、トイレの利用などの人間の基本的な生理的欲求を綿密に監視し、意のままにその自由を奪い、さらに何の仕返しも受けずに被拘禁者を殴打し、強制的に灌食し、スタンガンで電気ショックを与えることもできる。

洗脳班は中国のほぼ全ての都市、県、及び多くの居民委員会（社区と呼ばれる住宅地を管理する政府の末端組織）に存在し、その機能する期間は数日から数年に及ぶ。それゆえ、洗脳班の正確な数を突き止めることは難しく、公式の集計もない。しかし、明慧ネットは洗脳班に送られた学習者数のデータの収集が出来ている。

洗脳班は本質的に超法規的かつ司法管轄外であるにもかかわらず、政府により十分な資金が提供されている。多くの警察官、雇用主、及び居民委員会は独自の洗脳班の設立や、学習者の既存洗脳班への搬送に動機付けられている。洗脳班の大規模なネットワークは、中国政権が学習者を拘束する多角化システムの重要な要素となっている。この章では、その規模、深刻さ、及び破壊力について論じる。

### 1.1.2 大規模で潤沢な資金に支えられるネットワーク

1999年から2019年まで、「明慧」のキーワード検索でヒットした約65,000件の記事の中で、「洗脳班」という単語が210,000回以上使用されていた。正確な場所が示されていない洗脳班を除き、関係のない語句を整理した後、中国全体には約3,640箇所施設があると推定できる。

確認されたこれらの洗脳班は、26の省と四つの直轄市（北京、天津、上海、重慶）を含む30の省級行政区に分布している。河北省（439）の洗脳班が最も多く、そして山東省（383）、湖北省（336）、四川省（301）、吉林省（272）と続き、百以上の洗脳班がある行政区は他に8つあり、数十箇所あるのは15の行政区で、十箇所未満は寧夏回族自治区と青海省のみであった。

これらの施設が秘密裏にあるという性質と、中国でまだ続いている検閲と迫害を考えると、実数はもっと多い可能性がある。さらに、2013年に労働収容所制度が廃止された後、多くの学習者は刑務所または洗脳班（既存のものと新しく設置されたものの両方）に回されるようになった。

洗脳班は異なる等級の610弁公室が発動させたものだが、主に報奨金によって動かされ、部分的には学習者の雇用主から支払われたお金、または学習者から巻上げたお金によって支えられている。以下の通り、明慧ネットは2014年に洗脳班の規模に関する白書を発表した。

過去15年間、被拘禁者の雇用主に請求された料金の合計は約33.7億元（約520億円）と推定される。「成功裏に転向された」各被拘禁者に対する政府の報奨金により、さらに2億2600万元がもたらされた。これは、洗脳施設の建設と改築に充てられた推定11.8億元（約28億円）の政府予算に追加されたものだ。

### 1.1.3 学習者の信念の破壊に使用された手法

刑務所と労働収容所は、法輪功への迫害が始まる前に既存していたものだが、洗脳班は学習者に信念を放棄させることを唯一の目的とする点において独特である。この目的を達成するために、洗脳班はしばしば以下の手法を用いる。

#### 1.1.3 (a) 専断的な拘留条件

洗脳班で誰かを監禁する際は法的手続きに従う必要がないため、学習者は単に信念を放棄しないという理由で拘留され、無期限に拘束されることになる。

四川省ラジオ局の元従業員である李喜慧さんは2006年に逮捕され、同省成都市の新津洗脳班に7年間拘留された。2013年、李さんに対して洗脳し続けようとした当局は、李さんを密かに紫陽市の二湖洗脳班に移送した。執筆時点で李さんが解放されたかどうかは不明である。

広東省のもう1人の学習者である32歳の謝宇さんは、法輪功の資料を配布したため2年間の刑務所での服役を終えた直後、2019年1月に洗脳班に連行された。謝さんの家族は、彼女が刑期満了時点でもまだ信念を放棄しないため、当局は謝さんを洗脳班に送ることを決めたと知った。

#### 1.1.3 (b) 高度な秘密性

洗脳班の超法規的性質は、その運営を非常に専断的かつ秘密裏に行うことを可能にした。例えば、2013年に労働収容所制度が廃止された後、湖北省武漢市の多くの洗脳班は責任を回避し、追跡されないよう、施設にある全ての目に見える標識とロゴを外した。時折、他の場所で新しい施設が設立される間、一部の施設が閉鎖されていた。

湖北省のある学習者は2018年10月に信念を放棄しないという理由で逮捕され、15日間の拘留後、警察によって精神病院に連行され、5日後に秘密裏に洗脳班に移送された。移動中、警察はフードで彼女の頭を覆い、手を縛ったため、彼女は自分がどこに連れて行かれているか分からなかった。

彼女の居場所を知った家族は彼女に会おうとして洗脳班に行った。家族らがドアに近づこうとした時、「接近しないで下さい。レーザーが作動しています」という自動音声の警告を聞いた。突然、レーザーが四方から彼らを囲み、彼らが動く度に光線は彼らを追いかけ、結局家族は帰るしかなかった。

後に、学習者の家族は彼女が別の場所に移されたと聞き、訪ねてみると、そこは何の標識も看板もない廃屋であることが分かった。金属製のドアが閉じられていて、家族は学習者の名前を呼んでみたが、返事は返ってこなかったという。

解放された後、学習者は家族にこう教えた。家族がそこに行った時、彼女は奥の部屋にいた。職員は彼女の家族が外にいると聞いて緊張し、彼女が家族に自分の存在を知らせる音や合図をさせないよう見張っていたという。

### **1.1.3 (c) 未知の薬物投与**

拷問と24時間の監視に加えて、洗脳班では未知の薬物の強制投与もよくあることだ。健康な退職者である謝徳清さんは、四川省成都市の新津洗脳班で拘留されて20日目前後に亡くなった。亡くなる前は衰弱し、失禁し、極度の痛みを苦しめられ、肌が灰色になった。これらの症状は、不明薬物を投与されたと確認された他の学習者の症状と一致している。その後、真夜中に葬儀場から謝さんの遺体を火葬場に運ぶため、100人以上の警官が派遣された。

### **1.1.3 (d) 集中的な洗脳**

身体に対する監禁に加えて、学習者は法輪功を中傷する宣伝ビデオを見させられた後、感想を書き留めるよう強要された。彼らの感想文はしばしば心理学者によって分析され、見つかった弱点は彼らの信念を破壊するための新戦略の考案に利用された。彼らの同僚と家族は、彼らに信念を放棄させるために頻繁に呼び出された。

湖北省武漢市の洗脳班では、当局が各部屋に3台のカメラを設置した。法輪功を中傷する文章が印刷された紙がテーブル、椅子、床に貼られている。睡眠時間を除き、部屋のテレビは法輪功を中傷する番組、または学習者の意志を弱めるための番組のみ放映し、大音量スピーカーから、法輪功とその創始者を中傷する宣伝が終日流れてくる。

学習者は法輪功の煉功を行うことを禁じられ、看守は食事を終える時間や、皿をどこでどのように洗うかなどの厳しい制限も設けた。2018年8月9日に海口洗脳班に連行され、3日も経たないうちに、戴菊珍さんは高血圧と高血糖による命の危険な状態に陥った。

### 1.1.3 (e) 偽りと欺瞞

洗脳班のもう一つの特徴は、「法制教育センター」という仮面を被り、目立たない場所に設置されていることである。

当局は法輪功を支持していない家族を惑わし、学習者がこれらのセンターに行くよう説得させる。この事例は広西壮族自治区桂林市の唐曉燕さんの身に起きた。彼女の家族は、センターが有益かつ自発的な学習の場所だという610弁公室の役人の話を信じ込んだ。しかし、そこに着くや否や、役人は唐さんを殴打し、拷問し、常に眩しいライトを彼女の目に照らし、睡眠と水を飲む自由を奪った。上記の少なくとも二つの理由が彼女を命に関わる状態に晒した。

### 1.1.4 洗脳班での死亡

洗脳班での身体及び精神的虐待は、学習者の死をももたらした。1999年から2014年にかけて確認された3,653人の学習者の死亡者のうち、746人(20.4%)の死が洗脳班で受けた拷問に由来し、367人(10%)の死亡が洗脳班で起きた。

広東省の退職した教師・許慧珠さんは2016年7月下旬に逮捕され、黄浦洗脳班に連行され、釈放された直後の8月に亡くなった。

洗脳班に収容された学習者の数に関するデータはないが、洗脳班の数と各地域の死者数との間に強い正の相関関係があることが分かった。(286ページの図を参照)

洗脳班がどのように学習者の死をもたらし一因となったかについて、まだ決定的な結論を引き出すことはできないが、少なくとも、上記の正の相関関係は法輪功の迫害における洗脳班の役割の立証となっている。

### 1.1.5 湖北省の例：「私が言えば法律だ」<sup>(2)</sup>

湖北省の学習者・路有根さんは決して忘れられないことを目撃した。別の学習者が拘留中の強制灌食に抗議した時、3人の看守は彼を捕らえて、1人が彼の頭を後ろに倒させ、1人が腕を押さえ、残りの1人が彼の顎を脱臼させたと言う。

「『パカッ』という音と共に、その学習者の顎は外れて、奇妙な角度で垂れ下がっていました。看守が強制的に彼に灌食をした時、その学習者はまるで死んだかのように動きがありませんでした」と路さんは思い起こして言った。

これは2009年9月、湖北省武漢市の洗脳班で起きたことだ。2002年2月以降、湖北省610弁公室の命令の下で、「湖北法制教育センター」と名付けられた洗脳班では、少なくとも1,200人の学習者が拘留されていた。信念の放棄を拒否したため、学習者たちは孤立、騙し、洗脳、屈辱、脅迫と拷問を強いられた。

武漢市漢陽区の学習者・張思峰さんが自身の拘禁は不当だと指摘した時、ある警官は法律ではなく、洗脳にしか興味がないと答え、「私が言えば法律だ！ 信じないなら、今すぐおまえの腎臓の一つを取り出してみせる！」と叫んだ。

### 1.1.5 (a) 恣意的な拘禁及び拷問

他の洗脳班同様、湖北法制教育センターも学習者に信念を放棄させることに打ち込んでいて、法輪功迫害を監督する政府機関である政治法務委員会に何度も称賛されてきた。

湖北省の役人は公的手続を経ず、文書を提供せずに省内の学習者を逮捕し、この施設で拘束することができる。これには、刑期を終えたばかりの学習者も含まれる。一例として、ある外科医が逮捕されてセンターに連れて行かれたのは、病院で患者に手術を施している最中だった。

鉄棒の後ろの監房に監禁された学習者は24時間、年中無休で監視され、午前7時から午後10時、時にはもっと遅くまでの洗脳を強いられる。刑務官は彼らの時計を没収して時間の感覚を失わせ、携帯電話の電波をブロックして外界から遮断させる。彼らは家に手紙を書くのも、家族に訪問してもらうことも許されていない。ライトは夜でも常についている。

武漢市化学輸出入会社で働いていた崔海さんは、2012年10月に逮捕された後、施設で70日間拘留された。「拷問によって私はひどく痩せて、下顎が何度も外れるところでした」と話し、髪の毛が灰色に変わり、記憶喪失に苦しみ、全身が震えて四肢も腫れている彼女は言った。その後、彼女は信念のために懲役5年の刑を言い渡された。

彼女は投獄中の拷問と虐待に耐え抜いたが、釈放されてから3週間も経たないうち、2018年1月1日に死亡した。

### 1.1.5 (b) 殴打と薬物投与

武漢のテニスコーチである張甦さんは、湖北省の施設で受けた虐待についてこう語った。「2011年5月、自宅近くの電車切符売り場で、数人の私服警官が私に近づきました。彼らは私の顔に何かを吹きかけて窒息させ、倒した後に手錠をかけました。誰一人身元を示したり、なぜ私を逮捕するかを説明したりしませんでした」と彼は書いた。

その後、張さんは湖北法制教育センターに連行された。張さんが洗脳に抗議した時、看守らは彼を殴り、顔を平手打ちし、電気ショックを与えると脅した。この状況が2ヵ月ほど続き、張さんの血圧は常時120/230 mmHgだった。

3カ月後、張さんは食べる度に下痢し、動悸や胸の圧迫感が生じることに気付いた。この状態が3カ月も続き、その間彼は2回失神した。診察の結果、張さんには心臓障害、胆石、及び他の心臓病に似た症状があることが判明した。医者は入院が必要だと言い、張さんも同様に要望した。

しかし、当局は彼らの不安を退け、洗脳を続けた。スタッフの1人である江は、司法制度の全部門（警察、検察官、裁判所）が610弁公室を監督する政治法務委員会と密接に連携しているため、「法律」について議論する必要はないと述べた。

「党はおまえを蟻のように踏みつぶすことができるんだ。おまえが明日処刑されても、自殺とみなされるだろう。おまえの家族が受け取るのは灰の箱だけだ」と、江は薄ら笑いを浮かべながら言い、「もしくは、おまえを病院に連れて行き、他人を救うためにおまえの臓器を取り出すこともできる。蘇家屯のようになあ。その後、おまえは火葬され、家族はおまえの灰すら手に入らないかもしれないぞ。それに対しておまえは何もできないだろう」と続けて言った。

### 1.1.5 (c) 洗脳班：資金と運営

湖北法制教育センターは板橋洗脳班とも呼ばれ、2002年2月に湖北省610弁公室によって設置された。最初の逮捕者リストは弁公室の2002-No.6文書にあり、当時の主任・黄兆林によって発行されたものだ。洗脳班は最終的に現在の馬湖村に移転した。運営資金は国の予算と地元の雇用主、または村や町の居民委員会から強奪したものからきている。政府からの割当ては年間300万元と言われており、地元からの強奪は40日間の「教育」毎に、一人当たり約20,000元である。この基本的な「費用」に加えて、610弁公室の係官たちは、洗脳される学習者に同伴する2人の「監視人」の賃金の名目で、地元住民からも金銭を揺すっている。センターには約20部屋があるため、年間約300万元に達する金額は役人らにとって高額な報奨金となる。

上記で述べたように、「法制教育」施設と名付けられているこれらのセンターが、主に洗脳に焦点を当てる理由は以下である。まず、学習者を「転向」することは、センターの関係者らのボーナスに結びつくからだ。二つ目に、役人らはスポンサーである610弁公室に「成功事例」を報告することにより、センターの継続または拡張を正当化することができる。三つ目に、より多くの学習者が「転向」され、彼らの活動に関する詳細な情報が提供されれば、もっと多くの学習者を逮捕し、洗脳班の運営を維持していくことができるからだ。

### 1.1.5 (d) 強制収容所よりも劣悪

学習者を対象とする洗脳班は、20世紀のナチスドイツとソビエト連邦の強制収容所と多くの類似点を共有している。

**国家内国家：**洗脳班は610弁公室の指揮下にある超法規的組織である。役人らは法律に束縛されず、いかなる政府機関の介入も許されない。

**尊厳の喪失：**刑務所や強制労働所のように、学習者たちはしばしば身体及び精神的虐待を受けて、灌食され、意志に反して不明薬物を投与され、睡眠やトイレに行く自由を奪われ、屈辱を受けている。

**秘密性：**洗脳班は610弁公室によってのみ運営される。家族は訪問を許されず、特に2013年の労働収容所制度の廃止以降、建物に何の標識もないことが多い。

**はっきりした上下関係：**一旦、数人の学習者に信念を放棄させることができれば、役人らは暴力、脅し、または金銭的インセンティブを利用して、これらの学習者に他の学習者を「転向」させるよう強要する。

被拘禁者はしばしば共産党を称賛する歌を歌わされる。黄石市の学習者・呂松明さんが歌うのを拒否した時、彼は食事の前に、「警官様、党から提供された食べ物を食べたいです」と言われ、トイレに行く前に「警官様、党が提供したトイレを使いたいです」と言わざるを得なかった。これは他の学習者にも起きたことだ。

### 1.1.5 (e) 心身に対する系統的虐待

学習者の張偉傑さんは2011年5月5日に職場で逮捕され、湖北法制教育センターに連行された。そこで、鄧群という看守が張さんに洗脳班の日課を伝えた。それは、長時間動かずに立たされ、殴られ、食事や睡眠の自由を奪われ、強制的に灌食され、高く吊るされ、薬を飲まされ、電気ショックを受けるという内容であった。強制灌食だけが1日に2回行われ、その過程で、看守らは痛みを増すために灌食のチューブの出し入れを繰り返していた。学習者は胃の容量の2倍であるバケツ2個分のものを一度に流し込まれてしまう。「液体の食べ物が逆流して床にこぼれたので、看守の胡高偉はそれを新聞紙に染み込ませてから私の顔と頭に広げて、私を殴りました。それまで、周囲にいた人々はただショーを見るように笑っていただけでした」と、張さんは思い返しながらか言った。

2011年3月11日、王玉潔さんの労働収容所での刑期が満了した時、仙桃610弁公室は彼女を湖北法制教育センターに連れて行った。それからの2ヵ月間、彼女はしばしば恍惚状態に陥り、精神障害が見られ、数ヵ月後の9月3日に24歳で亡くなった。

## 1.2 強制労働収容所

労働を通じた再教育は、1957年に反革命主義者に対する処罰の一種として始まり、その後、些細な罪を犯した人、政治犯、請願者を拘束するまでに拡大した（中国の「請願者」は、政府を訪問して、不公平及び/または評判の良くない政策に抗議する市民のことを指す）。1999年に法輪功への迫害が始まった時、労働による再教育は学習者を懲罰する形態として広く使われるようになった。

強制労働制度は裁判所制度に抛らず、警察によって行われた行政上の処罰であった。強制労働期間は通常1年から3年であり、1年間延長される可能性もある。全国人民代表大会の常任委員会は2013年12月28日に労働による再教育制度を廃止した。しかし、労働収容所から釈放された多くの学習者は、自分が洗脳班に直接連れて行かれるか、後に刑務所に入れられることになるかと気づいた。拷問や他の虐待に加えて、強制労働は当局が利益を得ながら、学習者の意志を弱める主な手法であった。

### 1.2.1 強制労働は中国の法律と世界人権宣言に違反する

中国の強制労働収容所、拘置所、刑務所での強制労働は、中国憲法にも、中華人民共和国の以下の法律にも違反している。

- ・中国憲法、第17条、35条、42条、43条、44条
- ・2002年、中華人民共和国労働安全法
- ・2001年、職業病の予防と治療に関する法律
- ・1992年、中国労働組合法、1994年ベースの2001年に改正された中国労働法
- ・2002年、有毒物品が使用される職場での労働保護に関する規制
- ・1994年の企業最低賃金に関する規制
- ・1993年、企業内労働紛争解決の監督に関する規制
- ・1998年、中華人民共和国労働組合同規約

簡潔にするため、中国憲法の第42条と第43条のみ抜粋する。

#### 第42条

中華人民共和国の公民は、労働の権利及び義務を有する。

国家は、各種の方途を通じて、就業の条件を作り出し、労働保護を強化し、労働条件を改善し、かつ、生産の発展を基礎として、労働報酬及び福利待遇を引き上げていく。

労働は、労働能力を持つ全ての公民の光栄ある責務である。国有企業並びに都市及び農村の集団経済組織の勤労者は、みな国家の主人公としての態度をもって自己の労働に取り組むべきである。国家は、社会主義的労働競争を提唱し、労働模範と先進活動家を報奨する。国家は、公民が義務労働に従事することを提唱する。

国家は、就業前の公民に対して、必要な職業訓練を行う。

#### 第43条

中華人民共和国の勤労者は、休息の権利を有する。

国家は、勤労者の休息及び休養のための施設を拡充し、職員・労働者の就業時間及び休暇制度を定める。

さらに、世界人権宣言の第4条で次のように述べている。「何人も、奴隷にされ、または苦役に服することはない。奴隷制度及び奴隷売買は、いかなる形においても禁止する」

強制労働制度は被拘禁者の基本的人権を侵害するだけでなく、強制労働から生み出された製品により莫大な利益を得ようとする刑務所と労働収容所による被拘禁者への迫害を促している。さらに、これらの安価な製品が国際市場に投げ出されると、国際労働市場の安定も揺るがすことになる。

### 1.2.2 「衛生」箸が労働収容所内の状況を暴露する<sup>(3)</sup>

中国の道端にある小さなレストランで、広く使用されている使い捨て箸は「衛生」箸と呼ばれ、海外の中華料理店でもよく見かける。それは束になってコンテナに詰められるか、または個別に梱包されていて、「あなたの安全のために消毒されています！」というラベルが付けられている。

中国での調査によると、これらの箸の80%以上が消毒されたことはない。激しい市場競争により、全てのコストをカバーすることが不可能になったため、一部の企業は消毒作業を省き、一部は箸が有毒になる可能性があるを知りつつ、硫黄の燃焼による煙霧を使用して箸を漂白している。コストを最小限に抑えて利益を上げるために、一部の製造業は加工業務を衛生状態が管理されていない刑務所や労働収容所に外注している。

#### 1.2.2 (a) 北京市労働教育局での「衛生」箸の製造

北京市労働教育局の派遣部であり、北京市大興区に位置する強制労働収容所は午前6時から午後9時まで、被拘禁者に「衛生」箸を作るための長時間労働を強要したという証拠がある。仕事は真夜中を過ぎる時もあった。

数十人の受刑者が詰め込まれた小さな部屋の中で、梱包を待つ箸が山積みになって床に放り投げられていて、受刑者に踏まれることもしばしばである。衛生的な環境が提供されていない中で、彼らの仕事は衛生防疫局と印字された紙の箸袋に箸を入れることであった。受刑者の多くは皮膚病を患っており疥癬が頻発し、一部は麻薬中毒者、または性感染症と診断されていた。この契約された強制労働によって生み出された収入は、労働収容所の看守らのポケットに入った。

遼寧省遼陽市の衣料品メーカーの元社長である学習者・于溟さんは次のように書いた<sup>(4)</sup>。

北京市大興区の団河強制労働収容所では、派遣部は看守にお金を儲けさせようとして、全員を早朝から真夜中まで働かせました。作業のほとんどは使い捨ての「衛生箸」または「便利箸」を包装紙に包装することでした。その後、これらの箸は「衛生品質基準」を満たしているとされ、道端の小さなレストランに販売されました。箸1箱の利益は約6元です。各受刑者は1日に3箱をこなし、各チームには約160人がいます。これらの看守のために、1チームが毎日どれだけのお金を稼げるか想像できます。

「作業場」は受刑者の寄宿舍で、そこはそもそも非常に混み合っていて、箸が床一面に投げられていて、時々開放式トイレに落とされます。受刑者はその箸を拾い上げて、そのまま紙の包装紙に入れるだけです。看守は箸の数を注意深くチェックしますが、受刑者に手を洗うことを要求したことはありませんでした。

受刑者の大半は麻薬中毒者または売春婦でしたが、中に肝炎または性感染症にかかっている人がいるかどうかに関係なく、正式な健康診断はありませんでした。呼吸さえしていれば、どの受刑者も強制的に働かされました。全身に疥癬がある人でさえも仕事をさせられ、疥癬感染によって発症している手で箸を握りました。

予定より遅れていたり、割り当てを完成できなかった人は、看守や他の受刑者に殴られたり、長期間外に立たされたり、睡眠を奪われたりしました。どのチームのどの監房にも這い回るシラミがいて、受刑者は長い間シャワーを浴びることが許されませんでした。看守は常にスタンガンと手錠を持ってパトロールしていました。多くの受刑者はここに来てから数カ月が経っても、頭を上げて空を見ることすらできませんでした。

龔成喜さんは中国政法大学の昌平キャンパスで運営管理を専攻する大学4年生であった。かつて学生会会長でクラスの班長であった龔さんは、優れた学問的誠実さを備える親切的な学生と見なされていた。法輪功への迫害により、信念を放棄しようとしなかった龔さんは即座に学校から追放され、強制労働収容所に連れて行かれた<sup>(5)</sup>。以下は龔さんの証言である。

受刑者の仕事から最大限の利益を絞り出すために、派遣部は狂気に近いほどでした。一人当たりの1日のノルマは7,500～10,000組以上の箸で、たとえ午前6時から真夜中まで働いても、ノルマを達成するのは不可能でした。耐え難い背中の痛みに加えて、私たちは看守とその補佐による暴言や殴打にも耐えなければなりませんでした。私が派遣部にいた月は毎日このような状況でした。刀万輝、楊巨海、李学良、陳経建、賈林たち高齢の学習者は、できる限り早く働いていましたが、それでもノルマを達成できなかったため、チーム長は極寒の中で、彼らを外のアスファルトに座らせて数時間も働かせました。それでもノルマを達成できなかった場合、1晩に3～4時間の睡眠しか許されませんでした。

### 1.2.2 (b) 天津市双口強制労働収容所で作られた「衛生」箸とバーベキュー串

明慧ネット宛ての手紙の中で、かつて天津市双口強制労働収容所に拘束されていた学習者は次のように書いた。

強制労働収容所の生活環境がひどいため、90パーセントの受刑者は疥癬を発症していました。当時、私の足、胸、手は全て感染していました。それでも、私たちは働かざるを得ませんでした。

### 1.2.2 (c) 大連強制労働収容所で作られた箸の唯一の衛生基準：袋に毛髪が混ざっていないこと

遼寧省大連市の大連強制労働収容所も同じ仕事をこなし、箸を日本に輸出していた。唯一の衛生基準は、パッケージに毛髪が入っていないことだそうだ。

箸のほかに、大連強制労働収容所は刺繍製品、ドライフラワー、手編みの帽子、携帯電話のケース、海藻の結び目、プラスチックの造花、アイス・キャンディー棒、コーヒー用ストロー、手作りのウールのコート、ボタンなどの低コスト製品を生産していた。河南省許昌市の十八里河強制労働収容所はかつら、タペストリー、装飾花瓶、刺繍を製作していた。受刑者は毎日長時間労働を余儀なくされ、ノルマを完成できなければ拷問を受けていた。

## 1.2.3 労働収容所での更なる酷使<sup>(6)</sup>

### 1.2.3 (a) 髪製品専門の河南省第三労働収容所

許昌市労働収容所としても知られている河南省第三労働収容所は、中国のほとんどの毛髪製品が製造される場所であった。労働収容所が資金不足で閉鎖されようとしていたとき、多くの学習者が誘拐されて毛髪製品の製造に充てられ、労働収容所の事業は復活した。第三労働収容所の主任である曲双才は学習者を積極的に迫害し、上司に気に入られて、2003年5月に責任者として鄭州市の十八里河女子労働収容所に赴任した。その直後、曲双才は許昌市の労働収容所から193キロほど離れている河南レベッカヘア製品有限会社と契約を結んだ。曲双才はまた、学習者を拷問する際の拘束衣の使用を始めた。曲双才が着任してから数カ月以内に、3人の学習者が拷問により死亡した。

### 1.2.3 (b) 天津市建新強制労働収容所におけるひどい衛生状態

天津市建新強制労働収容所は学習者への迫害に対応するため特別に拡張された。女性被拘禁者を収容するための第6区が設けられた後、数百人がそこで拘留された。拘留された学習者のほとんどは50歳以上で、最年長は73歳であった。

労働収容所は学習者に毎日17～18時間の労働を強いた。ノルマをこなすことができなかった場合、睡眠を許されなかった。数日も睡眠を取らずに夜通し仕事をしなければならない人もいれば、精々1日に1～2時間しか寝ることができない人もいた。

多くの学習者、特に年配者は自分の病を治し、健康を取り戻すために法輪功を学び始めたが、労働収容所では、法輪功の本を読んだり、功法を練習したりすることは禁じられていた。長くて体力を消耗する仕事に加えて、彼女たちは耐え難い精神及び肉体的ストレスにも耐えなければならず、健康上の問題を引き起こす人もいた。

また、当局は疥癬持ちまたは手に膿が出ている学習者に食物の加工を強制した。身体から膿が出ていたり、または性感染症を患ったことのある受刑者や売春婦は、ヒマワリの種の採取作業、チョコレートとキャンディーの包装、デザートと月餅のトレイを折り畳む作業を命じられた。彼女たちはこれらの作業をベッドで行い、食品衛生規制に大きく違反していた。看守らは伝染病がある受刑者に子どもの玩具を含む食品の包装作業も命じた。

### **1.2.3 (c) 黒竜江省ジャムス強制労働収容所における有害物質**

お金を稼ぐために、黒竜江省ジャムス強制労働収容所の看守らは違法な生産事業を行い、受刑者に仕事を強要し、業界基準を超える毒性を持つ劣等級のゴムを使い、携帯電話のケースを作った。これらの材料を扱った受刑者の健康は著しく損なわれた。重労働と有毒物質の関係で、学習者たちは大変苦しみ、しばらくは働くこともできなかった。仕事を拒んだ学習者たちはひどく殴られた。

学習者たちは他の発がん性物質に関わる強制労働もさせられた。2003年3月8日から、80人を超えるジャムス労働収容所第9班の受刑者全員が携帯電話のケース作りを強いられた。工場は原材料を提供し、労働収容所は人的資源を提供した。計画された年間生産額は300万元で、免税のため両社はこの取引から多大な利益を得た。

ゴムは品質が悪くて刺激臭を放ち、窒息感を引き起こすものであった。当番にあたる看守は臭いに耐えることができず、技術監督局に調査を依頼した。実験結果では、使用された原材料の毒素レベルが業界基準を大きく超えており、がんを引き起こす可能性があることが明らかになった。その後、看守らは大きなフェイスマスクを着用し、学習者たちが作業している間は生産エリアに入ることはなかった。これらの携帯電話ケースは販売された後、消費者にも被害を与えた。

2002年7月、第7班の責任者らは学習者に、有毒で悪臭を放つ接着剤で月餅用の紙箱を作ることを強制した。多くの学習者は目に炎症が起きて、赤く腫れ上がってしまった。

### **1.2.3 (d) 山東省第一女性強制労働収容所で生産された有名ブランドの寝具類**

山東省第一女性強制労働収容所は複数の工場と協力し、学習者に寝具製品の製造、塑性セメントパッケージの加工、キルトへのブランドラベルの取付け作業を強制した。

労働収容所の第5区に拘束された学習者たちは最も苦しい目に遭った。彼女たちの作業場は下水パイプが通る労働収容所のカフェテリアの地下にあった。部屋は暗くて、パイプから悪臭を放つ水も常に漏れていた。部屋には電気と手動を合わせて12台のミシンと、長さ3メートルの作業台が8台あった。地下室の出口は遮断されていて、そこにトイレの機能を果たす室内用便器が置かれていた。トイレと作業場を隔てる壁がないため、悪臭は凄まじいものであった。学習者たちが地下室で作業するとき、ミシンの音と、上のキッチン機械からの騒音は耳をつんざくものであった。

女性の学習者は毎日地下室で12～15時間の労働を余儀なくされ、200デシベル以上の騒音に耐えることに加え、日光と新鮮な空気も奪われた。彼女たちの健康は著しく低下し、風邪や頭痛、

胃の不調、胃腸または聴覚障害を患うようになった。彼女たちはしばしば正午または夕方に10分間の休憩を求めたが、看守・牛学蓮と趙傑は休憩を許可しなかった。

看守らは学習者の作業時間を延長させた。毎日の生産のノルマが満たされなかった場合、看守らは学習者に悪態をつき、減点し、刑期を伸ばさせた。看守・趙傑はこう言った。「政府はただでお前らを食わせる訳にはいかない。仕事をきちんとしなければ、他の方法で罰してやる！ お前らを処置する方法は幾らでもあるんだぞ！」

### 1.2.3 (e) 吉林省黒嘴子女性強制労働収容所での不可能なノルマ<sup>(7)</sup>

過度に働かせることは、労働収容所の役人らが学習者たちを肉体及び精神的に頓挫させるために用いる手法の一つである。以下は、吉林省長春市にある黒嘴子女子強制労働収容所の事例である。例えば、約300枚が限界であるにもかかわらず、各人は1日あたり500枚のマスクを仕上げることを要求された。手工芸品や衣類につける小物を手掛ける学習者は、1日あたり100～150個を仕上げるようにと言われた。達成するには到底不可能であった。達成できなかった学習者は処罰され、殴られた。

極度のストレスと肉体労働に耐えていく中で、学習者たちは法輪功の煉功を許されなかった。彼女たちの多くは心臓病、高血圧、咯血、肺の問題などの健康上のトラブルを抱えるようになった。彼女たちが立ち上がれない時でさえ、看守らは仕事に行かせた。

### 1.2.4 労働収容所が廃止された後、被拘禁者はより隠れた施設に移された

(8)

「労働による再教育」(RTL) 収容所での残虐行為が数年後に明らかになり、世界中から注目を受けるようになった後、中国は2013年に労働収容所制度の廃止を発表した。

上述の通り、数十年の歴史がある労働収容所の代わりに現れたのは、より秘密裏に、中国の司法制度に縛られない洗脳班（「法制教育センター」または「リハビリテーションセンター」と名付けられている）である。これらのヤミ刑務所は監視が届かず、否認権を大いに有する。労働収容所の経験から学んだ中国政権は、特定のヤミ刑務所が悪評を集めることなく、国際的監視対象にならないような政策を採択した。このような施設の一つがあまりにも有名になると、一旦消えるが、法輪功への迫害を実行する役割を継続するために、またどこか他の場所に再び現れるだけである。新旧のこれらのヤミ刑務所には、閉鎖になった労働収容所の役人らが配置されている<sup>(9)</sup>。

2014年3月、黒竜江省のヤミ刑務所に拘束されている学習者たちの釈放を求めた4人の人権弁護士は警官に殴られ、拷問された。この事件は、世界の注目を中国政府の超法規的洗脳施設制度に集中させた。例のごとく、3月の弁護士事件に関与した「建三江農場法制教育センター」<sup>(10)</sup>は4

月28日に閉鎖された。しかし、そこに拘留されていた学習者たちは適正手続きがないまま、拘留され続けた<sup>(11)</sup>。

さらに、建三江洗脳班を管理している役人らは、省内の別の都市であるチチハルに新しい施設を設置した。実際、新しいチチハル洗脳班を管理している2人の役人はそれぞれ、閉鎖されたチチハル労働収容所の部長と副所長を務めていた<sup>(12)</sup>。正式には「チチハル薬物リハビリテーションセンター」と名付けられたこの新しい施設は現在、建三江に取って代わり、黒竜江省の指定された省級の洗脳班となった<sup>(13)</sup>。

臨時の洗脳班もより秘密の場所に現れていた。吉林省では、梅河口市の610弁公室は双星中学校に洗脳班を設置し<sup>(14)</sup>、2014年7月1日に約10人の学習者を拘留した。2014年6月の報告書によると、江蘇省のあるホテルで洗脳班が設けられていた<sup>(15)</sup>。

重慶市江津区では2010年から、津都鼎院という集合住宅の1階にあるものを含めて、いくつかの洗脳班が賃貸住宅に設置されていた<sup>(16)</sup>。洗脳班の典型は、各部屋（監房）に1人の学習者と、学習者を24時間監視する2人の「監視役」が収容される。これらの監視役は通常「転向した」学習者であり、他の学習者の転向において看守と協力するようにさせられている。洗脳班での身体及び心理的拷問に加えて、神経を損傷させる精神系薬物の定期的な強制注射、薬漬けの食物の強制灌食、及び生きている受刑者からの臓器狩りへの関与に関する主張が定期的に報告書でみられる。これらの拷問と精神実験の事例は、国際宗教の自由に関する米国委員会が発行した2014年版の年次報告書によって裏付けられている<sup>(17)</sup>。

政権の暴力的弾圧に関する中核政策が変わらない限り、婉曲表現や表面的な約束では発生し続ける残虐行為を隠せない。

### 1.3 精神科病院

精神科病院と精神病施設は、学習者に法輪功を放棄させる圧力がかかるために広く使用されていた。例えば、「安康」病院（中華人民共和国公安部が直接管理し、厳重な警備が敷かれる精神病院）は数年来、米国国務省（DOS）の対中国年次国別人権報告書で、虐待の場所として注目されている<sup>(18)</sup>。

2011年DOS報告書には次のような記載がある。

安康施設に人を再拘留する治安職員の能力を監督する規制は明確ではなく、被拘禁者にとって、治安当局による精神疾患の申し立てに異議を申すメカニズムが機能していない。これらの病院の患者は意志に反する薬を服用させられ、電撃療法を強いられたと伝えられている。

中国の精神科施設における文書化された虐待と対照すると、皮肉にも「精神障害者の平和と健康のための施設」と解釈されている安康施設はあまり広く知られていない。彼らは非常に密かに活動しているため、多くのベテラン精神科医、精神障害者の権利を専門とする弁護士、そして犯罪心理

学の教授は、そのような施設については何も知らないと述べている。学習者の家族による安康施設の訪問は禁じられている。多くの家族は、そのような病院に収容されている、愛する人の行方を知らない<sup>(19)</sup>。

### 1.3.1 労働収容所との類似点

安康病院は、2013年に廃止された旧労働収容所と著しく類似した方法で運営されている超法規的機関である。警察らは適正手続がないまま、恣意に人をこれらの病院に違法に収監することができる。

実際、安康病院の管理部門は拘置所も担当している。そのため、警官らは学習者を拘置所、洗脳班、安康施設の間で頻繁に移動させ、各施設で彼らに集中的な洗脳の手法をかけた。拘置所、労働収容所、洗脳班に投獄された後、信念を放棄することを拒否する学習者は、しばしば安康病院に移送され、更なる野蛮な精神的虐待を受けることになった。

中国共産党は頻繁に精神保健施設を利用して、反体制派や政治活動家を拷問する。中国の様々な精神衛生治療施設での虐待が報告されているが、安康病院のみが患者の意志に反して患者を拘束し、自由を制限することを公式に認可されている。これらの施設は共産主義体制のために、長きにわたり「国内安全の維持」をしてきた。早くも1988年1月、公安部は患者を安康施設に強制的に収容するための基準を定めた。

標的となった五つのグループのうちの二つは、「社会秩序を著しく妨害するもの」と「社会の安定を破壊させるもの」に分類された。学習者、政治的反对者、及び政府の政策に抗議する勇気ある市民を安康病院に監禁することを正当化するため、当局は彼らによくこれらのレッテルを貼る。

1999年に法輪功への迫害が始まってから、さらに多くの安康病院が設立された。2004年9月、公安部は各省、自治区、市町村に対し、安康病院がない場合はできるだけ早く設置するようとの公告を発行した。

### 1.3.2 精神衛生コードの抜け穴により、健康な人は意志に反する安康病院での監禁を強いられる

精神衛生コードは2013年5月1日に中国で正式に実施された。このコードは自由意志による入院の原則を定め、「重度な症状」を持つ人、そして「他人に危害を及ぼす危険性」を示す人のみが強制的に精神衛生施設に拘束されると述べている。しかし、このコードは、恣意的に精神病というレッテルを貼られる市民を保護しないという抜け穴を残している。人には「他人に危害を加える危険性」があるかどうかの判断においては大きなグレーゾーンがあり、警察及び関係官庁は学習者、政治的・反体制派及び請願者を迫害する中でそれを大いに利用した。

安康施設には第三者による監視がない。警官らは安康病院を管理し、誰をこれらの施設に連れて行くかを定める。個人が精神障害者として診断されているかどうか、どのような薬が処方され、どのように投与されているかは関係なく、解放されれば全て警察の管理下に置かれる。

精神衛生コードの実施以来、多くの学習者は安康病院に拘留され続けるか、またはそのような施設に新たに収監されることになっていた。

### 1.3.3 学習者を虐待する際の精神薬の乱用

法輪功に対する迫害が1999年に始まって以来、多くの学習者は精神障害のレッテルを不当に貼られて安康病院に収容され、中枢神経系を損傷させる薬を注射され、電気ショックを受け、強制的に灌食され、殴られることを強いられるようになった。この全ての「治療」は現在、国際医療界によって禁止されている。多くの犠牲者は本当に精神疾患を持つまでに至り、または安康病院での中共による頻繁な薬物乱用によって死に至った。以下に幾つかの事例を挙げてみる。

梁志芹さんと他の学習者は2000年の秋に唐山安康病院に連行された後、神経を傷つける薬を注射された。後に、学習者のほとんどは注射が痛みを伴い、長期間続く重度の副作用を引き起こすものだったと詳述した。副作用には心臓の不快感、舌のこわばり、著しい歩行の不便、緊張感、異常思考、虚ろな目、記憶喪失などがあった。

梁志芹さんは精神病薬を注射された後、心不全に陥り、ショック状態にも2回陥った。彼女は最終的に2009年に亡くなるまでの3年間、自立生活をする事ができなかった。

学習者・李鳳珍さんは安康病院で不明薬物の注射を受けた後、重度の記憶喪失を起こした。李さんは自立生活をする事ができず、痩せ衰えていた。

河北省邯鄲市の学習者・楊宝春さんは2002年に邯鄲労働収容所で拷問を受けた後、右脚の切断を余儀なくされた。労働収容所は三回も楊さんを邯鄲安康病院に送り、そこで彼は5年間に亘り神経損傷薬を注射されていた。家族が2009年ようやく楊さんを家に連れて帰る時、彼は本当に精神病にかかっていた。

### 1.3.4 精神的虐待は若い女性を狂気に追いやった<sup>(20)</sup>

2015年2月13日の朝、山東省萊陽市のある村では身の毛もよだつことが起きた。村民たちは井戸に浮かぶ30代半ばの女性の遺体を発見した。彼女は後に柳志梅さんと特定された。

大きな夢を持つ明るい学生であった柳さんは、法輪功への信念を放棄することを拒否したため、21歳で清華大学（中国のMITとして知られる）を退学させられた。柳さんは逮捕された後、刑務所で6年間過ごし、薬を繰り返し投与された。2008年に釈放される直前に、彼女は大量の不明薬物を注射された。

柳さんの家族は後に、これが彼女に長期にわたり精神病の症状が出現していた原因であると疑った。彼女は無意味に歩き回り、まるで走っているように腕を空中で振ったりした。夜、柳さんは寝小便をし、尿で濡れているマットレスで寝た。年齢を尋ねられると、彼女は沈黙を保つか、または「21」と答えた。柳さんにとって、時間は21歳で止まっていたようだ。

柳さんは刑務所から釈放されてから7年で亡くなった。この若い女性は、信念のために投獄されている間に精神的虐待を受けた山東省の多くの学習者の一人であった。

### 1.3.4 (a) 精神的虐待によるさらに多くの死亡例

山東省の他の3人の学習者も、精神的虐待により死亡した。

#### 事例一：蘇剛さん

淄博市出身の蘇剛さんは、シノペック齊魯石油化学有限公司でソフトウェアエンジニアとして働いていた。2000年5月23日、32歳の蘇さんは抱えられて、濰坊精神病院に運ばれた。

蘇さんは毎日、不明薬物や化学物質を注射され、重度の神経損傷を引き起こした。彼の家族が彼の拘禁と虐待について知った時、彼の叔父・蘇蓮禧さんはハンストで抗議した。病院の責任者は蘇さんを父親に返した。

しかし、9日間の薬物注射が彼らの努力を無にした。蘇さんは死んでいるように呆然とし、目が鈍かった。蘇さんは非常に弱くて顔が青白く、身体は硬直していた。6月10日の朝、蘇さんは死亡した。

#### 事例二：徐桂芹さん

法輪功を学んだことで拘束を受けた38歳の徐桂芹さんが刑務所から釈放された時、医師は家族に、彼女が自分で動き回ることがないように注意深く見る必要があると伝えた。彼女の人生は重大な危険に晒されていた。

釈放される直前に、徐さんは薬瓶4本ほどの神経損傷薬を注射された。その結果、彼女は顔が腫れ上がり、舌が硬直した。食べることができない徐さんはやせ衰えていき、身体が麻痺し、重度の記憶喪失に苦しんでいた。

帰宅後の徐さんは肉体及び精神状態が日を追うごとに悪化し、9日後の2002年12月10日に亡くなった。

#### 事例三：張徳珍さん

38歳の張徳珍さんは蒙陰拘留所に収容されていた時、職員の王春暁と蒙陰病院の医師から不明薬物を注射され、危篤に陥った。2003年1月31日に医師から不明薬物を再び注射された後、張さんは亡くなった。

彼女の死に関わったのは蒙陰610弁公室の類延成、収容所チーフの孫克海、及び病院長の郭興宝であった。

## 1.4 ゴム印同様の司法制度

前述のように、江沢民は610弁公室に、司法及び法執行システム全体を超える権限を与えた。江沢民はまた、学習者に対する一連の秘密指令を出した。これには、「名誉を汚し、経済を破綻させ、肉体を消滅させる」、「彼らを死ぬまで殴り、死んだら自殺とみなす」、「彼らの身元を確認せずに火葬する」などがある。

その結果、学習者となると、やり過ぎだと見なされることは何一つない。610弁公室からの圧力と指示の下で、判決の法的根拠が完全に欠如しているにもかかわらず、司法制度は学習者を鉄格子の中に追いやろうと必死だった。

結果として、学習者の逮捕となれば警察は疑義を呈さず、検察官は彼らに対して虚偽の申し立てを提出することに良心の呵責を持たず、裁判所はあらかじめ定められた重い刑を宣告することを遵守するだけだった。

### 1.4.1 記者会見を開くことによる逮捕<sup>(21)</sup>

中国国内外の報道機関が中国共産党支配下のメディアが報じる中傷を繰り返していたため、1999年10月28日、約30人の学習者が北京郊外で記者会見を成功裏に開催した。彼らは江沢民が言った虚言に反論し、国際メディアが中国本土の学習者を直接理解する最初の機会を提供した。

10月28日当日、AP通信とロイターの報道は世界中に広がった。翌日、ニューヨークタイムズはこの記者会見に関する写真とストーリーを第一面に掲載した。当時、米国の学習者はワシントンD.C.の政府高官に中国の法輪功の状況を伝えていた。当局者はこれらの報告書を読んだ時、中国の学習者の勇気に対し、称賛を表明した。

アジアで最も影響力のある英字新聞であるサウスチャイナ・モーニング・ポスト (SCMP) は、ページの一面を大きく飾る写真をもって記者会見を報道した。ヨーロッパの多くの主要新聞もこの話を目立って取り上げた。しかしその結果、記者会見に出席した学習者は全員逮捕された。当時36歳だった蔣朝暉さんは5年の刑を宣告された。31歳だった丁延さんは3年の禁固刑に処せられ、2001年8月18日に承德刑務所で拷問により死亡した。27歳だった蔡銘陶さんは湖北省の洗

脳班に送られて、手錠や足かせを掛けられたままで日常的に殴られ蹴られ、2000年10月5日に亡くなった。

#### 1.4.2 ポスター貼りによる投獄

迫害に抗議する全ての法的ルートが閉ざされたため、学習者はチラシやパンフレットを印刷して配布し、横断幕やポスターを公共の場所に置くことで、自らの苦境に対する周囲の理解を広げていた。

河北省唐山市在住の学習者・王宝山さんは、「世界には真・善・忍が必要である」という横断幕を掲げた疑いで2万元の罰金を科され、5年6カ月の刑を言い渡された。

王さんは2017年7月3日、横断幕が近所で発見された6月29日から数日後、職場で逮捕された。警察は監視ビデオに撮られた横断幕を掲げる男性が王さんであると主張したが、十分な証拠がないとして、豊潤区の検察官はこの案件を2回差し戻した。

警察は3回目の裁判を試みた。案件は遵化市検察局に割り当てられ、遵化市裁判所に送られる前に王さんに対して公訴を提起した。

王さんは2018年5月9日に出廷し、7月12日に判決を受けた。判決は、王さんが横断幕を掲げたという申し立てには証拠が不十分で罪は認められないと述べつつ、王さんの自宅から押収された法輪功の本、情報資料、プリンターが王さんに有罪判決を下す十分な証拠であると指摘した。

裁判所の役人は上訴を阻止しようとしたが、王さんの弁護士は7月30日に上訴書類を提出した。弁護士はその後何度も唐山中級裁判所と接触し、法廷の手続き違反に抗議し、上訴における公開審議を要求した。

弁護士は、中級裁判所が9月10日に聴聞会を開かず、元の判決を支持する決定を下したことが10月18日にやっと発覚した。10月22日、依頼人を訪ねに拘置所に行った弁護士は、王さんはすでに10月17日に冀東第2刑務所に移送されたと警察から知らされた。王さんの妻は11月5日に刑務所に行ったが、面会を繰り返し要求した後、やっと夫に会えた。

車という名の警官が面会を録画し、王さんが信念を放棄することを拒否した場合、今後の面会は一切なしと言った。王さんの妻は、彼が毎日9時間にわたって縫製室で働くことを余儀なくされていたことを知った。生地の刺激臭が王さんを病気にした。

王さんは、法的根拠がないまま彼を逮捕し起訴した人々に対して苦情を申し立てた。王さんの家族も最高人民検察院に苦情の手紙を送ったが、未だ返答を受け取っていない。

### 1.4.3 オリンピック期間中、または他の「敏感な」時期の逮捕例

中国の警察は旧正月や共産党の主要会議などの「敏感な」時期に、学習者に対する大規模な逮捕を行うことがよくある。例えば、405人の学習者が2015年3月に逮捕され、うちの123人が裁判にかけられ、81人が違法に刑を宣告された。逮捕の大部分は、第12回全国人民代表大会（3月5～15日）及び、第12回全国人民政治協商会議（3月3～13日）を含む中共の立法期間の月の前半に行われた。

2008年5月、中国の多くの地域の警察は、オリンピック競技大会の安全保障を口実に、学習者を密かに逮捕し始めた。

2008年5月21日、邵長普さんと付麗洪さんは松原市で逮捕された。その後、松原市警察は邵さんの自宅を荒らし回り、彼の妹を逮捕した。

邵さんと付さんは松原市の拘置所で拘禁され、一日2食しか与えられず、無給で働かされた。付さんは衰弱し、邵氏は1年の強制労働を宣告され、長春市黒嘴子強制労働収容所に移送された。

学習者の朱徳財さん、王愿章さん、彦賢余さん、劉慶さん、（まだ学習者ではない）陳立新さんなどは逮捕された後、九台市飲馬河強制労働収容所に連行され、学習者の劉淑芹さん、高冕さん、徐輝さん、張紅芹さん、王淑芹さん、牟桂玲さんなどは長春市黒嘴子労働収容所に拘留された。

2008年7月11日の真夜中を過ぎた頃、松原市と扶余県の警官らは村の治安部長の案内の下、扶余県の学習者を対象とした逮捕と嫌がらせを行った。蔡家溝張堡村の王金霞さんは逮捕され、扶余拘置所に拘留された。三岔河の李曉輝さんは道西警察署の警察に逮捕され、扶余県拘置所に連行された。榆樹溝の王恩会さんはなんとか逃げた。警官はまた、以前に法輪功を学んだことのある町の他の人々にも嫌がらせをし、逮捕した。

警察は1999年以前に収集した学習者のリストに従って逮捕を実施したと言われている。リストにある一部の人は法輪功をやめたか、またはすでに亡くなったにもかかわらず、警官は家族に嫌がらせをし、とにかく彼らを連行した。山東省鄒平市の48歳の王翠香さんは北京オリンピックの前に迫害に遭い、王村強制労働収容所で健康状態が著しく悪化するまで拷問を受け、自立生活ができなくなり、2010年11月に亡くなった。

### 1.4.4 襲撃者の代わりに、警察は殴られて意識を失った女性を逮捕<sup>(22)</sup>

杭世珍さんは2019年5月12日の夜、法輪功に関する情報が書かれた横断幕を掲げた時に待ち伏せされ、殴られた。襲撃者は杭さんを倒して押さえつけ、彼女の頭を殴打した。杭さんは頭が血まみれになり、顔がかなり変形し、4本の前歯を失い、口から血が勢いよく流れ出て、鼻が折れて気を失った。

襲撃中、襲撃者は電話をかけていた。直後、数台のパトカーがやってきた。襲撃者を尋問し逮捕するのではなく、警察は杭さんを万全警察署に連行した。

翌日の2019年5月13日、警察は杭さんを張家口拘置所に移送しようとしたが、杭さんは高血圧と殴打による重傷で健康診断をパスしなかったため、警察は杭さんを釈放するしかなかった。杭さんは鼻の骨折、歯の喪失、顔と胸の軟部組織の損傷を負った。

#### 1.4.5 一つの警察署で数人の死、及び無数の残虐行為<sup>(23)</sup>

黒竜江省の学習者・黄国棟さんは、2017年10月31日に亡くなった。

亡くなる数ヶ月前、拘禁中に強いられた肉体及び精神的虐待が原因で、黄さんは食事を摂れずトイレに行くのも困難だった。

最初に、黄さんは南山警察署に拘禁され、その後牡丹江刑務所に移送された。法輪功を信奉しているため、黄さんは警察署と刑務所で拷問を受けた。警察署では、警官が黄さんの親指を引っ掛けて吊し上げ殴打した。黄さんが痛みで意識を失った後、警官らはコインで黄さんの肋骨を擦り付け、爪楊枝を黄さんの指先に刺して起こした。黄さんが意識を取り戻すや否や、再び拷問を始めた。

黄さんの苦境は唯一無二のものではなかった。この警察署では、身体及び精神的虐待により命を失った高炳栄さんと崔存義さんを含めて、多くの学習者が法輪功を修煉するがために多大な被害を受けた。また、趙軍さんのように、拷問によって障害者になった学習者もいた。

#### 1.4.5 (a) 高炳栄さん：精神障害、拷問されたのち死亡

高さんは、南山警察署が位置する鉄嶺河に住んでいて、法輪功を学んでから健康を取り戻し、家庭生活も改善された。2001年2月、南山警察署の副署長である苗強と数人の警官が高さんを逮捕した。

6人の男性警官は午後7時から翌日の午前1時30分にかけて高さんを殴打し、重傷を負わせた。苗は高さんに法輪功の創始者を呪い、法輪功の本を踏みつけて引き裂くよう命じた。高さんは傷を負ったが治療も受けられず、警官らは高さんを牡丹江拘置所に連行した。

拘置所に入れられた時、高さんはすでに身体障害を抱えるようになっていた。彼女は顔と手足が腫れて目が細隙になり、頭に卵大のしこりがいくつもできた。殴打に怯えて泣き続け、縮こまる彼女を、看守と受刑者らは強く押さえつけた。高さんは日に日に衰弱していき、釈放されてから約1年後に死亡した。

#### 1.4.5 (b) 崔存義さん：五本の肋骨が折れて、肺全体が真っ黒に

法輪功への迫害により、54歳の崔存義さんは逮捕を避けるため放浪生活を余儀なくされた。「彼に戻ってくるように言ってください。何も起こりませんので」と、ある地元の警官が崔さんの家族にこう言った。崔さんが家に戻って間もなく、警察は2002年5月13日に崔さんを逮捕し、

南山警察署に連行した。2日後、家族は崔さんの死を知らされた。死後検査により、崔さんは全身に打撲傷があり、肋骨が5本折れて肺が完全に真っ黒になり、目が腫れて足も黒くなっていたことが判明した。しかし、検査結果は家族に渡されず、崔さんの身体や検査結果を写真またはビデオで撮影することも許可されなかった。

家族が黒竜江省政府に訴えに行こうとした時、警察は全ての公共交通機関から彼らを塞いだ。家族による省政府と北京への絶え間ない訴えの後、牡丹江警察署は家族に50万元を支払った。崔さんの事件をきっかけに、国連人権団体は2005年の報告書の一つで南山警察署に言及し、共同調査を求める声明を発表した。しかし、その責任を問われた警官は1人もいない。

#### **1.4.5 (c) 趙軍さん：爪楊枝で指の爪裏を刺され、不具になるまで拷問を受け、息子は人質に**

南山警察署の警官は爪楊枝で学習者の指先を刺す拷問をよくしていた。警察署長の謝春生と苗強は2001年2月24日に趙軍さんの家に行った。謝は趙さんに「雑談したいので、表に出てほしい」と頼んだ。趙さんがサンダルを履いたままドアから出た途端、警官らは趙さんを遊撃車に押し込み、警察署に連行した。

その夜、趙さんは3回きつく縛られ、3回も痛みで意識を失った。その後、警官は彼を目覚めさせるためにコインで肋骨をこすり、爪楊枝で爪裏を刺した。趙さんの腕は重傷を負い、健康診断で神経の損傷による障害が確認された。

趙さんを屈服させることができないと見た警官らは、医学生で法輪功を習っていない趙さんの息子・趙丹さんを逮捕した。彼らは手錠で趙丹さんを暖房配管に固定させ、厚い毛布を頭に被せて、ほとんど窒息させた。また、警官らは趙丹さんに水を飲ませず、トイレに行くことも禁じた。翌朝、2人の警官は趙丹さんを父親のところに連れて行き、「お前の息子を見てみろ！」と叫び、すぐに息子を連れ去った。たった1晩で障害を負うほど殴られた自分自身のことを思うと、趙さんは息子も障害に苦しむのではないかと心配していた。怒りと悲しみの中で、趙さんはこう答えた。「息子を釈放してください。あなたが私に負わせるものなら何でも受け入れます」。警官は家族から5,000元を強要した後、趙丹さんを釈放した。

#### **1.4.5 (d) 黄国棟さん：部屋中が血まみれ**

黄国棟さんは工場で働き、勤勉さと気前の良さで同僚や隣人の尊敬を得ていた。彼は法輪功の修煉を通じて、もっと明るくて健康になったと述べた。「法輪功と真・善・忍の原則は最高の教えです。これらがなければ私は生きていけません」と、かつて黄さんはこう言った。

法輪功への迫害を暴露するための資料を配布したため、黄さんと彼の息子は2001年2月下旬に逮捕され、南山警察署に連行された。

苗強と警官らは黄さんの両手の親指を縛り、そこから両腕を吊し上げて殴打した。黄さんが意識を失った後、警官らは趙さんにしたのと同じように、黄さんの肋骨をコインでこすりつけ、爪楊枝を指先に刺して目を覚まさせ、さらに拷問を続けた。黄さんはあまりの痛さで叫んだが、拷問は24時間続いた。黄さんは頭が腫れて、至るところにあざがあった。また腸の機能が低下し、部屋中が血まみれだった。

しかし、それはほんの始まりに過ぎなかった。警官らは黄さんに手錠をかけ、足を鎖で繋いで拘留所に入れ、そこで苗強と他の警官らは黄さんをさらに殴り続けた。黄さんの妻は610弁公室と警察署に連絡し、釈放を求めた。しかし、要求は拒否され、警官らは立て続けに黄さんの妻にお金を要求した。食堂で働いていたある受刑者は、黄さんが絶え間なく下痢するようになったのは、命令に従って黄さんの食べ物に不明の薬物を加えたからだと言った。その陰謀を知らなかった黄さんに、信念を放棄させようとして、看守らは「なぜ、法輪功はあなたの健康を改善できなかったのか」と皮肉に聞いた。

肉体的虐待及び不明の薬物により黄さんは衰弱し、約10か月で健康状態が著しく悪化した。黄さんの事例は2001年国連人権報告書に含まれていた。しかし、釈放されるどころか、黄さんは2001年12月12日に裁判にかけられた。法廷では話すことができないほど弱くなっていた黄さんは、10年の刑を宣告された。そして、牡丹江刑務所に連れて行かれ、そこで性器と肛門への電気ショックを受け、寒さに晒され、栄養失調になり、他の方法による拷問も受けた。

他の多くの学習者も同様の虐待を受けた。張玉良さんは2001年に苗強に殴られた後、内傷を負い、長い間血尿していた。張さんは5年の刑を宣告された。カナダに住む張さんの親戚がカナダ政府に彼の案件を提起した後、カナダの外務大臣ジョン・ベアード氏から張さんの親戚宛に、ステイブン・ハーパー首相と緊密に協力し、拘束されている学習者の釈放を求めるために中国政府と連絡したとの返信が帰ってきた。

#### **1.4.6 学習者に有罪判決を下すための警察、検察、及び裁判所の法的手順の違反<sup>(24)</sup>**

貴陽市の48歳の女性は法輪功を放棄することを拒否したため、4年6カ月の刑を宣告された。

張菊紅さんは希望を与えてくれた法輪功を信じていた。彼女の最初の夫は結婚からわずか数年で投薬ミスによって亡くなり、息子は12歳で溺死した。再婚した夫はタバコを吸い、酒を飲み、彼女をよく殴った。

悲惨な運命により張さんは健康面の打撃を受けたが、法輪功との出会いにより生きる意欲が蘇った。彼女は健康になっただけでなく、夫との緊張関係も改善された。法輪功への迫害が1999年7月に始まった時、張さんの信念に対する心の揺れはなかった。

健康と幸福への追求が張さんにもたらしたのは、警官による幾度もの拘留だった。最後に、彼女は2016年7月24日に逮捕され、2018年2月13日に法廷に立った。彼女の弁護士・李貴生氏は3月2日に張さんが有罪判決を受けたことを知らされ、引き続き憲法の権利である信仰の自由を得るために戦う彼女を代言することに同意した。李弁護士は張さんを手伝い、貴陽市中級裁判所に申し立てを提出した。

地元の花溪地区の警察、検察官及び裁判所は全員、張さんを起訴することにおいて法的手続きに違反していた。彼女の家族は貴陽市規律監視委員会に対し、責任者を追及する苦情申し立てを行っている最中である。

### **(a) 警察は訴追の証拠を提示できない**

検察官・趙庭松は張さんに対して二つの証拠を引用した。一つ目は、張さんが法輪功の情報が書かれた資料を配布するところを目撃されたことである。警官の羅吉松と陳東昊は反対尋問に呼ばれ、2014年4月17日に張さんを逮捕した際、彼女が様々な法輪功の資料の計75枚分を所持していたと主張した。

張さんの弁護士が資料を法廷で見たいと要求した際、警官らは「どこかに」片付けたと主張した。彼らはまた、2016年ではなく、2014年に張さんを逮捕した際に没収した資料を証拠として法廷に提出したかの理由についても説明できなかった。

### **(b) 江沢民に対する合法的な告訴が訴追の証拠となった**

二番目の訴追の証拠は、張さんが2015年7月22日に中国の元国家主席である江沢民に対して提出した刑事告訴状であった。

張さんの弁護士は、法輪功への迫害を始めた責任を江沢民に負わせることは、被告の憲法上の権利であると主張した。

弁護士はさらに、最高人民検察院及び最高人民法院に郵送された告訴状について、警察がどのように知り得たかを尋ねた。弁護士は、警察が郵便物を入手したか、または二つの機関から訴状を受け取ったのではないかと疑った。

検察官・趙庭松は、地方の反カルト事務局が張さんの刑事訴状を調べ、それが法輪功の資料であることを確認したと主張した。弁護士は、中国のどの法律も法輪功を刑法により禁じておらず、カルトとして分類していないと強調した。弁護士はまた、反カルト事務局は検察証拠を検証する法的権限を持っていないと主張した。

### **(c) 「81日間の拘留」の欠落**

逮捕後間もなく、張さんは爛泥溝洗脳班に送られ、81日間拘留された後、貴陽市第一拘留所に移送された。しかし、警官と検察官は訴追においてこの81日間を言及しなかった。裁判所の聴聞会で張さんの弁護士は、警察は訴訟を起こす前に調査を行うべきか、それともその逆かと尋ねた。警官の羅と陳は調査を先に行うべきだと答えた。

弁護士は調査が行われる前に被告が81日間拘留された理由と、訴追に拘留が示されていない理由を尋ねた。警官からは答えがなかった。弁護士は81日間の拘禁は完全に違法であると述べた。裁判官の張徳才は、「違法」という言葉を使わないよう警告した。81日間の拘留は訴追から欠落していたため、張さんがすでに拘禁された81日間は4年6カ月の懲役刑からは除外された。

### **(d) 裁判所職員は張さんに、弁護士を解雇するよう圧力をかけた**

裁判所の事務官・張立と花溪地方裁判所の副所長・伍は3日間で3回拘留所を訪れ、張さんに弁護士を解雇するよう圧力をかけたが、失敗に終わった。

張立と伍は2017年12月23日に初めて現れ、3時間かけて張さんと話した。彼らは弁護士を雇うことは何の役にも立たず、自身で証言し弁護するほうが遥かに良いと警告した。張さんは彼らの要求に対して、「はい」も「いいえ」も言わなかった。2人は12月25日の午前10時に再び来て、張さんが弁護士の解雇に同意すれば、2018年1月に保護観察を与え、釈放すると約束した。張さんは弁護士を解雇することは構わないが、無罪放免を要求した。2人は、張さんにかけてきた全ての嫌疑をかけないことは不可能だと答えた。

2人は当日の夜7時に戻り、弁護士を解雇する決心がついたかどうかを尋ねた。張さんは法定代理人を保持することを決めたと伝えた。2人は張さんに重い判決を下すと脅して去った。2人の役人と張さんの間の会話は、法律で義務付けられている記録がされていなかった。

### **(e) 裁判所事務官は張さんの法定代理人の請求について虚偽を伝える**

張さんの弁護士である李貴生さんは、2017年11月28日付けの訴追状のコピーを2017年12月19日に受け取った。裁判所は李弁護士に12月24日、張さんが翌日裁判にかけられると通知した。法律により、裁判所は少なくとも10日前に被告と弁護士に通知しなければならない。李さんは12月25日の午後1時に裁判所に到着したが、誰もいなかった。午後4時に事務官・張立が現れた。

張立は一枚の紙を振って、これが張さんの言ったことの書面による記録だと言った。張立は12月22日に拘留所からの電話で、張さんが非常に激高して、裁判所の役人に会いたいと言っているとの報告を受け、現地に向かったという。張立は、張さんが「弁護士は良い仕事をしておらず、解

雇したい」と言った、と李弁護士に伝えた。張立はまた、張さんが法廷で罪を認めれば、軽い刑を下すと約束したと弁護士に伝えた。

中国では法輪功を犯罪だとする法律がないうえ、張さんがどれだけ公正さを求めているかをよく知っている李弁護士は、張立の言うことを信じなかった。弁護士は張さんの決定を直に確認したが、拘留所は2017年12月28日と2018年1月3日に李弁護士の面会申請を2回とも許可しなかった。看守は弁護士に、拘留所は張さんとのいかなる面会も許可してはならないと書かれた裁判所発行の文書を見せた。

李弁護士は裁判所の法的手続き違反行為に対し、苦情を申し立てる計画をしていると裁判所に伝えたが、張立は1月4日に弁護士に電話をかけ、張さんが再び李さんを弁護士に依頼することに同意したと言った。

その後、李弁護士は張さんとの面会が許可され、張立と伍が李弁護士を解雇させるためにどれだけ彼女に圧力をかけたかについて知った。張さんはまた、張立が12月22日に拘留所を訪ねたとの主張は事実ではないと言った。

#### **(f) 弁護士ではない弁護人の辞退を余儀なくされた家族**

張さんには、弁護士ではない弁護人、遠戚の叔父にあたる周鑒忠さんがいた。周さんも法輪功を学んでおり、法輪功への迫害が違法であると理解している。

周さんは姪の弁護をしようとする時、妨害に遭遇した。周さんは2017年3月に張さんが署名した委任状を裁判所に提出した。張立は周さんに、犯罪歴がない証明を示すよう要求した。周さんは従ったが、12月18日まで必要な書類に署名する機会是与えられなかった。

弁護人として、周さんは張さんの事件の再調査に取り掛かった。周さんは、江沢民に対する彼女の刑事告訴が法輪功の宣伝資料としてラベル付けされていることに気づき、12月21日に張立に電話し、張さんの刑事告訴に関して申し立てられた証拠を却下する要求を提出する予定であると言った。

翌日、周さんは法廷に行ったが、張立を見つけることができなかった。2018年1月22日、周さんはやっと裁判前の会議で張立と彼の助手に会えたが、そこで自分の姪を弁護する資格が剥奪されたことを知らされ、副所長の伍に会いたいと要求したが、その必要はないと張立に拒否された。

裁判所職員の張立と伍が12月25日に拘留所で張さんを脅迫していた間、張さんの甥は同日、地元の居民委員会（社区と呼ばれる住宅地を管理する政府の末端組織）の委員から、張さんの弁護に周さんに関与させないよう警告された。脅迫された張さんの甥と他の家族は12月27日に裁判所に手紙を送り、弁護人の周さんを辞任させると伝えた。

#### 1.4.7 秘密裏に行われる裁判所聴聞会の1ヵ月前に事前決定された判決

(25)

山東省沂南県のある住民は法輪功を信奉しているという理由で、2019年1月10日に沂南裁判所から懲役4年6カ月の判決を受けた。彼はすでに済南刑務所で服役し始めているが、彼の家族は未だ判決に関する裁判所文書を受け取っていない。

また、2018年10月初旬、杜以合さんの家族は、当局が杜さんに懲役4年の刑を言い渡すことを決定したという噂を、政府関係の仕事をしている知人から聞いた。これは、2018年11月24日に沂南拘置所の仮法廷で秘密裏に行われた聴聞会の1ヵ月前だった。3人の息子を持つ56歳の杜さんは、2018年6月9～10日に山東省青島市で開催された上海協力機構(SCO)サミットの少し前の2018年5月28日に逮捕された。報道によると、警察は杜さんが家を離れて別の都市に働きに行くのを阻止するために逮捕したという。

杜さんは沂南拘置所で家族訪問を拒否された。家族は杜さんの釈放を要求したが、ある看守は「杜はそこが好きで、帰りたくないと言っている」と言った。

#### 1.4.8 中国国営テレビに割り込み事実を放送したため、刑を受けた (26)

政府が全国のメディアを完全にコントロールし、法輪功に対する中傷プロパガンダを広める状況に直面して、学習者たちは嘘を否定し、法輪功への迫害を国民に知らせるために様々な方法を試みた。吉林省長春市では、18人の学習者が2002年3月5日の午後8時ごろ、国営ケーブルテレビ放送ネットワークに割り込み、「自殺？それともデマ？」と「法輪大法は世界中に広がっている」の二つの番組を約45分間、八つのチャンネルで同時に放送した。

長春市全域の視聴者が啞然となり、法輪功への禁止が解除されたと考える人もいた。中国共産党政権の元首である江沢民は、「関わった全ての学習者を殺せ」という秘密の命令を下した。数日のうちに長春地域の5,000人以上の学習者が逮捕され、7人が殴打されて死亡した。多くは迫害を避けるために家を離れざるを得なかった。15人は後に重い刑を宣告され、そのうち3人は拷問により死亡した。

##### 1.4.8 (a) 江沢民が秘密の命令を発する

明慧ネットは、江沢民が2002年3月5日の夜、610弁公室責任者の羅幹と会ったと報道した。その後、江は瀋陽地域軍事司令部に第二級戦闘準備に入るよう命じた。長春市の地方軍事司令部と吉林武装警察は、テレビ放送の割り込みに関与した学習者を探し出すための第一級戦闘準備を命じられた。

羅幹を通じて、江は全ての警察官に、割り込みに関与した疑いのある学習者に発砲、または殺す権限を与え、「殺せばよい」と言った。彼らは長春と吉林省の警察に対し、1週間以内に事件を解決するよう要求した。「そうでなければ、長春の全階級の警察署長と、その地域の党書記は役職を解任する」とある伝達に書かれていた。

北京で開催中の第15回全国人民代表大会に出席していた吉林省党書記の王雲坤は、直ちに勤務地に戻るよう命じられた。610弁公室主任兼公安副大臣の劉京は、本件を直接監督するために長春に派遣された。

#### **1.4.8 (b) 7人の学習者が逮捕直後に死亡**

逮捕から数日以内に、計7人の学習者が死亡した。

吉林大学の卒業生で、35歳で亡くなった李容さんは吉林省薬物研究所で働いていた。彼女は3月に逮捕され、3月末または4月の初め頃に拘留中に死亡した。彼女の死の詳細は不明である。

吉林大学応用数学学科の講師である沈剣利さんは、事件の翌日に逮捕され、4月の終わり頃に34歳で迫害により死亡した。

劉海波さんは2002年3月10日夜、自宅で逮捕された。警官らは劉さんの妻と息子の前で劉さんに暴力を振るい、片方の足首を骨折させてから警察署に連行し、劉さんに脈拍が見られなくなった翌日の午前1時頃まで拷問、尋問を続けた。その後、彼らは急いで劉さんを病院に搬送したが、治療中に34歳の医師である劉さんは亡くなった。

30代と思われる学習者が2002年3月16日、長春市錦程警察支局で殴打され死亡した。目撃者によると、男性には幾つかの目に見える外傷と、殴打による内出血の兆候があったという。

劉義さんは34歳で緑園地区の警察支局で殴打により死亡した。

2002年3月20日、54歳の李淑芹さんは長久路派出所の警察に逮捕され、その後、長春第三拘留所で拷問されて死亡した。

2002年8月20日に自宅で逮捕された侯明凱さんは殴打により数時間後に死亡、34歳だった。

#### **1.4.8 (c) 判決を言い渡された15人の学習者**

長春市中級裁判所は2002年9月20日、以下の15人の学習者に懲役の判決を言い渡した。

周潤君さん・劉偉明さん：20年

劉成軍さん・梁振興さん：19年

張聞さん：18年

雷明さん・孫長軍さん・李德海さん：17年

趙健さん：15年

雲慶彬さん・劉東さん：14年

魏修山さん：12年

庄顯坤さん・陳艷梅さん：11年

李曉傑さん：4年

劉成軍さんと梁振興さんはそれぞれ、2003年12月26日と2010年5月1日に刑務所で迫害により死亡した。拷問で死にかけた雷明さんは医療仮釈放で釈放されたが、2006年8月6日に亡くなった。雲慶彬さんは拷問によって精神障害を起こし、医療仮釈放で釈放された。周潤君さんはいまなお長春女性刑務所に、孫長軍さんもいまなお吉林第二刑務所に拘禁されている。趙健さん、魏修山さん、庄顯坤さん、陳艷梅さん、李曉傑さんは釈放された。

#### 1.4.8 (d) 歴史的影響

国際メディアは、「3月5日長春テレビ放送割り込み」事件を、学習者が行った最も勇気ある行為の一つとして説明した。中国の残忍な迫害は、学習者が法輪功及び迫害について声をあげることが止められなかったことが示された。その後、同様の事件が中国全土で発生した。

劉成軍さんが迫害により死亡してから4年後、オーストラリアのアジア太平洋人権財団は9月5日、ニュー・サウス・ウェールズ議事堂で2007年人権賞の授賞式を開催した。劉さんはFidelity Vindicator Award（信義の立証を行った者に与えられる賞）に輝いた。

アジア太平洋人権財団は、数百万人のテレビ視聴者に真実を伝え、民間の人権保護キャンペーンに模範を示した劉さんを称えた。法輪功学会が劉さんに代わって賞を受賞した。学会の代表者は、この賞によってより多くの人々が真実の価値を学ぶことができるようにという希望を表明した。また、彼は皆に、正義を守るために力を合わせて立ち上がり、法輪功への迫害を阻止することを呼びかけた。

### 1.5 投獄された学習者の権利への侵害

中共による学習者への人権侵害は、判決の宣告で終わるわけではなかった。投獄された学習者は、一般受刑者に与えられる最も基本的な権利を奪われることが多い。そして、一般受刑者は学習者を虐待すれば刑期の短縮を奨励として与えられることが多い。以下はその幾つかの実例である。

### 1.5.1 遼寧省女性刑務所とその「矯正区」<sup>(27)</sup>

1999年に中国共産党が迫害を始めて以来、学習者は遼寧省女性刑務所に投獄されるようになった。中共から「転向」または信念の放棄を迫られる中、彼女たちは肉体的にも精神的にも拷問を受けていた。看守らは学習者に対し、訪問してきた役人との接触を許可しなかった。

刑務所には13の区があり、学習者はほぼ全ての区に収監されている。ただ、最も残酷な虐待は「集中矯正区」、または「病院区」とも呼ばれる第12区で行われ、2000年以前は「基地外集団」と呼ばれていたが、2010年に「集中矯正区」として指定され、学習者を「転向」させることを唯一の目的とするようになった。

悪名高い馬三家強制労働収容所が閉鎖されたとき、そこで収監されていた全ての学習者は、遼寧省女性刑務所に新しく設立された「馬三家区」に移送された。

#### 1.5.1 (a) 矯正区で使用された手法

##### (1) 学習者の意志を挫く

矯正区で学習者への迫害を率いる区長の陳碩は可能な限り、学習者の日常生活が困難かつ制限されたひどいものにしていった。学習者は個人の身繕い品が持ち去られ、トイレやトイレットペーパーの使用も許可されず、顔を洗ったり、歯を磨いたり、下着を着替えることは許されなかった。

また、学習者は季節に関係なく、マットレスや毛布がないまま、木板の上で寝なければならず、ごくわずかな食物しか許されないが、長時間にわたって立つことや繰り返しのスクワットを含む激しい体罰を日々強られる。さらに、彼女たちは頻繁に殴打され、スタンガンによる電気ショックを受け、隔離された独房に拘束され、法輪功を中傷するビデオを見るように強制される。

「転向」を拒否する学習者は10年の刑期追加を強いられ、勧誘工作に失敗した受刑者らは誰も釈放されない。この手法は、他の受刑者らが学習者を怖がらせ脅迫するために最大限の努力をする刺激剤となった。

##### (2) 学習者を拷問するよう受刑者を扇動する

看守らは学習者を拷問するために、受刑者の単麗麗、徐迎梅、李理、関翠、楊帆、王瑞及び多くの他の受刑者らを扇動した。

郭紅艷さんは病院に運ばれるほどのひどい拷問を受けた。劉曉亜さんは骨と皮になるまで拷問された。陳亜洲さんは電気ショックの拷問を受けた。ある60代の学習者は昼間は奴隷労働を強いられ、夜は一晩中テーブルの下でスクワットをさせられ、その後小さな隔離された独房に監禁された。半年にわたり洗顔や歯磨き、衣服を洗うことが許されなかったもう一人の学習者は、結果として身に生じた臭いのせいで受刑者らに罵られていた。

看守らは率先して学習者を拷問し、受刑者らに学習者を殴り、口汚く罵るよう駆り立てた。学習者を虐待する受刑者は刑期が短縮され、学習者をひどくあしらえばあしらうほど、より多くの果物を与えられるなどの恩恵も受ける。

多くの受刑者は看守らの機嫌を取ろうとして、看守よりひどく学習者を迫害する人もいる。看守と受刑者らは、「転向」すれば刑期の短縮を受けられると学習者を欺く。しかし、転向に同意した学習者は今度、減刑が承認されるには法輪功を非難する声明を書かなければならないと言われる。学習者が声明に署名すると、看守は「あなたは自ら同意した。私たちは強制しなかった」と言う。

### **(3) 集団処罰を利用して憎悪を扇動する**

遼寧省女性刑務所の第12区は、さらに五つの小グループに分けられている。小グループに「転向」を拒否する人がいると、グループ全員が罰せられ、テレビを見ることが許されなくなり、刑務所規則を3回書き出すことを要求される。その結果、受刑者らは全般的に学習者と法輪功に対して敵意を抱いている。

「転向」を拒否する学習者は刑務所内での食料や日用品の購入が許されておらず、家族の訪問、電話、郵便物も受けられない。彼女たちは外の世界から完全に隔離されている。

看守らは思いつく最も卑劣な言葉を使い、時には自分の祖母と同年代にもなる学習者らに暴言を吐く。多くの学習者は屈辱や虐待に耐えられずに屈してしまう。一旦学習者が「転向」すると、看守と受刑者らはすぐに態度を変えて微笑みを浮かべ、環境も非常にリラックスできるものになる。しかし、学習者の法輪功に対する信念が戻ると、看守と受刑者らはすぐに虐待を始める。

矯正区にいる受刑者は、他の区の受刑者ほど多くの仕事を割り当てられていないため、皆はできる限りのことを行い、そこに移ろうとする。彼女たちの家族も、他の区で要求されている強制労働の回避を助けようとして、手当たり次第に賄賂をばら撒いている。

## **1.5.2 黒竜江省女性刑務所は、受刑者らに学習者を拷問するよう指示した**

(28)

黒竜江省ハルビン市にある黒竜江省女性刑務所は、学習者を厳しく拷問する責任がある。看守らは学習者を攻撃するよう刑務所の受刑者らを扇動し、従う者が刑務所当局から愛顧を得る。

### **1.5.2 (a) 刑期の短縮が犯罪者による学習者への攻撃の見返りとなった**

第11区は学習者を「転向」する場として使われてきたため、学習者を攻撃する包括的なシステムが形成された。副区長の季娜は、学習者にむごい扱いをする刑務所受刑者への奨励ポイント制度を提供した。

2012年夏の終わり頃、610弁公室に雇われたいわゆる専門家は、学習者への対応が「冷酷」ではない受刑者を叱り、学習者への攻撃を強化するために、「働きの悪い者」により多くのポイントを提供した。決心の固い学習者は数日間睡眠を奪われ、手錠または足かせをかけられ、トイレの使用も許されなかった。第11区に入れられた新しい学習者は全員、区に着くや否や罵られ、殴られた。

その後、彼女たちは毎日法輪功を中傷するビデオを見ることを余儀なくされた。このような洗脳が1～3か月ほど続き、学習者はその間完全に隔離されたままであった。

有罪判決を受けた殺人犯・崔香（44）は、学習者を長期間小さな椅子に座らせるなどの拷問を指揮したことにより刑期の短縮を受けた。その結果、一部の学習者は臀部にできものができ、感染症を起こすことになった。崔香は釈放された後も学習者を虐待し続けると豪語した。受刑者の唐永霞（48）も学習者の監視と虐待に協力した。

刑期の短縮を望んだ他の受刑者は、多くの場合、学習者が手錠または足枷をかけられている間、崔と唐の指示に従い学習者を殴った。2012年3月、受刑者の馬桂榮は数人の受刑者を集め、王建輝さんを殴打した。

### 1.5.2 (b) 刑務所内病院は健康な学習者を拷問する

第10区は刑務所内病院として機能し、学習者以外の被拘禁者の病気やけがを治療することを担っている。一方、健康な学習者はそこに連れて行かれて、残虐な精神及び身体的虐待に晒される。2008年に病院長に昇進して以来、元看守の趙惠華は刑期の短縮を餌にして受刑者に学習者を拷問するよう誘惑してきた。

学習者・里玉書さんに強制的に灌食を行う際、受刑者の王鑫華は箸で里さんの喉に食べ物を押し込んだ。度重なる突き刺しで里さんの喉をひどく傷つけ、大量出血を引き起こした。

強制灌食を拒んだ学習者の胡愛雲さんは髪を引っ張られて、気絶するまで受刑者の王微と李昆に残酷に殴られた。王は「これは病気がある受刑者の区だ。受刑者の数人が死ぬのは正常だ」<sup>(29)</sup>と言った。

大慶市出身の40代の教師・魏珺さんはしばしば受刑者に殴られ、数本の歯を失った。また、魏さんは午前6時から12時まで小さな椅子に座らせられて、睡眠をあまり許されないため、意識を失うことがよくあった。

### 1.5.3 天津の男性が7年刑期中の5年目にやっと訴えることを許された<sup>(30)</sup>

30)

天津出身のエンジニア黄礼喬さんは2012年4月7日に逮捕され、法輪功を放棄することを拒否したため、数ヶ月後に懲役7年の刑を宣告された。男性はすぐに控訴したが、濱海刑務所は書類を差し押さえた。その後の数年間、男性は何回も試したが、後に自分の控訴状が発送されていなかったことが分かった。

男性の妻・葛秀蘭さんは初日から彼の釈放を求めて動き出したが、ある場所で25日間拘留された後、逮捕された夫との面会も拒否された。釈放されるや否や、妻の葛さんは刑務所に対して苦情を申し立て、最終的に夫との面会を果たした。葛さんは弁護士を連れて2017年3月21日に夫に会いに行った。看守は弁護士がメモを取ったり、夫の投獄について尋ねることを禁じた。翌日、葛さんと弁護士は天津第一中級裁判所を訪ね、不当な懲役刑に異議を唱える黄さんの訴状を提出した。

### 1.5.4 投獄された女性の弁護士宛ての手紙が刑務所に差し止められた<sup>(31)</sup>

47歳の黄潜さんは、法輪功を放棄しないが故に受けた迫害についてブログに投稿したため、2015年2月3日に広州市の自宅で逮捕された。「グラグ回想録」と題された彼女の投稿には、1999年に法輪功への迫害が始まって以来、彼女が繰り返し逮捕、拘留、及び拷問された状況が記録されていた。黄さんは2001年に3年間の強制労働を言い渡され、2008年10月に4年の刑を宣告された。

広州ブックセンターの元従業員である黄さんは直近の逮捕に続き、2016年12月30日に懲役5年の刑を宣告され、2017年6月に広東省女性刑務所に収容された。

看守らは黄さんを定期的に拷問し、彼女が弁護士に訴えの申し立てを依頼する手紙を差し押さえた。また、黄さんが刑務所に移送されて間もなく母親は亡くなったが、彼女は葬儀への出席を許されなかった。

黄さんの家族が彼女を訪問した際、黄さんがかなり痩せていることに気づいた。黄さんは家族に刑務所から連れ出してほしいと嘆願した。家族は看守に黄さんの状態について尋ねると、看守は面会権を取り消すと脅してきた。

### **1.5.5 刑務所は、信仰のため11年の実刑を強いられた学習者への受刑者による暴行を無視<sup>(32)</sup>**

法輪功を放棄することを拒否したため、フフホト第二刑務所で11年間の刑期を務めている内モンゴル人男性の王首達さんは、数ヶ月の内に受刑者に2回虐待された。今日に至るまで、刑務所職員は加害者に責任を負わせる行動をとっていない。

#### **1.5.5 (a) 刑務所で被った頭部の外傷**

最初の暴行事件は2018年10月16日に発生した。受刑者の王継寧は50代の王さんを倒し、彼の頭をコンクリート床にぶつけた。当時、1ヶ月近く食事をしていなかった王さんは非常に弱っていたため、このような身体的虐待は彼の命を容易に奪うものであったと思われる。刑務所職員らは調査を実施したものの、受刑者の王継寧に責任を負わせることは何もしなかった。

2番目の事件は2018年12月19日の夜10時に発生した。王継寧は再び王さんを殴り、彼の歯を1本落とし、目も負傷させた。王さんは目が腫れ上がり、見ることができなくなった。看守らは暴行を知っていたが、王さんに即座の治療を提供しなかった。

刑務所では通常、他人を殴ればすぐに独房に収容されるが、王さんに暴力を振るった王継寧は何の処分も受けなかった。一方、他の受刑者が休憩のために部屋を出られても、王さんが独房から出ることは許されなかった。

#### **1.5.5 (b) 内密に刑を宣告され、刑務所で虐待を受ける**

王さんは内モンゴル東部のオルドス市に住んでいる。王さんと2人の学習者、郭秉強さんと白托婭さんは2011年6月19日に逮捕され、東勝拘留所に連行された。王さんの家族は、王さんが懲役11年の刑を宣告されてフフホト第二刑務所に移動された通知を受ける2012年12月まで、王さんについて何も知らされていなかった。

刑務所内で、王さんは重労働と洗脳集会への参加を強いられた。看守らは受刑者に王さんを殴るよう唆した。2017年11月16日、刑務所の警官・周俊晴と範志強は王さんを床に固定し、彼の前歯2本を抜き取り、口にトイレットペーパーを詰め込んだ。その後、王さんは3か月近く独房に閉じ込められ、命が危険になるまで外に出してもらえなかった。王さんは申し立てを提出したが、差し止められた。

### 1.5.6 脳卒中患者が医療仮釈放を拒否され、信仰のための服役中に刑務所で死亡<sup>(33)</sup>

四川省攀枝花市の住民である廖健甫さん（65歳男性）は、法輪功を信奉しているが故に雲南省の刑務所に投獄され、服役し始めて9か月も経たないうちに死亡した。

廖さんは何度も脳卒中を起こし、危険なほどの高血圧を患っていたにもかかわらず、医療仮釈放を何度も拒否された。廖さんは亡くなる前、2002年から2013年の間に合計10年半にわたって二度の刑期を務めていた。

廖さんが2016年10月に最後に逮捕されたのは、法輪功に関する情報が書かれたポスターを掲示したためだった。彼と一緒にいた他の3人の学習者、宋南瑜さん（70）、付文徳さん（70）、及び周富明さん（60代）も逮捕された。

4人の学習者は2018年3月22日に玉竜県裁判所に出廷した。彼らは弁護声明文を読み上げる途中、何度も裁判官に中断された。裁判官はその後、廖さんに懲役4年、宋さんと付さんに3年6ヶ月、そして周さんに2年の刑を言い渡した。2018年8月21日、廖さん、付さん、周さんは雲南省第一刑務所に移送され、宋さんは雲南省第二刑務所に移送された。投獄中、廖さんは脳出血が何度も起きたが、刑務所当局は医療仮釈放で彼を釈放することを拒否した。

### 1.5.7 法輪功の煉功をしたため、投獄中の女性が4か月間家族訪問を認められなかった<sup>(34)</sup>

法輪功を修煉しているとして、8年6ヶ月の刑期を言い渡された張偉さんは、遼寧女子刑務所での服役中に法輪功の煉功（気功）をしたため、家族との面会を拒否された。

遼寧省丹東市在住の張偉さんは、2016年春から遼寧女子刑務所で3年間の服役をしていた。法輪功の修煉の放棄を拒否した張さんは看守と受刑者らに頻繁に殴られ、背中と脚にひどい傷を負った。彼女は健康回復のために煉功をしたが、2019年4月から家族の訪問を拒否された。

2019年6月27日に刑務所を訪ねた張さんの夫に、2人の看守はこう言った。「張偉は刑務所の工場で何百人もの人々の前で法輪功の煉功をして、ここでの規則を破った。そのため、彼女のすべての面会を拒否する！」

張さんの家族の1人が看守にこう言った。「私たちは4か月間も彼女に会ってなくて、彼女のことを非常に心配しています。彼女の80歳の母親は特にそうです。張偉が2002年にここで最初の刑期を務める間に拷問されて死ぬところでした。今回、彼女はまた殴られました。彼女のことを心配せずにいられますか？」。看守は「彼女が刑務所の規則に従わなければ、手錠をかけて独房に閉じ込めてやる」と答えた。

張さんの夫は看守に詰問した。「彼女の刑期はまだ何年も残っています。彼女が煉功をやめなければ、あなたは四六時中彼女に手錠をかけたままにするのですか？」

家族が何を言っても、看守は最後まで彼らに張さんとの面会を許可しなかった。その後、張さんの家族は刑務所に対する苦情を訴えに地元の検察庁に行ったが、地方刑務所管理局に行くようにと言われ、さらに管理局では地方刑務所陳情事務所を案内された。同陳情事務所のスタッフは張さんの家族に、刑務所内部の陳情事務室に直接苦情を申し立てるようにと言い、「彼らから満足いく対応をもらえなければ、また私たちのところに戻ってきて話しましょう」とスタッフは言った。

翌日、張さんの家族は苦情申し立て書を持って刑務所内の陳情事務室に行ったが、拒否された。彼らは再び地方刑務所陳情事務所を訪ね、前日と同じスタッフが対応してくれた。そのスタッフは苦情を読んでから別の部屋に行って上司に電話し、約4分後に戻ってきて張さんの家族に「この件は受け付けできません。刑務所当局と直接お話し下さい」と伝えた。

張さんの家族は再度刑務所との話し合いを試みたが、張さんが法輪功の煉功をする限り、面会は許されないとされた。

張さんの夫は弁護士を雇い、張さんに対する公正な裁きを求める計画に入った。

## 第2章 雇用、教育、住宅及び経済的安全保障の拒否

以下は、1999年7月に法輪功への迫害の始動に伴い、何立方さんの家族が憎悪、差別、及び屈辱に遭った状況である。

2001年、信仰のための拘留中に、私は同時に17人の受刑者に殴られました。警察は危篤状態に陥った私を保釈しましたが、いつも家に来て嫌がらせをしました。私は何とか彼らの監視を逃れて家を出ました。即墨610弁公室は、私がある特定のエリアに隠れているという内部情報を得て、写真付き指名手配リストをそのエリアの至るところに貼りました。彼らはまた私の身分証明書を失効させ、自由と基本的な人権を私から奪いました。

また、警官らは何度も私の両親を嫌がらせて尋問し、彼らを逮捕してまで私の情報を吐かせようとしてきました。毎年の旧正月、警官らは私を逮捕しようとして、私の親戚の周囲に人を派遣しました。

1999年に迫害が始まったとき、私のビジネスは非常に成功していました。しかし、共産党の誹謗中傷の宣伝によって、顧客の多くは欺かれて私を敵と見なすようになりました。かつて友好的だった隣人は私と私の家族を罵り、子どもでさえもプロパガンダの影響で私たちを罵る時もありました。

予期せぬ影響は私たちの生活の多くの分野に及びました。私の家族も法輪功を学んでいるため、甥子は軍隊に入るための政治的審査に合格しませんでした。彼の父親（私の兄）は両親に信仰を放棄させることに失敗した後、両親の家の全ての窓を壊して、村の行政係と協力してその家を取り壊すことを計画し、さらに彼らを殺すと脅しました。その結果、兄の声が聞こえる度に両親は森に隠れて、家に帰ろうとしませんでした。

何さんのように、中国の隅々にいる学習者たちは一晩で人生の反転を経験した。共産党政権は広範囲に及ぶプロパガンダキャンペーンにより、効果的に国全体を精神を重んじるグループの敵対側に回すことができた。彼らが誰であろうと、どこへ行こうと、法輪功の修煉を諦めない限り党の敵と分類され、冷酷な迫害に晒されることになる。

学習者たちは生存のための最も基本的な権利を奪われている。生徒であれば学校から追放されるかまたは入学を拒否され、従業員の場合は解雇され、退職すると年金の支給が停止される。個人の場合、政権は彼らのビジネス、家、そして銀行の貯蓄を含む全てを奪うことができる。

政権は洗脳と思想統制システムをうまく利用し、子どもを両親に、夫を妻に、学生を教師に反目させてきた。学習者を当局に報告した人はインセンティブまたはボーナスが与えられ、学習者に対する拷問または洗脳を積極的に行った警官は昇進を得る。また、警官らは夜中に学習者の家のドアを叩いたり、侵入したり、住居を略奪したり、逮捕したりもできる。学習者は身分証明書またはパスポートの発給を拒否され、日常生活に大きな不便がもたらされ、たとえ身分証明書を取得できたとしても、それが監視対象の印付きのものの場合もある。そして、両親を訪ねようと列車に乗っても逮捕されるケースがある。

最近の人工知能、顔認証、ウィーチャット（屋台の食べ物の購入やタクシーの呼び出しを含む日常生活のほぼ全てに使用される主要なソーシャルメディアアプリ）のようなソーシャルサービスの進歩と導入に伴い、中国国民に対する監視はかつてないほど強化された。共産党政権は事実上、国全体を大きな刑務所に変えたのだ。

## 2.1 迫害における学校システムの役割

小学校から大学まで、全体が共産党政権によって厳しく管理されている。各学校、さらには各学年にも独自の選定された共産党書記がいて、学生一人一人の考えが党と一致しているかどうかを綿密に監視している。法輪功を習っていることが見つかった学生は友人、クラスメート、教師による差別に直面することになり、多くは学校から追放され、再び戻ることが許されなくなった。

しかし、被害者は学習者だけではなかった。反法輪功プロパガンダが教科書に追加され、学生たちは試験の一環として法輪功を中傷することを余儀なくされている。抵抗する者は学習者と同じ運命をたどることになる。

過去20年にわたり、法輪功を中傷する誤った情報が一つの世代全体に浸透し、その世代の人々も迫害の非自発的加担者になった。学生たちが成長して社会に入ると、彼らはプロパガンダを次の世代に伝えていく。その結果、標的グループは長い間のけ者にされていくことになる。

### 2.1.1 否定された教育機会

#### 事例1：法輪功を学んだ中学生が学校から追放され、ホームレスに追い込まれた<sup>(35)</sup>

福建省の中学生である劉文娟さんは、学校管理者から法輪功を放棄する声明文を書くことを強要された。拒否した彼女に校長の林建峰は怒りをぶつけ、様々な言い訳で劉さんの授業参加を妨げた。

法輪功を学んだ経験を教師達と共有した後、劉さんは逮捕され学校をやめさせられた。その後、当局による嫌がらせが続く中、劉さんは更なる迫害を避けるために、家を離れて暮らすことを余儀なくされた。

#### 事例2：法輪功の情報を配った高校生が学校から追放された<sup>(36)</sup>

李群さんから法輪功の情報冊子もらったと、クラスメートは教師に報告した。教師たちは何時間もかけて彼女と談話し、法輪功を放棄させようとした。

李さんが法輪功について説明しようとした時、教師たちは聞こうとせず、両親に彼女を家に連れて帰るよう要求した。結局、法輪功を放棄する声明文を書くことを拒否した李さんは学校から追放された。

### 事例3：若者が大学に通うことを許可されず、1年間労働収容所に閉じ込められた<sup>(37)</sup>

劉曉林さんは大学入学試験で合格し、入学通知を受け取った後、当局に法輪功を習っていることが見つかったため、大学に通うことを禁止された。

さらに、インターネットで迫害に対する不満を表明した後、この18歳の若者は強制労働収容所に送られた。劉さんの両親である劉宗剛さんと隋巧雲さんも逮捕され、労働収容所に入れられた。

劉さんは釈放されてから絶え間ない監視の下に置かれ、しばしば嫌がらせを受けた。

### 事例4：博士候補者が卒業論文の答弁を拒否され、父親は中国科学院から息子を通報するよう圧力をかけられた<sup>(38)</sup>

中国科学院華南植物園の博士候補である于亜欧さんは、卒業論文に法輪功への感謝を表す一文が含まれていたため、論文を答弁する権利を奪われた。

610弁公室の指示に基づき、華南植物園の指導部は学校の入学規制と生徒管理規定をもって于さんを脅し、さらに于さんの父親に息子を610弁公室に通報し、息子を洗脳班に送るよう圧力をかけた。

### 事例5：法輪功を習い情報資料を配布したため上海で拘留された大学1年生<sup>(39)</sup>

上海交通大学の新生である19歳の鐘一鳴さんは法輪功を習い、さらに法輪功に関する情報資料を配布したため、2019年7月上旬に拘留された。

学校関係者は、キャンパスで法輪功の情報資料を配布する鐘さんの姿が監視カメラに記録されたと言った。彼らの調査により、鐘さんは小遣いから貯金したお金でプリンターを購入し、それで法輪功の情報資料を印刷したことが分かった。

大学によって上海の警察に通報された鐘さんは法輪功を学んだ場所を開示し、修煉を放棄する「後悔声明」を書くことを命じられた。鐘さんが断った後、警察は彼の大学生活を終わらせると脅し、7月5日に鐘さんを上海の拘置所に連れて行ったが、両親には場所を知らせなかった。鐘さんの両親は彼を探すために数日間上海に滞在したが、無駄な苦労だった。

大学側はまた、鐘さんが通っていた大連第24高校にスタッフを派遣し、鐘さんを調査した。さらに、鐘さんの80代の祖母を逮捕するために、上海警察が7月22日に大連に飛んで行ったことも報告された。

## 2.1.2 生徒と教師に対する洗脳

国民の憎悪を扇動し迫害を正当化するため、天安門焼身自殺（偽の法輪功学習者に天安門広場で焼身自殺をさせた事件）や1,400人死亡例（法輪功を学んで死亡したとする虚偽の報告）などの

法輪功を攻撃するプロパガンダが教科書、テレビ番組、新聞に登場した。プロパガンダのポスターや横断幕が学校のキャンパスを埋めつくした。プロパガンダへの認識強化の一環として、学生たちはビデオを見ること、セミナーや展示会への参加を義務付けられた。法輪功を誹謗中傷する署名キャンペーンが展開される中、生徒全員が署名を余儀なくされ、さもないと酷い目に遭うからだ。

### 事例1：「ここは共産主義政権の学校であり、他の信奉は許されない」<sup>(40)</sup>

黒竜江省のある高校では、5,000人以上の生徒と教師が法輪功について語ったり、法輪功の情報資料を読んだりしないという同意書への署名をさせられた。思想統制を強化する手法の一つとして、100人近くの優等生が共産党への加入を余儀なくされた。学生が同意書に違反していることが判明した場合、教師も巻き込まれる。

法輪功を学んでいない高校二年生の曹蕊さんは受け取った法輪功の資料を他の生徒と共有した上、法輪功に対する党の迫害キャンペーンが間違っていると伝えたことにより、学校経営陣に通報された。授業で法輪功を攻撃した政治学の教師に公然と挑戦した彼女は、「教室の秩序を乱す」ことに対する更なる仕返しに直面した。

曹さんは後に学校から追放された。経営陣はさらに警察に電話し、曹さんと彼女の母親を連れ去るよう依頼した。「ここは共産党政権の学校だ。他の信奉は許されない」と、ある学校側の管理者が曹さんの家族に言った。

### 事例2：入学面接中、法輪功への態度を表明するようにと命じられたロースクール生<sup>(41)</sup>

上海金融経済大学法科大学院の2010年入学面接通知に、学生は法輪功に対する認識という質問に答えなければならないと書かれていた。

このような質問は、生徒が党の方針に完全に従っているか、または独立した思考を持っているかをみる試金石としてよく使われる。ほとんどの学生は自らの独立心を譲歩し、群集に加わって法輪功を非難し、自分の研究とキャリアの向上を追い求める。

## 2.2 雇用機会の拒否及び個人財産の押収

中国社会の隅々まで迫害キャンペーンに巻き込まれているため、制度内の誰もが標的にされている。学生は卒業して社会に入り、法輪功を学んでいることを当局に知られた途端、仕事を失うか、或いは財産を押収されるという、絶えず続くプレッシャーに直面することになる。

### 2.2.1 雇用主によって解雇された学習者

### 事例1：飛行機エンジニアは身分証明書を没収され、働けず、家族を養えなくなった<sup>(42)</sup>

成都飛行機設計研究所の飛行機技術者である劉永生さんは、学習者に対する大規模な逮捕が行われた後、2007年に解雇された。彼は家から離れることを余儀なくされ、更なる迫害を避けるために転々とせざるを得なくなった。

当局は彼の身分証明書と卒業証書を発行しなかったため、劉さんは長い間仕事を見つけることができなかった。専門知識があるにもかかわらず、劉さんはパートタイムの配達員として生計を立てなければならなかった。

### 事例2：病院から解雇された医師<sup>(43)</sup>

2005年12月中旬に逮捕された母親の状況を聞くため、子どもを連れて警察署に向かう途中、陳静博士は逮捕された。警察は彼女を殴り、口汚く罵り、尋問した。まもなく、彼女は務めて一年足らずのジャムス市中央病院から解雇された。

彼女に押し掛かった試練は、彼女の家族や同僚、友人たちの法輪功に対する恐怖と誤解を深めた。

### 事例3：巻き込まれた家族<sup>(44)</sup>

李鴻舒さんの父親は法輪功を学んでいるとして投獄され、李さんの弟は大連市での仕事を辞め、母親の世話をするために盤錦市に戻った。その後、弟は交通警察に応募し、筆記試験で最高得点を取り、面接と身体検査に合格したにもかかわらず、父親が法輪功を学んでいるという理由で申請過程の政治的審査に落第し、就職を断られた。弟はとてつもなく大きな精神的苦痛を受け、配偶者を見つける際も一苦労した。

## 2.2.2 強制的に閉鎖された民間企業

### 事例1：閉鎖を余儀なくされた洗剤会社<sup>(45)</sup>

2003年、遼寧省朝陽市の数人の学習者は合弁会社を設立し、特許技術を購入、天正洗剤と呼ばれる会社を始めた。管理から生産まで、彼らは迫害によって職を失った学習者を雇い入れ、仕事を任せた。

会社が設立されてまもなく、彼らは20社超の大手及び中規模の機械加工会社に製品を販売することによって売上を伸ばし、市場を開いた。収益は3年連続で増加した。

しかし、これが学習者所有の会社だと知った警察は2008年2月24日、会社の所有者である李文生さんと呉金萍さん夫婦を逮捕し、会社を略奪した。また、警察は現金保管用の金庫、会社の小切手帳、振替小切手、角印、銀行印、実印、及び銀行口座からお金を引き出す際に使える商売関係の全ての物を押収し、社用車も差し押さえ、専属運転手を逮捕した。

会社は最終的に閉鎖を余儀なくされ、数千万円もの損失が発生した。多くの従業員が職を失い、家族もひどい経済的困窮に晒された。

### 事例2：人気著者は教育会社の閉鎖を余儀なくされ、書籍を押収された<sup>(46)</sup>

成都市の大面中学校の教師である王学明さん（ペンネーム雲蕭）は2003年3月に解雇された後、湖北省武漢市に転居し、独自の教育会社「富徳講堂」を開き、作文指導を始めた。また、王さんは100以上の記事、詩、散文を多数のジャーナルで発表し、幾つかの大学の教科書の編集、発行にも携わった。王さんは2008年に「ネット散文作家11人」の1人に選出された。

王さんの名は広く知られていき、武漢警察は2011年10月27日に王さんを逮捕した。王さんの逮捕当日に父親が亡くなった。当局は「違法な事業を運営している」という理由で王さんを告発し、武漢本社のほか、武漢周辺及び江西省南昌市にある他の幾つかの拠点を閉鎖した。王さんの6,000部以上の個人出版物が押収され、直接的な経済的損失は1,500万円を超えた。

## 2.3 住む場所がない

### 事例1：ピアノ教師は家を押収され、年金が停止された<sup>(47)</sup>

四川省双流県のピアノ教師である謝霞さんは、1999年に法輪功に対する迫害が始まった直後に解雇された。勤め先の華陽職業技術高等学校は、彼女が購入した学校助成金付きの家も没収した。

その後の数年間、シングルマザーの謝さんは転々と移り、雑用係をしながら子どもとの生計を立てていた。地元の610弁公室は家主に謝さんに家を貸さないように命じていたため、家を見つけることは彼女にとってより困難になった。

双流区社会保障事務局は、東昇町街道弁事所から謝さんの年金を政府が管理する口座に移すように命じる秘密文書を受け取った後、2014年7月から謝さんへの年金の支給を停止した。弁事所のメンバーは後に、610弁公室が命令を出したことを認めた。

### 事例2：家が解体され、補償金も100万元不足<sup>(48)</sup>

法輪功を学んでいる張桂蘭さんは、吉林省伊春市にある家が2011年の解体予定に組まれた時、少なくとも120万元を受け取るはずだった補償金を30万元しか受け取れなかった。

張さんからこの話を聞いた記者は、南岔地区の政府党書記にインタビューした。当局の役人は記者に次のように言った。「張桂蘭は法輪功を習っているのです、彼女の補償金が他人より少ないのは当然だ。彼女は法輪功を学ぶべきではない！」

記者はその後、「補償金の法律と条例には法輪功に関する具体的な言及がないので、あなたがしていることは間違っています」と言うと、党書記は「この南岔地区では、私たちが言うことが法律だ」と返事した。

張さんが引越しを拒否したとき、当局は張さんの水道光熱の供給を断ち切り、彼女の家が水に囲まれるようにし、通常の生活を送ることができないようにした。当局はさらに張さんが引越しを拒否し続けた場合、彼女を逮捕すると脅した。

### 事例3：家を離れて暮らすことを余儀なくされた<sup>(49)</sup>

内モンゴル赤峰市の馬清海さんは迫害を避けるため、2003年2月から妻と生まれたばかりの娘と一緒に家を離れて暮らすことを余儀なくされた。彼らは警察から身を隠すために3年の内に16回引っ越した。彼らが転々と移動していた間、息子は年配の祖父母に預けられていた。

馬さんと妻は家にいなかったが、警察は馬さんの家族に嫌がらせをし続けた。ある夜の家宅捜索中に、警察は馬さんの90代の祖母が使っている掛け布団の中まで見て、祖母に怖い思いをさせた。

後に、馬さんは2005年に逮捕され、懲役9年の刑を言い渡された。彼はこう思い起こした。

看守に長く乞い願った後、長年来初めて、父はついに2006年に刑務所での私との面会を許可されました。全身性浮腫に苦しんでいる私の身体がぼろぼろになっていたせい、或いは私がまだ生きていることに興奮を覚えたせい、父は長い間私をじっと見て何も言いませんでした。父の髪は全部白髪になっていました。私は涙をこらえて、逮捕されてから何を経験したかを敢えて父に伝えませんでした。

別の日に、17歳の息子が5歳の娘を連れてきてくれました。看守が聞きたくないことを言ってしまったせいで、看守らは子どもの前で私を殴り蹴りました。私の娘は怖がって泣き叫びました。

私が投獄されている間、妻は子どもたちが学校に行けるようにあらゆる雑用をこなし、時々私が日用品を買えるようにお金も送ってくれました。

数年後、妻が娘を連れて見に来てくれたとき、私の心は喜びと苦しみに満ちていました。娘は背が随分高くなって成長しましたが、私は娘のそばにすることができず、何もしてあげられませんでした。迫害は私の自由を奪っただけでなく、私は息子として、夫として、父として、尽力すべき能力も奪いました。

## 2.4 家荒らし

### 事例1：警察は催涙ガスと斧を使用して家に侵入<sup>(50)</sup>

2009年8月8日の真夜中、内モンゴル満州市の警察は張さんの家に侵入しようとした。そこには、張さんの妻と10代の娘、両親も一緒に住んでいた。張さんの家族はドアを開けることを拒

否し、夜明けまで警察を食い止めていた。その後、警察は地元の警察署から消防車と数十人の警官を派遣した。

膠着状態は正午まで続いた。その後、警察は窓を一箇所壊し、高齢で病気がある張さんの両親と10代の娘が中にいる事実を知りつつ、催涙ガスを張さんの家に投げ込んだ。そして武装警察は壊れた窓から家に入った。

張さんの家のドアのロックが警察によって壊されて開かなくなったため、警察は斧を使ってドアを壊し、5人家族の全員を連行した。

### 事例2：警察は夜間の押し入りを企てる<sup>(51)</sup>

2009年9月29日午前4時、天津市にある郝銀さんの住居の正門に警官が現れた。彼らは家の中を捜索したいと、中にいる3人の娘たちに告げた。

3人の娘が正門の扉を開けることを拒否した時、何人かの警官が繰り返しドアをノックし、他の警官らは壁を登って脅した。娘たちが隣人に助けを求めて叫び出した時、警官らは壁から降りて立ち去った。

女の子たちの母親である高艶娥さんは、法輪功迫害の実態を人々に伝えたことにより懲役3年の刑を宣告され、父親である郝銀さんは理由もなく逮捕され、自宅を荒らされたうえ、強制労働に行かされた。郝銀さんは拘留所から何とか脱出できたが、更なる迫害に遭わないよう、家を離れて暮らさざるを得なくなった。

### 事例3：家が荒らされ、私物も押収された<sup>(52)</sup>

2008年7月14日、黒竜江省牡丹江市にある姚鉄斌さんと張風栄さんのアパートに10人の警官が侵入した。2人が捜索を止めようとした時、警官らは2人を殴打した。2人は顔が腫れてあざだらけになった。ある警官はこう言った。「国（中国共産党）は法輪功を習うことを許可していない。法輪功を習えば法に違反するのだ」

警官は彼らの家を荒らし、家にあった現金、コンピューター、プリンターと他の私物を押収した。所有物の総額は3万元（約48万円）を超えた。

## 2.5 強奪

事例1：警察は、信仰のために投獄された黒竜江省の女性から差し押さえた約6万元の返還を拒否<sup>(53)</sup>

警察は、2018年8月に羅彩森さんの自宅を荒らす際に押収した5万8千元（約92万円）の現金の返却を拒否した。

警察は当初、このお金は検察側の証拠の一部であり、羅さんの裁判後にのみ返還できると主張した。しかし、警察は10月7日に羅さんの案件を阿城検察庁に提出した際、お金は含まれていなかった。検察官は羅さんを起訴し、彼女の案件を阿城裁判所に転送した際も、そのお金を訴追証拠としてリストに挙げなかった。

阿城裁判所の裁判官は羅さんの弁護士と家族に対し、警察によって押収されたお金が案件とは何の関係もないと明確に話した。家業にはお金が必要だったので、羅さんの息子は2018年12月7日の母親の公聴会の後に警官の高を訪ね、再度お金を返すよう要求した。

高は裁判官が判決を下した後にお金を返すと言った。最近確認したところによると、羅さんは懲役1年6ヶ月の刑を言い渡されたが、警察は未だお金を家族に返還していないという。

### **事例2：警察は夫婦の不動産オフィスを荒らし、10万円の現金を没収<sup>(54)</sup>**

2017年6月9日、河北省秦皇島市の左洪濤さんと妻・崔秋榮さん、そして夫婦の所を訪れていた4人の学習者が逮捕された。警察は夫婦の不動産オフィスを襲撃し、左さんが送金用として手元に置いていた10万元（約160万円）の現金と、別の学習者が左さんの事務所に預けていた5万元（約80万円）の現金を押収した。

警察はまた、左さんの電動バイクと事務用品、2人目の学習者の新しい電動バイク、そして3人目の学習者が友人から借りた、販売用の衣類が満杯に積まれている車も押収した。夫婦の事務所を荒らしに来た際、警察は搜索令状を提示しておらず、その後、没収した物品のリストの提供もしなかった。

後に、法輪功の修煉を放棄しようとする学習者たちは懲役8年から13年の刑を言い渡された。法輪功を習っていないが、法輪功を支持している左さんの妻である崔さんは懲役1年7か月の刑を宣告された。

## **2.6 年金の留保**

### **事例1：警察は雇用ファイルを改ざんし、年金制度から27年間の勤続を抹消<sup>(55)</sup>**

北京の都市整備景観局で30年間働いた後、王樹祥さんは自分の年金口座には何もなく、人事記録簿には2年9か月の勤務経歴しか載っていないことを知り、驚いた。

東城区技能サービスセンターの職員は王さんの妻に、警察がファイルを取って行き、変更を加えたと伝えた。夫人が地元の警察署に訪ねて行った際、彼らは王さんの人事ファイルを変更した責任があると認め、補償として彼女に3万元（約50万円）を渡すと約束する一方、彼の雇用記録を直すことを拒否した。

## 事例2：貴州省の男性への年金支給は2001年以降中断された<sup>(56)</sup>

張寿剛さんは2000年に遵義市体育局を退職した。張さんが法輪功を放棄しないために2001年に最初に逮捕された時、張さんの雇用主は彼の年金を停止した。そのため、過去20年間、張さんは厳しい経済状況にあった。

張さんが最初に逮捕された時、息子はまだ10歳足らずで、父親の投獄により学校を中退することを余儀なくされ、さらに生き残るために、6年間親戚から借金をする生活を送らざるを得なかった。

父親が2回目に釈放された時、10代になった少年は自分の借金の返済のため、父と住む家を売り窮地に追い込まれた。

## 事例3：服役中に受け取った金銭の返還に年金が充てられるため、年金支給が留保に<sup>(57)</sup>

共産党政権は近年、中国国民が刑務所で服役している間、年金の受け取りを禁ずる新しい政策を発表した。そのため、刑務所から釈放された多くの学習者は、自分の年金が服役中に受け取ったと言われる年金の返還に充てられるため、支給が地元の社会保険係によって留保にされていることに気づいた。

法輪功の修煉を放棄しないため、3年間の刑務所での服役を強いられた賀立中さんは、2019年4月14日に帰宅した。

73歳の賀さんの退職年金は、2018年後半から停止されていた。賀さんは、服役中に受け取った全ての金銭が完済されない限り、支給の再開はないと言われた。

## 2.7 現存する全体主義国家

教育の機会を逃し、個人の財産を押収されるだけでなく、多くの学習者は絶え間ない危険と、いつでもどこでも標的にされているというプレッシャーに直面している。特に監視技術の発展により、中国国民は共産党政権によって類を見ないほどのレベルで監視されている。

### 2.7.1 パスポートと身分証明書の無効化

当局は多くの学習者の身分証明書を没収し、旅行、銀行取引、宿泊、その他の日常的な経済活動を困難にしている。たとえ身分証明書が与えられても、多くの場合、その身分証明書には印がつけられているため、旅行や日常の金融取引に支障をきたしている。修煉者は日々の生活の中で、厳しい監視を受け続けている。

## 事例1：身分証明書がないため、銀行口座から現金を引き出せない黒竜江省の男性<sup>(58)</sup>

王志彪さんは2008年1月20日に警察署で新しい身分証明書を申請し、5月20日に新しい証明書を取りに来るようにと言われ、予定通りに訪れた。しかし、法輪功を学んでいるとして、新しい身分証明書を持つことができないと言われた。王さんはその後、何度も警察署を訪ねたが、やはり身分証明書を取得できなかった。

王さんの息子は2008年7月に結婚する予定だった。身分証明書がない王さんは銀行口座から現金を引き出すことができず、息子の結婚式の計画に支障をきたした。

### 事例2：日本在住者の両親が5回もパスポートの発行を拒否された<sup>(59)</sup>

2004年から2009年にかけて、上海在住で江西省出身の章有亮さんと付金雲さんは、日本にいる息子を訪問するためのパスポート申請を行ったところ、5回も拒否された。

法輪功を修煉しているため、パスポートを発給できないと警察は彼らに言った。警察はまた私服警官を手配し、夫婦の日常活動を監視した。

警察は夫婦のパスポート申請書に次のように書いた。

申請書に記載された情報は正確ですが、彼らは法輪功学習者であり、海外旅行を禁止されている五つの対象者区分の一つに属するため、二人の申請書は審査のため上層部に提出されました。

河北省衡水市入国管理局の「個人の海外渡航に要する補足書類」<sup>(60)</sup> というリストによると、申請者を管轄する地方警察署は、申請者が法輪功学習者ではないことを示す書類を提出しなければならない。

### 事例3：身分証明書が印付きであるため、黒竜江省の女性は駅で逮捕され、懲役7年の判決<sup>(61)</sup>

黒竜江省ハルビンの学習者である蔡偉華さんは2018年2月6日、中国の旧正月に際して両親を訪問するため列車に乗ろうとした時、警察に止められた。蔡さんが安全検査を通過する際、身分証明書をスキャンした警官は、蔡さんが学習者であることに気づいたようだ。

警官は蔡さんと、法輪功を修煉していない彼女の夫・李勃威さんを逮捕した後、夫婦を家に連れて行き、彼らの住居をあさり回った。その後、蔡さんは2018年11月に道外区裁判所から懲役7年の判決を言い渡され、3万元（約50万円）の罰金を科された。

## 2.7.2 常時監視

学習者は道を歩いたり、ホテルにチェックインしたり、手紙を送ったり、寄付したり、ソーシャルメディアで情報を共有したり、または他の日常的な活動を行ったりしている間、ずっと監視されている。警察に「覆面捜査官」になるよう誘惑された子どもたちが監視役になっているケースさえある。

### 事例 1：道を歩いている最中に警察に止められた<sup>(62)</sup>

2014年7月30日、関雲志さんは通りを歩いている最中に警官に止められた。彼が学習者であることが分かった警官は彼を逮捕し、警察署で一晩中尋問した。その後、関さんの携帯電話から法輪功に関連する情報を見つけたことを理由に、警察は彼を50日以上拘留し、5千元（約8万円）を奪い取った。

### 事例 2：北京のホテルにチェックイン後、警察から嫌がらせを受けた黒竜江省の夫婦<sup>(63)</sup>

張艶芬さんと夫の陶永君さん（学習者ではない）は、娘の陶燦さんを訪問するため、2012年4月11日に北京を訪れた。

張さんは娘の身分証明書でホテルにチェックインした。午後7時頃、警官は張さんのドアをノックし、娘の職場と住所を告げるよう命じたうえ、陶さんの電話で郵便局員に娘に電話し、彼女がまだ法輪功を習っているかどうかを尋ねた。しかし、娘は答えることを拒否した。

### 事例 3：郵便局員に郵便物の中にある法輪功の冊子が見つかり、山東省の女性が逮捕され、強制労働収容所に連行された<sup>(64)</sup>

山東省龍口市の郵便局員は、曲向華さんが2008年8月1日に送った手紙の中から法輪功関連の情報を発見した後、地元の610弁公室に通報した。翌日、警官らは曲さんの家に押しかけて彼女を逮捕し、家じゅうを捜索した後、コンピューターとプリンターを押収した。

曲さんは8月下旬に1年6ヶ月の強制労働を強いられ、ひどい拷問を受け、他の学習者の情報を提供するよう警察から圧力をかけられた。

### 事例 4：四川大地震への寄付後に逮捕された貧しい農民<sup>(65)</sup>

2008年に四川省でマグニチュード7.9の地震が起きたと聞き、河北省の学習者・尹澤民さんは家族と相談し、被災地の救援活動に父の医療費のために貯めてきた500元（約8千円）を寄付することを決めた。

尹さんが寄付したと知った地元の警察は、「学習者はお金がないので、500元も寄付するならば『リーダー』に違いない」という推測のもと、2008年6月6日に尹さんを逮捕した。

### 事例 5：ソーシャルメディアで法輪功の音声を共有した女性は刑務所に送られた<sup>(66)</sup>

2017年5月22日、仕事からの帰宅中に、山東省徳州市の車国萍さんは10人以上の警官に捕まえられた。

この華能電力会社の従業員が標的にされたのは、法輪功に関する情報を含むオーディオファイルをソーシャルメディアで共有したためだ。警官らは彼女の家じゅうを捜索し、10台以上の携帯電話、1台のiPadと他の私物を押収した。

車さんは2017年11月9日に徳城区裁判所に出廷し、2017年12月に5千元（約8万円）の罰金を科され、3年6ヶ月の刑を宣告された。

### 事例6：警察は子どもに「覆面捜査官」になるよう金銭で誘惑<sup>(67)</sup>

四川省の警察はお金を使って子どもたちをおびき寄せ、「覆面捜査官」をさせた。警察は子どもたちを学習者の家に行かせて、法輪功に関する情報を聞くふりをさせたり、後に逮捕された学習者の尾行と監視をさせたりした。子どもたちは報酬として一人当たり10元（約160円）を与えられた。

2006年11月10日の朝、数人の学生が李澤芬さんの家に行き、法輪功の資料をまだ持っているかどうかと尋ねた。「私たちは法輪功のしおりが本当に好きで、もっと欲しいです」と子どもたちは言った。李さんは子どもたちを家に招き入れて、彼らが庭に座ることができるように椅子を出した。まもなく、2台の警察車両が来て、何人かの警官が李さんの家を検索し、彼女を連行した。李さんは後に1年3ヶ月の強制労働を強いられた。

## 2.8 学習者に敵対する家族

脅かしや拷問で学習者に修煉を放棄させることができない場合、当局は学習者の精神面の防御力を弱める狙いで、家族による感情的な訴えを仕掛けた。それでも学習者を支持し続ける家族がある中で、自らの利益を守るために学習者に敵対し、当局による学習者への迫害に協力する家族もあった。

吉林省の中学校の英語教師である丁曉霞さんは、学校の上層部がいかにこの手法を使って、自分に法輪功の修煉を諦めるように迫ったかを思い出した<sup>(68)</sup>。

何回かの洗脳の後、私がやはり法輪功を放棄しないのを見て、彼らは私の家族に私への説得を頼みました。最初に私の学校に来たのは両親でした。彼らは私を殴り、叱りました。それから、私の夫が来ました。次に、中学を卒業したばかりの息子が来ました。息子は私を見るや否や、私の前に跪いて、「お母さん、もうやめて。凄く会いたかった。家に帰ろうよ」と泣き叫びました。心が痛かったです。でも私は彼の懇願には黙っていました。

別の日に、彼らは姉に私を説得するよう頼みました。姉は、父が入院して危篤に陥ったと言い、私のせいで父の健康が悪化し始めたと言いきり、私が修煉を放棄すれば、父には回復する機会が訪れるかもしれませんが、私が修煉を堅持する場合、もし父に何か起きたら私を絶対に許さないと仰いました。私は彼女を信じました。強い家族愛に屈し、父を失うことを恐れながら私は法輪功を放棄する声明を書きました。

学校の上層部は大喜びし、やっと私を家に帰らせました。家に着くや否や、私は騙されたと感じました。父は元気そのもので、病院に行ったこともありませんでした。

政治的業績審査では、空軍職員の家族は法輪功に対する態度や、「違法的な法輪功活動」に参加したかどうかなどの質問に答え、必要事項を用紙に記入する必要があった<sup>(69)</sup>。

### 事例1：吹き込まれた娘が寝返って母親に暴力を振るう<sup>(70)</sup>

1999年に法輪功への迫害が始まった後、胡凌英さんの娘である李華英さんは母親が修煉し続けることに強く反対し、何度も母親に暴力を振るい、虐待した。また、李さんは母親のことを警察に通報し、拘留される目に遭わせた。

2003年7月、胡さんは再び通報され、警察に連行された。警察に母親を家に連れて帰るようにと命じられた李さんは胡さんが外出することを恐れて、毎日胡さんを家に閉じ込めていた。

胡さんが鍵を開けるように求めると、李さんは釘を使って胡さんの頭、背中、上半身を攻撃した。胡さんの頭は血まみれになり、顔が腫れ上がっていた。胡さんが重傷を負うようになったにもかかわらず、李さんは決して母親に治療を受けさせようとしなかった。

### 事例2：元夫が迫害に積極的に関与したことで榮譽賞を受賞<sup>(71)</sup>

河北省永陽町共産党委員会の副書記で、学習者・劉秀鳳さんの元夫である劉軍さんは2001年、迫害に積極的に関与したことと、劉さんと離婚し関係を断ち切ったことが評価され、榮譽賞を授与された。劉さんはこう振り返った。

私に修煉をやめさせようとして、前夫はしばしば私を殴り、私の顔と身体にあざを残しました。地元の610弁公室の主任は彼にこう言ったことがあります。「彼女がまだそんなに頑固なら、障害を負うまで殴ればよい。彼女が北京に行ったり、再び法輪功を広めるために外に出るのを許すより、彼女を不具にした方がよほどましだ」

劉軍さんは以前に法輪功を学んでいたにもかかわらず、迫害が始まった後、完全に共産党に従ってしまった。2001年、秀鳳さんが拘留所に収容されている間、劉さんは妻と離婚し、妻に200元しか与えなかった。秀鳳さんが離婚判決を手にする前に、劉さんはすでに再婚した。また、劉さんは秀鳳さんの法輪功関連書籍と資料を全部処分した。

### 事例3：法輪功を習っていた母親が息子に殴られて死亡<sup>(72)</sup>

2018年10月21日、陸淑榮さんは法輪功を信仰していたため、実の息子である杜雪松さんに殴られる際に負った怪我により死亡した。77歳だった。

50代の杜さんは、修煉を放棄することを拒否したために逮捕された母親を、2回ほど保釈金を納めて釈放させた。退役軍人である杜さんは命令に従うように訓練されており、母親が釈放後も法輪功を修煉し続けるうちに、杜さんは母親に対してだんだんと敵意を抱くようになった。

杜さんはまた、母親の修煉が自分の公務員になる機会に影響を及ぼすのではないかと心配していた。

2018年9月27日、杜さんは酩酊状態で帰宅し、玄関に入るや否や母親を殴り始めた。父親が止めに入ると、息子は83歳の父親も殴った。息子は一時間以上母親を殴り続けた。母親は肋骨が10本折れて手首も骨折し、全身あざだらけで、顔も打撲により腫れ上がった。

病院に運ばれた陸さんの診察に当たった医師は、1本の肋骨に複数の骨折があつて、折れた肋骨が肺を貫通していたことが分かった。陸さんはほとんどの内臓が重傷を負っていた。陸さんが亡くなるまでの24日間の入院中、病院は何度も危篤の通知を出した。

### 第3章 学習者の子どもたちの苦しみ

王婧奇さんは、法輪功に対して行われた迫害の中で家族が受けた試練について次のように詳述した<sup>(73)</sup>。

私たちの人生は天国から地獄へ転じました。父はとても悩んでいて、現実から逃避しようとして毎日タバコを吸っていました。大学生であった私は学業と母の安否を心配していました。母が拘留所でスタンガンで殴られ、拷問を受けたと聞き、私は本当に看守に止めてくれと叫びたかったのですが、母にもっと多くの苦痛が降りかかるかもしれないと思い、黙っていました。

家でピアノを弾く時、私は鍵盤を強く叩き、怒りをそこらぶつけました。父は沈黙のまま頭を下げてタバコを吸い続けていて、心配と怒り、そして妻を保護できず、彼女が傷つくことを防げなかったことに対する罪悪感を隠していました。

母は頻繁に逮捕され、拘留され、私の大学卒業、初めての就職、結婚式などの人生の大切な瞬間を何度も逃しました。非人間的な拷問を前にして、母は決して修煉を諦めませんでした。その理由は簡単です。もし法輪大法を学んでいなかったら、彼女は何度も死んでいたでしょう。3回目の拘禁中に、母は迫害に抗議するためにハンストを始めて、体重が60キロから35キロまで落ちました。看守らは強制的に母に灌食を行う際、彼女の歯を叩き落とし、髪の毛のほとんどを抜き取りました。重体になった母は家に送られてきました。

家に帰ってから母は法輪大法の煉功を再開し、本を読み、すぐに回復しました。一ヶ月後、母は歩けるようになりました。体重は戻ってこなかったのですが、髪の毛は再び生えてきました。母は私に警察を憎まないようにと言い、「その可哀想な人たちに慈悲をかけて」と言いました。母の言葉はそよ風のように、私の心にあった悲しみと憎しみを取り払ってくれました。私は法輪大法にとっても感謝しています。

2009年3月、母は4回目の拘束を受けました。夜中にかかってきた電話で私は目が覚めました。出張中の父が心臓発作を起こして亡くなりました。病院で父を見た時、父の身体はすでに冷たくて硬直した死体となっていました。

それは私の人生で最も悲惨な瞬間でした。親戚が父の火葬の手配を手伝ってくれました。葬儀場から父の遺灰を運び出した時、私は自分の呼吸と心音しか聞こえませんでした。私は意識がはっきりしていて、誰が父を殺したか分かっていました。父はあまりにも多くのプレッシャーと苦痛に苦しんでいました。法輪大法に対する迫害が起きていなければ、父もこんなに早く死ななかつたでしょう。

王婧奇さんと同じように、中国の共産党政権が突然、全国的な法輪功迫害キャンペーンを始動させた時、多くの子どもたちの人生がひっくり返された。

結果的に、あらゆる年齢層の人々が苦しんでいた中で、子どもたちに与えられた苦痛は最も悲痛であり、社会に有害なものであった。学校では、子どもたちは法輪功を憎むように洗脳されている。

未来の希望である彼らは独立した考えを持つことを教えられておらず、中国共産党に忠誠を尽くすように訓練されている。

洗脳に加えて、多くの子どもたちは恐怖の中で育ち、中国共産党によって家族が破壊された。両親が長期の実刑判決を受けたり、或いは拷問によって死亡したりして、ホームレスの孤児になった子もいれば、警察から身を隠すためにあちこち移動しなければならなかった子、同級生から屈辱を受けたりいじめられたりした子、学校から追放されて教育を受けられなくなった子、自身が拘束されて拷問を受けた子、さらに、大人でさえ耐えられないほどの精神的苦痛または拷問を受けて正気を失ったり、或いは若くして死んでしまった子もいた。

20年が経った今、幼児は大学生になり、当時の大学生は今では中年になり、それぞれの家庭を築き、次の世代を担うようになってきている。恐怖の中で育ち、愛する人が何度も何度も逮捕され拷問されるのを目の当たりにしてきたことは、その子どもたちやその家族、そして彼らの子どもたちにも長きにわたり影響を与え続けることになるだろう。

### 3.1 子どもへの洗脳

中国共産党は学習者を洗脳するだけでなく、非学習者、特に子どもたちに法輪功に対する憎悪を植え付けている。今、学校や他の環境にある、中国共産党による法輪功への誹謗中傷プロパガンダに浸っていた中国人世代が成長してきた。

2001年2月に中国の実家を訪問した10歳の中国系アメリカ人学生は、次のように書いている<sup>(74)</sup>。

法輪功の話題が出ると、いそこは中国政府が宣伝している一方的な話しか聞いてこなかったようでした。彼は実際の修煉者に会ったこともありませんでした。中国政府が人々に法輪功は良くないと署名するように要求した際、たとえそれが自分の意思に反することであっても、小中学生は全員署名しなければなりませんでした。私の9歳のいとも署名せざるを得ませんでした。学校が始まって一週目に、教師らは大事なことを教えず、専ら嘘のつき方しか教えませんでした。教科書には、アメリカが中国を滅ぼすために法輪功を使っていると書かれていました。

当時、中国社会技術協会の傘下にある中国反カルト協会（CACA）が学校キャンパスで「100万人署名」キャンペーンを推進する中で、教師や管理者たちは生徒たちに、法輪功に対する非難署名を公然と強要した。その後、中国共産党は国営メディアを通じてこの署名キャンペーンを宣伝し、法輪功を弾圧する「人民の意志」の証拠として国連に提出した<sup>(75)</sup>。

キャンペーンが北京で開始されてからわずか12日後に、中国中央テレビ（CCTV）は2001年1月23日に「天安門焼身自殺」というデマを放送し、法輪功への迫害をエスカレートさせようとしている共産党に協力した。その後、キャンペーンは教育システムを通じて全国展開した。

2001年3月、遼寧省のある小学校では、1000人以上の児童が学校から赤いチラシを渡され、保護者に見せるようにと言われた。チラシには、「科学を守る、法輪功のチラシを拒否する」など、六つのポイントが書かれていた。

3日後、学校はすべての授業を停止し、署名キャンペーンを始めた。全生徒は一列に並ぶように言われた。人数確認の後、生徒たちは順番に前のテーブルに行って署名するようにと言われた。7、8人の教師がテーブルのそばに立って監視していた<sup>(76)</sup>。

8歳の少女、屈明君さんは明慧ネットにこう投稿した。「先日、学校の先生から、私たちは全員反法輪功キャンペーンを支持するための署名をすべきだと言われましたが、私は署名することを拒否しました。逃げようと思っていたのですが、先生はずっと私たちの前に立っていました。それで、強制的に署名をさせられました。家に帰ってから泣きそうでした。私は自分の署名を無効にするためにこの手紙を書いています」<sup>(77)</sup>

生徒だけでなく、学校職員（退職者を含む）も「解雇・労働再教育収容所への収容」の脅しの下で署名を求められた<sup>(78)</sup>。

署名キャンペーンが開始してから2ヵ月後、CACの代表団は2001年3月にジュネーブで開催された国連人権会議に150万人以上の署名を提出し、中国の人権は「最高の状態」であり、これらの署名は「中国人民の願い」を反映したものだと言った<sup>(79)</sup>。

### 3.1.1 洗脳キャンペーンの背景にあるCACA

CACAは全ての社会階層の人々に法輪功を批判させ、学習者に修煉を放棄するように圧力をかけるキャンペーンへの参加意欲を起こさせるために設立された。

CACAの副理事長兼秘書長である王渝生は2003年に、「CACAは2000年11月に設立されて以来、全国各地で1000回近くの展示会やプロパガンダ活動を行い、1000回以上の会議やフォーラムを開催し、『中国反カルトウェブサイト』を設立し、さらに20本以上の映画と40万冊の本を制作しました」と主張した<sup>(80)</sup>。

また、同協会は法輪功を誹謗中傷する教科書を編纂し、天安門焼身自殺というデマを核心とする反法輪功プロパガンダを「九年義務小学校実験教科書」に組み込んだ。

### 3.1.2 小学校から始まる洗脳

『思想品德』（第十巻）は、2003年11月に人民教育出版社が印刷した第3版小学校向け教科書である。この教科書は焼身自殺のデマを事例として取り上げ、法輪功への憎悪を助長させた<sup>(81)</sup>。以下はテキストの抜粋から翻訳したものである。

次の話を読んで、自分の考えを述べましょう。

彼女は愛される美しい少女でした。クラスメートの多くは彼女のことを「恋人」と呼んでいました。しかし、彼女の母親が法輪功に取り憑かれてから、彼女の不幸が始まりました。

小さな思影さんはもう私たちと一緒にいませんが、彼女の悲痛な叫び声、「おじさん、助けて！」は今でも私たちの耳に響いています。この12歳の少女は醜くなった顔と手の火傷という代償を払ってからようやく、カルトの真実に気付いたのです。彼女の「母は私に嘘をついた」という言葉は、法輪功に対する血と涙の非難です。しかし、彼女の母親を騙したのは誰ですか？ それは李洪志と法輪功の不誠実な嘘だったのです！

### 3.1.3 その他の洗脳形態

法輪功への迫害を正当化するために、他の多くのプロパガンダと洗脳活動は前例のない深さと広さで設計され、実施された。

山東省の勝利油田では、CACAは法輪功を誹謗中傷する演劇パフォーマンスを後援し、テレビで放送し、教師たちに法輪功を中傷する歌を作成させ、児童に歌わせることを強要した。

2003年10月15日、同協会は法輪功を中傷するためにデザインされた賞品付きクイズ番組に賞品を提供し、「勝利日報」にその答えを掲載した。

同協会はまた、教師と学生に法輪功を貶す文章を書くように指示し、2002年に「カルトにノーと言おう」という学生運動を提唱した。彼らは提出された1775篇の文章の中から208篇を選び、発表会を開いた後、「陽光の芽」と呼ばれる全国初の「反カルト」作品集にまとめた<sup>(82)</sup>。

河北省では2004年11月17日、「燕趙夕刊」紙は河北省610弁公室主催の「河北省反カルト賞受賞記事」から選んだ記事を一面に掲載した。

邯鄲職業高等学校の王楠さんの「雨の中の色あせた落ち葉」と題した記事では、著者は母親が法輪功を修煉していたために父親と離婚したと主張している。記事によると、離婚判決の翌日、母親は他の数人の女性修煉者と一緒に腹を切って自殺したという。

地元の学習者が新聞社に連絡し、記事の調査と信憑性の確認如何を尋ねたところ、電話に出た人物は「これらの記事は我々のものではなく、省内の610弁公室が1ページ分の記事を掲載するように手配したのです」と答えた<sup>(83)</sup>。

## 3.2 早期死亡

学習者の子どもたちの中には、親から強制的に引き離され、生きていくための基本条件を奪われて死亡した者もいれば、自らが法輪功を修煉していたために虐待を受けて亡くなった者もいる。

### 事例1：4歳の女の子がトラウマを抱えて死亡<sup>(84)</sup>

王淑傑さんはまだ2歳だった頃、自分の目の前で警察が両親を逮捕するのを何度も目撃した。2000年12月3日の警官による家宅捜索の時、警官が自分の父親を怒鳴りつけ、手で父親の顔を引っ叩いたのを目にした淑傑さんはショックと恐怖で気を失った。

意識が戻った時、淑傑さんは発熱し、汗をかいていた。頭に激痛が走っているため、彼女は頭を前後に振ってみた。落ち着きがなく、不安を覚えた淑傑さんはその後、自分の頭を壁に繰り返しぶつけていた。警察は何度も何度も淑傑さんの家に彼女の家族を逮捕しに行った。父親が拘束された時、淑傑さんは父親と一緒に撮った写真を手にして苦しそうに泣いていた。

1年も経たないうちに、警官はバトンを振り回しながら戻ってきて、淑傑さんの両親を再び逮捕した。数分前に眠っていた淑傑さんは目が覚めて、「パパ、ママ、行かせないよ!」と叫んだ。

度重なる精神的トラウマと長く続く恐怖心のせいで淑傑さんは体調を崩し、食事も睡眠も困難になった。2年間、淑傑さんは全く成長しなかった。

淑傑さんが4歳になった時、医師は彼女の脳に良性の腫瘍があることに気づき、摘出手術を提案した。しかし、手術を受けた後、淑傑さんは呼吸が止まり、2002年7月に死亡した。

### 事例2：14歳の優等生が死亡<sup>(85)</sup>

張琿さんは1994年に父親と一緒に法輪功を修煉し始めた。迫害が始まった後、張琿さんの父親は修煉する権利を訴えに北京に行った。

警官は家に押し入り、ほとんどの物を奪って行った。張琿さんは絶えず嫌がらせを受け、やがて白血病を発症し、2001年2月に亡くなった。

### 事例3：父親が追放され、母親が迫害によって死亡し、息子も死亡<sup>(86)</sup>

孫峰さんは小学6年生で、両親とともに法輪功を修煉していた。迫害が始まってから、父親の孫洪昌さんは逮捕されるのを避けるため、2000年に家を出た。母親の王秀霞さんは北京へ陳情に行き、何度も逮捕され、2003年5月19日の再逮捕の16日後に拷問により亡くなった。家族は王秀霞さんの遺体を見ることさえ許されなかった。警察が王秀霞さんを棺に入れてすぐに埋めたからだ。

当時、まだ12歳だった孫峰さんは、母親が死んだという事実を受け入れることができなかった。母親を失った苦しみに耐えながら、孫峰さんは父親のことも心配していた。毎日びくびくすることが孫峰さんの精神面に悪影響を与えた。彼は親戚と一緒に暮らしていて、ほとんど口数がなかった。

2004年後半、悲しみと恐怖が彼の健康に影響を及ぼした。孫峰さんは頻繁に失神し、瀋陽医科大学に救急搬送され、輸血を受けた後は安定したように見えた。両親を失って寂しい思いをしていた孫峰さんは2006年3月26日に14歳で亡くなった。

#### 事例4：学校を追放されてチンピラにレイプされ、ホームレスになった後に結核で死亡した18歳の少女<sup>(87)</sup>

両親と親戚や友人に深く愛されていた、元気で明るい少女・張毅超さんは、両親が法輪功を修煉していて、自身が反法輪功の請願書に署名することを拒否したため、退学させられた。

両親の会社が介入した後、学校は張さんを復学させることに同意したが、学校の党書記である孟憲民は毎週張さんをオフィスに呼んで話をした。彼らは張さんに毎週報告書を提出させ、法輪功及び両親との距離を置くように要求した。両親が拘束されている間、プロパガンダの影響で法輪功を嫌っている子どもたちが張さんの家のドアと窓を壊したことがあった。一人で家にいた張さんは死ぬほど怖かった。

数ヶ月後、張さんの両親は強制労働収容所に送られ、張さんは永久に学校から追放されることになった。15歳の時、彼女は家を出て生活することを余儀なくされ、当局からの絶え間ない嫌がらせを避けるために頻繁に引っ越しをした。

ある夜、チンピラが窓を壊して部屋に侵入し、張さんをレイプした。その後、張さんは雑用をしている間に結核にかかってしまい、医者にかかるお金がなく、家にも帰ろうとしなかった。張さんは2005年4月6日の朝、病院で亡くなった。

張さんは18歳だった。彼女が亡くなって8ヶ月後の2005年12月17日、母親の符桂英さんも迫害により亡くなった<sup>(88)</sup>。

### 3.3 孤児

「私はもうすぐ10歳です。母は法輪功を学んでいたため、2001年に拷問されて死にました。私は母がどんな顔をしていたのかも覚えていません。今の私には母がいません。私の父・肖嗣先はあなたたちの刑務所にいます。私は世話をしてくれる人がいない孤児になりました。父は悪いことを何もしていません。皆が父は良い人だと言っています。父を迫害するのを止めてください。

私の先生は、刑務所は悪い人を閉じ込める場所だと言いました。盗みもしていないのに、どうして私の父は刑務所にいるのでしょうか？ 学校みんなは父のことが好きで、いい先生だと言っています。私の先生が嘘をついたのか、それともあなたたちが人を騙しているのでしょうか？」

以上は、肖嗣先さんの娘・肖夕夕さんが貴州省都匀刑務所の役人に宛てた手紙の一部である。

多くの子どもたちは、親が拷問で殺されたり、長い刑期を与えられたりして孤児となり、親族と一緒に暮らしたり、孤児院に送られたりした。

#### 事例1：王克民さんの息子が孤児になった<sup>(89)</sup>

王克民さんは黒竜江省大慶市で中学校の教師をしていた。王さんの妻は、彼が2000年に逮捕され、強制労働収容所に送られた直後に交通事故で死亡した。3年後、迫害を避けるために頻繁に転居していた中で、王さんは再び逮捕され、当日に亡くなった。彼の9歳の息子は孤児となった。

#### 事例2：少年が母親を失い、生計のために学校を辞めざるを得なくなった<sup>(90)</sup>

2001年、王徳福さんが9歳の時、母親の張海燕さんは法輪功の陳情をするために北京に行った。張さんはそこで逮捕され、2年間馬三家強制労働収容所に収監され、拷問の末、2004年に亡くなった。母親の死は徳福さんを押しつぶした。彼は「もう二度とママには会えない！」と泣き叫んだ。

徳福さんは家族と一緒に屋根が傷んでいる泥レンガの家に住んでいて、修理費を負担する余裕もなかった。張さんは一家の大黒柱だったが、彼女の死で一家は苦境に立たされた。生計のやりくりのために、徳福さんは学校を辞めて、羊飼いとして父親と一緒に働くことになった。

#### 事例3：母親が拷問で死亡し、朴永鶴さんの祖母は1日に11時間働いて学費を捻出<sup>(91)</sup>

「北山公園の蓮の花が満開になったそうで、夕食後、急いでママに連れて行ってもらおうと思ったところ...」。朴永鶴さんは、母の崔正淑さんが黒嘴子女性労働収容所で拷問によって亡くなった後、エッセイの中でこう書いた。

崔さんは2002年3月に逮捕され、法輪功に関する情報資料を印刷したため、3年間の強制労働を強いられた。永鶴さんの父親も法輪功を修煉しているがために仕事を見つけることができず、73歳の祖母は1日に11時間働き、月に400元（約6400円）を稼いで永鶴さんの学費を払っていた。

#### 事例4：孤児・呉英奇さんの苦境<sup>(92)</sup>

呉英奇さんが交通事故で母親を失って間もなく、父親の呉月慶さんは2001年12月に逮捕され、法輪功の情報資料を作成したことで12年の刑に処せられ、ひどい拷問を受けた後に結核にかかり、死の間際に自宅に送られ、2007年12月23日に亡くなった。

英奇さんは父親が投獄されてから叔母の呉月霞さんと一緒に暮らしていたが、叔母も法輪功を修煉していたために逮捕され、労働収容所に送られた後、地元の孤児院に送られた。

#### 事例5：再会した家族が再び引き裂かれた<sup>(93)</sup>

邵林壺さんは3歳の時から、何度も何度も警察が両親を連行するのを見た。家族を恋しく思う彼は寂しくて、怖くて、悲しかった。

3年近く労働収容所で拷問を受けていた母親の穆萍さんが保釈された後、林壺さんは再び母親を失うことを恐れて、母親のそばを離れなかった。母親が出かけてから家に帰ってくるまで、彼は寝

ようとせず、母親が帰宅するまでただそこに座っていた。林壺さんは泣きながら「お母さんがまた悪い人たちに逮捕されるのではないかと心配していました。お母さんが帰ってこないと落ち着きません」と言った。しかし、林壺さんは、父親の邵慧さんが2002年にすでに迫害されて死亡したことを全く知らなかった。母親の穆さんは2006年に再び逮捕され、懲役7年の判決を受けた。

母親が逮捕された後、林壺さんは健康状態が悪くなる一方の祖父母と一緒に暮らすことになり、生活も苦しかった。

### 3.4 引き離された家族

#### 事例1：小竜さんの苦しい幼少期<sup>(94)</sup>

両親の張傳正さんと郭秀紅さんが迫害を避けるために家を出て暮らしているため、張小竜さんは7歳の時から祖父母と一緒に暮らさざるを得なくなった。1年後の2002年、両親は逮捕され、10年の懲役を言い渡された。

小竜さんは内向的になり、なぜ自分の親が迫害されているか理解できなかった。祖父が亡くなった時、彼はまたひどくショックを受けた。小竜さんは2日間食事を口にせず、涙が止まらなかった。あちこちにひび割れや雨漏りがある、今にも崩れそうな家に暮らしながら、彼と祖母は生計のやりくりで苦勞していた。

#### 事例2：5歳児、「ママに会いたい！ママとパパに戻ってきてほしい！」<sup>(95)</sup>

孫明遠さんは母親の釈放を求めに、祖母と一緒に何度も拘留所に行ったが、叶わなかった。

母親が拷問を受けて危篤に陥ったと知った明遠さんは、次のように書いたボードを持って、祖母と一緒に母親の釈放を求めに行った。

「私の名前は孫明遠、今年5歳です。パパは法輪功を修煉しているため、12年の不当な懲役を宣告されました。2004年12月14日、徳恵警察署の警官が私のママを逮捕しました。今、ママは48日間のハンストをしていて、危篤です。私は孤独で無力で、両親と離れ離れになっています。どうか私を助けてください。ママが恋しいです。ママに戻ってきてほしい、パパにも戻ってきてほしいです。」

#### 事例3：信仰のために投獄された母親からの手紙<sup>(96)</sup>

大連の看護婦で学習者の劉新穎さんは、法輪功を修煉しているため、5年6ヶ月の懲役を受けている。強制労働収容所で受けた拷問によって四肢麻痺者となり、13年間ベッドに横たわっていた夫の曲輝さんが亡くなった数ヶ月後、劉さんは逮捕された<sup>(97)</sup>。夫が亡くなる2014年2月9日ま

で、劉さんは10代の娘の世話をしながら、絶え間ない痛みで苦しむ夫の看護を昼夜問わずして続けていた。

劉さんが刑務所に収監されたことで、未成年の娘が一人で家に残された。以下は、劉さんが刑務所から、17歳の誕生日を迎えた娘に宛てた手紙である。

心心へ

最愛のわが子、天使のように私たちの家に来てくれてありがとう。そしてあなたが私たちにもたらしてくれたすべての喜びに感謝しています！ あなたの17歳の誕生日に、遠くからお祝いの言葉を送ります。これからの人生が幸せと太陽の光に満ちたものになりますように。そしてママが留守にしている間の安全を祈っています。離れ離れの期間が過ぎてから、2人とも灰の中から蘇る不死鳥のように生まれ変わり、純粋な輝きを放ちますように。

伝えたいことがたくさんありすぎて、どこから話したらいいかわからないけど、13年間、あなたは拷問で身体が不自由になったお父さんが経験した苦しみを目の当たりにしたと思います。当時のあなたは幼すぎて、いろいろな疑問を持っていて、ママにこう聞いたことがありました。「他の子のパパは立っていられるのに、どうして私のパパは寝たままなの？」あなたの質問をきっかけに、私はパパのために正義を求めようと決心しました。あなたの無垢な心を、この社会の暗闇に汚されたくないからです。

ママは昔からあなたへの教育を大事にしてきました。人のため、そして社会のためにも良い人に成長してほしいと思っています。

お父さんが経験したことを見て、自分の心を曲げないでほしいです。人間は生まれたその日から責任を負うようになっていきます。これは変えられず、否定もできないことです。

...

社会や国が繁栄するためには、物質や富が豊富にあるだけでは不十分です。人々のモラルや優しさという強固な基盤がもっと必要です。その点において、私たちは今でも積極的な役割を果たし、社会に貢献しています。

家庭が社会の根幹というのは、伝統的な価値観です。各家庭の安定が社会の安定を保障しています。でも今、私たちの家庭はバラバラになってしまいました。あなたのお父さんが亡くなった日から、私が時間と労力をかけてまとめ上げてきた家庭がバラバラになってしまったのです…

その間、一緒にいて慰めてくれてありがとう。特にお父さんが亡くなった時、お父さんの手を握って大泣きしていた私に、あなたは「泣かないで、お母さん。頑張ってきたんだから」と言ってくれましたね。

パパが去ってからわずか7ヶ月で私は再び逮捕されて、5年半の懲役を言い渡されて、あなたを一人で家に残して…このことを思う度に胸が痛みます。私は自分の信仰と責任、そして一筋の希望にしがみつき、辛うじて命を繋いできました。あなたに孤児になってほしくなく、伴侶を失ったあ

あなたの祖父がさらに娘を失うことにはなつてほしくなく、愛してくれている家族や友人を悲しませたくないのです。そして、私自身が次の悲劇のターゲットになったり、加害者が犯している罪がさらに重いものになってほしくなくて、私は強い信念を持って生き延びてきました。

高校の最後の一年を迎えて、来年は大学受験ですね。これを真剣に受け止めて勉強に励んでほしい…。今年の夏に面会に来てくれた時、落ち着いているあなたを見て、ママはとても幸せな気分になりました。その時、あなたはこう言ってくれましたね。「お母さんが教えてくれたことは、直面する全てのことをうまく処理していくのにとっても役に立っているよ。私のことは心配しないで」

ママがいない間、あなたの面倒をみてくれた皆さんに感謝しています。この心優しい人たちに幸せと幸運がいつも訪れますように！

愛するママより

2015年9月20日

### 3.5 狂気に追い込まれた

迫害によるトラウマと痛みが限界を超えた時、多くの子どもは精神崩壊に陥った。

#### 事例1：両親が警官に拷問されるのを強制的に見させられた後、気が狂った10代の少女<sup>(98)</sup>

媛媛さんは16歳の時、法輪功を学んでいる両親の侯国忠さんと程秀環さんが警察署で拷問されているのを強制的に見させられた。警官らは二人を殴り、「トラの椅子」と呼ばれる拷問装置に縛り付け、腕、足、頭を同時に伸ばして、両手を背中から縛って吊るしあげた。

また、警官は数瓶のマスタードオイルを2人の鼻や口に流し込んでから、頑丈なビニール袋数枚で頭を覆うことを繰り返した。2人が気絶した後、警官は冷水をかけて目覚めさせた。警察副所長の盛孝江は拷問を指揮しながら、「殴り殺せ！ 殴り殺してもいいんだ！」とよく叫んでいた。

媛媛さんはその経験でトラウマになった。

家に帰してもらってから、媛媛さんはよく警官に、真夏日に何時間も動かずにアパートの前に立たされ、少しでも動いたら両親を殴ると脅された。両親がさらに拷問を受けることを恐れ、彼女は足が腫れて紫色になるまでじっと立っていた。

恐怖、不安と精神的トラウマはこの10代の少女に打撃を与えた。かつては優秀な学生だった媛媛さんは学校を辞め、放浪するようになった。収入がないため、彼女はゴミ箱から食べ物を拾っていた。

媛媛さんの両親は釈放された後、娘が正気を失っていたことを見て打ちのめされた。32歳になった今、媛媛さんは自立生活ができないため、媛媛さんの両親が常に彼女を見ていなければならない。

### 事例 2：法輪功を学んでいるために迫害され、精神が崩壊した高校生<sup>(99)</sup>

汪靖華さんは小学校から高校までずっと優秀な生徒であり、学業に秀でていて、学校では誰に対しても親切であった。しかし、クラスメートに法輪功のことを話してから、靖華さんは先生、地元の警察及び610弁公室から常時嫌がらせを受け、法輪功の修煉をやめるように圧力をかけられた。

靖華さんの先生の一人は610弁公室のメンバーに協力して彼の机とカバンを捜索し、彼が法輪功の資料を持っているかどうかを確認した。教師らはまた、靖華さんの両親に法輪功を放棄する声明書に署名させ、片方の保護者に学校で常に靖華さんと一緒にいるように命じた。当局からの圧力で、靖華さんの両親はしばしば彼を叱った。学校の友達らも靖華さんと距離を置くようになった。

靖華さんが修煉を放棄しようとしなかったため、学校当局は靖華さんを退学処分にした。両親からの抗議の下、校長は彼を一年間だけ停学にすることに同意した。しかし、1年後に彼が学校に戻った時、学校側は靖華さんの再入学を拒否した。

結局、靖華さんは2006年、19歳の時に精神崩壊に苦しむことになった。

### 事例 3：18歳の子が拷問で精神崩壊に<sup>(100)</sup>

18歳の女子高生である張聡慧さんは、同級生に「法輪大法は良いものであることを忘れないでください」と書いたため、退学処分を受けた。その後、聡慧さんは天安門広場に正義を訴えに行っていたが、そこで逮捕され、洗脳班に送られた。

看守らは聡慧さんを乱暴に殴り、3日間眠ることを許さなかった。また、彼らは電気バットで聡慧さんに電気ショックを与え、人を雇って聡慧さんを24時間監視した。2ヵ月後に釈放された時、聡慧さんは手にアザだらけで無表情であり、奇異な行動を取り、混乱しているように見えた。

## 3.6 暴力と残虐行為

610弁公室の人員たちは佳佳ちゃんの目の前で彼女の家じゅうを捜索し、貴重品を自分のポケットに入れながら「おまえの家を壊してやる」と叫んだ。佳佳ちゃん(6)は立ち尽くし、母に抱きついて言葉を発する勇気さえなかった。人員たちは佳佳ちゃんを家族と一緒に国内保安課に連れて行き、そこで佳佳ちゃんは人員たちが両親と祖父母に残忍な仕打ちをするのを目撃した。

佳佳ちゃんと祖母は真夜中に釈放された。佳佳ちゃんはまだ恐怖で震えていたので、祖母は彼女を抱き上げて車に乗せた。この経験に深いトラウマを抱えるようになった佳佳ちゃんは、警察やパトカーを見る度に怖くなって隠れる場所を探そうとし、「悪い人たちが来ている！」と親に泣きついた<sup>(101)</sup>。家が略奪されたり、両親が拷問されたりするのを見てトラウマになった子どももいれば、暴力や残虐行為のターゲットそのものになった子どももいた。

### 事件 1：警察に殴られたのち、金属製の檻に閉じ込められた10歳の少女<sup>(102)</sup>

2008年8月7日、四川省に住む10歳の小学生・程思影さんは、法輪功のパンフレットを先生に渡したとして、地元の国内保安部に通報された。国内保安部部長・苟永瓊と2人の警官が思影さんの学校に行き、彼女を逮捕した。苟は学校の生徒全員に1元ずつを渡し、学習者を通報するように促した。

警官は思影さんの顔を平手打ちし、手足を鎖で縛り、金属製の檻に閉じ込めた。警官はまた当日の夜に思影さんの両親を逮捕し、家じゅうを搜索し、プリンターや他の用品を没収した。思影さんが4日後に学校に戻った時、先生は彼女のリュックサックを教室から投げ出し、授業を受けさせなかった。

両親の行方が分からないため、この少女は再逮捕を避けるために家を出ざるを得なかった。

### 事例2：中学生が2週間にわたり強制灌食された<sup>(103)</sup>

重慶市の中学生である陳思さんは2001年の夏、法輪功に関する資料を配布していた時に逮捕された。陳思さんの年齢を無視し、警官らは彼女を殴ったり蹴ったりした。

その後、警察は陳思さんを歌樂山洗脳班に連れて行き、資料の出所を聞き出すために尋問を行った。陳思さんは恣意的な拘留に抗議するためにハンストを行ったところ、2週間にわたって強制的に灌食された。

また、警察は陳思さんを特定するために、彼女の写真を新聞に掲載した。警察は陳思さんの父親を洗脳班まで誘い入れたが、娘には会わせなかった。新学期が始まった後、地元の610弁公室は陳思さんが法輪功の修煉を諦めないことを理由に、彼女を学校に復帰させなかった。

### 事例3：13歳の少年が母親を探しに公安局に行った際、警官に殴られた<sup>(104)</sup>

13歳の盛偉さんは3歳の妹、陽陽さんを連れてバスに乗り、1ヶ月前に人々に法輪功について話したとして逮捕された母親の楊忠紅さんを探しに公安局へ行った。警官は盛偉さんを殴ったり蹴ったり、顔を踏んだりした。盛偉さんは顔に傷を負い、耳が鳴り始め、セーターの袖も破れて、気を失った。

パトカーで偉さんを家まで連れて行く途中、ある警官は偉さんの一握りの髪の毛を引き抜き、少年を罵倒した。痛みを耐えながら、盛偉さんはこう言った。「今の私には母親がいなくて父親も見つからない。私たちの世話をしてくれる人もいないし、家には食べ物もない。さらにあなたに殴られて、もう生きる気がしない…」

### 事例4：小学6年生が学校で殴られた<sup>(105)</sup>

法輪功の修煉を理由に、検察は二度にわたり尤海軍さんを起訴した後、警察は小学6年生の娘・尤清さんに学校で嫌がらせをし、父親の「犯罪」を報告するように強要した。13歳の少女はあま

りにも怯えて足がずっと震え続け、数日間声を出すことができなかった。清さんから情報を聞き出すことに何度も失敗した後、警察は彼女の数学の先生である陳秀玲氏に清さんを殴るように命じた。

数学の授業中、陳先生はいつも清さんに立ち上がって質問に答えるようにさせた。彼女が答えられない時、陳先生は他の生徒たちの目の前で、ポインターで清さんの身体を叩いたり、顔を平手打ちしたり、ハイヒールで蹴ったりして、多くの生徒も恐怖に怯えていた。清さんは登校することに抵抗を覚え、学校に行く時間になると震え始め、行くのを躊躇ってしまい、恐怖で自殺を図るところだった。

**事例 5：14歳の少女に銃を向けながら警察はこう言った。「これ以上泣いたら処刑してやる！」**

(106)

警官が母親を逮捕し警察署に連行しようとしているのを見て、王愛栄さんの娘は警官を追いかけ家を飛び出した。警官は14歳の少女を押しつけて肋骨を殴った。少女は警官に噛み付いた。その後、警官は彼女の襟元を掴んで空中に投げとばした。地面に落下する際に負った激しい痛みを顧みず、少女は立ち上がって走っていき、母親を放すようにと泣きながら警官に懇願した。警官は銃を取り出して、彼女に向けて構えながらこう言った。「これ以上泣いたら処刑してやる！」その後、彼らは車に乗り込んで去って行った。少女はしばらくの間、肋骨と胸に負った痛みで息ができなかった。

### 3.7 拘留

両親が逮捕された後、私は11歳の姉と、歩行が困難な70歳のおじいちゃんと一緒に家に残されました。私たちの世話をしてくれる人がいなかったため、私たちは叔母たちのところに泊まり、叔母たちに助けを求めました。

2001年の初め、叔母たちも法輪功を修煉しているために逮捕され、洗脳班に送られました。当時、私は4歳でした。家には、あまりにも幼い私の世話をしてくれる人がいなかったため、私も叔母さんたちと一緒に洗脳班に連れて行かれました。毎日、私は警官や他の凶悪犯が酒に酔った後、学習者を殴るのを見て、とても怖かったです。私は叔母の腕の中に隠れて、見ないようにしました。両親はどこに行ったのかと思いながら、私は毎日泣いていました。

これは趙海軍さんの娘が経験した苦痛に対する回想である<sup>(107)</sup>。幼児から十代の少年少女まで、多くの子どもたちは両親と一緒に逮捕され、数日もしくは数週間も拘留施設に入れられた。労働収容所に連れて行かれた子どももいた。

**事例 1：生後8ヶ月の受刑者<sup>(108)</sup>**

数人の警官が法輪功を信奉している母親の劉娜娜さんを逮捕しに家に押し入った時、生後8ヶ月の天賜ちゃんはぐっすり寝ていた。

母子ともにパトカーに乗せられ、見知らぬ場所に連れて行かれた。同日の夜、天賜ちゃんの同じく幼児であるいとこ2人を含む家族10人も逮捕され、同じ場所に連れて行かれた。

天賜ちゃんは母親と同じ部屋に入れられた。家族の悲惨な状況を知らない坊やは笑っていて、部屋から出て遊ぼうとしていた。3日後、劉さんから何の情報も得られなかった警官は、劉さんと天賜ちゃんを釈放した。

出て行く前に、劉さんは義理の両親に会わせてと頼み、義父が尋問用の椅子に縛られているのを見た時、泣かずにはいられなかった。しかし、劉さんは実の両親と兄弟も逮捕されていることを知らなかった。

### 事例2：洗脳班に1年以上拘束された1歳児<sup>(109)</sup>

郭月童さんは1歳の時に母親と一緒に逮捕され、1年以上洗脳班に拘束された。母親の劉愛華さんは法輪功の修煉を放棄しないために迫害された。

洗脳班の中で、月童ちゃんは母親が殴られたり、強制的に灌食されたり、電気ショックを与えられたりするのを目撃した。看守が母親を拷問する度に月童ちゃんは怖くなって、隅っこに隠れて泣いていた。看守がいない時、小さな月童ちゃんは独房の鉄格子のそばに立って、外を見ていた。

家に帰ることを許された時、月童ちゃんはすでに3歳になっていた。しかし3年後、月童ちゃんは再び逮捕され、母親と一緒に拘留されることになった。

### 事例3：10歳児が養護施設に送られる前、3週間洗脳班に収容されていた<sup>(110)</sup>

2002年9月に母親の陳淑蘭さんと一緒に逮捕された時、李穎さんはまだ10歳だった。穎さんは洗脳班に連れて行かれたが、母親は後に7年6ヶ月の懲役を宣告された。当局は脅迫と洗脳によって、穎さんに法輪功の修煉を諦めさせようとした。しかし、穎さんが拒んだ時、当局は彼女に夜眠らせなかった。

学校に戻ることを許可してもらうために、少女は屈服し、当局が作成した声明書に署名したが、自由は得られなかった。昼間は学校に通い、放課後は洗脳班に連れ戻された。3週間後、李穎さんはようやく洗脳班を出ることを許された。母親がまだ刑務所にいて、祖父母、叔父二人、叔母一人を含む家族5人が迫害で亡くなったため、李穎さんは養護施設に入るまでの3ヶ月間、先生たちと一緒に暮らした。養護施設での25ヶ月間、李穎さんは十分な食事をもらえず、常に監視下に置かれていた。ようやく釈放された後、李穎さんは学校を辞めて、臨時職をしながら暮らしていた。

### 事例4：労働収容所に2年間収監された16歳の少女<sup>(111)</sup>

4歳の時に精神的トラウマで亡くなった上述の王淑傑さんのいとこである王婧さんは、自分自身と両親が法輪功を修煉していたために学校を退学させられ、大学への入学も禁止された。2001年3月、法輪功の陳情のために北京へ行った王婧さんは逮捕され、拘置所に連れて行かれた。その後、16歳になった王婧さんは強制労働収容所に送られ、2年間裁縫の仕事を強いられ、睡眠の自由も奪われた。

### 3.8 レイプ

多くの女性学習者が警察や刑務官によってレイプされる事件が多発する中、一部の学習者の娘も、親が監禁され、保護者がいない状況下で性的暴行を受けたり、レイプされたりした<sup>(112)</sup>。

#### 事例1：母親の投獄中にレイプされた13歳の少女

黒竜江省ハルビンの学習者・蓮さん（仮名）は2000年5月、陳情するため北京へ行った時に逮捕された。蓮さんが拘束されている間、息子と娘は家に残されていた。その後、14歳の息子は溺死した。釈放されて間もなく、蓮さんは2001年8月に再び逮捕された。一人で家に残された13歳の娘は、部屋に押し入ったチンピラにレイプされた。

#### 事例2：両親が拷問によって死亡し、9歳児は精神病院でレイプされた

吉林省の劉さんは2002年夏、法輪功の陳情のために北京へ行った時、逮捕された。劉さんは、革ベルトを持って学習者をよく殴る警官と凶悪犯が大勢いる昌平精神病院に連れて行かれた。劉さんは精神病院に3日間収容されていたが、毎晩、3人の凶悪犯が劉さんの部屋にいる9歳の少女を輪姦しにきた。少女の両親は法輪功を修煉していたために精神病院で拷問されて亡くなった。「彼女の叫び声はぞっとするようなもので、魂を砕くものでしたが、部屋にいる誰もが言葉を発する勇気がありませんでした」と劉さんは言った。

## 第4章 拷問の手法

夜中に、警官は日本から輸入したマスタードオイルを持ってきて、大きな注射器で私の鼻からマスタードオイルを注入しました。瞬時に、私は胸に非常に激しく、灼熱が伴う痛みを感じました。内臓が震え出すと共に頭は爆発し、気が狂いそうでした。それは言葉では言い表せないほどの痛みであったのです。

意識を失った私に冷水をかけて目覚めさせた後、警官は私が再び気を失うまでマスタードオイルを流し込み続け、このような拷問を何度も繰り返しました。マスタードオイルを流し込みながら、ある警官が私にこう言いました。「姜湃を知っているか？ 彼女が通電中の電気椅子に座っている間に、彼女にもこれを飲ませてあげたのさ」

上記は、大慶市の看護師・劉瑩さんが拘置所でマスタードオイルを強制的に飲まされた経験についての説明である。もう1人の看護師・姜さんは2007年6月28日、強制灌食による合併症で死亡した。34歳であった<sup>(113)</sup>。

中国共産党の拘留施設に収容されたほとんど全ての学習者は、少なくとも一つの拷問を受けたことがある。洗脳、強制、経済的打撃に加えて、拷問は共産党当局が学習者に修煉を放棄させる主な手法の一つである。

歯ブラシのような日常的なものからトラの椅子のような拷問器具まで、また、低温、騒音、灌食、性的屈辱、痛みを伴う体勢での縛り付け、長時間の隔離など、中国の警察署、拘置所、刑務所から釈放された学習者たちは百以上の拷問の手法を説明してきた。このような拷問は学習者に深刻な肉体的損傷を与えただけでなく、長期的な精神的トラウマも引き起こしている。

### 4.1 殴打

「学習者を殴り殺してもどうと言うことはない。自殺や病死としてカウントされる。彼らには全く情けをかける必要はない。『転向』を拒否する者には特にそうだ。党と政府が君たちの後ろ盾であるため、堂々とこの命令を実行するんだ！」

上記は、貴州省都匀刑務所の看守が受刑者に、学習者を拷問するにあたり、あらゆる精神的または肉体的な手法を使うことを促す際に言ったことである<sup>(114)</sup>。

#### 4.1.1 素手での殴打

殴ることは、学習者に対する最も一般的な拷問の一つである。加害者はしばしば被害者の鼻、目、または性器などの敏感部位を標的にする。一部の学習者は長時間、または過度の力で殴られた。ある学習者は顔面を500回以上平手打ちされたと話した。

### 事例1：9ヶ月間の虐待により死亡

河北省石家荘洗脳班の看守らは、丁立紅さんから睡眠の自由を奪うためにあらゆるもので彼の頭を殴り、脚を叩き、耳をねじり、臉を引っ張った。特に、看守の趙聚勇は丁さんの眼球をつねり、目をえぐった。9ヶ月も経たないうち、丁さんは36歳で虐待により死亡した<sup>(115)</sup>。

### 事例2：女性に対する残虐行為

遼寧省瀋陽市の王秀媛さんは2002年4月19日に逮捕され、竜山強制労働収容所に2年間収監された。2002年7月、王さんは看守に胸を蹴られ、4メートル先に着地し、立ち上がってからさらに看守に平手打ちされ、鼻と目尻から血がにじみ出た。その後、またも看守に蹴られた王さんは倒れた際に頭が暖房配管にぶつかり、大量の血が流れ出た<sup>(116)</sup>。

賈淑英さんは2002年に懲役5年の実刑判決を受け、黒竜江省で修煉を放棄させることを目的とする様々な拷問を受けた。

刑務所の看守・肖林はその残酷さで有名でした。受刑者たちは皆、彼を見るだけで怖がっていました。ある時、彼は私を部屋に引きずり込んで、私の顔をひっぱたき始めました。疲れてくると、彼は椅子に座り、手を休ませながら私を蹴りました。痛みはさらに激しいものでした。結局、彼は私の顔を100回以上叩いてからやっとやめました。もう1人の看守があまりにもひどいと思って、私を連れ出そうとした時、肖は私を踏みつけました。私は息をすることができず、壁に倒れて、意識を失いました。

半年以上にわたり、私は右胸の耐え難い痛みを苦しんでいて、浅くてゆっくりした呼吸しかできませんでした。時には汗をかくほどの激痛が走り、夜になると痛みがさらに増してきて、眠れない私は必死に堪えるしかありませんでした。後に、肖が私を蹴った際に私の肋骨を折ったことが分かりました<sup>(117)</sup>。

#### 4.1.2 道具を用いる殴打

中国の刑務所では、人が思ってもみないような日用品が人への拷問道具として使われている。例えば、スイカは学習者の頭を殴るのに使われ、スプーンやコインは学習者の胸郭を削るのに使われ、ハンガーは喉を叩くのに使われた。

言い換えれば、損傷を与えるものであれば、金属、プラスチック、革、ゴム、木、或いは紙、どんなものでも拷問の道具として使えるということだ。

ある事例では、警官は学習者の腹部に本を置き、ゴムチューブで本を鞭打ちした。このような鞭打ちは深い内部損傷をもたらしつつ、本という当て物に保護されるため外部には目視できる傷を残さなかった。

### 事例1：漢方医が百通り以上の拷問を受けた

68歳の漢方医・邵承洛さんは2006年に山東刑務所で懲役7年の刑を宣告された。邵さんは針で刺されたり、歯ブラシや木の棒で肋骨を削られたり、歯ブラシで指間を擦られるなど百通り以上の拷問を受けた。

ある時、看守らは邵さんの両手と両足を縛り、逆さまにした椅子の四つの足の上に彼を乗せてから、邵さんの下から椅子を蹴り飛ばした。

また、看守らは受刑者たちを扇動して邵さんの眉毛とひげを抜き取らせ、傷口に塩を撒かせ、熱いアイロンで膝と足首にやけどを負わせた。さらに、灌食しようとした彼らは邵さんの口をスクリュードライバーでこじ開け、歯を傷つけた。

邵さんは背骨の変形、手指と足指の骨折、首や肋骨、腕、腹部などを含む全身に傷を負った。さらに、筋肉が萎縮し、体重が45キロにも及ばない邵さんは、左手の指を二度とまっすぐにするのができなくなった<sup>(118)</sup>。

### 事例2：丸めた新聞紙で殴られた女性

耿麗さんは2007年に逮捕され、西合営鎮警察署に連行された。少なくとも4人の警官が、丸めた新聞紙で耿さんの口、顔、頭と腕を殴った。紙がボロボロになると、彼らは新しいロールを作って殴り続けた。耿さんの顔と口はひどく腫れ上がった。その後、彼らは電気バットで耿さんの腕や背中に電気ショックを与え、跪かせようとした。耿さんが拒否すると、彼らは耿さんが立ち上がれなくなるまで彼女の脚を蹴り続けた。

途中、ある警官は耿さんの脚を踏みつけ、別の警官がゴム棒で耿さんの膝を殴った。その後、彼らは耿さんを引き上げ、彼女の臀部を殴った。ある警官はゴム棒で耿さんの脚、足、腕、肩を何度も殴った。殴られた箇所は全て紫色のあざになった<sup>(119)</sup>。

### 事例3：ゴムホースで鞭打ちされた女性

黒竜江省大慶市の朱秀敏さんは、ケーブルテレビの信号を妨害し、法輪功迫害に関するビデオを放映したために逮捕された後、警察にゴムホースで殴られた時の状況を詳しく話した<sup>(120)</sup>。

私を逮捕した2人の警官は私を殴り、尋問し始めました。1人の警官が私の靴と靴下を脱ぎ捨てたため、私は裸足でコンクリートを踏みつけるしかできず、ふくらはぎを金属製の椅子の脚に鎖で縛られ、両腕を椅子の両脇に縛り付けられ、両手に手錠をかけられました。

警官はゴム製のホースを三つ折りにし、ねじってから私の足の甲を鞭打ちしました。鞭打ちしながら、警官は「お前の足の爪が黒くなって落ちるまで、足を集中的に打ってやる」と叫び、ずっと打ち続けていました。私は脚が縛られていたため動けませんでした。

とても痛かったので、私は泣き叫ぶしかありませんでした。警官は嘲笑い、私に悪口を言いました。そこから、私は一切声を出さないようにしました。警官は全力で半日ほど私を殴り続けましたが、私の顔には何の反応も、表情一つすらないことに驚いていました。警官は鎖を少し緩めてから、また鞭打ちを続けました。警官がいくら強く叩いても、私は声を出さず、表情も一切みせず、警官が鞭を打つのを見続けました。警官は徐々に止めました。

痛みで気絶しそうでしたが、私は逃げることもできませんでした。その痛みは言葉では言い表せないほどでした。時間は刻々と過ぎていき、一秒一秒が苦痛で、私は生と死の間を彷徨いました。死んだ方がもっと楽だったでしょう。しかし、私にはある考えがありました。「彼らに服従してはならない。彼らには屈しないし、彼らが私の苦しむ姿をみて楽しむこともさせない」

## 4.2 強制灌食

経管栄養法はチューブを鼻から挿入し、鼻腔及び食道を通って胃に到達させた後、チューブを介して液体栄養物を人為的に流し込むことによって行われる。通常、これは救命医療措置であるが、中国共産党は、拘留所、労働収容所、刑務所でハンストによって抗議する学習者を迫害するために利用してきた。

刑務所の看守や受刑者らは医学的な訓練を受けていないため、学習者に強制灌食を行う際にしばしばミスを犯し、チューブを被害者の肺に挿入してしまうことがある。この方法では、ちょっとしたミスでも人を殺すことになる。

学習者の苦痛を増やすため、受刑者は時に濃厚な塩水や激辛の水、やけどするほど熱い食べ物、糞、または精神薬や毒性のある薬を学習者に強制的に飲ませた。一部の学習者は迫害に抗議し、最終手段として長期的なハンストに入るため、結果的に投獄されている間、何年も強制的に灌食された。

時には、強制灌食は他の拷問の手法と組み合わせられていた。例えば、学習者は極度の光や熱に晒されたり、法輪功を攻撃するプロパガンダビデオを見せられたりして、何ヶ月もベッドに縛られ、床ずれを起こす人もいた。

### 事例1：強制灌食により、女性が死亡<sup>(121)</sup>

遼寧省大連市の孫蓮霞さんは2000年秋、法輪功への迫害に抗議するために北京に行った際に逮捕された。大連強制労働収容所でハンストを行った孫さんは、看守と受刑者に強制灌食をされた。

孫さんの鼻腔と食道粘膜は傷つき、チューブが挿入された際、鼻孔から血が出た。鼻孔が塞がっているため、孫さんは口から呼吸せざるを得なくなり、喉や炎症を起こしている食道から痰を吐き出し、咳も止まらなかった。孫さんは血を吐いたため、強制灌食が困難になった。

危篤に陥った孫さんは人生の最期の2時間においても、強制灌食は止まらなかった。孫さんは2001年1月16日、50歳で亡くなった。

## 事例2：5年間の収監中に日々行われた強制灌食から生き延びたエンジニア<sup>(122)</sup>

エネルギーエンジニアの瞿延来さんは、2002年9月に逮捕された初日からハンストを始めた。上海提籃橋刑務所で服役していた5年間、瞿さんはずっと強制的に灌食されていた。

「初めて医師が私の胃袋に補給チューブを挿入した時、燃えている蛇が私の身体の中に潜り込んでいく感じがして、耐え難いものでした」と瞿さんは言った。

瞿さんにハンストを諦めさせようとして、看守と医者は大口径の補給チューブを使ったり、強制灌食中にチューブの出し入れを繰り返したり、または食事の量を減らして飢えさせたりするなど、あらゆる拷問方法を試した。十分な栄養がないため、瞿さんは無気力になり、心臓や肝臓あたりに絶え間ない痛みを感じるようになった。

刑務所の病院で胃出血の治療を受けた時、受刑者らはタイヤを瞿さんの身体の下に敷いたり、スイングベッドの両端を高くあげたりしてから瞿さんをベッドにきつく縛り付けた。数ヶ月間このようにベッドに縛られた結果、瞿さんの多くの血管が破裂した。

刑務所の医師は点滴液に塩化カリウムを加えたため、それが血管を刺激し、瞿さんに激痛をもたらした。

入院中、受刑者らは点滴の速度を遅らせた。通常、3本のボトルは3時間で空になるが、それが19時間に延長された。点滴が終わる度に、瞿さんの腕はひどく腫れ上がっていた。

拷問を思い出しながら、瞿さんはこう言った。「5本のロープでベッドに縛られるのは非常に苦痛で、言葉では言い表せないほどの拷問でした。一分一秒も耐え難いものでしたが、私はこう自問自答していました。『1日は24時間しかないのではないか？ 1時間は60分、1分は60秒しかない。もう1秒耐えられるのか？ いける！ 迫害が終わるまで1秒ずつ耐えていこう』と」

## 4.3 ストレスの多い姿勢

一部の学習者は直立、腕や足を持ち上げられる、小さな椅子に座らされる、手首を吊るされる、鷲のように両腕を広げた姿勢で縛られる、または手と足を鎖で繋がれるなどの苦痛が伴う姿勢を長時間にわたって維持することを強いられた。

### 4.3.1 小さな椅子に座らされる

小さな椅子に座らされることは、中国の労働収容所や刑務所で広く使われている拷問の一形態である。大した事のように見えないかもしれないが、脚を折り曲げて両手を膝の上に置き、周りを

見回したり、動いたり、話したりせずに長時間その上に座らせられることは、非常に残酷な拷問になる。この拷問を経験したある学習者は次のように述べた。「その痛みは言葉では表現できません。1日が1年のように感じられ、生きるより死んだ方がましです」

椅子に座って1時間以内に、不快感に続き、痛みを感じるようになる。その痛みは耐え難く、下半身に無数の矢が突き刺さり、虫が骨をかじっているようなものである。一部の学習者は数ヶ月、1年間、ひいては2年間にわたり、毎日この小さな椅子に座ることを余儀なくされた。中には、臀部にできた傷が開いていて出血し、化膿した人もいれば、骨が突き出ている人もいた。

学習者が少しでも動くと、監視役の受刑者はすぐに銅線で学習者の背中を突く。そのため、背中一面にふるいの穴のように傷を負っている学習者もいた<sup>(123)</sup>。

#### 4.3.2 許昌労働収容所のロープ縛り

河南省許昌労働収容所で一般的に使われている拷問の一つは、ロープで人を縛ることである。

この拷問を受けたことがある学習者たちは次のように説明した。ロープを腕に数回巻きつけてから腕を背中に回し、その後ロープを肩の方向へ引っ張り上げる。ロープの引っ張りが強ければ強いほど、体の後ろに回された腕は高く引き上げられる。ロープを締めすぎると、学習者は立っていらなくなり、耐え難いほどの痛みを苛まれる。この方法で拷問されると、わずか数分で障害を負うことになる。ロープが外されると、腕の骨は折れたような感じになり、腕のしびれもその後長く続く。

普通の受刑者に、この拷問を二度以上耐えられる人はいない。しかし、看守らはよく学習者を拷問する際にこの方法を使い、しかも5、6回も行う。南陽市南召県の学習者・李興成さんは7回もこの拷問を受けたため、手首が腫れて重傷を負った<sup>(124)</sup>。

#### 4.3.3 女性は「拘束衣」の拷問で死亡

河南省十八里河強制労働収容所に収容されていた管戈さんは、2003年に「拘束衣」の拷問により死亡した。このジャケットは織り目の詰んだ帆布でできていて、前から被害者に被せ、後ろから締めるようになっている。ストラップが付いている袖は被害者の腕より25センチほど長い。看守は被害者の腕を背中で交差させてから縛り、両腕を高く引き上げ、胸の前へ持ってきて、さらに両足を縛り、学習者が宙に浮くように高い窓の鉄格子から吊した。

管さんの遺体を見た母親は次のように語った<sup>(125)</sup>。

娘の身体には多くの切り傷とアザがあって、目が開いていて、口には血がついていました。娘の頭には大きなこぶと深い切り傷があって、耳は強く打たれたせいか、形が崩れていました。左腕の

一部の組織が欠けていて、首の後ろには大きなこぶがありました。腰背部には長さ3センチほどの紫色の傷跡があって、左足全体が打撲で、両手は固く握りこぶしになっていました。

#### 4.3.4 鎖で手と足を繋がれた

もう一人の女性、王可非さんは2001年12月20日、吉林省の鉄北拘置所で死亡した。

王さんは法輪功の練習をしていたため、看守は王さんの足に重い足枷をかけてから手に手錠をかけ、そして手錠と足枷を短いチェーンでつなぎ、王さんが座ることも、しゃがむことも、立つことも、横になることもできないようにした。常に丸まったままでいなければならない王さんは食べることも、飲むことも、またトイレに行くこともできなかった。このように長時間拘束された学習者は広範囲の肉離れ、手足の腫れ、不眠症に苦しむことになる。ほとんどの人はこのような拷問に最大で48時間までしか耐えられないが、王さんは11日間連続でこの方法で拘束されていた。

より多くの苦痛を負わせようとした看守は、手足が繋がれている王さんに階段を上り下りして尋問を受けに行くように命じた。長くて暗い廊下の中で、王さんが一度に進める距離は数センチしかなかった。王さんの手錠が床を引きずる音は遠くまで響き渡っていた<sup>(126)</sup>。

#### 4.3.5 悪名高い馬三家労働収容所での引き伸ばし拷問

遼寧省の悪名高い馬三家強制労働収容所では、多くの学習者は次のような「引き伸ばし」拷問を強いられた。

22歳の蔡超さんは二段ベッドの片端に立たされ、足を床から20センチの高さにある梁の上に固定され、すねの全面が下段ベッドのヘッドボードにくっつく状態で上半身は90度の前屈になり、手錠をかけられた両手はロープで上段ベッドのフットボード側に引っ張られた。蔡さんの手が完全に冷たくなると気づくと、看守は一旦蔡さんを解放し、10分後にまた拷問を続けた。拷問中、看守らは蔡さんの首、手、腹部、背中に電気ショックを与え、このような拷問を5時間かけて3回繰り返した。降ろされた後、蔡さんは腕を持ち上げることも直立することもできず、回復まで1ヶ月半かかった。

李海竜さんも3時間半の間に3回このような拷問を受け、2ヶ月経っても普通に歩くことはできなかった。

### 4.3.6 死人ベッド

死人ベッドとは、学習者が翼を広げた鷺のような姿勢で木板の上に縛られるものである。その名の由来は、被害者が寝るため、食べるため、用を足すためでも解放されないという事実から来ている。この拷問は通常、強制灌食や他の拷問と組み合わせて行われる。

内モンゴル出身の段学琴さんは死人ベッドにあまりにも長く拘束されたため、筋肉が萎縮して力が入らなくなった。その間、看守らは段さんを暴言で罵倒し、顔に唾を吐き、腕を突いたり、胸を叩いたり、ズボンを脱がせたりして屈辱を与えた。看守らは段さんがトイレに行くことも許可しなかった。

2週間後に死人ベッドから解放された時、段さんは身体が硬直し、歩くこともできなかった。段さんを歩かせるため、受刑者たちは彼女をつねらなければならなかった。筋力が回復する前に、段さんはずっと跪いて排便するしかなかった（中国のほとんどのトイレは和式しかない）<sup>(127)</sup>。

## 4.4 感覚爆撃

趙楽栄さんが炎天下でうめき声をあげた時、看守らは彼女の口を粘着テープで封じ、両手を縛り、嘲笑いながらこう言った。「おまえはヒマワリだ。輝く太陽の光のもとで回れ」<sup>(128)</sup>。当局は過度の騒音、光、熱、または寒さで過負荷をかけることで、学習者の感覚を標的にした拷問を考え出した。

何人かの学習者は悪臭のする物質を強制的に飲まされて、何人かの学習者は顔や口の中に排泄物を塗りつけられたり、身体にかけられたり、或いはその中に浸かるよう強いられた。看守の中には、学習者の頭を便器に押し込んだり、学習者を豚小屋などの不潔な場所で拘束したりする者もいた。

他の収容施設はアリ、スズメバチ、蚊、サソリ、クモ、ネズミ、ヘビ、攻撃的な犬などの動物や昆虫を使って、学習者を恐怖に陥れた。生理的苦痛や危害に加えて、このような感覚への攻撃は極度の見当識障害や苦痛をもたらすこともある。

### 4.4.1 極端な暑さ

看守らはしばしば直火、アイロン、熱湯、煙草などで学習者に火傷を負わせ、また、学習者を長時間炎天下に立たせたり、防寒着を着たまま極度に暑い部屋に閉じ込めたりした。

吉林省長春市双陽区第三収容所の人員は学習者を金属製の椅子に縛り付け、その下に2000ワットの電気ストーブを置き、椅子が座ってられないほど熱くなった。また、彼らは学習者の頭の両脇に明るい電球をつけて、この種の拷問を最低2時間続けていた<sup>(129)</sup>。

#### 4.4.2 凍結

低温に長時間晒されると、同じく重傷や永久損傷を負うことになる。

12月のある日、何華江さんは浴室の椅子に縛られて、口をきつく封じられた。看守らは窓を開けて寒気を取り入れ、彼に冷水をかけ続けながら頻繁に殴った。何さんは2時間後、42歳で亡くなった<sup>(130)</sup>。

邱立英さんは法輪功の練習をしたため、気温が-20℃の時、薄手のシャツとサンダルのままで屋外に放置された。看守らは背中から邱さんの手に手錠をかけ、彼女を木の上に吊るした。邱さんの鼻水は1メートル長の氷柱になり、両手の肉は寒さでひび割れし、血が滲み出ていた<sup>(131)</sup>。

楊宝春さんは裸足で雪の中に立たされた。楊さんが許可を得て中に戻ると、看守らは彼の足にお湯を注いだため、足がすぐに化膿し始めた。楊さんの命が危ないことが明らかになるまで、看守らは彼を病院に送らなかった。医者は楊さんの右足を切断せざるを得なかった<sup>(132)</sup>。

#### 4.4.3 耳をつんざくような騒音

多くの学習者は長時間にわたって大音量で高音の騒音を聞かされた後、難聴に悩まされるようになった<sup>(133)</sup>。例えば、看守や受刑者らはバケツを学習者の頭に被せてからバケツを叩いた。そこから発生する耳をつんざくような騒音は、見当識障害を引き起こすものであった。

上海の学習者・劉鵬さんは2008年に懲役5年の実刑判決を受け、上海の提籃橋刑務所に収監された。看守・王浩成は受刑者らに劉さんへの拷問を命じた。午前7時から午後9時まで、劉さんは壁に向かって立つことを強いられた。また、彼らは小さな部屋の中で劉さんの耳の横に拡声器を置き、音量を上げた。劉さんは両耳に難聴を抱えるようになった。

南寧市の莫慶波さんは法輪功を放棄することを拒否したため、広西省チワン族自治区女性強制労働収容所の監房に監禁された。3ヶ月間、看守らは昼夜を問わずして荒々しい叫び声や幽霊が泣きわめくような声を流して、莫さんの睡眠を妨害した。小さな独房から出された時、彼女は精神的に混乱しているようだった。

#### 4.4.4 嗅覚と味覚に対する攻撃

一部の看守は、人間の排泄物や小便、その他の悪臭や刺激性のある物質を使って学習者を辱め、拷問した。使用後の生理用ナプキンやボロ布、洗っていない靴下、または下着などを学習者の口に詰め込む看守もいた。

劉澤さんは貴州省中八男性強制労働収容所で20日以上も睡眠を奪われ、殴られ、暴言を浴びせられた。劉さんは受刑者らに頭を壁に叩きつけられ、腫れとあざができた。彼らはまた劉さんに糞を食べさせ、結果、劉さんは精神異常になり、糞を食べるようになった<sup>(134)</sup>。

劉全旺さんは遼寧省小凌河炭鉱の従業員であった。彼が北京団河強制労働収容所で2年間服役していた時、看守らは受刑者にトイレの排水口を塞ぐように命じ、数人に便器に小便をさせてから劉全旺さんの頭を便器に押し込み、さらに足を彼の頭に乘せて窒息寸前まで追い込んだ。劉全旺さんがこれに抗議してハンストをした時、看守らは劉全旺さんに尿尿の入った下水道の水を強制的に飲ませ、彼は抑えきれず嘔吐した<sup>(135)</sup>。

#### 4.4.5 動物及び昆虫による咬傷

虫や蚊が多い季節に、被害者はよく蚊や虫が群がる場所で椅子に縛られて大量の蚊や虫に刺され、身動きが取れないため、掻きむしったり、虫を避けたりすることもできず、虫が媒介する病気にかかりやすくなる。

徐玉山さんは自分の信奉を放棄することを拒否したため、綏化強制労働収容所の看守は彼の性器の周りに砂糖水を擦り付け、大量の蟻をそこに置いた。

内モンゴルの賈海英さんは湿度の高い夏の夜、汚い豚小屋の近くの本に縛られたことがあった。短パンに袖なしのシャツを着ていた彼女は、身体がすぐに蚊とハエの大群に覆われた。手錠をかけられた賈さんは血に飢えた昆虫を振り払うことも、動くこともできなかった。彼女は後に、その苦しみは耐え難いものだったと言った<sup>(136)</sup>。

学習者への拷問に使用された動物はヘビ、サソリ、ハチ、クモ、ネズミ、ウサギ、ブタ、攻撃的な犬などもある<sup>(137)</sup>。

### 4.5 生理的欲求への制限

共産党人員によって行われた学習者への拷問には、目に見えないものもある。そこには、食事、睡眠、トイレの使用などの最も基本的な生理的欲求を制限することも含まれている。このような拷問は通常、学習者の意志と心理的抵抗力を消耗させるように計画されている。

#### 4.5.1 食事の剥奪

看守による残忍な殴打のため、牟倫会さんは3日間で5回も意識を失った。それでも足りないかのように、看守らは3日間の間に、彼に食べ物をほとんど与えなかった。1日の三食で牟さんが与えられたのは、合計10粒の米だけだった。

「3日間で30粒の米」とは理解に苦しむほど残酷に聞こえるかもしれないが、重慶市西山坪労働収容所で実際に起きたことである。牟さんと同じ労働収容所に収容されていた他の多くの学習者

も「飢餓療法」を受けていた。彼らは牟さんより少し多めの食料を与えられていたが、生命の維持にはギリギリ足りる程度のものしかなかった。

学習者たちが「飢餓療法」<sup>(138)</sup>を受けて危険なほど弱ってしまった時、看守らは彼らを生かすために通常の食事を再開する。しかし、完全に回復する前に、学習者たちはまたも「飢餓療法」に戻された。

西山坪労働収容所で起きたことは、孤立した現象ではない。中国全土の他の多くの収容施設も、学習者に法輪功をやめさせようとして、食事を与えない拷問を行っていたことが知られている。このような拷問の結果、多くの学習者はひどい合併症を経験した。上海女子刑務所に収容されていたある学習者は、6ヶ月で約28キロも痩せてしまった。あまりにもお腹が空いていたので、彼女はゴミ箱で見つけた腐ったキャベツの葉を食べた。彼女に食べ物の入手源ができた気づいた看守は早速ゴミ箱を片付け、それさえも奪われた。

食事の時間に制限をかけることも、学習者の食べ物の摂取量を減らすもう一つの方法である。四川省の五馬坪刑務所に拘留されていた学習者たちは、一食の小鉢一杯のご飯を食べ終わるのに20秒の時間が与えられたが、実際は食べる間もなく看守らが小鉢を取り上げていくのを見るしかできなかった。

張偉傑さんは湖北省の範家台刑務所に拘留されている間、「三つの1」と呼ばれる拷問を受けた。つまり、1日に1時間の睡眠、1回のトイレの使用、一食に一口の食べ物しか許されていなかった。

#### 4.5.2 睡眠の剥奪

長期にわたる睡眠の剥奪は心身両面の機能に影響を与える、特に陰湿な拷問形態であり、重度の精神障害や幻覚を引き起こし、死に至らせることもある。

李秀珍さんは済南刑務所で28日間も睡眠を奪われた。彼女が目を開けていられなくなると、加害者たちは彼女の眼窩の周りにスコッチテープを貼り付けてから臉を上下に引っ張り、時には、箒の穂先を使って彼女の臉を開けたままにした。それにより、李さんは2009年10月に死亡した<sup>(139)</sup>。

遼寧省大連市の学習者で弁護士でもある王永航さんは、中国政権が捏造した罪状に対して、数人の学習者を弁護した。

王さんは2009年7月に20人以上の警察に逮捕され、7年の懲役を宣告された。

王さんに法輪功を放棄させようとして、看守らは13日間眠らせなかった。彼はその苦しい体験を以下のように詳しく語った<sup>(140)</sup>。

「最初の3日間は何も食べさせてもらえず、2回もトイレに連れて行かれました。私にとって一番辛かったのは、喉の渇きと眠気でした。目の前にある二つの高圧電球が私の喉の渇きをさらに酷いものにしました。私を監視している受刑者らは、私の居眠りを止めようと、殴る構えをしています。

した。ある日、他の受刑者らが出て行った時、ある受刑者が私の背中と肋骨を殴りました。私はその激痛で気絶してしまいました。

4日目からはトイレに行くことすら許されなくなり、排尿は1日1回、座らせられている鉄製の椅子の中でのみ許されました。毎日250mlの水を飲まされていて、食べる量がごく僅かなので、それからの10日間、便通がありませんでした。

ドアも窓も全部覆われていたので、私には昼夜の区別がつかず、受刑者らが仕事をしに行く時と、囚房に戻ってくる朝と夕方の足音で、大まかな時間が分かる程度でした。しかし、その後の数日のうち、その判断力すら失ってしまうほど、私は混乱に陥ってしまいました。

最初は警官が来て尋問しました。その後、部屋の空気が悪臭を放っていたので、警官らは来なくなりました。ある日、彼らは私の顔から30センチほどの距離にビデオカメラを設置しました。そうすれば、警官らはオフィスから私の顔をはっきりと見ることができます。もちろん、隣に座っていた受刑者の姿と、私が目を閉じる度に彼に殴られる様子はカメラには映っていませんでした。私は古いウールの靴下を履いていました。数日後、その靴下はあまりにも臭くなり、部屋の隅に捨てられてしまいました。

睡眠不足に耐えられなくなったと感じた時、私は『法輪大法は素晴らしい!』と叫びました。その都度、彼らは雑巾を私の口に詰め込みました。しかし、以前私を殴ったことのある受刑者の鄭傑は、いつも私のあの臭い靴下を持ってきて口に詰めました。その靴下からものすごい量の糸くずが口に残りました。水をあまり飲ませてもらえなかったので、私の口の中は乾いていて、糸くずを吐き出すこともできませんでした。

6日間睡眠を奪われた後、私は幻覚を見るようになりました。ある日、頭の中が真っ白になりました。一生懸命に考えてみましたが、何も思い浮かびませんでした。自分が誰なのか、生きているのかどうかも思い出せませんでした。私は完全に恐怖に怯えてしまって、精神が崩壊しました。

後で聞いた話では、私は立ち上がって手錠を壊し、大声で叫び始めたそうです。彼らは私を椅子に縛り付け、私の口に雑巾を詰めました。彼らが私を狂わせようとしているのが分かりました。私は死ぬことを恐れてはいませんが、気が狂うことを恐れていました。もし私が狂ってしまったら、彼らはそれを利用して法輪大法を誹謗中傷するでしょう。

その事件の後、私はもう法輪功を修煉しないという保証書を書きましたが、心の奥底では決して信仰を裏切らないことを明確にしていました。彼らは、私が声明文に名前を署名した以上、心底でまだ堅く信奉しているかどうかには興味がないと言いました」

### 4.5.3 トイレの利用禁止

トイレの利用禁止もしばしば使用される拷問の一種で、排泄時間を2～3分に制限している拘置所もあった。時間切れになっても起き上がらなければ、激しく殴られることになる。その結果、被害者は排泄物を押し戻してトイレから出なければならなかった。

それ以上に、学習者がトイレで排尿するのは1日に1回、排便は3日に1回しか許されないこともあった。これは健康上の問題を引き起こし、被害者は下着の中で排尿や排便をしなければならなかった。

劉桂華さんが黒竜江省の萬家強制労働収容所に収容されていた時、看守らは彼女の両手を縛り、2日間逆さまにして吊るした。トイレに行きたくなくても降ろしてもらえなかった劉さんは、ズボンの中で排泄するしかなかった。看守らは彼女のズボンを引き下ろし、糞尿で汚れているズボンで彼女の口を覆った<sup>(141)</sup>。

四川省樂山市の学習者である胡瑞蓮さんは、2001年に楠木寺強制労働収容所に収容された際、大量の水を強制的に飲まされ、トイレの使用も許されなかった<sup>(142)</sup>。

### 4.5.4 シャワーや生活必需品の購入禁止

雲南省の何蓮春さんは2001年と2009年に、計17年の実刑判決を受けた。多くの身体的虐待に加えて、看守らはシャワーを浴びさせなかったり、トイレトーパー、歯磨き粉、石鹸、或いは洗濯用洗剤などの日用品を買わせなかったりして、より細かい方法で彼女を拷問した。彼女は次のように回想した<sup>(143)</sup>。

数ヶ月もシャワーを浴びなかったせいで、私は本当にひどい臭いがしていました。同室の受刑者たちはみな私を責め始めました。私はシャワーを浴びたくないのではなく、看守が浴びさせてくれなかったのだと言いました。臭いに耐えられなくなった受刑者たちは看守に訴えました。ようやく、たまにはシャワーを浴びることを許されました。生理用品を買うことが許されていなかったのも、生理の時は新聞紙、或いは手当たり次第どんな紙でも使っていました。

## 4.6 電気ショック

そして、私の両腕は鉄製の椅子の背もたれにある穴から引っ張られて、手錠をかけられました。両手の親指に付けられた電極は発電機に繋がれ、午前9時から午後5時過ぎまで、電気ショックを与えられていました。

その後、ある警察は私の右手の親指から電極を外して性器にクリップで留め、電圧を上げて、さらに5～6時間以上私に電気ショックを与えました。私の身体は痙攣し続け、心臓がひどく痛められ、死にかかっていると感じました。

これは70代の楊立成さんが2009年に新工地警察署で耐え忍んだことである<sup>(144)</sup>。

スタンガンによる学習者への電気ショックは、激しい痛みと火傷を引き起こす。看守らはよく学習者の顔、目、首、手、乳首、性器などの敏感な部位を標的にした。スタンガンに加えて、一部の看守は手回し装置を使って電気を発生させたり、痛みを増すために学習者を金属製の椅子に縛ったりしていた。

#### 事例1：顔面欠損

遼寧省瀋陽市の会計士・高蓉蓉さんは、7時間に及ぶ電気ショックの拷問で顔面欠損になった。彼女の顔は水ぶくれに覆われていて、髪の毛は膿と血で固まった。顔が腫れ上がったせいで高さんは目をわずかししか開けられず、口もひどく腫れて変形してしまった<sup>(145)</sup>。

#### 事例2：6本の15万ボルトのスタンガンで電気ショック

吉林省長春市の49歳の実業家・穆君奎さんは、6本の15万ボルトのスタンガンにより全身に電気ショックを受けて、重度の火傷を負った。その痛みは耐え難いほどのものであったので、穆さんは頭が爆発するよう感じ、汗だくになった。電気ショックを受けた際に歯を強く食いしばっていたため、歯が全部弛んでしまい、2週間以上固形食を食べることができなかった<sup>(146)</sup>。

#### 事例3：「蛇に噛まれているように感じた」

山東省招遠市の趙玉紅さんは、2002年に「法輪大法は素晴らしい」と書かれたシールを貼ったことで逮捕された。夢芝警察署に拘束されている間、趙さんは両手に手錠をかけられて椅子に拘束された。警官は趙さんを旧式のクラック電話機に繋げて電気ショックを与えた。警官が急速にハンドルを回した時、趙さんの全身に電気が伝わり、彼女は蛇に噛まれているように感じて、目玉が飛び出そうになった<sup>(147)</sup>。

## 4.7 水責めと窒息

模擬溺死とも呼ばれる水責めは、人類が知っている最も残忍な拷問方法の一つである。

遼寧省の馬三家労働収容所では、手足を縛られ、口に靴下を詰められてテープで封印された学習者たちの顔に、看守らは水をかけた。口を塞がれて手足を拘束された状態では、学習者は水で満たされた鼻からしか呼吸できないため、溺死に似た窒息状態に陥りやすく、脳も真っ白になる。

#### 事例1：滴る水の拷問

もう一つの手法は、頭頂部に冷水を滴下することである。最初は非常に冷たく感じ、その後しびれを感じる。続いて、頭がぱっと開いて脳が打ち砕かれているような感覚になる。通常、この種の

拷問は長期間にわたって行われるため、ただ冷水をかけるよりもっと多くの痛みを引き起こす。黒竜江省の海林拘置所と牡丹江拘置所では、このような拷問が行われた。

牡丹江市の王小忠さんはこの拷問を受けた。2001年8月17日に陽明区の警官に逮捕された後、王さんは殴られて、スタンガンによる電気ショックを受けた。警官は体中にアザや傷だらけの彼を拘置所に監禁し続けて、水を滴らせる拷問を行った。逮捕から12日目に、王さんは36歳で亡くなった<sup>(148)</sup>。

## 事例2：頭部がビニール袋で覆われた

看守らはしばしば学習者の頭をビニール袋や毛布で覆い、窒息寸前まで覆った。

2006年4月26日、吉林省遼源市の東吉警察署に連行された張順宏さんと妻は、16時間の拷問を受けた。張さんは頭に深い切り傷があり、大量の出血をしていた。警官の江洋は張さんに冷たい水をかけ続け、同時に扇風機を使って冷風を吹きかけた。張さんは寒さで震えていた。その後、江は一束の煙草に火をつけ、張さんの髪の毛に縛り付け、煙草が鼻の前にぶら下がるようにしてから張さんの頭にビニール袋を被せ、首元で結んだ。張さんはその日のうちに死亡した<sup>(149)</sup>。

## 4.8 独房監禁

以下は、独房に入れられた学習者の一例<sup>(150)</sup>。

馬三家労働収容所の総合ビルには6つの独房があります。各独房には金属製の椅子があり、1人の大きさしかありません。監禁された学習生は手足を縛られ、24時間椅子に座ることを余儀なくされ、トイレに行く機会は2回しかありませんでした。室内には暖房がなく、冬の間は非常に寒いのですが、看守は学習者が家族から余分な衣類を受け取ることを許可しませんでした。

第2班第3チームに収容された学習者・王学力さんは10日間監禁されて全身が浮腫み、歩くのも非常に困難になり、今も完全に回復していない。多くの学習者は精神崩壊を経験し、昏睡状態に陥った者もいた。

独房に監禁された人々は長時間、または数年にも及ぶ隔離状態に直面し、外界との一切のコミュニケーションを奪われる。しかも、彼らはほとんどの時間においてストレスがかかる姿勢で拘束され、食べるものもほとんど与えられていない。

## 事例1：独房監禁中の凍死・餓死

黒竜江省出身の33歳の芸術家・許文竜さんは、泰来刑務所で1ヶ月以上にわたり小さな独房に監禁され、毎日「思考報告書」を書かされていた。2013年1月16日、許さんが思考報告書に「私は無実です」と書いた時、看守の高斌は許さんを殴った後、「許を永遠に独房に入れておけ」と脅した。

中国の最北端に位置するチチハル市では、1月になると気温がマイナス10度まで下がることがよくある。ベッドも毛布も枕もない狭い独房では、許さんは凍ったコンクリートの床で寝なければならなかった。薄着のまま手錠をかけられていて、足も縛られた許さんは、寒さと不快感のせいで、一度に眠ることができるのはごく短い時間だけだった。

看守らが日々許さんに与えたのは、お玉2杯分の細麺スープだけだったので、間もなく飢餓状態がひどい便秘を引き起こした。許さんは体重が急速に減少し、独房から出される頃には異常なほどやせ衰えていて、歯磨きが禁止されていたため、歯茎が化膿していた<sup>(151)</sup>。

## 事例2：生き地獄のようだった

黒竜江省ハルビンの学習者・胡愛雲さんは金属製の椅子に縛り付けられた状態で、2ヶ月以上独房に入れられたことがある<sup>(152)</sup>。

彼らは私を金属製の椅子に縛りつけました。足首も手も縛られていて動けませんでした。しばらくして、私はとても弱っているように感じ、力が入らなくなりました。腕と手足がひどく腫れてきました。足は28センチの靴にも入らず饅頭のようになっていました。足首の周りの金属リングは肉に食い込んできました。一番怖かったのは、恐怖と苦痛でした。完全な拘束は私を狂わせました。私は落ち込んでいました。胸がきつく締め付けられているように感じ、今にも倒れそうでした。

私の苦しみを増すために、看守らは非常に大きい音量でロックミュージックを流しました。自分たちはその騒音が聞こえないように、彼らは再生ボタンを押してからすぐに逃げて行きました。耳をつんざくような音楽は、部屋の天井と床も振動させました。私は頭が震えて耳鳴りもひどく、心臓の鼓動がとても速くなりました。あまりにも圧倒されて、私は心が空っぽになり、麻痺していて、息苦しさを感じました。

独房に入れられていた数ヶ月間、身体を洗うことも着替えることも許されませんでした。看守は私が用を足すための便器を一つ部屋に置いてだけです。数日後、部屋の臭いがひどくなりました。虫、蚊、ハエ、ネズミがあちこちを走り回っていました。部屋には窓がなく、青空も見えず、新鮮な空気を吸うこともできませんでした。

夜、皆が寝静まった頃、辺りの静けさはさらに恐ろしいものでした。私は一秒一秒、寒気に震えながら耐えていました。夜は信じられないほど長かったです。

私の体中には疥癬がありました。看守らは鈍い鋼鉄のスプーンを使って疥癬をすくい取り、その痛みで私は気絶しそうになりました。両脚から血がずっと出ていました。

## 4.9 強姦、性的暴行及び性的屈辱

学習者に対して一貫して使用されているもう一つの拷問形態は、性的な屈辱や暴行である。これは特に学習者の気力を押しつぶし、意志を破壊させるのに効果的である。

#### 4.9.1 女性への性的拷問

虐待には強姦、男性看守らの前で裸にされたり、箒の柄や歯ブラシを膣内に挿入されたり、スタンガンで膣や乳房に衝撃を与えられたりするなどがある。このような虐待を受けた多くの生存者はトラウマを抱え、羞恥心、悲しみ、恐怖に苦しんでいた。

##### 事例1：受刑者らに輪姦された18人の学習者

2001年4月19日、悪名高い馬三家強制労働収容所で忌まわしい事件が起きた。看守は18人の女性学習者を男性の囚房に入れて男性の受刑者らに輪姦させたため、死亡者、身体障害者、そして精神不安定に陥った多くの被害者をもたらした<sup>(153)</sup>。

18人の被害者の1人である尹麗萍さんは、暴行がビデオに撮られていたことに気付いた時、苦痛と屈辱感がさらに増したと述べた<sup>(154)</sup>。

##### 事例2：高齢女性がレイプされ、膣内で電気ショックを受けた

鄒錦さん（当時60代後半）は2001年2月に逮捕された直後、2人の警官にレイプされた。その後、彼らは彼女の膣内にスタンガンをつっ込み、電気ショックを与えた。あまりの痛さで鄒さんは泣き叫んだ。彼女が意識を失った後、警官らはやっとスタンガンを取り出した。鄒さんの膣は出血して腫れ上がり、激しい痛みが彼女を襲った。1ヶ月以上にわたり、鄒さんは座ることも歩くこともできなかった<sup>(155)</sup>。

##### 事例3：看守らが王金萍さんの性器にホースで水をかける

遼寧省女子刑務所の看守は受刑者らに王金萍さんの両脚を大きく引き離すように指示し、別の受刑者に彼女の性器にホースで水をかけるように指示した。その結果、王さんは排尿できなくなって失禁し、両脚が浮腫んで黒紫色になった<sup>(156)</sup>。

##### 事例4：受刑者らが張書俠さんの膣に唐辛子を詰め込む

2005年に遼寧省女子刑務所に連行された時、張書俠さんは60歳だった。警官は2人の受刑者に張さんの膣に唐辛子を入れるように指示した。また、彼らは唐辛子を煮込んだ塩辛い熱湯を張さんに飲ませ、さらに唐辛子の入った塩辛い熱湯で張さんの臀部を洗った後、彼女にその汚れた水を飲ませた<sup>(157)</sup>。

##### 事例5：王麗君さんは膣に鋭い木の棒を刺された

王麗君さんは大連強制労働収容所で、太いロープで性器を前後にこすりつけられる拷問を3回受けた。さらに、加害者らに先の尖っている折れた木の棒で膣を刺された王さんは、腹部や性器の部分が出血し、腫れていた。王さんはズボンを引き上げることもしゃがむこともできず、排尿も困難であった<sup>(158)</sup>。

#### 4.9.2 男性への性的拷問

多くの男性学習者も拘束されている間、性的な拷問を受けたとの報告がある。男性学習者に対する暴行には、しばしば電気ショック、性器への攻撃、陰毛を引き抜かれるなどがある。本溪刑務所の看守らは孟憲光さんの陰茎に衝撃を与え、「子どもを作られないようにしてやる」と言った。孟さんが電気ショックで痙攣する度に、看守らは彼を嘲笑うだけだった<sup>(159)</sup>。鶴崗強制労働収容所の看守らは孫鳳利さんの性器をつまんで引っ張り、ひどい腫れと激痛を彼にもたらしめた。孟さんは排尿や歩行が困難になり、受刑者らから屈辱を受けた<sup>(160)</sup>。長林子強制労働収容所の看守・趙爽は臧殿勇さんの睾丸を強く握った。臧さんは1年経った後も鼠径部の痛みを感じていた<sup>(161)</sup>。

2004年、陳少民さんが河南省第三強制労働収容所で服役していた時、受刑者の聶勇は陳さんの口に性器を押し込み、法輪功の修煉をやめなければ、陳さんの口に放尿すると脅した<sup>(162)</sup>。

## 第5章 迫害致死

2019年9月10日時点で、合計4,343人の学習者が迫害により死亡したことが確認されている。中国の情報封鎖により、すべての事例をタイムリーに収集できるわけではないため、実際の死者数はもっと多い可能性が高い。

以下は、明慧ネットが発表した死亡事例から代表的なものを抜粋したものである。

### 5.1 当局が家族の同意なしに投獄された女性の生命維持装置を外す<sup>(163)</sup>

山東省臨沂市出身の李長芳さんは、法輪功の修煉を放棄することを拒否したとして投獄された。李さんは2019年7月5日に入院し、翌日に家族の同意がないまま手術を受けさせられた。家族が李さんを自宅に連れて帰るための権利放棄証書に署名することを拒否した時、警察は6歳の子どもを含む一家を拘束した。

7月12日、家族がいない時に当局は李さんの人工呼吸器を外して死亡させた後、遺体の保管場所を明かす前に家族に賠償条件の交渉に応じるよう要求した。

#### 5.1.1 李さんを死に至らせた主な出来事

李さんは2018年10月23日、法輪功の修煉を放棄することを拒否したために逮捕された。彼女は2019年3月27日、2年半の懲役と1万元（約16万円）の罰金を言い渡された。2019年7月5日、李さんの容態が生命の危機に瀕しているとの連絡を受け、家族は地元の病院に駆けつけた。李さんは15日前から腹痛に悩まされていたと言い、太ももにアザがあり、歯が緩んでいた。

李さんが拘留されていた臨沂市拘置所の看守は、李さんの病状や怪我の原因であった出来事についての説明を拒否した。医師は最初、彼女が虫垂炎になったと主張し、その後、胃穿孔だと言い換えた。

多くの質問の答えが得られてないため、李さんの家族は手術に同意する同意書に署名することを拒否した。

拘置所と警察の指示を受けた医師は7月6日、李さんの胸部から腹部までの切開手術を行った。意識が戻らず、李さんは手術後も人工呼吸器につながれたままだった。7月10日の朝、20人以上の警官が病院に押し掛けた。家族が退院許可書に署名することを拒否したため、警官は李さんの夫、息子、娘、6歳の孫を逮捕した。彼らは翌朝、やっと釈放された。

7月12日午後6時頃、家族が不在の時、臨沂市拘置所と臨沂市東関警察署の人員らは李さんの病室に現れ、酸素吸入装置を取り外した。李さんはまもなく死亡した。

## 5.2 遼寧省の女性が入所後13日で死亡<sup>(164)</sup>

2019年2月、多くの家族が再会し旧正月を祝う中、李艶秋さんは法輪功の修煉を放棄しないために懲役5年の刑を宣告された。

李さんは2019年2月19日に遼寧女子刑務所に収容され、13日後に同所で死亡した。

学習者を迫害し、信仰を放棄させるために特別に設置された「矯正病棟」に李さんは割り当てられ、着いた日から非常に弱っていた。

李さんは法輪功に関する情報が記載されたカレンダーを配布した罪で2018年12月14日に逮捕されて以来、ハンストを行ったために強制的に灌食されていた。

李さんは刑務所内でもハンストを続けていたため、看守は彼女を刑務所の病院に連れて行き、そこで強制灌食を行った。逮捕されてから、家族は初めて李さんに会うことができた。家族に会うために出てきた時、彼女は車椅子に座っていた。

面会后、家族は李さんの仮釈放を申請したが、断られた後、二度と面会できなかった。

彼女をよく知る受刑者によると、看守らは李さんに強制的に灌食した後、彼女を12番病棟に戻し、彼女の状態を無視し、最期の日まで独房に閉じ込めていたという。

看守らは李さんの服を剥ぎ取り、冷たいコンクリートの床に座らせた。気温はマイナス3℃から2℃の間だが、部屋には暖房がなかった。数日後、李さんは尿に血が混じるようになり、自力で立つことができなくなったが、刑務所の看守らは彼女のための医療処置を求めなかった。わずか数日後の2019年3月4日に、李さんは52歳で死亡した。

李さんの突然の死は、家族を打ちのめした。一緒に暮らしていた年配の父親は彼女が逮捕された後、彼女の兄と同居せざるを得なくなった。80代という高齢で、普段はよく外出していた父親は李さんが逮捕されてから引きこもりがちになり、眠れなくなってしまった。また、父親は頻回の鼻血や心臓の不快感、高血圧による眩暈にも悩まされるようになった。父親に無理が生じることを危惧して、家族は李さんの死を父親に伝えなかった。

## 5.3 逮捕から逃れようとした河北省の女性が転落死<sup>(165)</sup>

娘の結婚式のわずか数ヶ月前、河北省文安県の楊曉輝さん（55歳女性）は警察から逃げようとした際、3階のアパートのバルコニーから落ちて転落死した。楊さんが法輪功の修煉を放棄しないとして、警察は彼女を標的にしていた。2019年4月8日午後11時頃、8人の警官が楊さんの家のドアをノックした。楊さんが入室を拒否すると、警官らは工具を使ってドアをこじ開けた。当時、居合わせていた楊さんの夫と娘は恐怖に怯えて、どうすべきか分からなかった。警官が押し入ろうとした時、楊さんはベランダに駆け寄り、そこから逃げようとしたが、地面に転げ落ちた。楊

さんは意識がなくなり病院に搬送され、午前2時頃に死亡が宣告された。彼女を蘇生させようとしている間、警官は楊さんの家族を綿密に監視し、ビデオに撮った。

国内保安部の李忠傑部長は楊さんの死に対する責任を否定し、上からの命令に従っただけだと言った。

警察は火葬するには上層部の許可を得なければならないと主張し、葬儀の手配を阻んだ時、楊さんの家族は激怒した。

1999年以降、信仰を放棄しないとして、楊さんは何度も標的にされてきた。過去20年間、彼女が度々逮捕され、警察による嫌がらせや家宅侵入が繰り返される中、家族は恐怖の中で生活し、夫の健康状態も悪くなってしまった。2003年11月から2004年6月までの間、楊さんは2回も洗脳班に連行されて、背中を蹴られたり、顔をひっぱたかれたりした。洗脳班の人員らは彼女をベッドに縛り付け、強制的に灌食し、食道に重傷を負わせた。また、楊さんは未知の薬物を注射されて眠れなくなり、その後、目が覚めにくくなった。

楊さんが最後に受けた苦難は2017年1月2日に遡る。彼女は他の8人の学習者（男性2人と女性6人）と一緒に文安県大留鎮の農民市場に行き、そこで法輪功に関する文言が書かれたカレンダーを配布した際、警察に通報され、9日後に逮捕された。警官らは学習者の家を荒らし、法輪功の資料を持ち去った。

## 5.4 金順女さんの死

法輪功を学んだために拘留されていた金順女さんは2018年10月6日、昏睡状態に陥った。家族が病院に駆けつけた後、警察はもし応じなければ金さんに重い実刑判決を下すと脅して、家族に責任放棄書にサインさせた。

金さんの夫と娘は4日間病院で付き添ったが、彼女は意識が戻ることなく、10月10日の午前4時ごろ亡くなった。享年66歳。遺体は同日、検死を経ずに火葬され、病院が発行した死亡診断書には「脳卒中による死亡」と書かれていた。金さんは2018年9月19日に地元住民委員会の事務所で逮捕された。彼女がそこに行ったのは、13年間投獄されていた間に中断された、年金の再支給を申請する必要書類をもらうためだった。

金さんは職員に、信仰による投獄は違法であり、年金も中断されるべきではないと説明した。職員は彼女に書類を発行することなく、警察を呼んだ。そして、新華警察署の警官が来て、金さんを南溝拘置所に連行した。

短期間の拘留中にどのようにして金さんを昏睡状態に陥らせ、さらに数日後の死亡に至らせたかは明らかにされなかった。

金さんが2002年から2015年まで服役していた間、同じ信仰を共有している夫の沈善さんも11年の刑期を務めていた。娘の沈春婷さんも法輪功を学んでいたため、3年間の強制労働を強いられた。一家は2015年によく再会したが、3年後に金さんを失うことになった<sup>(166)</sup>。

## 5.5 他の死亡事例

70歳の彭広珍さんは、息子の徐浪舟さんの死に対して正義を求めている。法輪功を学んでいたために投獄され、徐さんは不審な状況下で死亡した。

息子が5歳の時に夫が亡くなりました。シングルマザーとして、2人の子どもを育てるのは簡単ではありませんでした。私が生き残ったのは息子のおかげです。息子はとても優しく、私をとても愛してくれました。『ママ、私が乞食になっても面倒を見てあげるよ』と言ってくれました。彼を育てるために、私は一生懸命働きました。彼は強くて健康でしたが、わずか39歳で亡くなりました。しかし、彼ら（五馬坪刑務所の人員）は自分たちの責任ではないと言ったのです…。

### 事例1：徐浪舟さん、不審な状況下で獄中死した傑出した警察

徐浪舟さんは広元刑務所に6年間収監されていた間、一度も家族に電話をかけることを許されなかった。徐さんの高齢の母親が7回も攀枝花市から彼に会いに行ったが、看守に追い返されるばかりだった。

2010年の冬、徐さんは沐川県五馬坪刑務所に移された。徐さんが囚人服を着ることを拒んだため、看守は受刑者らに彼の服を切り捨てるように命じ、さらに徐さんにパンツ一枚だけ履くように命じた。徐さんは迫害に抗議するため、ハンストを行った。2011年12月、刑務所当局はやっと家族が彼に衣類と現金1,000元を送ることを許可した。

2012年3月7日、刑務所は徐さんが十二指腸潰瘍の手術を受けなければならないとして、徐さんの家族に面会を許可する旨を通達した。翌日、母親の彭広珍さんは徐さんが意識を失っている状況下で、手術に同意する書類に署名させられた。手術の3日後、徐さんはお粥を食べられるようになった。病院側は母親の看病を許さなかったため、母親は病院外のホテルに泊まらざるを得なかった。3月18日夜、病院は家族に徐さんが亡くなったと連絡した<sup>(167)</sup>。

### 事例2：程富華さん、医療仮釈放後7ヶ月で死亡した遼寧省の女性

程富華さんは法輪功を人々に伝えたことで2015年6月1日に逮捕され、地元の拘置所で虐待を受けた。彼女は虐待に抗議するためにハンストを行ったが、仕返しされるばかりだった。

程さんは浮腫みを起こして頻繁に失神し、運動能力も失った。地元の拘置所は2016年1月下旬、程さんの家族に彼女を迎えに来るよう通知した。彼女は虐待によって引き起こされた症状から回復できず、2016年8月6日に69歳で死亡した<sup>(168)</sup>。

### 事例3：胡国建さん、2年近い昏睡状態の後死亡した遼寧省の男性

遼寧省撫順市出身の胡国建さんは2年近く昏睡状態だったが、2018年5月15日に死亡した。胡さんは2015年7月7日に逮捕され、5か月後に懲役4年の判決を受けた。看守による殴打で重度の脳出血を起こし、昏睡状態に陥った胡さんは手術を受けたが、意識が戻ることはなかった。

### 事例4：劉鳳梅さん、終わりなき拷問と嫌がらせを受けた後に死亡した女性

劉鳳梅さんは2008年の北京オリンピック前に逮捕された直後、懲役13年の判決を受けた。劉さんが身体検査をパスしなかったにもかかわらず、刑務所は彼女を受け入れた。

強制灌食、重労働、洗脳、小さな椅子に長時間座らせるなどの拷問を3年間にわたり受けた後、劉さんは健康状態が悪化し、2012年7月に末期乳がんと卵巣腫瘍と診断された。彼女は2012年8月に釈放されたが、地元当局は嫌がらせを続けた。2年4カ月の激しい苦痛の末、劉さんは2014年12月18日に48歳でこの世を去った。

### 事例5：高一喜さん、ハンストで入院後、2日で死亡した健康だった男性

高一喜さんは、自分と妻の信仰に対する不法な逮捕と拘留に抗議するためのハンストを行った後に病院に運ばれ、2日後に死亡した。彼の死は、2016年4月19日に逮捕されてからわずか10日後のことだった。高さんは45歳だった。ハンストを行ったにもかかわらず、病院に入った時の高さんは健康だった。病院では、彼は点滴を継続的に投与されていて、次第に話すことも動くこともできなくなり、わずか43時間後に死亡した。家族は高さんの手首の手錠の跡、胸のひどい腫れと腹部の凹みに気づいた。警察は翌日に検死を行ったが、家族に報告書を見せることを拒否した<sup>(169)</sup>。

169)。

### 事例6：付桂春さん、中絶を強要され、8年間の獄中迫害後に死亡した女性

付桂春さんは2002年5月に逮捕され、中絶を強いられた2ヶ月後の2002年9月に懲役8年の判決を受けた。ハルビン女子刑務所では、彼女に信仰を放棄させようとして、当局は付さんを独房に入れて手首を吊るしあげ、凍りつけさせて睡眠を奪った。彼女は糖尿病などの健康問題を抱えるようになった。2009年に釈放された時、付さんは精神的にも肉体的にも傷つき、トラウマになっていた。付さんは2012年5月1日に40代の若さで亡くなった<sup>(170)</sup>。

### 事例7：李坤連さんと王福芹さん、法輪功の放棄を拒否した3人の娘が逮捕され、5年後に死亡した夫婦

王福芹さんの3人の娘は2004年頃、法輪功を放棄することを拒否したため、相次いで逮捕された。一番下の娘は4年の懲役を宣告された。王さんは7回も試みたが、末娘との面会は許されな

かった。逮捕された娘たちのことがショックで王さんは脳卒中を起こし、2004年3月に69歳で亡くなった。

妻の死後、夫の李坤連さんは精神的に参ってしまい、毎日日が暮れると、ナイフや棒を握って、愛する人を奪いに来た「想像上の悪人」を追い払うようにしていた。5年後の2009年11月、彼は71歳で亡くなった。

#### 事例8：任東生さん、拘留中に心神喪失に追い込まれ、7年後に死亡した中年男性

任東生さんは2006年3月8日に逮捕され、懲役5年を言い渡された。天津市の港北刑務所では、彼はライターで手を焼かれ、顔を平手打ちされ、足の爪が剥がれるまで踏みつけられるなどの想像を絶する拷問を受けた。手錠や足枷をかけられたまま、任さんはわざと手の届かない地面に捨てられた食べ物を強制的に食べさせられた。5年の刑期が切れると、彼はそのまま洗脳班に送られ、騙されて未知の白い粉を飲ませられた。1週間後の釈放時に、息子は父の姿が記憶にある愛に満ちた強い男ではなくなったことに愕然とした。任さんはつぶやき続け、奇妙な行動を取るようになった。80代の母親は、5年の歳月を経て息子の身に起こったことに心を痛め、倒れてしまった。

任さんの妻の張立芹さんも法輪功を学んでいる。彼女は夫が逮捕された1ヶ月後に解雇された。彼女自身は2009年2月12日に逮捕され、懲役7年の判決を受けた。2016年2月11日に出所した彼女が自宅で目にしたのは、精神異常者になった夫と、叩き割られた家具や窓だった。

任さんは帰宅後も、ほとんどの時間において精神病状態のままだった。彼は散髪を拒否し、目にする全てのものを叩きのめし、雨の日には叫びながら家を飛び出して、夜中に家を出て、数日後に泥まみれになって帰ってくることもあった。誰かが警察の話をお口にすると、任さんは「逃げないと警察に捕まる」とつぶやき、外へ走って行き、そして道端で寝ていた。

任さんは時々夜中に突然目が覚めて、「お前なんか怖くない」と叫び、母親を虐待し、息子を殴ることもしばしばあった。一度、任さんは大晦日に母親を家から追い出して、路上に独りで立たせた。別の日に任さんは息子を殴り、息子は泣きながら祖母に駆け寄った。

任さんを拷問した看守に対する苦情申立を行った後、妻の張立芹さんは当局による繰り返しの嫌がらせや拘留を強いられた。妻は逮捕されないように家を出て生活せざるを得なくなり、夫のための正義を求めて各地を回るお金を貯めるため、食事を抜くこともあった。

天津市高等裁判所の尋問に同意してから8日後の2018年9月4日、7年も苦しんだ末に亡くなった夫の死に、妻の張さんは心を痛めた<sup>(171)</sup>。

#### 事例9：徐大為さん、懲役8年の満了後に死亡した陽気で愛想のよいシェフ

徐大為さんは2001年1月に逮捕され、のちに懲役8年の判決を受けた。2009年2月に釈放された時、健康だった徐さんは骨と皮ばかりになっていて、身体は電気ショックや殴打による傷とアザだらけだった。また、彼は無表情で目の動きが鈍く、家族の顔も分からなかった。徐さんは

釈放された13日後に36歳で死亡した。彼の死後、妻は彼のための正義を求めようと弛まぬ努力をした。当局への公開書簡の中で、徐さんの妻である遲麗華さんは次のように書いた<sup>(172)</sup>。

不安を抱えながら待っていた、あの8年間の人生を考えたくありません。経験したことのない人にはなかなか理解できないと思います。幼い娘と高齢の両親を介護する中で私が経験した苦勞、悲慘さ、心配、悩みは言葉では言い表せないほどのものでした。何度泣いたか分かりません。涙も尽きました。血だけが心から滴り落ちていました。

8年の歳月を経て、ようやく待つことが終わったと思ったところに、夫の死という致命的な一撃を食らいました。母はそれを聞いて耐えられず、氣絶してしまいました。両親はもうこの世にはいません。私は両親を失い、家も収入もありません。

夫の両親からは『一緒に住もう』と言われましたが、私は行く気を起こせません。もっとはっきり言えば、現実に向き合いたくありません。

彼らが山の中の小さな村に住んでいるからではなく、私が彼らと仲良くしていないからでもありません。夫の両親は私を嫁というより、むしろ実の娘として扱ってくれています。そして私もまた、彼らを実の親として接してきました。一緒に暮らしたくないと思ったのはただ単に、私の存在によって彼らに息子のことを思い出させたくないからです。そして、99歳になる夫の祖母に『なぜ大為はまだ家に帰らないのか?』と尋ねられれば、返答に窮することがもっと怖いからです。

## 第6章 身体的損傷と心的外傷

法輪功への迫害は、学習者にもその家族にも数え切れないほどの悲劇を引き起こしている。子どもや高齢者、そして障害者でさえ免れなかった。

音楽の神童である王博さんは19歳の時、法輪功迫害に反対する発言をして、3年間の強制労働を宣告された。2005年に釈放された後、2006年に彼女は再び逮捕され、またも懲役5年の実刑判決を受けた<sup>(173)</sup>。

元実業家の張春郁さんは、黒竜江省女子刑務所で4年6ヶ月の服役中に虐待を受けていた。以前、労働収容所にいた期間中、彼女は男性看守に殴られたため、左目が失明した<sup>(174)</sup>。

幼少期にポリオに感染し、脚が不自由になった譚美麗さんは度々逮捕され、計7年6ヶ月の実刑判決を宣告され、今は4年半目の服役中である<sup>(175)</sup>。

劉殿元さんは79歳の時、懲役11年半の判決を受けた。それ以前に、彼はすでに7年間服役していた<sup>(176)</sup>。

法輪功を修煉しているだけで、内モンゴル自治区通遼市の6人家族は繰り返し逮捕され、全員の拘留期間を合わせると41年にもなる。父親の田福金さんは二度投獄され、約9年間の獄中生活を送った後、拷問で死亡した。母親の劉秀栄さんは10年間服役した。最近では、二番目の娘の田心さんは2015年に懲役3年の実刑判決を受けた後、夫に離婚を言い渡された。10代の息子は最近母親が逮捕されて以来、親族に面倒を見てもらっている<sup>(177)</sup>。

肉体的苦痛は残忍な拷問や長い刑期が伴うにもかかわらず、迫害された学習者やその家族が受けた精神的苦痛とは比べ物にならない。

若き徐鑫洋さんが7歳の時、投獄されていた父親の徐大為さんを初めて見た時の痛みを消すものはない。そして、徐さんは出所してからわずか13日後に、怪我だらけの身で死亡した<sup>(178)</sup>。

88歳の姜自香さんが耐えなければならなかったのは、言葉では表現できないほどのものだった。姜さんの夫は迫害に遭い、2000年代前半に亡くなった。その後、45歳になる息子の高一喜さんは、逮捕されてから10日後に拷問により死亡した。高さんが亡くなった時、姜さんの娘はまだ服役していた。一連のことはこの高齢の女性に大きな打撃となり、それから1年8ヶ月後に姜さんは亡くなった<sup>(179)</sup>。

30代の趙玉華さんは、迫害を逃れるために離れて暮らさざるを得なくなっている両親を心配し、恐怖にいた幼い娘が心臓発作で亡くなった後、全ての歯を失ってしまった。少女の死を聞いた警察は、これを趙さんを逮捕する機会として捉え、24時間ぶっ通しで彼女の家の周辺で待ちぶせていた<sup>(180)</sup>。

馬占国さんの父親は、2016年10月に逮捕された息子との面会を許されなかったことで悲嘆に暮れ、血圧が急上昇し、脳梗塞を発症した。唯一の稼ぎ手である馬さんが逮捕された後、一家は大きな苦境に立たされた。少しでも家計の足しにしようとして、病弱で年老いた父親の馬登科さん

は水筒や飲料缶、古紙などを拾ってリサイクル業者に売り、小銭を稼いだ。その後、馬登科さんがゴミの山の中で死んでいるのが発見された<sup>(181)</sup>。

畢建紅さんの母である王延琴さんは、信仰のために娘と一緒に投獄されていたとき、何度も娘が拷問される場面を見させられ、娘の叫び声を聞くことも余儀なくされ、精神的に参ってしまいそうだった<sup>(182)</sup>。

98歳になる梁玉珍さんの祖母は、唯一の介護者である孫娘が警官に連れ去られる際、年齢などを考慮されず、孫娘を抱きしめる両手を警官に強引に離された。弁護士2人も面会権を拒否されたことを知った祖母は激怒し、人に支えられて鶴山拘置所を訪ねた。そこの看守はみな祖母と話そうとせず、助けを提供することも拒んだ<sup>(183)</sup>。

靳付章さんの母親（84）は、一人息子が法輪功を学んだため懲役5年の刑に処せられた後、自立生活ができず苦勞した。彼女は買い物や、破裂したパイプを直す配管工の依頼、そして台所の棚のガラスの取り付けなどを全部自分でしなければならなかった<sup>(184)</sup>。

陳淑蘭さんの場合、両親、2人の兄弟、そして妹1人がみな、迫害によって亡くなった。唯一の生存者である陳さんは2回の判決で合計11年6ヶ月の刑を受けた。何年もの拷問の後、陳さんは重い背部痛を患い、娘に頼って面倒を見てもらわなければならなくなった<sup>(185)</sup>。

馮曉梅さんは妹の馮曉敏さん、そして両親とはかつて幸せだった。しかし、迫害のため、曉梅さんはまず父、夫、妹を失った。迫害から逃れるために8年間放浪していた義兄も結局、投獄されてしまった。13歳で父を亡くした息子の王博如さんと、2歳未満で母を亡くした甥の王天行さんの世話をするのは、曉敏さんと年老いた母だけだった。2009年に曉梅さんが再び逮捕されたとき、母親は一晩で全ての髪の毛を失った。博如さんは家族を支えるために学校を辞退し、仕事をしなければならなかった。天行さんは孤児院に送られるところだった<sup>(186)</sup>。

## 6.1 身体的拷問及び虐待の結果

拘留施設での拷問の結果、多くの学習者は重傷や障害を負うことになったり、半身不随になったりし、精神異常に追い込まれた。以下は、そのいくつかの事例である。

### 事例1：元経済学者が足の骨折で障害を負った

元経済学者の龔星燦さんは、労働収容所で拷問から逃れようとして階段から転落し、右脚を骨折し、骨が突き出ていた。彼女が病院に運ばれた後、医師は骨の位置を合わせずにギブスをつけた。その結果、彼女の右脚は変形し、左脚より1インチも短くなってしまった<sup>(187)</sup>。

### 事例2：強制灌食の後、30代男性がほとんどの歯を失った

拘留所の看守らによってラジオペンチで口を開けられ、子宮拡張器鉗子で強制的に灌食された後、唐茂廷さんはほとんどの歯を失い、30代から入れ歯を付けなければならなくなった。また、看守らに背中を踏みつけられた後、必要な治療を受けられなかったため、彼の腰椎は変形してしまった<sup>(188)</sup>。

### 事例3：万家労働収容所での拷問により、女性は手が不自由になった

41歳の付麗さんは、2000年に黒竜江省万家強制労働収容所で拷問を受けた結果、両手が不自由になり、体は傷だらけになった。

警察は付さんの親指にロープを結んでから彼女を吊るし上げたため、親指に全身の重さの負荷がかかった。このようにして長時間吊るされた後、彼女の手は不自由になった<sup>(189)</sup>。

### 事例4：障害を負った学習者の賠償請求が無視された

浙江省の樊中庄さんは、かつて5日間連続で尋問を受け、その間寝ることも許されなかった。警官は彼の手足に手錠をかけ、拷問も行った。2005年8月27日、警察に激しく殴られた樊さんは首の椎骨が骨折し、回復不能の障害を負うことになった<sup>(190)</sup>。

樊さんは医療費と失われた賃金をカバーするために137万元（約2,200万円）を警察に請求した。楊長春副署長は、「賠償金の請求は大筋から外れている。賠償金が欲しい場合、1万元なら合意するが、まずはその20年分の利息を払わなければならない」と答えた。

### 事例5：拘留中に失明した女性

武揚珍さん（73）は広東省計量研究所の退職者である。彼女は地元の洗脳班に19日間収容されただけで、右目の視力を失った。武さんはまず長時間立ちっぱなしにさせられ、その後、足を組んだ状態で4時間も縛られた。彼らは時には縛りを外すが、まもなく再び同じ体勢で武さんを縛った。激しい痛みの中で、武さんは血流の低下で視界がぼやけてきた。約2週間後に病院に運ばれた時、彼女の右目は全盲となり、左目の視力は著しく損なわれていた<sup>(191)</sup>。

### 事例6：警官に殴られて意識不明になった後、数年間も入院したままの女性

2014年10月9日、石雲蘭さんは意識不明になるほど警官に殴られ、開頭手術を受けた後、構音障害の症状が現れて、下半身麻痺になった。自治体は彼女の医療費の全額負担を拒否した。石さんの頭蓋骨を修復するために予定されていた手術も、資金不足で無期限延期になっている<sup>(192)</sup>。

### 事例7：5年間の投獄と拷問の後、歩くことも話すこともできなくなった黒竜江省の男性

「法輪大法は素晴らしい」と書かれた横断幕が町で発見された後、張金庫さんは2013年3月29日に逮捕された。2013年10月1日に呼蘭刑務所に移送された時、張さんはすでに看守と受刑者らによる拷問で歩けなくなっていた。

2018年6月2日、刑期を終えて釈放された見分けがつかないほどやせ細った張さんは、妻の李亜麗さんが、自分を心配するあまり苦痛で亡くなっていたことが分かった。享年47歳。

「なぜこんなにやせ細っているのか」と母親に尋ねられた張さんは、利き手ではない左手（右腕は刑務所での拷問で骨折した）でゆっくりとこう書いた。「5年ほどハンストを繰り返していた。食べ物に薬を入れられていた」。娘はよそよそしくて内向的になり、両親と同じ家に住む父親側の祖父母を訪ねることを嫌がり、釈放された父親を歓迎する場にもいなかった<sup>(193)</sup>。

### 事例8：警官に尿と糞を食べさせられ、精神が異常になった女性

張菊賢さんは白いシートに覆われて遼寧女子刑務所の病院から運び出された。多くの人は彼女が死んだと思っていた。実際、彼女は帰宅によって一命を取り留めたが、その後、精神錯乱状態に陥った。張さんは過去に何度も逮捕され、2回も労働収容所に送られて5年間収容され、3年間刑務所にいた。迫害に抗議するためのハンストを決行した際、張さんは尿や糞を食べさせられたこともあった<sup>(194)</sup>。

## 6.2 家族の苦境—当事者たちの言葉

### 事例1：刑務所で拷問され重体になった息子の釈放を求める莫志奎さんの母親の嘆願書<sup>(195)</sup>

私は莫志奎の母で、89歳です。息子が連れ去られてから1年以上が経ちました。彼の安否が非常に心配です。私は絶えずこのように自問しています。『息子は違法なことをしていないのに、なぜ警察は法輪功を学んで善人になろうとしているだけの息子を逮捕したのでしょうか？』息子は懲役12年の実刑判決を受けて、呼蘭刑務所で不当な待遇を強いられています。

息子が逮捕されて以来、私たち4世代家族は喜びどころか、一日も安らぎと心の平和を享受したことがありませんでした。警察に家宅捜索をされて、『この家は誰のものなのか？誰の名前が証書に載っているのか？』と問い質されてきました。地元自治会の職員は電話で嫁を脅迫し続けて、さらに幼稚園にも行って、曾孫にどこに住んでいるかを質問していました。ドアをノックする音が聞こえる度に動悸がして、恐怖に震えます。

息子は計8回も逮捕され、あまりにも多くの虐待を受けて、残酷なほど殴られて罵倒されてきました。今、息子は結核を患って血で咳き込み、両脚から股間までしびれが残っています。これは刑務所での残酷な扱いによる直接的な結果です。嫁、孫、孫娘、婿は面会のために刑務所を訪ねて行きましたが、5回も拒否されました。孫の1人に先天性障害があり、曾孫は皮膚病で苦しんでいま

す。彼らの治療には費用がかかります。息子による支えがない中、家族は苦しい日々を送っています。息子の帰りを心待ちにしている毎日です。

## 事例 2: 何度も逮捕され、判決を受けた李坤さんと梁桂芬さんの娘、李松蓉さんの証言<sup>(196)</sup>

刑務所にいる父に会いに行く度に、緊張を覚えました。会えるかどうかも分かりませんでした。何をされているのか、もし拷問されていたらどうなっているのかと思いました。そして、父に会ったら泣かず、父に心配をかけないようにと自分に言い聞かせました。毎回20分しか会えませんでした。私たちにとってはとても貴重な時間でした。親戚からは『大丈夫だよ。パパはすぐ戻ってくるよ』といつも言われていました。他の子がパパと楽しく過ごした話をしているのが聞こえると、私はただ座って聞いていて、自分に『パパはもうすぐ帰ってくる』と聞き聞かせていました。これが9歳の時から23歳まで続いていました。10歳の頃、夜はあえて寝ないようにしていました。いつ誰が来て家を荒らすか分からないと心配していました。その冬はとても寒かったです。母は父の冬物の上着を取り出して私に着せて、寝かせるためにお話をしてくれました。それでも夜中に目が覚めてしまいました。

家の外では、誰かが母の名前を叫んでドアを開けるようにと言いました。母はそれに応じず、私を慰め続けました。しばらくすると、叫び声が止まりました。彼らが去ったと私たちは思いました。しかし間もなくして、ドアを叩く人の声が聞こえてきました。彼らがドアを叩く度に、私の心臓も叩かれているようでした。ドアが壊れそうで、私の心臓の鼓動も止まりそうだと思った矢先、母は一階に降りて行きました。私は怖くてついて行きませんでした。

少し会話を交わした後、警官らは母を連れて行こうとしました。私は泣きながら『行かないで』と懇願しました。母は私に『大丈夫だよ。寝とて待っていて、すぐ戻ってくるから』と言ってくれました。その『すぐ』がこんなに長くなるとは思いませんでした。母が帰ってきたのは、翌年の夏でした。これだけの年月の中で、あまりにも多くの痛みと苦しみのため、私が諦めて希望を失いかけていましたが、母は決して諦めませんでした。私を大学に行かせるために母は一生懸命に働き、とても質素に暮らしていました。私が自分の不満をこぼすと、母はいつもこのように言ってくれました。『人のことを指ささず、まず自分を見つめ直して、トラブルの中で、自分のどこが間違っているかを考えなさい』

卒業して別の街に出て、1人で働きながら生活し始めてからやっと、長年来、母がどれだけのことをしてくれたかが分かるようになりました。彼女は本当に素敵なお母さんです。母の私への愛は山と海のように、そして岩のように揺るぎなく優しいものでした。

父の釈放日が近づいてきた矢先、60歳に近い母は逮捕され、再び判決を受けました。ただ家族と一緒に人生の日々を送っていきただけですが、なぜ、これほど単純な幸せの実現がこんなにも難しいのでしょうか？

母が逮捕されて以来、ずっと気になっていて、寝ることも食べることもできませんでした。この手紙を書いている間、今までに一生懸命に忘れようとしていた苦しみや耐え忍んだことの記憶が鮮明に甦ってきて、涙が出てきました。心の中で泣き叫ぶことの意味をようやく理解しました。実際、血まで吐いてしまいました。全身が崩れていき、涙が止まりませんでした。

### 事例3：詩人の伏英さんが、長年の迫害による家族の惨状を語る<sup>(197)</sup>

3000日以上にもおよぶ獄中生活を生き抜き、数え切れないほどの苦しみに耐えてきた私は、釈放の日が近づくにつれて、いよいよ春が訪れ、苦しみから解放されると思っていました。しかし、現実には想像していたものとは全く違っていました。

2010年7月11日、ついに刑務所を出ました。40代前半の私は、かなり前から白髪になっていました。また太陽を見ることができて嬉しかったです。刑務所では毎日、太陽が出てくる前から仕事を始め、夜遅くまで働いていました。最後に太陽を見た日から随分年月が経ちました。

帰宅後、姉妹たちから『この9年間、我が家では多くの悲劇が起きた』と言われました。父の伏承勇と三番目の義兄は、2008年に迫害による苦悩の中で亡くなりました。叔父も世を去りました。姉の伏文は私が釈放される3ヶ月前に脳出血を起こし、手術を受けて以来ずっと寝たきり状態です。

実際、2008年に最後に父が訪ねてきた時、『もう待てない』と言われました。その時は意味が分かりませんでした。後に知ったのですが、面会后、父は手術を受けて、数ヶ月後に亡くなったそうです。

それから9ヶ月後、母の佟書萍もこの世を去りました。娘としての責任を果たす機会を全く与えられませんでした。両親が亡くなった後、当局によって自宅を強制的に取り壊されました。

妹の伏艶は、法輪功を修煉していることで13年の刑を受け服役中であるため、彼女の娘である清泉ちゃんの面倒を見る責任が私の肩にかかりました。私は投獄され、妹が2001年に逮捕されて以来、幼い清泉ちゃんの世話をしていたのは母でした。

妹は昔、幸せな家庭を持っていました。しかし、彼女に長い刑期が言い渡された後、彼女の夫はプレッシャーに耐えられずに離婚を言い出し、娘の養育と養育費の支払いも拒みました。

可哀想な女の子は母親を奪われ、3歳から祖母と一緒に暮らしていました。どんなにしんどくても、清泉ちゃんをきちんと育てていかなければならないと自分に言い聞かせました。清泉ちゃんがこれだけの年月をどうやって耐えてきたのか、想像もできませんでした。

清泉ちゃんの教育を充実させるために、私たちは2012年に瀋陽市に引っ越しました。私はベビーシッターの仕事を見つけました。生活は大変でしたが、シンプルで平和でした。しかし不幸にも、それは長く続きませんでした。警察は家宅捜索に来て、私を30日以上拘束し、清泉ちゃんに通っていた学習者の学校を閉鎖させました。私たちはまたもやホームレスになってしまいました。

それから間もなく、私は夫である欧陽洪波と出会い、2014年5月16日に結婚しました。46歳でようやく、再び家庭を持つようになりました。

今回、結婚式からわずか40日後に夫が逮捕され、懲役6年の判決が下されて、83歳の義父と私は家に残されました。全てが非現実的で、夢のようでした。

法輪功に対する迫害の中で、私たちのように家族に悲劇をもたらし離ればなれにさせた事例はあまりにも多いのです。迫害を終わらせなければなりません。加害者が裁かれる日を待ち望んでいます。

## 第7章 臓器狩り 前代未聞の犯罪

移植用臓器の供給源として、法輪功学習者が殺害されていることが初めて明るみに出たのは2006年のことだった。

名乗り出た証人の1人はピーター（仮名）というジャーナリストで、瀋陽市蘇家屯にある学習者を大量に収容している秘密施設を6年かけて調査していた。もう1人は、学習者の角膜摘出に参加した外科医の元妻アンニ（仮名）である。2人とも、被害者は生きていたうちに臓器や組織を摘出され、その後、遺体が火葬されたと証言している<sup>(198)</sup>。

その後まもなく、中国の某軍医がアンニの話を裏付け、蘇家屯は中国の36個の強制収容所から成るネットワークの一つの構成要素に過ぎないと述べた<sup>(199)</sup>。

その後、多くの国際調査官、ジャーナリスト、非政府組織がこれらの疑惑を調査し、裏付けを取った。2016年、明慧ネットはこの問題に関する詳細なレポート『明慧人権報告書：中国の法輪功学習者が臓器のために組織的に殺害されている』を発表した<sup>(200)</sup>。

### 7.1 合法的供給源が不足する中、短い待機時間で得られる豊富な臓器

中国の臓器移植は2000年代初頭に急速に成長し、2007年に600以上の病院が臓器移植を行うようになった。米国では腎臓や肝臓の移植の待ち時間が平均2～3年であるのに対し、中国の病院は1～2週間で臓器を提供することができた。しかも、ドナー提供者の死を事前に計画することができるため、前もって移植の予定を立てることができた。

このような臓器移植の急成長は、臓器提供が欠乏している状況下で起きた。中国が国家的臓器提供・配分システムの構築に着手したのは2010年であった。政府が特定した唯一の臓器供給源は死刑囚からのものであったが、毎年の法定処刑数では、移植件数に見合う臓器を供給することができなかった<sup>(201)</sup>。そのため、中国での移植に使用されたほとんどの臓器の出所を説明することはできなかった。

この寄付と移植のギャップは現在も続いている。政府は2015年に死刑囚からの臓器調達を中止し、自主的な臓器提供に全面的に頼るようになったと発表したが、その臓器提供の統計が操作されていたことが判明した。臓器の待機時間は数日から数週間のままであり、中国への移植ツーリズムは中止になったと公式に発表されているにもかかわらず、いまだに大規模に行われている<sup>(202)</sup>。

### 7.2 行方不明の学習者

1999年7月20日、共産党が法輪功に対する全国的な迫害を開始した後、中国全土から学習者が北京に出向き、中央政府に弾圧を止めるように請願した。北京市公安局は、2000年と20

01年のピーク時には、100万人以上の学習者が北京で請願していたと推定している<sup>(203)</sup>。警察内部の記録によると、2001年4月時点で、北京では83万人以上の学習者が請願のために検挙されていた<sup>(204)</sup>。

### 7.2.1 特定されていない学習者

上記の数字には、警察への身元開示を拒否した学習者は含まれていない。彼らの多くは家族や同僚、友人を巻き添えから守るためにそうした。共産党の連座政策の下で、学習者の家族であれば解雇され、職場の同僚や上司であればボーナスの支給を拒否され、地方公務員でも解任されることがあるからだ。

この政策は、学習者と関係がある全員を効果的に敵に回している。自らのキャリアを守るために、かつて消極的だった地方の役人たちは、学習者が北京に行くのを阻止するために必要なことは何でもした。また、彼らは地元警察を北京の国家陳情室に派遣し、学習者を一齐に逮捕して地元に移送した。

その結果、2000年から、逮捕された多くの学習者は氏名や自宅の住所を伝えることを拒否するようになった。この連座への対抗手段である動きは、当時の明慧の報告書で度々見られていた。ある学習者は、他の被拘禁者に話したことを思い出した。

名前や住所を言わなければ、もっと厳しく迫害されるかもしれませんが、さらに一週間拘禁されれば釈放されるのではないのでしょうか。しかし、名前や住所を教えてしまえば、地元の拘置所や労働収容所に連れ戻されてしまうだけでなく、家族や職場も影響を受けることになります<sup>(205)</sup>。

### 7.2.2 他の地域への移送

北京で逮捕され、身元を明かすことを拒否した多くの学習者が2000年7月19日、天津の各拘置所に移送されたと、明慧ネットが2000年8月に報道した。白い受刑者輸送車が高速道路上で長蛇の列を成し、「最後尾が見えない」ほどだった<sup>(206)</sup>。

2000年12月29日に天安門広場で陳情活動を行い、逮捕されたある学習者はこう振り返った。

名前を名乗らなかった者は連れ去られ...一人一人に番号が振られて、写真を撮られました。12月31日の夜、警官は私たちの番号を呼び、12~13人を収容できるパトカーに乗せました...車は錦州に停車し、そこで私たちは各拘置所から来た迎えのバスに移されました。私たちのバスには50人乗っていて、鞍山第一拘置所に連れて行かれました...警察は家族に電話しても良いと言い、プライバシーを守ると約束したのに、現れたのは私たちの地元の警察でした。2001年1月11日、北京崇文区東花市警察署の副署長が人を引き取りに来た際、彼は写真を使って人を特定し、私

たちを北京に連れて帰りました。私たちが鞍山第一拘置所を出る時、そこにいたある警官は『さっさと帰れ。名前を名乗らない人や、引き取り手のない人を釈放することはできない。上から命令がある。誰かが死んでも我々には責任はない。それに、誰にも知られないだろう』と言っていました<sup>(207)</sup>。

別の学習者は、2001年に北京の拘置所にいた身元不明の学習者がどのようにして中国東北部に移送されたかを目撃した。

2000年12月20日以降、拘置所に送られて来る学習者の数は毎日数十人、時には百人を超えるほど急増しました...全ての学習者には番号が割り当てられました...数日のうちに監房は一杯になりました。看守は毎日のように彼らを尋問し、名前を聞き出そうとしました。彼らはスタンガンなどを用いて学習者を拷問し、受刑者らにも学習者を殴るよう促しました。それでもほとんどの学習者は名前を名乗ることを拒否しました。看守はとうとう聞くのをやめて、『分かった。言わないなら、お前が言い出す場所へ送ってやる』と言いました。

2001年の初めから、学習者のグループが一日おきに、早朝に大型バスに乗せられて送り出され始めました。山東省から来た18歳の少女が私と同じ監房にいました。彼女の番号はK28でした。ある朝、彼女の番号が間違っって呼ばれました。彼女はバスに乗りましたが、後で戻ってきました。彼女によると、学習者は全員中国東北部に連れて行かれたそうです。その後、看守らは公然と私たちに、学習者を中国東北部に送っていると仰いました<sup>(208)</sup>。

### 7.3 軍の関与

司法制度により、名前も住所もわからない被収容者を長く拘束することができないため、本章の冒頭で軍医が言及した強制収容所をはじめ、多くの身元不明の学習者は軍の収容施設に移送された。

中国は人民解放軍（PLA）やPLA各支部の総合病院、軍医大付属病院など、軍事医療体制が充実している。ライフ週刊誌は2006年4月、「中国の臓器供給の98%は保健省以外のシステムによって管理されている」と報じた<sup>(209)</sup>。軍用病院や武装警察病院が臓器供給源の大部分をコントロールしている。大量の臓器移植を行っている民間病院の多くは軍用病院と密接な関係を持っており、その移植外科医の多くは、軍事病院での勤務を兼務している。

調査レポート『中国臓器狩り』の中で、デービッド・マクス氏とデービッド・キルガー氏は、臓器移植のために中国に渡った数人の患者にインタビューを行った。患者たちの手術を担当した外科医らは皆、軍人の経歴を持っていた。上海第一人民病院に受け入れられた患者の担当外科医は、南京軍区福州総合病院（旧第93病院）の外科医長である譚建明であった。譚はまた、上海にあるPLA南京軍区第85病院でも手術を行っている。

もう1人の患者は上海の華山病院（復旦大学付属病院）に肝臓移植を依頼した後、華山病院肝臓センター副センター長の銭建民の下に置かれた。数日経っても一致する臓器が見つからなかった時、

銭は「第二軍医大付属の上海長征病院の方では臓器が入手しやすい」と言い、そこへの転院を提案した。長征病院に転院した当日、患者に適合する肝臓が見つかった。

一般人が軍の移植施設や人員らと密接に絡んでいる他の事例は、2016年の『明慧人權報告書：中国の法輪功学習者が臓器のために組織的に殺害されている』に掲載されている。

## 7.4 強制的な血液検査

血液検査は、臓器移植のドナー候補者とレシピエントをマッチングさせるために必要なステップである。2006年以前から現在に至るまで、学習者は強制的に血液検査や他の臓器検査を受けさせられている。これらのテストは、特に学習者を対象としており、他の受刑者は対象としていない。

学習者の強制的な血液検査は、労働収容所、拘置所、刑務所、洗脳班などで日常的に行われている。『中国臓器狩り』では、マタス氏とキルガー氏によるインタビューにおいても、同様のことが語られている。これらの施設では、学習者は日常的に拷問を受け、状態の悪化が発見されても治療を受けることなく、検査結果自体も本人に知らせないため、調査員たちは、これらの検査は学習者の健康のために行われているのではなく、むしろ臓器照合の目的で健康な学習者を特定するために行われていると結論づけた。

また、当局は各省の拘留施設の外でも強制採血を行い、この目的のために学習者を逮捕したり、彼らの自宅や職場で直接採血を行ったりしていた。幾つかの地域の警官は、血液サンプルの収集は学習者のDNAデータベースを構築する目的であったと主張している<sup>(210)</sup> <sup>(211)</sup>。

## 7.5 証人事例

冒頭のピーター、アンニ、中国の軍医の証言に加え、違法な移植システムに関わって様々な役割を担っていた人々の自認により、中国政権の臓器のための殺戮の実態が浮き彫りになった。

2006年11月17日、イスラエル最大の新聞社が、患者が臓器移植のために支払った数百万ドルを着服したとして告発された4人の男の逮捕を報じた。Medikt社の総裁であるYaron Izhak Yodukin氏と彼の仲間達は、中国とフィリピンでイスラエル人のために臓器移植の仲介を行うことにより得た収入を申告しなかった罪に問われた。主犯はイスラエルの新聞に、臓器は中国の死刑囚や、学習者を含む良心の囚人からだと認めた。

中国の法輪功迫害を制止するために活動しているボランティアグループは、2009年にある警官から、医師らが生きている女性学習者から臓器を摘出したとの目撃証言を受けた。事件は2002年4月9日、瀋陽軍区総合病院の15階にある手術室で行われた。被害者は30代で、中学校の教師をしていた。臓器が摘出される瞬間まで彼女にははっきりした意識があった。警官はまた、被害者が臓器摘出が行われる前の1ヶ月間、殴られて何度もレイプされていたことも目撃した。

## 7.6 電話調査での自白

国際調査員たちは、臓器移植を受けようとしている人たちに代わって、臓器移植が可能かどうかを尋ねる名目で、中国の病院に電話をかけたことがある。医療スタッフと不法移植に参与している他の個人らはこれらの会話の中で、臓器が学習者から採取されていることを認めた。

以下は幾つかの例である。長年にわたって中国での法輪功への迫害の調査に携わっていたボランティアたちが発表したものもある<sup>(212)</sup>。

### 事例1：広西チワン族自治区南寧市民族病院の盧国平

広西チワン族自治区南寧市民族病院の外科医である盧国平は電話の会話の中で、学習者が臓器の供給源であることを何度も認めた。盧は「法輪功から来たものもあるし、患者の家族からのものもある」と言った。以下は、盧と調査員の会話を抜粋したものである。

調査員：あなたの同級生は、彼らが行った（臓器移植）手術（の臓器供給源）は、全て法輪功のものだと言ったのでしょうか？

盧国平：法輪功から来たものもあれば、患者の家族からのものもあります。

調査員：なるほど。私は子どものために、法輪功の（臓器）タイプを探したいのですが、彼は探してくれますか？

盧国平：間違いなく見つけることができます。

調査員：今まで使ってきたもの（学習者の臓器）は、どこで見つけたのでしょうか？ 拘置所、或いは刑務所ですか？

盧国平：刑務所からです。

調査員：刑務所ですか？ それは健康な学習者のものでしたか……？

盧国平：勿論そうです。手術の質を保証するために、私たちは良いものを選ぶことができます。

### 事例2：学習者の腎臓を仲介したPLA第307病院の代表

調査員は、家族や友人の移植の需要に適した腎臓を探すことを手伝う名目で、北京の人民解放軍（PLA）第307病院の仲介業者である代表者に連絡を取った。連絡のやり取りは数週間に及んだ。以下は、同病院の代表との会話の抜粋である。

調査員：では、あなたが先へ進めて、代わりに確認してくれますか？ それが本当に…

病院の代表：前にも言ったのではありませんか？ 前にも、本当の事を言っているとお伝えしました。2件実施しました。

調査員：2件とも学習者が供給源になっているということですか？

病院の代表：そうです。2件実施しました。それを法輪功のものでやったと刑務所は言ってくれました。その女性にも、私たちは本当にそのような手術を行っていることをお伝えしました。しかし、今は以前より難しくなっています。

調査員：以前はどこから腎臓を入手していましたか？

病院の代表：(北京市) 西城区からです。

調査員：分かりました。それ以外に、どうして彼(供給源)が学習者だと確信できますか？あなたは確かに調べたのですか？

病院の代表：どうやって学習者であることを確認するかについては、まあ、時が来れば、私たちの出番となれば、私たちのボスが情報を提示する人と合わせてくれて、情報とデータを見せてくれるので、安心してください。

調査員：なるほど、それはいいですね。

### 事例3：玉泉病院(清華大学第二附属病院)院長の李宏輝

2006年4月28日、希望の声のジャーナリストは、清華大学第二附属病院としても知られている玉泉病院の腎臓移植部門の李宏輝部長と接触した。李は、臓器は学習者から採取したものだと言った。

以下は会話の抜粋である。

李宏輝：過去数年間、ドナーとなる臓器は法輪功学習者から来ていることが起きていました。

調査員：つまり、この種のドナーは数年前から、かなり簡単に手に入るようになったということでしょうか？

李宏輝：そうです。

調査員：若くて健康なドナー、例えば法輪功を習っている人のものを供給できますか？

李宏輝：ご依頼は検討した後、時期が来たらお伝えします。

## 第8章 中国国外にまで拡大した迫害

中国共産党は610弁公室の支部と大使館、領事館のネットワークを通じて、中国系コミュニティや企業、学生団体に法輪功の活動を妨害させ、学習者の情報を収集する指示を次々と出すことによって法輪功への迫害を他国にまで拡大させた。さらに、外国の役人、議員、市民団体を法輪功と敵対させようとしている。また、中国共産党は国外のメディアに対して、法輪功のイベントまたは中国での迫害について報道しないよう圧力をかけている。中国共産党はさらに他国にある中国系ニュースメディアを利用して、反法輪功プロパガンダを広めている。

シドニーの中国領事館の元外交官は、中国大使館や領事館には、海外の反体制派を監視し、弾圧するための政治部門が設置されていることを明らかにした。シドニーを例に挙げると、領事館の「法輪功対策特別班」は政治調査、文化、ビザ、教育、及び外国にいる中国人を管轄する各部門の責任者で構成されている。これらの特別任務班の指揮を執っているのは大使または総領事である（

213）。

### 8.1 海外の学習者に対する暴力及び脅威

中国領事館は、中国での迫害の実態を伝えるため定期的に情報ブースを設置している学習者を誹謗中傷し、嫌がらせを行う人員を地元の中国人コミュニティから募集していた。例えば、学習者に対する暴徒の攻撃は、ニューヨークの中国総領事である彭克玉に関連しており、彼は電話インタビューの中で、暴徒の参加者に学習者を攻撃するように促したことを認めていた<sup>(214)</sup>。香港では、このような攻撃は中国共産党の延長線上にある他の組織によって行われている。

#### 8.1.1 中国政府関係者の南アフリカ訪問中、オーストラリア人学習者が撃たれた<sup>(215)</sup>

2004年6月、江沢民が始動した法輪功迫害の中心人物である曾慶紅が南アフリカを訪問した。曾慶紅と他の中国当局者が南アフリカを訪問していることを知った9人のオーストラリアの学習者は、迫害を指揮している中国当局者を相手に訴訟を起こす（他の国の学習者はすでに江沢民に対して、集団虐殺と拷問で訴訟を起こしていた）ことによって、法輪功への迫害を止めようとして、6月28日にヨハネスブルグ国際空港に到着した。ヨハネスブルグには学習者がいなかったため、南アフリカの別の都市の学習者が空港で彼らを拾った。9人のオーストラリアの学習者は2台の車で空港を出発し、プレトリアの大統領迎賓館に向かった。道中、白い車に乗った何者かが、学習者が運転する2台目の車の少し後ろからタイヤと運転手を狙って発砲した。車には少なくとも5回命中した。運転手のデビッド・リアンさんは両足を撃たれた。車は大きな損傷を受けて停車した。銃撃

犯は逃走した。近くのクリス・ハニ・ブラグワナス病院に運ばれたデビッド・リアンさんは片足の粉砕骨折と診断された。

### 8.1.2 中国共産党の工作員が情報を盗むために学習者の家に侵入

2006年2月8日、中国共産党の工作員が銃で武装し、ジョージア州アトランタの学習者・李淵博士の自宅に押し入った。李さんはエポックタイムズ（大紀元時報）の最高技術責任者であった。工作員らは李さんが窒息しそうになるまで重い掛け布団を彼の頭に被せ、その後、掛け布団を外して、特にこめかみを目掛けて殴り始めた。李さんは口、目、耳にテープを貼られ、腕は後ろで縛られて足も縛られ、動くことも見ることも、そして叫ぶこともできなかった。

1人の男が北京語で李さんに、「金庫はどこだ？」と尋ねた。彼らは2階と階下を約30分かけて捜索し、李さんのファイルキャビネットをこじ開けて、2台のノートパソコンを盗み、他の貴重品はそのままにした。侵入者が出て行った後、隣人が警察に通報した。李さんは救急車で病院に運ばれ、顔に15針の縫合治療を受けた<sup>(216)</sup>。

同年3月10日、日本の大阪府の学習者宅に空き巣が侵入し、デスクトップパソコン2台とノートパソコン、デジタルカメラを盗んだが、現金などの貴重品には手をつけていなかった。現場での警察の捜査では、情報を盗むことを目的とした犯行と結論づけられた。この家はエポックタイムズの管理事務所として使われており、犯行は同紙が中国政権が臓器のために学習者を殺害したことを暴露する記事を掲載した翌日に起きた。

犯行の前日、日本に派遣された中国人ジャーナリストはインタビューの中で、「最近、香港で学習者が殴られ、香港のエポックタイムズの印刷所が破壊されました。日本にいる学習者と団体の方々には、安全面における細心の注意を払ってほしいです」と注意喚起を促した。家の持ち主である蔡さんは、嫌がらせの電話がかかってきたと述べた<sup>(217)</sup>。

### 8.1.3 米国の地で、中国領事館が攻撃及び他の憎悪犯罪を扇動

ニューヨーク州フラッシングの13人の学習者は2015年に訴訟を起こし、学習者が殴られ、嫌がらせを受け、死の脅迫を受けたという40件近くの事件を報告した。これらの脅迫は中国語のポスターと一緒にフラッシングの目立つ場所に掲示され、住民や観光客に「法輪功信者をネズミのように叩け」と扇動していた。

ある事件では、フラッシングの街を歩いていた李秀栄さんと曹立軍さんが、30人近くの暴徒を召喚した李華紅一味に襲われた。曹さんは何とか逃げ出して助けを求めに行ったが、暴徒らは李さんにしがみつき、「彼女を殺せ!」、「彼女を殴り殺せ!」と叫んだ。

訴状には、上記と似たような事件も言及された。2014年7月14日、フラッシングで3人の学習者が歩いていた時、被告の1人にこう言われた。「お前らは犬よりも劣る。お前らを一網打尽にして、3ヶ月以内に絶滅させる。絞め殺してやる……終わらせてやる。お前らの心臓、肝臓、肺をえぐり出してやる。誰かがお前たちを殺すだろう」

2008年に起きたフラッシングでの学習者に対する暴徒の攻撃は、ニューヨークの中国領事館と関連があった。彭克玉総領事は音声録音の中で、攻撃の参加者を「密かに励まし」、個人的に暴徒のメンバーに礼を述べ、「現場では他のことをしていた」と認めた。複数の情報筋がエポックタイムズに伝えたところによると、彭総領事は暴徒のメンバーに1日50～100ドルを支払って破壊的な活動に参加させたという<sup>(218)</sup>。

類似した憎悪犯罪は他の都市でも起きており、中国共産党と関係のある組織によって直接扇動されたか、または中国共産党が管理するメディアや団体を介して広がった反法輪功のプロパガンダの結果として発生している。サンフランシスコでの学習者に対する一連の身体的攻撃の後、エド・ロイス下院議員は国務省に書簡を提出し、中国の公式代表が米国で法輪功迫害を広めているという「非常に厄介な」見通しについての懸念を表明した<sup>(219)</sup>。そのような攻撃の一例として、加害者は老人の顔を殴った後、法輪功を冒瀆する言葉を連発し、「もし中国にいたら、お前の足を折ってやる」と言った。

#### 8.1.4 中国の外交官が国家訪問中の暴力と混乱に責任を負う

中国当局者が他国を訪問する際、現地の中国領事館は「歓迎団体」を雇って中国の国旗を振らせ、中国の代表団が、中国での迫害に終止符を打つために平和的な抗議活動を行っている学習者の横断幕を見ることができないようにしている。

2014年、中国の習近平国家主席のG20訪問中、オーストラリアで中国共産党に雇われた歓迎団体がブリスベンとキャンベラで学習者を妨害し、攻撃すらしようとした際、地元警察は彼らを学習者から遠ざけ、旗を投げ捨て、学習者に近づくことを禁じた。また、習主席の護送車から見えるように、警察は学習者が横断幕を高く吊るすのを手伝った。

2014年夏、中国代表団の訪問中、地元の学習者の平和的な抗議活動を妨害するために武力を行使したとして、中国の外交官2人がアルゼンチンとチェコで逮捕された。

ニュージーランドのオークランドとウェリントンでは、警察は学習者が横断幕を掲示するのに最適な場所を探すのを手伝った。歓迎団体が来たとき、警察は通りの反対側で待機するように指示し、7人の警官が学習者を保護するために配置された。

### 8.1.5 香港における学習者と観光客に対する脅迫と攻撃

2012年以降、中国の610弁公室の延長線上にある香港青年会は、定期的に学習者に嫌がらせをし、香港でのイベントを妨害してきた<sup>(220)</sup>。青年会のメンバーらは緑色のシャツを着て、イベント会場で学習者を取り囲み、至近距離でメガホンを使って侮辱や脅迫を叫び、学習者に唾を吐いたり、身体的に暴行を加えたりしていた。ある事件では、青年会の関係者が大きなナイフを振り回して学習者を脅迫した。学習者の横断幕を隠すだけでなく、青年会のメンバーらは法輪功を誹謗中傷する横断幕も掲げていた。

香港を訪れたある観光客は、2019年1月の事件をこのように振り返った<sup>(221)</sup>。

ある学習者が中国共産党の迫害について話し始めると、青年会のメンバーが踏み込んで話を遮りました。青年会のメンバーの服は法輪功を中傷する言葉で覆われていました。また、彼らは大音量のスピーカーを持って、似たようなメッセージを放送していました。

彼らは観光客に学習者のポスターを読ませず、観光客を録画した動画をネットに投稿すると脅しました。青年会のメンバーは皆、首からビデオカメラを下げていて、学習者と交流する人を簡単に録画できるようにしていて、非常に攻撃的でした。対照的に、法輪功学習者たちは物静かに横断幕やポスターボードを持っていました。

2019年9月24日、学習者の廖秋蘭さんは香港のライチコック地区で2人の暴徒に襲われた。伸縮可能な棒で何度も殴られた後、彼女の頭から大量の血が流れ出た。事件は、廖さんが中国共産党の建国記念日である10月1日に行う法輪功活動の許可証を申請し、長沙湾警察署を出た後に起きた<sup>(222)</sup>。

## 8.2 他国での迫害及び学習者の中国への送還

中国政権とイデオロギー的に結びついている、または北京から直接圧力を受けているいくつかの国の政府は、学習者を逮捕し、または、拷問や死に直面するかも知れない中国に送還し、異なる時期において中国共産党の迫害政策に協力することを選択した。

### 事例1：カンボジアから夫婦が強制送還され、中国の強制労働収容所に連行された<sup>(223)</sup>

中国人の老夫婦がカンボジアで働いていた時、雇い主に郵便物を不法に盗み見されて、法輪功を修煉していることが知られた。雇い主が彼らを中国大使館に通報した後、大使館の職員とカンボジア警察は彼らを逮捕し、2002年8月に国連難民に認定されている夫婦を中国に送り返した。夫妻はその後、強制労働収容所に連行された。

カンボジアの中国大使館の職員は、他の2人の高齢学習者も逮捕しようとしたが、彼らは身を隠して逮捕を免れた。国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）の高官が介入し、2人の学習者は最終的に他国に保護された。

## 事例2：国連難民認定を無視し、ロシアは学習者を国外退去させた

国連難民認定を受けていたにもかかわらず、2007年3月28日、サンクトペテルブルクの入国管理局強制送還局の6人の職員によって、馬慧さんと8歳の娘の馬晶晶さんは自宅から連行された。当日の夜、ロシアの女性警察と数人の中国政府職員は、母娘を北京行きの飛行機に強制的に乗せた。しかし、彼女の家族は北京の空港で、馬さんも娘さんの姿も見なかった。その後、ある男性からの電話で、馬晶晶さんが馬さんの妹の家に到着したと伝えられたが、馬さんが帰宅できるかどうかは不明であった。家族は、馬さんが国家保安機関に拘束されていると疑った<sup>(224)</sup>。

同年5月12日、ロシアの入国管理局の数人の職員は何の説明も書類もなしに、高春満さん(73)を自宅から連行した。当日の夜、警察は高さんのロシア人妻の米娃さんに、当局がすでに飛行機で高さんをモスクワに運び、北京行きの一番早い便を待たせていると伝えた。高さんは清華大学の元教授で、法輪功迫害のために中国から逃れてきた。高さんは2003年に国連難民認定を受けた<sup>(225)</sup>。

## 事例3：ベトナムは、ラジオで無修正ニュースを中国に放送したとして、2人の学習者に判決を言い渡した<sup>(226)</sup>

2011年11月、ハノイで、ハイテク企業のCEOであるVu Duc Trungさん(31)と義兄のLe Van Thanhさん(36)は、それぞれ懲役3年と2年の実刑判決を受けた。2人は、短波放送でラジオニュース番組「希望の声」を中国に放送したとして、「電気通信網に違法に情報を送信した」という罪に問われた。「希望の声」の番組は主に人権侵害、汚職、学習者や他の迫害されているグループへの弾圧などを報道している。Trungさんは2009年4月に放送を開始し、2人は2010年6月11日に逮捕された。

中国共産党からの直接の圧力を受けて、ベトナムの法輪功コミュニティに対する嫌がらせがさらに激化していく中で、2人に判決が下された。起訴状によると、2010年5月30日に中国大使館からベトナムの捜査安全局に外交メモが送られた後、ベトナム政府は彼らを逮捕した。そのメモによると、中国の警察は、ベトナムの領土からのラジオ信号に、「希望の声」ラジオ局で聞いた法輪功に関する内容と同じものが含まれていることを発見したという。「ベトナム領土内の法輪功個人の活動を攻撃し、停止させるべくことを勧告する」とメモに書かれていた。

裁判は当初10月に予定されていた。裁判当日の朝、中国領事館の前で静かに座り込みをしていた少なくとも30人の学習者がベトナム当局に拘束された。目撃者の証言によると、彼らはバスに乗せられ、何人かは暴力的にバスに押し込まれて、その後、小さなグループに分けられて別々の場所に連行されたという。レバンタム公園で座禅していた数人の学習者も拘束された<sup>(227)</sup>。

## 事例4：韓国は中国共産党の圧力で学習者を強制送還し、亡命を拒否

2009年から2011年にかけて、韓国政府は少なくとも10人の学習者を中国に強制送還し、56人の学習者の亡命を拒否した。韓国政府のある関係者は、中国共産党政治局常務委員会の李長春が、韓国政府に「学習者を韓国から追い出すように」と圧力をかけてきたと記者団に語った。これは、韓国法務省が学習者の亡命申請を拒否し始める直前に起こったことだ。本国送還はその後すぐに始まった<sup>(228)</sup>。

2010年1月30日に韓国から中国に強制送還された学習者の尹香子さんは、その後、中国を脱出することができた。以下は、彼女が中国に連れ戻された後に経験したことの抜粋である<sup>(229)</sup>。

国家安全局の工作人員は違法に家宅捜索を行い、私を監視下に置き、嫌がらせもしました。

警察は、中国共産党に騙された元学習者を連れてきて、私に対して洗脳しようとしていました。その人は冷たくて計算高い人でした。彼は法輪功に関する自らの誤った解釈を私に言い聞かせ続けました。その頃、私はすでに72時間も寝ていなかったもので、はっきりと物事を考えることができなくなり、法輪功を修煉しないことを約束する保証書に署名しました。そして、私は釈放されて、どこかに行く前に報告するように要求されました。彼らは私の携帯電話を監視し始めました。

尋問の間、私は中国共産党の警察システムが韓国の学習者について広範囲な知識を持っていることに気づきました。また、韓国の数多くの協調人の名前や、延吉市から韓国に行った数人の学習者の名前も、様々な場面で言及されました。彼らを知っているかと聞かれました。パレードで撮影された韓国の天国楽団の写真を見せてくれました。私も写真に写っていることに気づきました。彼らは私に、写真の中の学習者を特定するようにと言いました。また、彼らは他の学習者の難民認定申請を手伝ったことがある学習者のリストも見せてくれました。中国共産党の特別工作人員らは、韓国での私の法輪功を行う場所にさえ行ったことがあります。

釈放された後、投獄されていなかったにもかかわらず、私は悲惨な状態にいました。法輪功によって私は健康を再び取り戻し、健全な心も得ることができました。しかし、良心に反して法輪功を裏切った自分の行為を思う度に、私は絶望、屈辱、後悔を感じました。

1ヶ月後、尹さんは再び法輪功の修煉を始めることを決心した。しかし、彼女は監視下にあり、不審者に頻繁に尾行されているため、目立たないようにした。彼女はこう回想した。

2011年3月中旬、延吉市610弁公室のメンバーから電話があり、喫茶店で会いたいと言ってきました。会うのは30分ほどでした。彼らは、私が韓国の学習者の情報収集に協力してあげれば、再び韓国に行ってもいいと言いました。

彼らは私を中国共産党の特別工作人員として採用し、私にコンピューター技術を教えて、法輪功の情報をインターネットで彼らに送り返すことを計画しました。私はその場で彼らの申し出を断りました。すると彼らは、もし私が協力を拒否すれば、中国から出るチャンスはないと言いました。私の名前は税関のブラックリストに載っており、そのリストに載っている人は中国からの出国が制限されていました。

それからの数ヶ月間、私は彼らから連絡を受けることはありませんでした。私は常に恐怖の中で生活していました。何度か場所を転々としましたが、恐怖が私を追いかけていました。私は中国から脱出することを決意しました。

## 8.3 外国公務員及び市民団体に対する脅迫

世界各地の中国領事館は、法輪功を誹謗中傷し、学習者の活動を妨害する目的で、日常的にホスト国の政治家から市議会議員までの組織や役人に接触している。領事館の戦略には、偽情報キャンペーンと直接の脅迫の両方が含まれている。

### 8.3.1 平和的抗議活動への妨害

中国共産党は、中国での迫害に対する人々の認識を高めるために、平和的な抗議活動を行っている学習者を妨害、脅迫、暴行するだけでなく、中国政府関係者の訪問中の学習者の合法的な集会、及び言論自由の権利を奪うように、外国政府にも圧力をかけてきた。中国政権の要求に同意し、自国の法律に違反した政府もある。

#### 事例1：アイスランドは中国共産党の圧力に屈し、学習者の入国を禁じた

2002年6月、当時の中国共産党総書記・江沢民がアイスランドを訪問した際、アイスランド政府は中国当局からの圧力を受け、学習者の入国を禁止した。これはアイスランド市民の強い反発を招き、人々は学習者を支援するために集まった<sup>(230)</sup>。「これは町中の話題です...全国民が法輪功を支持しています」と、数日だけアイスランドに滞在していたカナダの学習者ジョエル・チプカーさんは言った。「どのメディアも、テレビ局も、ラジオ局も、新聞も...ここではトップの話題になっています」

2002年6月9日、アイスランドの多くの人々は公園で学習者と一緒に法輪功の煉功を学び、状況に対する懸念を示した。「私はあなたの味方です」とある男性は言い、「中国の代表があなたを撃とうとしたら、まず私を撃たなければなりません」と付け加えた。

「アイスランドの人々から支援のメールや電話が相次いで届いています。私たちは皆、大きな支援に感動し、励まされています」と、法輪大法情報センターの広報担当者ピーター・ジャウハルさんは言った。

手紙の多くは、アイスランド政府が江の訪問中に学習者を追放したことへの怒りを表している。多くの人々は、入国を拒否された人々の代わりに、法輪功迫害に対する平和的な訴えを行うことを申し出た。

## 事例2：セルビアが中国サミット期間中に学習者の入国を拒否

2014年12月16～17日に開催されたCEE・中国（中・東欧）首脳会議の前に、11人の欧州学習者がセルビアのベオグラードから強制移送された。彼らはイベント中にベオグラードの外で拘束され、サミット終了後にブルガリア、スロバキア、フィンランドに追放された。地元当局は理由も示さずに、学習者たちの活動許可申請を拒否した<sup>(231)</sup>。

## 事例3：平和的な抗議活動の参加で香港を訪れた学習者が入国拒否に<sup>(232)</sup>

2019年4月26日と27日、「4月25日請願20周年記念パレード」に参加しに行く途中、台湾の学習者約70人が香港から強制送還された。しかし彼らは全員、香港に入国するための合法的な渡航書類を持っていた。

香港から強制送還された台湾人学習者の1人、丁さんはこのように振り返った。

私の名前を見た時、香港税関の人は緊張した表情を浮かべ、ある表に記入するように言い、そして私を小さな部屋に連れて行きました。彼は、私が有効なビザを持っていても、香港への入国を許可しない方針だと言いました。

台湾大陸委員会（MAC）は、香港政府の台湾人に対する不当な扱いを非難する声明を発表した。「我々は言論の自由と信教の自由を基本的な人権だと考えています。香港政府が理性的に対応し、台湾市民の合法且つ平和的な表現を尊重することを期待しています」と、MACの副大臣兼広報担当者である邱垂正氏は述べた。さらに、彼は香港政府が如何にして台湾市民の旅行計画の情報を入手し、選別して学習者だけの搭乗を止めたかに疑問を呈し、次のステップは台湾市民のプライバシー侵害を調査することになるだろうと付け加えた。

### 8.3.2 コミュニティ活動への妨害

学習者がパレードや他の地域行事への参加を申し込むと、中国領事館は主催団体に連絡し、学習者の排除、及び活動への支援を取りやめるように要求することがよくある。

サンフランシスコでは、中国領事館と密接な関係を持ち、サンフランシスコ湾岸地域での法輪功への迫害を積極的に支援していた江沢民の個人的な友人であるローズ・バック氏の指示で、学習者は旧正月のパレードへの参加を何度も禁止された<sup>(233)</sup>。デンマークでは、他の中国の団体が中国政府から圧力をかけられ、2002年アジア文化祭への参加を辞退すると脅してきた後、学習者への招待が突然取り消された。デンマーク新聞のポリティケンによると、「『法輪功』はただ、中国の伝統舞踊を披露する予定であったにもかかわらず、『法輪功』が祭りの写真に写っていたこと自体に、コペンハーゲンの中国大使館は不満を持っていた」という。祭りの主催者は後に、3日間のイベントの最終日の出演許可を学習者に与えた<sup>(234)</sup>。

オーストラリアの2018年パースクリスマスパレードでは、学習者はパレードの当日の朝、法輪功の横断幕を掲げたり、法輪功の文字をプリントしたTシャツを着たりしてはいけず、イベントを取材するテレビ局も法輪功について言及してはいけないと言われた。パレードに参加したどのグループも、このような制限を受けていなかった。全国紙「オーストラリアン」は、パースの中国総領事館に勤務していると名乗る男が、前日にパレードの主催者に電話をかけ、学習者の参加を禁止するように伝えたと言った<sup>(235)</sup>。

スコットランドでは、中国領事館は2003年にエジンバラ・ワン・ワールド・フェスティバルの主催者に手紙を出し、フェスティバルのプログラムから学習者の展示ブースを外すよう要求した。主催者はこの訴えを無視し、「私たちは招待したい人を招待します！」と言った<sup>(236)</sup>。

### 8.3.3 神韻公演への妨害

神韻（シェンユン）芸術団は、学習者によって設立された中国の古典舞踊と音楽を披露する芸術団体であり、その使命は、舞台芸術を通じて中国の伝統文化の真髄を復活させることである。演目には、中国における法輪功への迫害が舞台上で描かれているものがあるため、中国共産党は神韻の2006年の設立以来、公演を組織的に妨害することを企ててきた。

中国共産党の戦略の一つは、世界各地に所在する大使館や領事館に命じて、劇場に神韻との契約を結ばないように圧力をかけたり、既存の契約を無効にしたり、そして応じなければ自国の対中政治経済関係が損なわれると劇場経営者を脅迫するのである<sup>(237)</sup>。しかし、この戦略はほとんど成功していない。なぜなら、神韻との契約を解除した劇場はほとんどなかったからだ。例えば、神韻と提携しているドイツの企業2社は、フランクフルトの中国領事館から電話を受けたが、契約の解除を拒否した。そのうち一社は「ドイツには言論の自由があります。私たちが何をしたいかは自分で決めます」と答えた<sup>(238)</sup>。

それにもかかわらず、少数の劇場が中国共産党の圧力に屈した。例えば、デンマーク王立劇場は2007年、中国大使館がデンマーク外務省との会合で神韻の問題を持ち出した後、ほぼ確定していた契約を突然撤回した。その後の数年間も拒否が続いた後、2018年には中国大使館がデンマーク王立劇場に、神韻の国家舞台への出演を拒否するよう要請していたことが明らかになった<sup>(239)</sup>。

韓国では、中国政権が韓国放送協会（KBS）に対し、神韻のKBSホールへの出演を認めれば、中国との取引で得た80億ドルの収入を失うと脅した。KBSは結局、神韻との契約を解除した。ソウル南部地方裁判所はキャンセルを無効としたが、その後、同裁判所は全ての行政機関、裁判所、大使館、劇場が祝日に入る30分前に判決の取り消しを発表し、予定されていた公演終了日まで控訴する時間を与えなかった<sup>(240)</sup>。

脅迫に加えて、中国共産党は神韻のツアー車両に悪質な細工を施すなど、より卑劣な戦術を採用した。あるケースでは、バスのフロントタイヤに切り込みがあり、タイヤはすぐには萎まないが、

高速道路を走行中に高圧で破裂するようなことが仕込まれていた。幸い、損傷は点検中に発見され、犠牲者は出なかった<sup>(241)</sup>。

2010年には、主要な制作スタッフ6名が中国の特別行政区への入国ビザを拒否されたため、やむを得ず、完売になっている香港での7回の公演がキャンセルとなった。出演者は2009年10月にビザを申請していたにもかかわらず、却下されたのは翌年の開演1週間前の1月27日だった。この決定が遅かったため、出演者たちは法的な対応をする時間もなかった<sup>(242)</sup>。

また、中国領事館は観客が公演に参加できないように脅した。北米の幾つかの都市では、このような脅威は中国のビジネス団体や学生団体によって推し進められた。また、中国の学生に対して、公演会場での写真やビデオ映像で発見された場合、中国に戻ってくることはできないと伝える領事館もあった<sup>(243)</sup>。

その意図とは裏腹に、中国共産党の政治家や他の観客が神韻を見ることを防ぐための努力はむしろ、番組を宣伝するのに役立っていた。中国大使館からの誹謗中傷情報を受けて、ドイツのある議員はすぐに公演を見に行くことを決め、欧州議会の大統領と副大統領が共同で祝賀状を送り、神韻のドイツでの成功を祈った<sup>(244)</sup>。

#### 8.3.4 立法への干渉

2017年8月31日、カリフォルニア州上院司法委員会で、中国における法輪功への迫害を譴責する決議案(SJR-10)が可決された。しかし、上院は予想外にも同法案を規則委員会に戻すことに賛成し、当初予定の9月1日の上院での採決を実質的に阻止した。

意外な採決の理由は、上院議員たちがサンフランシスコの中国領事館から、決議案の可決が「カリフォルニアと中国の友好関係と持続的発展を妨害する」可能性があるとし唆する電子メールを受け取ったためである<sup>(245)</sup>。

この決定を受けて、学習者はサンフランシスコ、サクラメント、ロサンゼルス、サンディエゴで集会を開催した。法案の発起人であるジョエル・アンダーソン州上院議員は、中国政権がカリフォルニア州上院まで言論の自由の弾圧を拡大し、州の立法手続きに外国勢力として干渉していることに強い憤りを表明した。

特筆すべきは、この決議案の共同署名者であるランディ・ヴォペル下院議員は、カリフォルニア州サンティー市長を務めていた時に、ロサンゼルスの中国領事館から脅迫状を受け取ったことがあるということだ。

その手紙には、法輪功を誹謗中傷し、多くの要求が書かれていた。「私たちは、市が中米関係と市民の利益の観点から、私たちの要求を慎重に検討し、法輪功、法輪大法、またはその創始者にちなんで特定の日や週の命名を含め、法輪功(組織)にいかなる賞や支援も与えないことを望んでいます。また、市が法輪功の登録を許可しないようにお願いします……」などと書かれていた<sup>(246)</sup>。

ミネソタ州では、2015年に中国政権による学習者の臓器狩りを非難する2つの法案（SF2090、HF2166）が下院と上院に提出された直後、シカゴの中国領事館は州議会議員に圧力をかけ、法案が小委員会を通過する前に阻止しようとした。領事館は法輪功を誹謗中傷する手紙を議員に送り、副総領事はSF2090を執筆したダン・D・ホール上院議員と会談した。ホール上院議員はその後、自身のウェブサイトはこの会談について投稿し、信教の自由と言論の自由の重要性を再確認した<sup>(247)</sup>。

### 8.3.5 学習者の信用を落とすことを目的とした詐欺的な電子メールキャンペーン

中国政権は、法輪功が外国の政府関係者の目には悪く映るように、多数の詐欺的なメール攻キャンペーンを行った。これらのメールは海外の学習者を名乗って送信されているが、脅迫的で軽蔑的な言葉で埋め尽くされており、典型的な中国本土の言葉使いだと推定できる。

2015年5月13日の世界法輪大法デーの前後、カナダの一部の国会議員は、二つの異なる発信者からのメールを受け取り始めた。「アンドリュー・タン」と名乗る送信者は、法輪大法デーの祝賀会に出席せず、「あなたは救われる最後のチャンス」を失ったことで、受信者を「愚か者」と呼んだ。もう1人の送信者は受信者に「あなたを待っているのは、完全たる抹殺であろう！」と言った。緑の党の副党首ブルース・ハイアー氏は、「私には全く意味がなく、すぐに、その電子メールがどこか他の場所から来たのだと推測しました」と学習者に語った<sup>(248)</sup>。

似たような電子メールは米国、フランス、ノルウェー、オーストラリア、ニュージーランドの政府関係者にも届いた。2011年のクライストチャーチ地震の後、中国共産党の工作人員はオークランド市議会議員にメールを送り、学習者を装い、地震が起きたのは、オークランド市の人々が法輪功を信じていなかったからだと主張した。キャシー・ケイシー議員は、オークランドの全議員が以前中国総領事から、法輪功を誹謗中傷し、2月にオークランドで予定されている神韻公演に参加しないようにとの公式メールを受け取ったことがあったため、今回のメールも中国政権からのものだと信じていると述べた<sup>(249)</sup>。

### 8.3.6 贅沢な接待と恐喝で政治的影響力を買う

中国の政権は日常的に外国の政治家、教授、専門家、その他の影響力のある人物を訪中させ、中国共産党の立場を支持したり、帰国後に中国政権を賞賛したりすることと引き換えに別格の待遇を与えている。このような恩恵を受けた多くの人々は、その後、中国共産党が行った人権侵害に目をつぶったり、積極的に政権の犯罪隠ぺいに加担したりしている。

**事例1：バンクーバー市長は中国から帰国後、法輪功の抗議活動拠点を解体させた**

2001年8月、カナダのバンクーバーの中国領事館前で24時間平和的な抗議活動が行われ、多くの地元住民は活動を通じて中国での法輪功迫害の実態を知ることができた。楊強総領事は李建堡市長に学習者たちの抗議パネルの撤去を求めたが、李市長はカナダの言論の自由と信教の自由の価値観を理由に拒否した。楊氏は後に、バンクーバー市に学習者の抗議を止めるように何度も要請したが、無駄だったと公に認めた。

しかし、サム・サリバン氏が2005年にバンクーバー市長に当選し、中国を訪問した後、2006年にブリティッシュコロンビア州最高裁判所に、学習者の抗議パネルと領事館の前に5年以上立っていた小さな青い小屋の強制撤去の差し止め請求を行った。差し止めは2009年に認められたが、学習者たちは翌年、ブリティッシュコロンビア州控訴裁判所で勝訴した。

サリバン氏は当初、抗議場所の解体を決定する前に中国領事館との接触があったことを否定していた。後日、この件について再度聞かれた際、サリバン氏は楊強総領事に招かれて元総領事宅で開かれたプライベートディナーに出席し、そこで楊総領事に「ブリティッシュコロンビア州最高裁判所に申請書を提出した。判決は近いうちに出るだろう」と話したという。

中国共産党系の新聞は、幾つかのサリバン氏を高く評価する記事を掲載した。バンクーバー・サン紙はサリバン氏とのインタビュー記事を掲載し、その中でサリバン氏は、「中国訪問中、彼らはレッドカーペットで私を歓迎し、皇帝のような扱いをしてくれた。バンクーバーには、彼らに恩返しができるような大きな予算がないのが残念だ」と話した<sup>(250)</sup>。

## 事例2：カナダの元国会議員が自らの中国旅行を振り返る

元カナダ国会議員のロブ・アンダース氏は、中国政権がいかに組織的に彼と他のカナダの政治家の引き立てを得ようとしたかをこのように振り返った。「彼らが最初に仕掛けてきたのはビジネス取引だった。それに乗らなければ、彼らは2番目のエサ、つまり若くて可愛い女の子を利用するであろう。それでもあなたが畏に嵌らないなら、彼らはアルコールや他のものを試すだろう」

彼は、中国共産党が役人のスタッフや家族を同じように扱っていると指摘した。「閣僚のスタッフが中国に行くと、例外なく女の子が来て、一緒に食事をしに行かないか、カラオケに行かないかと誘いに来る。それでお酒を飲んで一緒に楽しむ。そうすると、連鎖反応のように、彼らは中国であなたを録画したものを見せてくれる。彼らはこう言うであろう。『ほら、俺たちは友達だろ？この手の動画のせいであなたのキャリアが傷ついてほしくないんで、お返しはするが、コピーがないことを保証できないよ。友達だということは分かっているはずだから、これだけ助けてもらって、感謝の気持ちを示すべきではないのか？』」

アンダース氏は、別の国会議員が14歳の息子を連れて、自分と一緒に中国に行ったケースをこう説明した。彼らがホテルにチェックインした5分後に、中国の女の子が国会議員の息子のドアをノックし、お世辞を言ってから息子を食事とカラオケに招待した。息子は少女と一緒にホテルを出た後、滞在中の1週間は姿を見せなかった<sup>(251)</sup>。

### 好意と脅迫による影響力の他の例

オタワ市のラリー・オブライエン市長は毎年、世界法輪大法デーを宣言していたが、2010年5月に中国に出張した後、中国で「約束をした」と説明し、この宣言を撤回した<sup>(252)</sup>。

中国の元外交官である陳用林氏は、オーストラリアの国会議員が中国で16歳未満の少女と性行為に及んだ事件について、次のように述べた。彼は拘留され、録音され、世に知られることなく釈放された後、テレビで中国政府を支持する発言をした。陳氏は、「重要な代表団が中国に行くと、厳しい監視下に置かれます。必要に応じて中国共産党は幾つかの罫を仕掛けてきます。その代表団がオーストラリアからだろうと、カナダからだろうと、関係ありません」と説明した<sup>(253)</sup>。

## 8.4 国際的なメディア系列の検閲

中国共産党はまた、中国大使館や領事館を利用して、海外の中国系メディアを検閲してきた。例えば、オーストラリア・メルボルンの中国総領事は、地元の中国系新聞社のトップに対し、中国領事館にファックスして承認を得る前に、法輪功に関連する記事を掲載しないよう指示した。その結果、メルボルンの中国系新聞社はそれ以来、法輪功関連の記事をあまり掲載しなくなり、一部の新聞社は学習者に「圧力が大きすぎる」と伝えている。

2008年、パリの国境なき記者団は、中国共産党がフランスの衛星放送事業者であるユーテルサットに圧力をかけたため、ユーテルサットが学習者の設立した独立テレビ局「NTDTV」の中国向け放送を停止したことを示す音声ファイルを発表した。駐イタリア中国大使・孫玉璽は電話インタビューで、「私はユーテルサットの社長と副社長に連絡して、なぜ法輪功の中国への放送に協力するのかと尋ねました。彼らはそんなつもりはなく、他人に騙されたなどなど、とにかく、それが彼らの説明でした」と話した。

ユーテルサットは放送を停止した直後、孫に連絡した。孫は「また、彼らは法輪功のビジネスには一切関わらないと約束してくれました・・・放送を止めたことを褒めてあげました。さらに彼らに、二度と関与しないように、そして私たちと協力して、中国の良いイメージを広める必要があると言いました。彼らは謝罪し続け、二度とこのようなことはしないと約束しました」と言い添えた。

ユーテルサットが見返りとして何を求めるのかと聞かれると、孫はこう説明した。「彼らは中国の中央テレビと連携したいのです。また、ユーテルサットは通信衛星や気象衛星を持っているので、中国の航空宇宙産業とも連携したいとのこと。我々の機器を借りて衛星を打ち上げたいそうです」と説明した<sup>(254)</sup>。

しかし、全ての報道機関が中国共産党の要求に従うわけではありません。2001年3月初旬、サンフランシスコの中国総領事は『ワールド・ジャーナル』に手紙を送り、法輪功の広告を掲載す

るのをやめるように伝え、そのような広告を掲載することは『ワールド・ジャーナル』の評判を落とすことになるかと付け加えた。同紙の幹部は、法輪功が独自の見解を持つのは自由だと述べた。

## 8.5 中国国外の事業に対する圧力

中国国内で活動している外国企業が中国共産党に強要されて、法輪功に関する情報を検閲し、自社勤めの学習者への差別に加担していると同じように、中国国外で活動している企業の中にも、中国市場へのアクセスを保護するために、政権の圧力に屈した企業がある。

### 事例1：バンコクのマリオットホテルが法輪功学習教室を中止<sup>(255)</sup>

2003年にバンコクで開催された全国健康大会で、バンコク・マリオット・リゾート&スパホテルのフィットネスクラブのマネージャーは、ホテルで法輪功の功法を教えてもらうようペイトゥーン博士を招待した。教室を開いて3週間が経った時、ペイトゥーン博士はホテルの支配人から電話を受け、教室を中止するようと言われた。ホテルの支配人は、中国大使館から教室を中止するように圧力をかけられたことを認めた。

フィットネスクラブの従業員が後に、中国人宿泊客が法輪功教室について苦情を言ったことと、タイ人の一部もタイにある中国系メディアの影響を受けて、法輪功に対して否定的な見方をしていることをあるジャーナリストに話した。

### 事例2：中国領事館がクリニックに圧力をかけた後、英国の鍼灸師が離職を余儀なくされた<sup>(256)</sup>

伝統的な中国医学の医師であり、学習者でもある趙立萍さんは、2002年11月にエディンバラ漢方医クリニックに鍼灸師として採用された。翌年の9月、彼女はクリニックのマネージャーから、クリニック内で法輪功の話をしていないようにとの手紙を受け取った。1週間後、趙さんはクリニックの院長との対話の中で、クリニックがエディンバラの中国領事館から警告書を受け取ったことを知った。

趙さんは「私は何も悪いことはしていません。漢方医学の医師として、患者に法輪功を紹介するのは自然なことです。法輪功は人々の心身の健康を効果的に増進させることはよく知られている事実です。私は長年法輪功を学び、多くの恩恵を受けてきました。もし中国のオフィスで法輪功の話をしたら、私は間違いなく仕事を追われるでしょう。しかし、このようなことがイギリスで起きているとは大きな驚きです。

## 8.6 学術機関への浸透

中国共産党は、自らのイデオロギーの輸出、及び世界中の学習者や他の標的集団に対する監視と「戦闘」を拡大するため、すでに欧米の大学や学校で自身の存在を確立した。こうして、政権は孔子学院と中国の学生団体を統制すると同時に、経済的な脅迫を使い、大学に検閲の要求に応じるよう圧力をかけることによって、法輪功への迫害を実行することができた。

### 8.6.1 孔子学院

中国共産党はその治世のほとんどの期間、特に文化大革命の間、中国の伝統文化の礎の一つである儒教を糾弾していた。しかし、近年、中国共産党は世界各地の大学キャンパスに「孔子学院」を設立している。2013年までに、世界120カ国で440の孔子学院が開設され、中・小学校では646の孔子教室が運営されている。しかし、これらの教育機関は中国の伝統文化や儒教的価値観を教えるのではなく、中国共産党の欧米社会に浸透するための「統一戦線」キャンペーンの一環である、文化や言語教育の名の下での共産主義イデオロギーの輸出に利用されている<sup>(257)</sup>。孔子学院の講師は中国当局の綿密な審査を受けており、人権や法輪功などのテーマについての中国共産党の見解を広めるように、教室での議論を指導することを求められている。

ブルガリアのソフィア孔子学院の学生は、「中国の哲学者孔子の教えを理解した訳ではないし、東洋哲学の感覚を得た訳でもありません。むしろ、共産党精神を感じました」と振り返った<sup>(258)</sup>。

孔子学院の隠されたアジェンダを知った後、孔子学院の閉鎖を決定する大学や学区が増えている。例えば、カナダ最大の教育委員会であるトロント地区教育委員会（TDSB）は、2014年に孔子学院との契約を終了することを決定した。カナダ安全保障情報局の元アジア太平洋担当主任であるミシェル・ジュノー勝也氏はTDSBに対し、「欧米の防諜機関は孔子学院が『中国』政府に雇われ、利用されているスパイ機関であることを特定したと、公開されている情報には明らかに示されています」と伝えた。TDSB管理委員会のパメラ・ゴフ氏は、「孔子学院と中国共産党との直接的なつながり」が理由であり、「彼ら（委員たち）は、中国から来ている雇われた教師の言論の自由の無さに非常に違和感を覚えていたそうです」と付け加えた<sup>(259)</sup>。

同年、シカゴ大学の100人以上の教員が、孔子学院の本部である漢辦との契約を撤回するよう、大学当局に求める書簡に共同署名した。書簡には、「実質的な問題は、大学の外部にある強力な組織、教えている内容に強い関心を持っている組織が事実上、私たちの名前の下、私たちのカリキュラムの中で、教員と授業内容に深刻な影響力を及ぼしていることは異常な取り決めである」と書かれている。

カナダ大学教員協会（CAUT）は2013年12月、中国共産党が孔子学院に及ぼした強い影響力を理由に、孔子学院との全ての関係を断つことを決議した。CAUTのジェームズ・ターク常務理事はこう言った。「孔子学院の受け入れに同意したカナダの大学やカレッジは、カリキュラム、テ

キスト、授業での議論のテーマなどの多くの学術的な問題における国際中国語評議会の発言権を認めたことで、自らの誠実さを損なっている。このような干渉は学問の自由への根本的な侵害である」  
(260)

### 8.6.2 中国人留学生及び学者協会 (CSSAs)

大学キャンパスにある多くの中国人学生団体は、中国大使館や領事館に資金を提供され、管理されており、法輪功学習者が開催するイベントを妨害したり、中国人学生を勧誘して学習者を脅迫したり、スパイしたりするように指示されている。例えば、シドニーの中国領事館の教育部門は、中国人学生に大学で法輪功を中傷することを奨励し、中国の学生団体に反法輪功プロパガンダ資料を提供し、学習者がイベントを開催する日に、学習者を標的とする「ターゲットを絞った戦い」に外国人留学生を派遣し、(領事館の)「状況把握に協力できる」「信頼できる」学生を募集していた(261)。

#### 8.6.2 (a) 親共産党協会会長を設置するための選挙操作

中国領事館は一般的に、中国の学生団体の幹部たちを領事館での集会に招待したり、中国当局者がその地域を訪問する際の歓迎委員会の運営を任せたり、中国や海外の中国人コミュニティの政治またはビジネスリーダーに引き合わせたりするといった個人的な利益を与えることで、幹部たちを味方に行っている(262)。また、領事が学生を動員して親共産党の候補者を支持し、反対の候補者を攻撃することで、これらの協会の選挙を操作していたことも知られている。

2004年のミネソタ大学のCSSA会長選挙の前に、シカゴ中国領事館の教育グループの2人が、学習者の王曉丹さんと遅学東さんを含む10名以上のCSSA常任委員を夕食会に招待した。領事館職員1人は全員の中国名と、中国のどの大学を卒業したか、中国での住所及び両親の詳細などの生い立ち、そして将来中国に戻る予定があるかどうかを記録した。王さんと遅さんが帰った後、もう1人の職員は学生たちに「もし法輪功があなたの大学で活動をしているなら、抗議デモをしなければならぬ。米国にいる間は、中国領事館に頼るしかない。もしアメリカであなたの身に何か起きたら、領事館だけがあなたを代表することができる」と言った。

王曉丹さんは李明という学生に対抗して会長選に立候補していた。選挙当日、100人を超える学生が駆けつけ、かつてない大盛況だった。李明は演説で、「法輪功がCSSAを支配しようとしている」と言った。王曉丹さんの演説の番になると、一部の学生が騒動を起こし、冒瀆的な言葉を口にした。法輪功を学んでいない学生が王曉丹さんに投票すると、彼女はその場で攻撃され、「CSSAの中で最も深く隠されている法輪功因子だ」と非難された。李明は最終的に会長に選ばれた。選挙の

前に、李は「王晓丹が法輪功を学んでいるため、王晓丹の当選を阻止するのが会長選に立候補した目的でした」と発言したことがあった。

2002年と2003年にCSSAの会長を務め、2004年には常任委員会委員を務めた尤雲慶氏は、「この全ては中国領事館が仕組んだことです。選挙の前夜、中国領事館はCSSAの各委員に電話をかけました」と語った。彼は、多くの学生幹部が「まだ中国に家族がいて、彼らが巻き込まれないようにするためだ」と話してくれたことを思い出した<sup>(263)</sup>。

### 8.6.2 (b) 法輪功及び他の人権イベントへの妨害

明慧ネットは、指示を受けたCSSAが複数回にわたり、学習者が開催したシンポジウムやコミュニティイベントを妨害したと報告してきた。

コロンビア大学では、CSSAの幹部たちが、中国政権による学習者の臓器狩りに関するフォーラムを妨害しようとし、その後、学生クラブのウェブサイトにも反法輪功のプロパガンダを掲載した。学習者たちが迫害の実態、及び中国共産党に代わって法輪功を誹謗中傷してきた中国学生協会の役割を大学の管理者、教員、学生たちに認識させた後、CSSAはウェブサイトから誹謗中傷を削除することを余儀なくされ、幹部たちは自らの行動が米国では歓迎されないため、二度と法輪功の活動を妨害しないようにと言われた<sup>(264)</sup>。

ドイツでは、オットー・フォン・ゲリック大学マグデブルグ校のCSSAはウェブサイトに「中国大使館教育部の支援を受け、宋哲陽氏を会長に選出した中国学生会が新たに結成されました」と掲載した。学習者が学生祭に参加した後、宋はある学習者に私生活の詳細を教えてほしいと頼んだ。翌年、CSSA会長が主催者に法輪功を誹謗中傷する中国共産党の宣伝を言い聞かせ、もし学習者に法輪功の実演をさせれば、中国人学生の間で紛争が起きると主催者に警告したため、学習者は祭りへの参加許可を得られなかった。

同じ地域内の異なる大学にある中国の学生団体は、互いのネット上にある法輪功を攻撃するプロパガンダを逐語的にコピーし、類似イベントに対して同じ手法で妨害していたことが知られている<sup>(265)</sup>。これは、学生団体が中央によって調整されていることを示唆している。

### 8.6.2 (c) 学習者を監視するために学生を募集し、強制的にスパイさせる

2006年、中国の外交官・王鵬飛は、オタワ大学の中国学生協会のメンバーにお金を払って現地の学習者の情報を収集していたことが発覚し、カナダを追われた。同大学に留学していた張菱蒂さんは、同大学の中国学生協会の徐副会長を名乗る人物からメールを受け取った。

メールには、「中国学生協会は在カナダ中国大使館の教育局が直接指導しており、あなたの行動を監視している」と書かれていた。徐はメールの中で、張さんが中国で法輪功を学んでいたとして

違法に逮捕された父・張昆侖さんを救出するために参加した記者会見などの活動に言及した。メールには、「学生からの報告と学生協会幹部の調査によると、あなたは今でも学習者である」とも書かれていた。脅しの思惑だと思われるが、徐はオタワの別の学習者の詳細な個人及び家族情報についても言及した<sup>(266)</sup>。

学習者で、フロリダアトランティック大学 (FAU) のCSSAの元副学長である徐さん (上記の徐とは無関係) は、1999年に法輪功への迫害が始まって以来の自分の経験をこのように振り返った<sup>(267)</sup>。

CSSA会長が訪ねてきて、私に法輪功の修煉をやめるように説得しました。もちろん、私は拒否し、法輪功の真実を彼に話しました。最後に、彼は気まずそうにこう言いました。『あなたが法輪功をやめたくないなら、ヒューストンの中国領事館に報告しなければなりません。彼らは私に名前を聞いています』

それ以来、以前は仲良くしていたにもかかわらず、彼は私に会う度に、いつも気まずそうな顔をしていました。学習者が国際学生祭への参加を申請し、舞台での法輪功の実演も許可された後、彼はまるで強大な敵に直面しているかのように振る舞っていました。彼は何度も大学 (管理側) とイベントの主催者に会いに行き、私たちの参加を阻止しようとしていました。『あなたはもう中国に帰りたくないからやっているでしょうけど、私にはまだ愛する人がいて、まだ帰りたいのです。このままでは私も巻き込まれてしまう、あなたを通報してトラブルから解放されるしか道がありません』とまで言われました」

### 8.6.3 留学生からの収入を脅迫し、海外の大学を検閲

シドニー工科大学 (UTS) の学生団体の一つである「法輪大法クラブ」は2005年4月、中国での法輪功迫害の実態を伝えるために「真善忍国際美術展」を開催した。

イベント後、UTSは中国政権から圧力を受け、上海と香港での大学への投資ストップを脅迫された。UTSは毎年多くの留学生を中国から募集しているため、大学管理者側は当初、中国共産党の要求に応じ、数日間、UTSのウェブサイトから法輪大法クラブの情報を削除した。

UTS学生会は2005年6月に決議を行い、大学指導部、オーストラリアの外務・教育大臣及び他の官僚などに手紙を送り、法輪大法グループへの不当な扱いに抗議した。学生協会のミシェル・スパークス会長は外務大臣への書簡の中で、法輪功迫害がどれだけ長く続いてきたかを考えると、迫害の中で大学が黙っていれば、犯罪に加担していることに等しいと述べた。

その後、UTSは理に叶った態度を取り、法輪大法クラブをウェブサイトから削除することを拒否したため、中国政権は大学の中国側の英語ウェブサイトへのアクセスをブロックした。6月の大学評議会では、大学が授業料の全額負担の学生を増やさなければならなかった大きな理由は、中国のホームページへのアクセス不可による留学生収入の減少だと発表されたと言われている<sup>(268)</sup>。

## 8.7 学習者に渡航制限を課す

### 事例1：法輪功を放棄しない限り、領事館は学習者の中国パスポートの更新を拒否

学習者が永住者または学生として海外で生活している場合でも、中国共産党は日常的に彼らの中国籍パスポートの更新を拒否することで彼らの基本的な権利を剥奪し、事実上の無国籍状態にしている。このような場合、領事はしばしば拒否の理由の提示を拒否している。説明を迫られると、彼らは、パスポートを更新する前に、法輪功を非難する声明に署名するように要求する。

2004年にスタンフォード大学で博士号を取得した李青さんは、ドイツへの学術旅行に備えて中国領事館からパスポートの延長を取得しようとした<sup>(269)</sup>。延長の拒否理由を尋ねられたパスポート課の課長は「あなたは政府に背く活動をしているからです」と言い、説明を終えることなく電話を切った。

李さんの指導教授と大学の留学生部長が領事館に手紙を出した後、彼女は領事との面会の機会を与えられた。しかし、領事はパスポートを延長する前に、法輪功を修煉しないという保証書に署名することを要求した。しかし、李さんは拒否した。

李さんが所属する学部の秘書官は、彼女がドイツに渡航し米国に再入国できる代替書類を作成することを検討したが、留学生部長はこの方法は危険すぎると考えた。李さんは部長の懸念をこのように説明した。

アメリカを出国するのは問題ないかもしれませんが、ドイツの税関で止められたら、中国に強制送還されてしまうかもしれません。私は学習者として中国政府のブラックリストに載っているのも、もし中国に強制送還されたら大変なことになります…。そこで、部長も秘書官も私の指導教官に「ドイツに行かさないようにしてください」とお願いしてくれました。私はとても感動しました。彼らにとって、私は一度しか会っていない1人の留学生に過ぎないからです。私の身の安全を心配してくれた彼らの心遣いは、私を二度と故郷に帰ることができない難民にしてしまった同胞の残酷さとは対照的でした。

李さんはこのように振り返った。

数ヶ月後、国家安全保障局の人たちは中国の親族にこう伝えました。「国はあなたの才能ある娘をととても重宝しています。彼女が学校を卒業後、国に奉仕するために戻ってくることを期待しています」と言いました。母は怒りの中で、「あなたたちは彼女のパスポートの延長もしてあげないのに、彼女はもう市民権を持っていません。国に奉仕するなどと言って、何の意味がありますか？」と返事しました。また、国家安全保障局の人たちは私の親族に、法輪功の修煉をやめさせるように説得してほしいと要求したのです。

## 事例2：ミス・ワールド・カナダが中国への入国を拒否される

マスメディアの注目を集めた例として、2015年12月に開催されたミス・ワールドの最終選考会で、中国への招待状とビザを拒否されたミス・ワールド・カナダのアナスタシア・リンさんが挙げられる。リンさんが入国を禁じられたのは、彼女が学習者であり、中国での迫害や他の人権侵害に対する人々の意識を高めるために発言してきたからである。

しかし、中国国外では、リンさんは多くの支持者を獲得した。カナダ外務省のエイミー・ミルズ報道官は、「カナダは、これらの問題に関する意識を高めるためのリンさんの努力を称賛する」と述べた上で、カナダ政府を代表して、中国政府が中国でリンさんの家族に嫌がらせをしていることに懸念を示した。

ニューヨーク・タイムズ紙は、「彼女の中国政府とのダビデとゴリアテの衝突はメディアからの同情的な注目を引き、世界中から支持者を集めた。それによって彼女は、中国の法輪功信奉者が日々直面している投獄と拷問について発言するより大きなプラットフォームを得た」とコメントした。

## 8.8 学習者に中国共産党のためのスパイ活動を強要

中国に行った多くの学習者は居住国に戻った後に拉致され、尋問され、他の学習者をスパイするように脅迫された。

### 事例1：結婚のために中国に帰国した米国留学中の学生が北京空港で逮捕される

2013年5月21日、北京首都国際空港で税関を通過中、米国に留学中の中国人留学生・李玥さんが、当時婚約者だった人と一緒に北京国内保安局の工作人員に逮捕された。2人は結婚のために彼女の地元に行く予定だったが、休暇の最初の数週間は離れて過ごし、警察による取り調べを受けていた。圧力と脅迫に屈して、李玥さんは一旦、アメリカに戻ってから仲間の学習者をスパイし、法輪功の活動情報を提供することに同意し、実際はアメリカに戻ってから中国滞在中に経験した陰謀と試練を暴こうとした。

逮捕後、李さんは目隠しされて、尋問に使われるアパートに連れて行かれた。数日間、工作人員は彼女に米国で参加した法輪功活動、出席した体験交流会議、誰と一緒にいったか、法輪功パレードでの立ち位置などの詳細を尋ね、また、彼女の地域では神韻がどの劇場で公演し、公演者がどのホテルに泊まるかも聞いた。さらに、工作人員は彼女の電子機器を調べ、スカイプ、QQ、電子メール、人人網（中国国内のSNS）のアカウント名やパスワードを提供するように要求し、それを通じて他の学習者を特定し、監視しようとした。

彼女を釈放する前に、工作人員はアメリカに戻ってから通常通り法輪功の活動に参加するようにと彼女に言い、彼らが提供した特別な電子メールアカウントと携帯電話で定期的に報告するように要

求し、彼女のソーシャルメディアアカウントにログインして、他の学習者を監視し続けるとも伝えた。また、彼女の逮捕がすでに明慧ネットによって報じられていたため、職員たちは、中国で何が起きたのかと他人に聞かれた際の対応方法も指示した。最後に、職員は彼女に肉親を含めて秘密を守ることを誓い、もし彼女が情報提供者としての役割を明らかにしたら、両親を仕事から解雇させると脅した。李さんが米国に戻った後、職員と警察はスカイプで彼女に連絡し、他の学習者の情報を収集するための七つの具体的な任務を与えた。

李さんの夫は北京で3日間拘束され、故郷の廊坊に連れ戻された1週間後に洗脳班に移送された<sup>(270)</sup>。

## 事例2：北京の国家保安機関から嫌がらせを受けたイギリス人学習者

イギリス在住の中国人学習者・梁雲香さんは2010年、両親を訪ねて北京に行った。彼は逮捕され、7時間の尋問を受けた。職員は梁さんに海外での法輪功活動に参加しないことを誓う保証書を書かせた。イギリスに戻った後、彼は職員から連絡を取り合うようにとのメールを受け取った。以下は梁さんが中国で経験したことの抜粋である<sup>(271)</sup>。

私のパスポート情報を入力した後、税関の職員はパソコン画面の情報を読みながら緊張した表情を見せ始めました。彼は別の職員に話しかけ、その職員が電話をかけました。1分後、私は北京入りを『許可』されました。

その後、黒いシャツを着た男女が私の後をついて来ました。

国家保安官は私を北京首都国際空港近くの天竺路という6階建ての建物に連れて行きました。そのうちの2人が交代で私を尋問しました。『海外でどのような活動に参加しましたか?』、『煉功場所はどこですか?』、『皆はどこで一緒に勉強していますか?』、『天国楽団のメンバーらを知っていますか?』、『他の国に行って法輪功の活動に参加したことがありますか?』 また、彼らは海外の法輪大法学会の会員の名前と、海外の学習者の電話番号も知りたいと言いました。

彼らは北京出身で海外居住中の数人の学習者の名前を挙げて、私に知っているかと尋ねました。また、私がどうやって活動の場所と時期を知るようになるのか、中国に知り合いの学習者がいるかどうか、帰国後彼らと会ったかどうか、現在の状況を海外の学習者に知らせたかどうか、そしてイギリス国籍を持っているのかなどを聞かれました。

国家安全保障局の李局長は、私が何かを言う前に怒鳴りつけてきて、私が海外で何をしたかは全て知っているから、やったことを全部白状した方がいいと言ってきました。また、どんな活動に参加していたかを言わなければ、彼らは一々並べてくれますが、その場合、私はそれなりの結果を受け入れさせることになると言われました。父は以前、私が協力しなければ警察に引き渡され、強制労働収容所に入れられると警告していました。私は恐れを感じました。

工作人員は私を北京市西城区の官園橋近くのオフィスビルに連れて行きました。そこで、私は数人の修煉者の名前を明かしました。また、海外にいる親戚の携帯電話番号と私自身のメールアドレスも教えました。

8月28日にイギリスに戻りました。数日後、オーストラリアにいる友人から電話があつて、携帯電話に嫌がらせのテキストメッセージが届いたと言いました。その後、同じ学習者である同僚が仕事で中国に戻りましたが、国家安全保障局の工作人員が彼を見つけて、保証書を書かせました。私はその時、工作人員がパスワードなしで私のメールをハッキングできることに気付きました。

2010年10月8日、私は工作人員から脅迫メールを受け取りました。工作人員は、私が法輪大法の活動に参加しないという約束を守れば、彼らも約束を守り、中国はいつでも私の帰国を歓迎すると言い、私と連絡を取り合いたいとも言いました。

2011年1月、工作人員は父に電話をかけ、嫌がらせをしました。海外にいる親戚が中国へ訪問しに戻った時、国家安全保障局の工作人員は親戚と会話し、私のイギリスでの住所を明かすように強要しました。

## 第二部 迫害における主な加害者

中共の歴史の中で繰り返されてきた数々のキャンペーンと同様に、反法輪功キャンペーンは刑事司法制度に則ったものではない。「暴力的な弾圧」（闘争）として、法の支配を受けない用語を中心に枠組みが構築され、実行に移されてきたのである。そのため、党の役人、裁判官、警察などは法の枠外で対応させられている。

これまでの中国の「闘争」キャンペーンの対象と同様、中共が繰り返す人権侵害の扇動や正当化のため、法輪功学習者（以下、学習者）も「国家の敵」、「敵対勢力」、「反人道」、「反社会」ウイルス、または他の非人間的なイメージで悪とされている。

要するに、迫害には法的根拠がないのである。

### 要旨

元中共指導者の江沢民は、個人的な意図で法輪功に対する「闘争」キャンペーンを計画し、そして指揮した。江は自らの意図を党幹部に押し付け、法輪功が外国勢力の支援を受けた脅威であると思込ませた。そしてキャンペーンの遂行機関として「610弁公室」の創設を指示し、弾圧を正当化させるべく、法輪功を悪とするプロパガンダを繰り返す枠組みを用意した。

迫害キャンペーンは、政治法務委員会（PLAC）と緊密に連携し、中共中央委員会から近隣や村落レベルにまで及んでおり、610弁公室を通じて行われている。610弁公室は、学習者の「転向」を推進するために、公務員の人事をも調整している。この機能の一環として、司法と法執行機関の職員は、信仰を堅持する学習者を逮捕するよう命じられている。610弁公室の地方支部も、学習者の逮捕や拘留、拷問、洗脳に直接的に参加している。江はこのキャンペーンの立役者であり推進者であったが、他の高官も迫害を実際に推進する上で重要な役割を果たした。その高官には、以下の人物が含まれる。

- ・ 羅幹：政治局常務委員、中央政法委員会書記、中央610弁公室主任
- ・ 曾慶紅：中共中央委員会事務局書記、中共組織部部長
- ・ 劉京：公安部次官、610弁公室主任
- ・ 周永康：公安部長官
- ・ 李嵐清：中央610弁公室の初代主任

法輪功への迫害を指示することで、江は中国憲法、中国刑法、国際法に違反し、集団虐殺と人道に対する罪を犯した。20万人以上の学習者が2015年以来、江の命令によって受けた傷害や人権侵害、経済的損害について、江沢民を中国の最高裁判所に提訴している。

## 第9章 主な加害者たち

1992年に法輪功が一般に紹介されてから1999年の迫害開始までの7年間、健康増進や道徳向上といった効果を実感した人々の口コミにより、功法は急速に広まった。10年間で1億人もの人々が法輪功を修煉するに至っている。法輪功の人気急上昇に対する被害妄想や嫉妬に駆られ、中共の指導者だった江沢民は「3ヶ月で法輪功を全滅させる」と誓い、迫害を計画して実行に移し、拡大させていった。

### 9.1 江沢民の役割

当時、江は中共総書記（1989年～2002年）、中国国家主席（1989年～2003年）、中央軍事委員会委員長（1989年～2005年）の三つの主要な地位を占めていた。言い換えれば、彼は党、政府、軍を統制する絶対的な権力を持っていた。

1999年4月25日、天津で不当に逮捕された学習者の釈放を求めるため、学習者が北京の国家陳情室で平和的に陳情した後（付録1を参照）、江は、直ちに法輪功を攻撃するよう政治局に指示した。政治局がその指示に反対すると、江は最高位の指導者クラスに書簡をしたため、また講演を行う等によってキャンペーンを推進した。さらに迫害を実行するため、「法輪功問題を処理する中央指導グループ」や実行部門としての「610弁公室」（創設日に因んで命名）の設置を命じた。そして反対の声を受け続けた江は、最終的には民政部を通じて法輪功に対するキャンペーンを発表することになった。

江は総書記と主席の座から退いた後も、中央軍事委員会の委員長としての延任期間を利用し、重要な指導層の座には忠実な追従者を就任させることで迫害を監督し続けた。彼は政治局常務委員会を7人から9人に拡大し、羅幹（政治・法務委員会の責任者として治安部隊を担当）と李長春（宣伝を担当）を加えた。また、江は曾慶紅（政治局常務委員会委員、中共中央委員会事務局書記）と周永康（公安部長官）を含む、彼の迫害政策を推進する同志を見出した。

#### 9.1.1 迫害政策

迫害の最初の段階で、江は「彼らの名誉を毀損し、経済を破綻させ、身体を破壊する」ことを命令した。そして「死ぬまで殴ること、死んだら自殺とみなす」、「（拘留中の死亡後に）彼らの身元を確認せず直ちに火葬せよ」とも宣言した。

### 9.1.1 (a) 名誉毀損

このような暴力的で広範囲に渡る迫害を正当化するために、江は法輪功が「邪悪なカルト」であり、その修煉者たちが社会に危険をもたらす精神的に病んだ人物であるように描写し、一連のプロパガンダのキャンペーンを開始した。最も悪名高いキャンペーンには、天安門広場における学習者を名乗る者の焼身自殺事件（付録2を参照）と、法輪功が原因とされた1400人もの死者が出た事件（付録3を参照）などがある。江はまた、法輪功が中共の支配を脅かすものと非難し、国家陳情室での学習者たちの平和的な訴えを中央政府への攻撃を意図した「包囲」であると誤認させた（付録1を参照）。そして、法輪功は中国政権の不安定化を狙った西側諸国の政府による陰謀であると主張した。

それ以来、中国の全国民が国営テレビや新聞、その他のメディアを通じてこのプロパガンダに晒されている。教科書や学力試験、強制的な非難活動も繰り広げられた結果、子どもたちの世代全体に法輪功に対する憎悪が植え付けられた。さらに中共は、党が管理する国際メディアや中国大使館、領事館を通じて、中国国外にも法輪功への誹謗中傷を広げた。

### 9.1.1 (b) 経済の破綻

第2章で示したように、学習者は仕事を追われ、年金の支給も拒否され、教育を受ける機会も奪われた。当局は学習者を不当に連行した上で釈放と引き換えに家族に金銭を要求し（非合法的なものである）、家宅捜索で金品と所持品を没収した。こうして学習者から多額の財産を奪ってきた。

### 9.1.1 (c) 身体破壊

「身体を破壊せよ」という命令は、強制労働収容所、刑務所、及び他の拘留施設などでの拷問、そして公立病院または軍事病院での臓器移植のための学習者の殺害などとして実行されてきた。

### 9.1.2 ネットで迫害を暴露した学習者への報復

従来のメディアを完全にコントロールすることで、中国の政権は迫害に関する情報を効果的に検閲することができたが、インターネットへのアクセス増加という難題を突き付けられた共産党当局は、ウェブサイト運営者やサイバーカフェを対象としたコンテンツ制限や監視要件の強化を相次いで実施した。

1999年7月20日に迫害が始まってから、中国全土で電子メールの通信が途絶え、163.comのような人気のある中国の電子メールサービスへのアクセスもできなくなった。また、警察はネット上の法輪功に関連するコンテンツの動きも監視した。2002年時点で、20の省に「反体制的な」インターネット利用者を追跡するための訓練を受けた特別な警察官がいた。

迫害が始まって以来、明慧ネットを通じて、学習者たちがアップロードした其々の地元で起きた迫害に関する情報が、中国やその他の地域の全学習者に配信されている。そのため、中国当局は情報がどのように流れていようとも、明慧ネットへのアクセスを標的にすべき「重大な事件」と見て、ウェブサイトの検閲を最優先事項とした。1999年7月から2004年4月までの間、明慧ネットに情報をアップロードまたはダウンロードしたために学習者が拘束されたり、投獄されたり、強制労働収容所に連行されたり、または拷問を受けたりした記録は少なくとも97件あった。中には、拷問によって死亡した学習者もいれば、15年もの懲役刑を言い渡された者もいた。以下は、その幾つかの事例である。

### 事例1：袁江さんは拷問の末に脱走し、負傷により死亡した<sup>(272)</sup>

袁江さんは1993年に法輪功を習い始めた。1995年に清華大学を卒業した後、彼は故郷の甘粛省に戻り、ボランティアとして法輪功の教室を運営し、蘭州市電通局傘下のITエンジニアリング会社の副社長を務めた。

1999年に法輪功への迫害が始まった後、袁さんは甘粛省の「明慧ネット」の主な窓口となり、現地の学習者とウェブサイト間における情報の収集及び提供の調整を担うようになった。

後に、袁さんは法輪功への信仰を放棄することを拒否したため、副社長職から降格された。2001年1月、更なる迫害を避けるために彼は家を離れることを余儀なくされたが、2001年9月30日に身分証明書を所持していなかったとしてバスの中で逮捕された。

逮捕後、甘粛省公安局の警官は袁さんを1ヶ月近く拷問した。10月26日、袁さんは何とか脱走したが、拷問で負った重傷と長期のハンストの影響で非常に弱っていた。歩行困難な状態下で彼はある洞窟に入り、4日間意識を失っていた。その間、2千～3千人の警官が彼の搜索のために蘭州市中に配置された。彼らは事実上、全ての学習者の家を検索したが、他の県や都市でさえも同様に搜索した。

袁さんはその後、洞窟から這い出て、ある学習者の家にたどり着いた。しかし結局、内傷で起き上がれなくなり、11月9日に亡くなった。洞窟を出た彼を見た学習者は、彼と分からないほどにやせ細っており、鼻と口から出血し、ほとんど動くことができなかったと振り返った。彼の右すねは黒く、肉片が欠けていた。

袁さんが亡くなった後、警察は大規模な搜索を行い、袁さんを助けていた多くの学習者を逮捕した。袁さんの実家も厳しく監視されていた。袁さんを助けた蘭州の学習者・于進芳さんは逮捕され、後に拷問されて死亡した。

事例2：28日間の拘留後、王潺さんは拷問により死亡。何も知らない母親は、息子が殴られているのを聞いていた<sup>(273)</sup>

王潺さんは中国人民銀行の本店で働いていた。迫害が始まったことを受け、彼は中国全土の政府部門に法輪功に関する真実の情報を送り、江沢民に手紙を書いて迫害を止めるように促した。江沢民の個人的な承認を得て、北京警察は1999年末、理由もなく王さんを3ヶ月間拘束した。

釈放された後、王さんは逮捕を避けるために家を出ることを余儀なくされた。

その後の3年間、彼は10以上の省を訪れ、その地域の学習者と明慧ネット間の通信チャンネルを確立させ、中国国内外の人々が迫害の最新情報をリアルタイムで受け取れるようにした。当局は王さんの逮捕に10万元の報奨金を提示した。

2002年8月21日午後、王さんは山東省梁山県のバス停で逮捕された。拘置所で、王さんは後ろ手に手錠をかけられた耐え難い状態で警官に素手や棍棒で殴られ、何日間も眠ることを許されず、28日間の拷問で死亡した。目撃者によると、王さんは重傷を負い、後頭部に大量の出血があったという。

王さんの死後、済寧市610弁公室と警察は王さんの2人の兄弟に、王さんが拷問によって死亡したことを母親に言わないように警告し、王さんの事件を上層部に訴えれば職を失うと脅した。9月16日に関係者から手紙を受け取るまで、王さんの母親は王さんの死を知らなかった。

王さんの母親である韓玉華さんは、王さんが逮捕された直後に逮捕された。母子は知らぬ間に同じ拘置所に収容されていた。韓さんはこう振り返った。

その数日間、毎朝の5時か6時に、警官が誰かを殴る音が聞こえていました。殴られているのが息子だとは想像もしませんでした。また、その数日間こそ、息子が亡くなる前に私と息子が最も近くにいたのだとは想像もしませんでした。自分の知らぬ間に、息子が自分のすぐそばで殴り殺されるとは、なおさら想像がつきませんでした。

息子が死んだ夜、私は騒動を聞きました。釈放された後に知ったのですが、それは息子が死の淵に立たされた時でした。加害者たちは私にバレることを恐れて何も言わず、私を兗州市拘置所に移送しました。彼らは息子の遺体を火葬し、私には知らせもせず、最後に息子に会わせてもくれませんでした。

### 事例3：学習者のレイプ暴露で「国家機密漏洩」の罪に問われ、40人以上逮捕、10人に判決<sup>(274)</sup>

魏星艶さんは重慶大学の28歳の大学院生であった。2003年5月11日に逮捕された2日後に、彼女は白鶴林拘置所の2人の女性囚人の前で警察官にレイプされた。魏さんは抗議のためにハンストしたが、強制灌食されて負傷し、話すことができなくなった。

重慶市の他の学習者が魏さんの事件に関する情報を明慧ネットに送った後、610弁公室は重慶大学に対して、魏さんが学生であること、そして彼女の専攻である「高電圧連続電流伝送」の存在さえも否定するように命じた。

同大学の張四平副学長は、米国のウォートン・ビジネス・スクールで行われたシンポジウムでこの事件について質問を受けた際、「我々の大学は信仰を理由に学生を退学させることはない...法輪功を除いて」と答えた。数日後、重慶大学は、魏さんが学生というより「キャバ嬢」とした通達を公表した。

一方、重慶市610弁公室は事件を暴露した人物を逮捕すべく、学習者40数人を逮捕した。少なくとも10人は「国家機密漏洩」の罪で、5年から14年の懲役を宣告された。明慧の記事を書いたとされる者と投稿者には、それぞれ懲役10年の判決が下された。

### 9.1.3 江の犯した罪

法輪功への迫害において、江沢民は拷問、集団虐殺、人道に対する罪などで、中国の法律と国際法の両方に違反した。

#### 9.1.3 (a) 中国憲法

1999年7月、江は民政部を通じ、法輪功が違法組織であると宣言した。民政部にはこの権限がないにもかかわらず、迫害の法的根拠として利用された。

それ以後、多くの学習者がその信念のために脅迫され、逮捕され、拘留され、拷問を受けてきた。これは、中国憲法の以下の条文に反している<sup>(275)</sup>。

#### 第35条

中華人民共和国公民は、言論、出版、集会、結社、行進及び示威の自由を有する。

#### 第36条

中華人民共和国公民は、宗教信仰の自由を有する。

いかなる国家机关、社会团体または個人も、公民に宗教の信仰または不信仰を強制してはならず、宗教を信仰する公民と宗教を信仰しない公民とを差別してはならない。

国家は、正常な宗教活動を保護する。

#### 第37条

中華人民共和国公民の人身の自由は、侵されない。

いかなる公民も、人民検察院の承認若しくは決定または人民法院の決定のいずれかを経て、公安機関が執行するのでなければ、逮捕されない。

不法拘禁その他の方法による公民の人身の自由に対する不法な剥奪または制限は、これを禁止する。

#### 第38条

中華人民共和国公民の人格の尊厳は、侵されない。いかなる方法によっても公民を侮辱、誹謗または誣告陷害することは、これを禁止する。

#### 第39条

中華人民共和国公民の住居は、侵されない。公民の住居に対する不法な搜索または侵入は、これを禁止する。

#### 第40条

中華人民共和国公民の通信の自由および通信の秘密は、法律の保護を受ける。国家の安全または刑事犯罪捜査の必要上、公安機関または検察機関が法律の定める手続きに従って通信の検査を行う場合を除き、いかなる組織または個人であれ、その理由を問わず、公民の通信の自由及び通信の秘密を侵すことはできない。

#### 第41条

中華人民共和国公民は、いかなる国家機関または国家公務員に対しても、批判及び提案を行う権利を有し、いかなる国家機関または国家公務員の違法行為及び職務怠慢に対しても、関係の国家機関に不服申し立て、告訴または告発をする権利を有する。但し、事実を捏造し、または歪曲して誣告陷害をしてはならない。

### 9.1.3 (b) 中国刑法

また、江は中国刑法の第247条、232条、248条、254条、234条(a)、236条、237条、37条(憲法)、238条、397条、399条、263条、267条、270条、275条、245条、244条、251条、234条、246条に違反した。

中華人民共和国刑法(以下、「中国刑法」)第247条は、「拷問による被疑者または被告人からの供述の強要」及び「目撃者から証言を引き出すための力の行使」を禁止している。

中国刑法第232条は、「故意に他人を殺傷すること」を禁止している。

中国刑法第248条は、刑務所、拘置所、及び他の看守所に収容されている被収容者を「殴ったり、身体的に虐待したりすること」を禁止している。

中国刑法第254条は、政府職員が「公務遂行の名目で告発者、請願者、批判者、情報提供者に報復したり、嵌めたりして、その権限を濫用すること」を禁止している。

中国刑法第234条a項は、「他人を組織して人の臓器を販売すること」、「人の同意なしに人の臓器を摘出すること」、「未成年者の臓器を摘出すること」、「他人に臓器提供を強要したり、騙したりすること」、「本人の生前意思に反して死亡者の臓器を摘出すること」、または「生前に臓器提供に同意しておらず、或いは死亡した者の近親者の意思に反して臓器を摘出すること」を禁止している。

中国刑法第236条は、「暴力、強制その他の手段により、女性を強姦すること」を禁止している。

中国刑法第237条は、「暴力、強要その他の手段によって女性を強要し、痴漢し、または凌辱すること」、または「群衆を集めて犯行を行うこと」を禁止している。

中華人民共和国憲法第37条は、拘留その他の手段によって公民の自由を不法に制限することを禁止している。

中国刑法第238条は、「不法に他人を拘束したり、自由を奪ったりすること」を禁止し、「国家机关の職員が権限を濫用して」この罪を犯した場合、より重い刑罰を課する。

中国刑法第397条は、国家机关の職員が「権力を濫用したり、職務を怠ったりして、公共の財産や国家・人民の利益に大きな損失を与えること」を禁止している。

中国刑法第399条は、司法関係者が「明らかに無実と分かっている者を起訴すること」、「刑事裁判で故意に事実や法律に反し、法律を悪用した判決を下すこと」など、「偏見を持って行動し、司法の目的を逸脱すること」を禁止している。

中国刑法第263条は、「他人の家に侵入して強盗をすること」、「強盗中に重傷を負わせたり死亡させたりすること」、「銃を使って強盗をすること」など、「力、強要、その他の方法を用いて公私の財産を奪うこと」を禁止している。

中国刑法第267条は、「公私財産の押収」を禁止している。

中国刑法第270条は、「他人の所有物を不法に奪取すること」を禁止している。

中国刑法第275条は、「公私財産を故意に破壊すること」を禁止している。

中国刑法第245条は、「他人に対し不法に身体捜索を行ったり、他人の住居を不法に捜索したりすること」、或いは「他人の住居に不法に侵入すること」を禁止しており、このような罪を犯した司法関係者に対し、より厳しい処罰を課する。

中国刑法第244条は、「暴力、脅迫、または個人の自由を制限する手段によって他人に労働を強要すること」、または「そのために人員を募集したり、輸送したり、その他の方法で援助を行うこと」を禁止している。

中国刑法第251条は、公民の信仰の自由権を奪い、少数民族の習慣を侵害することを禁止している。

中国刑法第234条は、故意に他人を傷つけることを禁止している。

中国刑法第246条は、他人を侮辱するために話を捏造したり、暴力で他人を侮辱したりすることを禁止している。

### 9.1.3 (c) 人道に対する犯罪

1983年4月18日に中華人民共和国が署名し、1983年7月17日に批准した「ジェノサイドの犯罪防止及び処罰に関する条約」、1986年12月12日に中華人民共和国が署名し、1988年10月4日に批准した「拷問及びその他の残虐、非人道的または品位を傷つける待遇または処罰に関する国際連合条約」に、江沢民は違反した。

拷問禁止条約第1条1は、「本人若しくは第三者から情報若しくは自白を得ること、本人若しくは第三者が行ったか若しくはその疑いがある行為について本人を罰すること、本人若しくは第三者を脅迫し若しくは強要することを目的として、または何らかの差別に基づく理由によって、かつ、公務員その他の公的資格で行動する者によりまたはその扇動により若しくはその同意若しくは黙認の下に行われる、身体的なものであるか精神的なものであるかを問わず、人に重い苦痛を故意に与える行為を禁ずる。

ジェノサイド禁止条約第2条は、「国民的、民族的、人種的または宗教的集団を全部または一部を破壊する意図」をもって行われる行為を禁じており、「集団構成員を殺すこと」、「集団構成員に対して重大な肉体的または精神的な危害を加えること」、「全部または一部に肉体の破壊をもたらすために意図された生活条件を集団に対して故意に課すること」など、様々な行為を禁じている。

また、江沢民は、国際司法裁判所の規約第38条(1)(b)項で定義され、法律として受け入れられ、さらに遵守されている国家間の一般的な慣行である慣習国際法にも違反した。中華人民共和国は国連憲章を批准したことにより、その一員となっている。慣習国際法は、迫害、強制亡命、人道に対する罪としての失踪、長期化する恣意的拘留などの強行規範の違反に対して普遍的な裁判管轄権を提供することを各国に義務づけている。

慣習国際法(CIL)は、迫害、強制追放、失踪、その他の非人道的な行為を含む、攻撃であるという認識を持った上で、あらゆる民間人に対して向けられた広範囲または組織的に行われる特定の一連の行為を、人道に反する犯罪として定義している。

強制失踪とは、国家や政治団体によって、或いは国家や政治団体の許可、支援若しくは黙認の下で個人が逮捕、拘禁、拉致された後、その自由を剥奪したことを認めず、またはそれによる失踪者の消息若しくは所在を隠蔽することを伴い、かつ、当該失踪者を長期間に亙り法律の保護の外に置くことと定義されている。

強制追放とは、追放またはその他の強制的な行為によって、1人または複数の人を別の場所に移動させることと定義されている。

迫害とは、政治的、人種的、国民的、民族的、文化的、宗教的、性別的な理由で、特定のグループまたは共同体に対して行われる行為であり、そのグループまたは共同体の同一性を理由に、国際法に反して基本的権利を意図的かつ深刻に奪うことを伴うものと定義されている。

慣習国際法の強行規範は、人に対する長期に亙る恣意的な拘留を禁止している。

### 9.1.3 (d) ジェノサイド

法輪功への迫害は、1999年7月20日に共産党の前指導者・江沢民によって発動された。政府機関、法律、政策、国家機関全体を濫用することで、彼は肉体的にも精神的にも何千万人もの学習者を弾圧した。

1998年7月17日に国連が公表した国際刑事裁判所ローマ規約第6条と第7条によると、江の過去20年間の学習者への迫害は、ジェノサイドと人道に反する罪に相当する<sup>(276)</sup>。

国際刑事裁判所ローマ規約第6条では、「集団虐殺」を次のように定義している<sup>(277)</sup>。

国民的、民族的、人種的または宗教的集団の全部または一部を破壊する意図をもって行われた次の行為のいずれをも含む。

- (a) 集団構成員を殺すこと。
- (b) 集団構成員に対して重大な肉体的または精神的な危害を加えること。
- (c) 全部または一部に肉体の破壊をもたらすために意図された生活条件を集団に対して故意に課すこと。
- (d) 集団内における出生を防止することを意図する措置を課すること。
- (e) 集団の児童を他の集団に強制的に移すこと。

規約第7条では、「人道に反する罪」が次のように定義されている。

攻撃であるとの認識があった上で、あらゆる民間人に対して行われた広域的または組織的な攻撃の一環としての次のいずれかの行為をいう。

- (a) 殺人
- (b) 絶滅させる行為
- (c) 奴隷化すること
- (d) 住民の追放または強制移送
- (e) 国際法の基本的な規則に違反する拘禁その他の身体的な自由の著しい剥奪
- (f) 拷問
- (g) 強姦、性的な奴隷、強制売春、強いられた妊娠状態の継続、強制断種その他あらゆる形態の性的暴力であってこれらと同等の重大性を有するもの
- (h) 政治的、人種的、国民的、民族的、文化的または宗教的な理由、3に定義する性に係る理由その他国際法の下で許容されないことが普遍的に認められている理由に基づく特定の集団または共同体に対する迫害であって、この1に掲げる行為または裁判所の管轄権の範囲内にある犯罪を伴うもの
  - (i) 人の強制失踪
  - (j) アパルトヘイト犯罪
  - (k) その他の同様の性質を有する非人道的な行為であって、身体または心身の健康に対して故意に重い苦痛を与え、または重大な傷害を加えるもの

## 9.2 他の主要加害者

### 9.2.1 羅幹

2002年から2007年まで、羅幹は中国の最高指導者の1人として、9人からなる政治局常務委員会のメンバー及び中央政法委員会の書記を務めた。羅幹の任期中、中央政法委員会は中国で最も強力な政治オフィスの一つとなり、資金力のある官僚組織となった。また、彼は2003年から2007年まで、法輪功問題を処理する中央指導グループのトップを務めた。

迫害が最も深刻だった2001年から2003年にかけて、羅幹は少なくとも8回の演説を行い、中国の政治と司法系統に法輪功を最も重要な「攻撃対象」としてリストアップすることを求めた。学習者に対する集団虐殺は、当時も今も、公然と組織的に行われている。

羅幹が演説し、どこかに赴き個人的に地方の「進捗」を監督する度に、その地域や中国全土の学習者に対する迫害が激化する。例えば、羅幹が「法務部教育改革業務に関する経験交流及び報奨会」（別名「改革演説」）で演説した2日後の8月29日、博訊ニュースネットは、「北京は法輪功迫害の取り組みを強化し、法輪功を3ヶ月以内に根絶する計画だ」と報じた。

国際社会が中共の法輪功に対する暴言が名誉毀損であることを知った後も、迫害に対する内部の反発も強まっているにもかかわらず、依然として羅幹は公の場で、法輪功を迫害する取り組みの強化を奨励する演説を行った。それには、2004年12月7日の「全国政治・司法実務会議」での演説、2005年2月の「求是」誌に掲載された記事、2005年8月25日の「国家公安部総会における英雄と模範」での演説などが含まれる。

2005年9月、羅幹が演説した数日後、中共は中国全土で大量の学習者を一網打尽に拘束し始めた。その多くは、ひどく拷問された。

羅幹は、いわゆる「長期的、複雑、困難な（状況）」について繰り返し話し、法輪功に対するキャンペーンが長期的で残忍なものであることを示唆した。例えば、彼は強制労働収容所が「人々の思想に徹底的かつ完璧に働きかけなければならない」と述べ、強制的な洗脳に言及した。

自らの意志に反して「転向した」人々が再び法輪功を行うことを防ぐために、羅幹は、「強制労働収容所は、学習者の職場と定期的に連絡を取り合い、フィードバックを受けるシステムを構築する必要がある。彼ら（学習者）が釈放されても、コミュニティと居民委員会は彼らに『思想』関連の働きかけを続けていくべきである。強制労働収容所は、『転向した』学習者の職場とコミュニケーションを図る枠組みを構築し、彼らが再び修煉しているかについて定期的にフィードバックを受けるべきである」と述べた。

羅幹の演説によると、迫害手法を列挙してみれば、「転向した」学習者に中共と協力させて他の学習者を「転向」させるほか、様々な手法の開発や、迫害のノウハウを収集し全国に拡散することなどが含まれているという。

### 9.2.2 曾慶紅

政治局補欠委員、中共中央委員会事務局書記、中共組織部部長として、曾慶紅は江沢民の法輪功迫害を支援した最初の高官の1人である。迫害の初期段階で、曾は法輪功との「闘争」を共産党にとって重要なテストだと表現した。彼は中共内の人員を管理する組織部の部長としての権限を利用して、他の幹部に迫害に参加するように圧力をかけた。

曾は、2001年1月23日の天安門広場焼身自殺事件（付録2を参照）というでっち上げを企画した1人であった。1月27日から2月1日まで、曾は江蘇省、湖南省などを巡回し、デマに基づき法輪功を誹謗中傷した。彼は、法輪功への弾圧に於いて、「重要課題として迅速に取り組み、少しも躊躇や軟弱な態度を示してはならない」と指示した。

2001年4月20日、北京で開催された農村の役人たちのための「思想学習教育」に関する全国会議で、曾は江沢民の「三つの代表」という政治理論に追従し、再び農村の人々に法輪功を弾圧するよう呼びかけた。

2001年10月1日（中国の建国記念日）の前に、曾慶紅と羅幹は個人的に「三号嵐作戦」を組織し、多くの学習者を逮捕した。この作戦の一環として、中央政府は各省にコンピューターネットワークの専門家を派遣し、「明慧ネット」へのアクセスを監視し、妨害した。また、警察は若者を一時的に雇い、24時間体制で主要都市の公民館や住宅地、道路を監視した。その結果、多くの学習者が拘束された。

曾は個人的に幾つかの地域でも迫害を指示した。例えば、2001年1月17日から23日までの間、曾は羅幹と共に湖南省に行き、羅幹は衡陽市に、曾は長沙市（湖南省の省都）に行った。6日間で、衡陽市では1600人以上の学習者が逮捕され強制労働収容所に連行された。長沙市で逮捕された学習者の人数は不明である。

3ヶ月後の2001年4月下旬、曾慶紅は安徽省合肥市に行き、4月29日と30日に彼の指示で数多くの学習者が逮捕された。

### 9.2.3 劉京

元公安副大臣、元中央610弁公室主任として、劉京は江沢民が起こした迫害の主な加害者の1人であった。劉は、学習者に信仰を放棄させる方法を考案し、警察にその場で学習者を射殺するように命令し、学習者の大量逮捕に向けて調整し、法輪功の名誉を毀損するために行われた「偽りの天安門焼身自殺」（付録2参照）の扇動に協力した。

学習者を「転向」させる方法を開発し推進した一例として、劉京は6人に学習者になりすまして馬三家強制労働収容所に潜入させ、法輪功の教えを捏造し、本物の学習者に誤解を与えることによって、法輪功を放棄させるように指示した。その後、劉京と羅幹は他の労働収容所、拘置所、刑務所に馬三家強制収容所で使われた「転向」の手法を採用させるために、省内各地で講演会を開いた。

2002年2月の旧正月の前に、劉は吉林省長春市の南湖ホテルで会議を開き、同省の学習者弾圧の効果が無いことを批判し、法輪功を「完全に排除せよ」という命令を出した。長春市公安局はその後、数夜連続で学習者に対する大規模な逮捕を行った。警官らは、法輪功に関するポスターを貼り、横断幕を掲げる学習者をその場で射殺する権限を与えられた。

2002年3月5日、学習者が長春でテレビ放送に割り込み迫害の情報を流した後、江沢民は参加者を「赦免なしに殺せ」と命令し、羅幹、劉京ら高官を吉林省に繰り返し派遣し、現地での弾圧を指揮させた。同月、長春市の当局は6,000人以上の警官を派遣し、5,000人以上の学習者を逮捕した。長春で拷問を受けた後、学習者たちは吉林省全域の刑務所に移され、虐待を受け続けた。少なくとも6人の学習者が殺され、15人の学習者が4年から20年の懲役を宣告された。

劉が中国代表として2000年と2001年の国連人権委員会の会議に参加した際、彼は法輪功を中傷したが、中国の学習者の逮捕や拷問は否定した。

#### 9.2.4 周永康

周永康は2002年12月9日、賈春旺の後任として公安部長官に抜擢された。前任者からの引き継ぎ期間中、APAとロイターの報道によれば、法輪功に対する「強硬な攻撃キャンペーン」の新しい管理者としての周の役割が強調された。例えば、APA（北京版）は2002年12月9日付「中国に新たな公安大臣が誕生」という記事で人民日報が周の就任を発表したことを再掲し、周の前職である警察署長としての重要な業績の一つが法輪功に対する「強硬な攻撃キャンペーン」であると強調した。

2002年12月26日、英国放送協会（BBC）は、「中国公安部長官、法の執行基準の改善を要請」の中で、周のテレビ会議における発言を報道した。その中で、周は中国全土の公安機関に対して、「特に、法輪功というカルト組織を含む国内外の敵対勢力が起こすトラブルや党への毀損活動を厳しく警戒し、『強硬に攻撃する』ことを強く求めた」と述べた。

2004年5月28日、中国通信は、公安部が開催した閣僚会議での周の発言を次のように報じた。「彼は更なる効果的な措置を取らなければならないと強調し、不法で犯罪的な活動を厳しく取り締まり、内外の敵対勢力、暴力的なテロリスト勢力、民族分裂勢力、宗教過激派勢力、法輪功のようなカルト組織の活動動向に細心の注意を払い、嚴重な予防措置を取り、彼らの妨害的で破壊的な活動を『強硬に攻撃する』ことを強調した」。周の迫害への直接的な参与は、主に610弁公室の管理を通じて行われた。学習者を逮捕、拘留し、洗脳し、拷問した警察と治安部隊（610弁公室の人員を含む）は、周が担当していた公安部の下にある省及び/または市レベルの公安局からの命令を受けていた。

### 9.2.5 李嵐清

中央610弁公室の初代責任者として、李嵐清は江沢民の迫害的な言葉に加えて、自身のイデオロギー的な影響力と地位を利用して、江沢民の「闘争」キャンペーンを遂行した。例えば、2001年2月、李嵐清は国家賞の会議で、中国の治安部隊のメンバーらが法輪功を「闘争」と「転向」に服従させたことを称賛し、更に党と政府レベルの責任者らに、党の信頼と目標を強化するために、法輪功に対する「闘争」キャンペーンの継続的な遂行を指示した。李は1999年6月から、退任する2002年11月まで610弁公室の責任者を務めた。

## 第10章 迫害を主導する組織

中共は政権を握って以来、法律に基づく支配よりも党による支配体制を確立してきた。党の意思決定は司法と刑罰制度の上であり、法の執行と司法の機関は党のための単なるゴム印となっている。最高人民法院の元院長である江華はかつて、「戦時中は、人民軍であろうと革命基地であろうと、中の誰が逮捕されるべきか、或いは殺されるべきかの決定権は党委員会に委ねられていた。以来、人々はこのルールに従ってきた」と述べた。

何十年にもわたる洗脳により、共産党政権は、法律が与党の意志の反映であり、与党の利益を守るために作られたものだと国民に信じさせることに成功した。その結果、「法律よりも政治に従うべし」が中国の政治と法制度の中での暗黙のルールとなった。

省、市、郡、自治区を含む様々なレベルの党委員会には、それぞれの政治法務委員会（PLAC）があり、法の執行と司法機関を監督している。ほとんどの党委員会書記は同時にPLACのトップを務め、複雑な権力ネットワークを構築している。

1999年に法輪功への迫害を命じた後、江沢民は更にPLACに弾圧キャンペーンを実施する権限を与えた。PLACと610弁公室は協力して（多くの場合、事務室と責任者を共有している）政府資源を統制し、学習者を逮捕、拘留し、判決を下し、洗脳し、更に生きている学習者から臓器を摘出して中国の臓器移植システムに供給している。各レベルにおいて、PLACは610弁公室が実行する迫害戦略を定めている。

### 10.1 共有されたリーダーシップと資源

1999年6月に江が610弁公室を設立した後、既存の役職に加えて、多くのPLACの副秘書は610弁公室の責任者に任命された。例えば、江西省万安県のPLACの副書記である肖相信は、610弁公室の主任でもあった。

PLACも610弁公室も、違法性を隠すため対外的な別名称を使うことがある。例えば、黒竜江省大慶市では、PLACの表札に「市社会的安全保障総合管理委員会事務所」と書かれ、610弁公室は「市カルト防止及び処理役場」として知られていた。

2010年夏、湖北省武漢市で開催された610弁公室の年次報告会で、中央社会安全保障総合管理委員会の前責任者である周永康は、江沢民が中国で法輪功を根絶するようにと命じたことを繰り返し述べた。また、迫害を継続するため、610弁公室にさらに多くの資金を配分した。

### 10.2 警察、司法、刑罰制度の統制

ほとんどの民主国家では、警察、検察、裁判所がそれぞれ独立して機能し、相互牽制機能を果たしている。しかし、中国ではそうではない。法執行機関と司法機関は1999年の法輪功への迫害

が始まる前からすでに党の監督下にあったが、江沢民と610弁公室は、法の支配を優先しながら迫害政策を遂行するため、この統制を強化した。

例えば、最高人民検察院と最高人民法院の院長と法務部長官は、いずれもPLACの構成員であり、公安部とPLACの元責任者である周永康と孟建柱に報告しなければならなかった。多くの地方の検察官や裁判官も同様に、地方のPLACのトップでもある警察に報告しなければならない。この統制の強化は、中国における公安の権力の急速な拡大にも寄与した。

このような構造は、法執行と司法制度が公正で正義に基づいて運営されることを不可能にしている。法輪功への迫害において、学習者は見せしめの裁判を受け、その判決はPLACと610弁公室によって事前に決められている。

一例として、四川省西昌市の高德玉さん（68）は2009年9月に、法輪功を修煉したとして逮捕された。高さんの弁護士は、彼女と面会するのに大変な苦勞をしていた。西昌市PLACの副所長である劉は彼女の弁護士に、「私と法律の話をするな。私たちは法律に従わない」と言った。1年後、西昌裁判所の裁判官は高さんに12年の懲役を言い渡した。

河北省では、遷安市裁判所は2009年12月6日、6人の学習者に7年から8年の懲役を言い渡した。馮小林裁判長は、「法輪功に関わる案件の場合、法に従わない」と学習者の家族に言った。

湖南省宜陽市の別の裁判官は学習者の張春秋さんに「目下、法輪功の弾圧にあたっては、党の力は法律を上回っているのだ。私たちは（判決を言い渡す）手続きをする以外、何もできない。だからこのことで私たちを責めても仕方がない」と言った。

江蘇省蘇州裁判所の顧迎慶裁判官は、2008年12月17日に懲役4年の判決を受けた路通さんの娘に、「法律が政治に優先されることを期待してはいけない。政治の話をしているのだから、私と法律の話をして無駄だ」と言ったことがある。

吉林省農安県610弁公室の馬主任はある学習者にこう言ったことがある。「ここで決めるのは私たちです。法律ではなく政治の話をします。苦情を申し立てたいなら、どこにでも好きなところに行きなさい」

学習者が投獄されると、PLACと610弁公室は彼らを洗脳して信仰を放棄させるよう看守に命じる。転向率、すなわち信仰を放棄する学習者の数は、看守の昇進とボーナスに結びついている。その結果、看守らは転向率を上げて自分の利益を得ようとして、厳しい拷問を行うようになった。看守の中には、「転向か火葬かのどちらかだ」と学習者を脅す者さえいた。

### 10.3 610弁公室

610弁公室は、中共で専ら法輪功の弾圧とその根絶のために設立された組織である。これは違法なスパイ組織であり、上層部では高い秘密性を保持しているが、下層部では全てがあからさまになっている。その機能には、法輪功の弾圧に関連する戦略の立案から全ての活動を計画し、指揮す

ることまでが含まれている。そして任務遂行のため、中国の法律と中国の憲法に違反して、司法制度（警察、検察、裁判所）を含むあらゆるレベルの政府部門を統制する権限を実質的に与えられている。

政府のあらゆるレベルだけでなく、国家保安局、警察部門、大学、学校、政府機関、大企業にも610弁公室が設置されている。610弁公室の工作人員は対外関係、インターネットの監視、外資系企業、旅行業界、犯罪活動などの分野で活動してきた。

数回にわたる調整や強化、名称変更を経たが、610弁公室は依然として法を超越している。その担当領域は地下教会だけでなく、他の宗教団体や気功団体にも広がっている。

### 10.3.1 設立と拡大

1999年6月7日、中共政治局の会議で、江沢民は「法輪功への対処」の緊急性について演説し、法輪功を根絶するための戦略を迅速に策定するため、中央委員会は対策本部を立ち上げるだろうと発表した。対策本部は政治局常務委員会の李嵐清が主導し、2人の政治局員である羅幹と丁関根が補佐する。

こうして、3日後の1999年6月10日、「法輪功問題を処理するための中央指導グループ」が結成された。そのメンバーは最高人民法院、最高人民検察院、公安部、国家安全部、宣伝部、外交部の職員で構成された。その活動部門は、「法輪功問題処理中央指導グループ事務所」、または「中央610弁公室」と呼ばれていた。

省、市、県、村、更には近隣レベルの中共下部委員会でもこの構造を反映し、独自の「法輪功問題処理指導グループ」と「法輪功問題処理指導グループ事務局」（610弁公室）を設置した。大多数はそれぞれの中共委員会のPLACに所属し、少数はそれぞれのレベルで党委員会事務局に所属していた。

省と市レベルの指導グループがいつ結成されたかについての文書は公開されていないが、多くの文書には、県・区・下層レベルでの事務所の設置と機能が記録されている。これらの地方の610弁公室は、中央の610弁公室に従う。都市部では、専任の役員を有する居民委員会に設置され、農村部では、610弁公室の設置と共に、村の党書記を長とする作業部会の設置も見られた。

中共中央委員会も国務院も、公開されている組織構造や公式プレスリリースではこの組織の存在を公然と認めていないが、メディアの報道や地方政府のウェブサイトにはこの組織が登場している。中央610弁公室の存在は、国務院や各省庁、地方政府の文書やメディアの報道でも確認することができる。この組織の機密性は、毛沢東にしか答えず、膨大な法律外の権限を行使していた1960年代の「文化大革命のための中共中央委員会指導部グループ」に似ている。

### 10.3.2 違法性

610弁公室は法的手続きを経ず、中国の最高権力機関である全国人民代表大会の承認も得ずに設立された。また、中国憲法、具体的には第36条（信教の自由）と第89条（国務院の列挙された権限）にも違反している。

その機密性のため、610弁公室の多くの詳細は一般には知られていない。初期のニュース報道では「610弁公室」への言及も見られたが、中共中央委員会の公共政策、法的文書、政府の文書には登場しなかった。湖南省長徳市の政府ウェブサイトのあるスクリーンショットによると、長徳610弁公室は1999年7月に始動したが、その設置が湖南省党委員会によって正式に承認されたのは2001年3月であった。2年近くも「長徳610弁公室」は省の党委員会内の無登録団体として活動していた。その間の活動の事例としては以下のとおり。

1962年生まれの歐克順さんは長徳市臨澧県の学習者で、2001年1月12日に臨澧警察に逮捕され、長徳市麻薬リハビリセンター内の洗脳班に監禁された。長徳610弁公室とPLACの作業部会の職員らは、歐さんと他の多くの学習者に信仰を放棄するように強制した。彼らは欧さんを麻薬中毒者と一緒に拘束し、彼を拷問するように扇動した。ひどい殴打を受けて血を吐いた後、欧さんは8日後の1月20日に亡くなった。死因を隠すために、作業部会の職員たちは家族が到着する前に、欧さんを長徳で火葬するように命じた。

### 10.3.3 組織体制

創設された当初、中央610弁公室は一時的な官僚レベルの組織として中共中央委員会の直轄下に置かれたが、後に常設の省レベルの機関に昇格した。2010年時点での中国公務機関部門コードは959であった。

中央610弁公室設立時の責任者は王茂林で、後に公安副大臣の劉京が後任となった。2009年、劉は中央宣伝部副部長兼中央610弁公室副主任の李東生に交代した。他の元主任・副主任としては、徐海斌（常務副部長、羅幹の元秘書）、高以忱（国家安全部元副部長）、袁隱、王曉翔、董聚法などがいる。李安平は中央610弁公室の事務総長を務めた。

以下は、知られている部分の中央610弁公室の構造である。

- ・主任官房（総局とも呼ばれている） 官房長：王体先
- ・第1局（主任官房と同格か） 局長：王体先 副局長：李曉東 巡視員：宋全中
- ・第2局 局長：邵洪偉、副局長：高曉東
- ・第3局 情報なし

上記の三つの局の具体的な機能は今のところ外部には知られていないが、下記の地方の610弁公室の内部構造から少しヒントが得られる。各地方の610弁公室は地域によって若干異なるが、通常はどこも「官房」、「総務課」、「教育課」を設置している。県級市レベルの610弁公室は

通常、総務課と教育課で構成される。市レベルの610弁公室は通常、総務班と教育班で構成される。具体的な例として、江蘇省南京市六合区党委員会610弁公室は総務調整課、教育転向課、予防管理課によって構成されている。区レベルの610弁公室が三つの課を持つのは一般的ではない。それにもかかわらず、これらは中央610弁公局の三部門に対応することができる。

これらの支部のおおよその職責は次の通りである。

- ・官房：日常業務、管理業務の調整、メッセージの送受信・回覧、文書の草稿作成、公印の管理、機密事項、文書保管、会議の手配・企画。

- ・総務課：ファイリングや情報処理、総合調査、傾向分析、業務の検討、会議、機密保持、政治業務と人事、行政物流、日常業務。

- ・教育部門：法輪功に対する誹謗中傷的な宣伝、学習者を洗脳すること、学習者に信仰を放棄させること（「教育と転向」と呼ばれる）、連絡、調整、監督、検査、いわゆる法輪功問題を処理するための他の機関との調整。

要約すると、総務課は情報収集、情報分析、迫害戦略の策定に重点を置き、教育課は学習者に強制的に信念を放棄させるオペレーションを遂行する。

610弁公室の名称が有名になった後、「カルト問題防止・処理室」に変更された。一部地域では「安定維持室」と呼ばれている。例えば、山西省陵川県組織構造委員会の文書には、「陵川党委員会カルト問題予防処理室」と「陵川カルト問題予防処理室」という二つの名称があるが、その機能は変わらず、内部では「610弁公室」と呼ばれている。

### 10.3.4 人員構成

当初、610弁公室は臨時的機関と想定されていたため、当局は政治・法曹界の職員に組織の運営を兼任させた。例えば、ある警官が610弁公室に異動されても、彼は警察署内での職位と法執行権を保持したままである。このような人事は「610警察」と呼ばれることもあった。その人が党書記または特定機関の主任であった場合、彼は主任のままで法執行権はないが、学習者に対して特定の任務を遂行するよう、警察に命令する権限を得る。他の人員は検察庁、裁判所、宣伝部、司法局、財務局、控訴院などの機関から充当したとされている。

迫害が江沢民の予想していた3ヶ月をはるかに超えて続いたため、610弁公室は専属人員を擁する恒久的な組織となった。この「現代のゲシュタポ」が、北京の中央政府から全国各地の隅々まで詳細かつ完全な組織図を持っていることは、その周囲では高度に秘匿されていたにもかかわらず、限られた公開情報によって明らかにされている。

中国全土の610弁公室のシステム内で、どれほどの人員が働いているかを把握することは不可能だが、省、市、県、村、区レベルのすべての政府機関と非政府機関、党委員会にも610弁公室

が存在していることを考慮すると、その数が多いことに疑いの余地はない。全国的な610弁公室の存在は、法輪功に対する迫害の深刻さと規模をも反映している。

### 10.3.5 政府部門と営利企業に対する統制

610弁公室は警察、教育系統、大規模な国有企業、民間企業に支部を設置しており、社会のあらゆる分野で学習者を監視し、逮捕を命じることを可能にしている。

#### 10.3.5 (a) 警察系統

610弁公室などの機関は、江沢民が当初想定していた3ヶ月以内の法輪功根絶に失敗した。そこで江沢民は、2000年末か2001年初めの内部会議で、610弁公室を国家保安部、公安部、地方警察部に拡大するように命じた。

2001年、公安部は法輪功及び他の「有害な気功団体」に関する事件を処理するために、公安内部で特別な部署を設置することについて、第157号通達を発出した。この通達は、公安の中に「610弁公室」を設置したことを示している。

また、公安部は610弁公室の正式な本部として、第26課を追加した。一部の地域では、610弁公室は公安部の第一部局である国家安全部の下に置かれて、二つの異なる表札で同じ庁舎を共有している。国家安全部の部長または副部長が610弁公室の長となった。

610弁公室は警察系統だけでなく、検察庁、裁判所、司法部、刑務所系統、財務局、国家食糧管理局、商務省、宣伝部、連合戦線工作部など、あらゆる政府機関や部局に浸透していた。

#### 10.3.5 (b) 教育系統

迫害政策を推進し、法輪功を悪とする党のプロパガンダを推進するために、中共政権は省から市まで、総合大学や医科大学から中学校、更に小学校まで、教育系統の中に「610弁公室」を設置した。

2005年後半、610弁公室は吉林大学のキャンスマップに登場した。このことは、大学の党委員会事務所に所属していた立場から独立した運営体になったことを示している。しかし、このような動きは中国の大学では一般的ではない。610弁公室の多くはキャンパス内の党委員会の下に留まっている。2006年1月、吉林大学法科大学院の新指導部は610弁公室の人員を発表し、自らの組織内に610弁公室が存在していることを発表した中国初の法科大学院となった。

山東省淄博市では、2006年10月に張店区教育局が通達を出し、中学校・小学校を含む区内の全学校に、「各学校の状況に応じて、610弁公室を設置する方針を完璧に実行するように」と命令した。

### 10.3.5 (c) 郵便サービス

610弁公室は、法輪功関連の資料が入った手紙や荷物を検査するように郵便局に圧力をかけてきた。例えば、雲南省では、郵便局の職員が封筒を開けて、学習者が迫害に対する意識を高めるために書いた手紙を検査するよう要請された<sup>(278)</sup>。また、中国全土の郵便局は、学習者が最高人民法院と最高人民検察院に送った江沢民に対する刑事告訴状を保留していた（第12章に詳細）。

この種の政策は、中国憲法第40条（通信の自由とプライバシー）に違反し、中国郵政法、具体的には第35条（他人の郵便物の開封、隠匿、破棄の禁止）および第38条（郵便職員による権力の濫用）にも違反している。最後に、市民や郵便局員による他人の郵便物の開封、隠匿、破壊について規定した中国刑法第252条と第253条に違反している。

### 10.3.5 (d) 大企業

多くの国有企業や公的企業、民間企業にはそれぞれ共産党委員会を設置している。610弁公室も自然とこれらの組織に設置された。記録された例としては、貴州省六盤水市の水城鋳業グループや山東省泰安市の新鋳業グループなどがある。その他の例では、新疆生産建設隊第10師団という特別な経済・準軍事組織が、その住所録に610弁公室の主任の電話番号を記載していた。

#### 事例1：大慶油田は少なくとも27人の学習者を迫害して死なせた

迫害が始まって以来、中国の大企業の中では、大慶油田（ペトロチャイナ社の子会社）の学習者の死亡者数が最も多い。2013年4月時点で、この国有企業の少なくとも27人の従業員が法輪功を修煉したために迫害されて死に至り、大慶市の死亡した学習者数の40%、そして黒竜江省全体では5%を占めている<sup>(279)</sup>。

大慶油田の610弁公室は洗脳班を設置し、会社の各部署に法輪功を学んでいる従業員を洗脳班に送り拷問を受けさせるようにお金を掴ませたり、学習者の賃金とボーナスの支払いを保留したり、大慶警察と司法関係者に学習者の逮捕と投獄を指示したり、法輪功を誹謗中傷する宣伝資料を配布したりした。しかし対象となった学習者の多くは模範労働者であったため、610弁公室からの降格の圧力がかかっているにもかかわらず、上司が学習者に仕事を続けさせたケースもあった<sup>(280)</sup>。

#### 事例2：葛洲ダム水利センターの610弁公室の人員が学習者を迫害して死亡させた

湖北省宜昌市にある葛洲ダム水利センターの学習者は、610弁公室と八つの子会社の保安部によって暴行され、尾行され、脅迫され、洗脳された。

その中の1人である沈菊さんは1998年5月に法輪功を習い始め、健康が著しく改善した。迫害が始まった後、彼女は3回北京に行き、法輪功の正義を訴えた。彼女は逮捕され、宜昌市に連れ

戻された後、葛洲ダム水利センター第二公団の610弁公室の作業員と、国保警官の徐紅から大金を巻上げられ、監禁された。その後の数年間、警官と会社の役員は何度も沈さんを拘束し、洗脳班に監禁した。

長年にわたる身体的、精神的虐待の後、沈さんは24時間ほど昏睡状態に陥り、2006年1月10日に6歳の子どもを残して、34歳で病院で亡くなった<sup>(281)</sup>。

## 第11章 迫害の共犯者

第9章で論じたように、江沢民は党、政府、軍に対する支配力を利用して法輪功への迫害を推進した。政治法務委員会（PLAC）と610弁公室を通じて、江は迫害を中国国民の生活と仕事の一部にすることに成功した。個人の利益を得るために自ら進んで参加したにせよ、政治的な圧力と脅迫によって不本意ながら参加したにせよ、全国民は迫害に参加することを余儀なくされた。これには、ほぼすべての党、政府、軍事、教育、保健医療、金融、外交関係の組織が含まれる。

### 11.1 コミュニティレベルの当局

居民委員会は中共に特有のものであり、地区レベルで住民を監視するために使用されている。これらの地域委員会は雇用のための存在として見られ、歴史的に地位は低かった。しかし、1999年に法輪功への迫害が始まると、これらの委員会は中共のキャンペーンに欠かせない存在となり、着実に地位を向上させてきた。スタッフは公務員になり、公務員試験を受けなければならなくなった。また、年間1万元以上の俸給や退職金、医療費も支給されるようになった<sup>(282)</sup>。一部の居民委員会は独自の610弁公室を持ち、法輪功への弾圧を職務の一部として公然と挙げている。

山東省濰坊市奎文区の居民委員会は、法輪功に対する中傷キャンペーンを行った。スタッフは地区全体にキャンペーン資料を掲示・配布し、住民の家に入って口頭でメッセージを伝えることさえ行った。同区の桜園コミュニティは反法輪功展を開催し、200人以上の住民と学生に法輪功を誹謗中傷する76枚の展示板を見せ、非難する署名をさせた。このような活動を行い、コミュニティ内に警察・監視施設を設置することにより、桜園コミュニティは「模範コミュニティ」と認定され、市レベルの表彰を受けた。

これらの居民委員会はまた、金銭的な報酬によってインセンティブを与えられた。山東省の党委員会と政府は、反カルト協会を「先進的な」組織と称した。同協会は、迫害に参加した各コミュニティに5000元、各町区に1万元を授与した。2000年から2009年までの間に、同協会は総計345,000元（約545万円）の賞金を拠出した。

居民委員会は名誉毀損キャンペーンだけでなく、警察や司法機関と協力して学習者を調査・監視していた。委員会のスタッフは、しばしば自宅にいる学習者に嫌がらせをし、威嚇し、写真やビデオを撮り、法輪功の本を没収し、信仰を放棄する声明に署名するよう強要した。

### 11.2 外資系企業及び報道機関

自己検閲から積極的な協力に至るまで、多くの外資系企業と報道機関は直接的にも間接的にも中国政権の法輪功への迫害を支援してきた。

### 11.2.1 テクノロジー企業が検閲と監視のインフラ構築を支援

2000年、中国政権は「金盾（GFW＝グレート・ファイアウォール）」として知られるオンライン情報のフィルタリングと監視システムの導入を開始した。その要件は、政治局、政治法務委員会、国家安全保障省、610弁公室によって定義された。

グレート・ファイアウォールの開発に貢献した主要なテクノロジー企業には、シスコやノーテルが含まれている。漏洩したシスコの社内プレゼンテーションからは、自社製品がこのような目的に使用されることを認識していたことが明らかであり、あるスライドではプロジェクトの目標を「『法輪功』という悪のカルトと他の敵対要素との戦い」とし、中国政権の法輪功に対する中傷的なレトリックの言葉を引用していた<sup>(283)</sup>。ハーバード大学のジョン・パルフリー教授の2005年の研究によると、グレート・ファイアウォールは、法輪功を肯定的に報道する情報の100%をブロックし、反対派政党に関する情報の60%をブロックし、1989年6月4日の天安門事件に関する情報の50%近くをブロックし、ポルノサイトの10%をブロックしたという<sup>(284)</sup>。

### 11.2.2 外資系企業、中共からの検閲と学習者の解雇要求に応じる

2003年9月、ある学習者が深圳で、化粧品会社メアリー・ケイの中国子会社でスピーチを行う際、法輪功学習の肯定的な経験について話した。ある記者が当局に通報した後、3人の学習者が逮捕された。610弁公室はメアリー・ケイに法輪功に関する党の方針に従うように圧力をかけ、さもなければ中国での事業を中断させたり、中止させたりすると脅迫した。

メアリー・ケイはこの要求に応じ、全従業員に法輪功を学んだり、擁護したりしないという声明書に署名することを要求し、応じなければ解雇されると伝えた。そして何人かの従業員が署名を拒否したために職を失った。法輪功を支持する発言をした別の従業員は、中国当局に拘束された。

2003年11月17日、クリス・スミス氏、トム・ラントス氏、イレーナ・ロス＝レイティネン氏の3人の米国下院議員は、メアリー・ケイのCEOリチャード・R・ロジャース氏に手紙を送り、メアリー・ケイの中国子会社が従業員に求めている宗教的、精神的、政治的参加に関する声明書への署名を無効にすることを要求した。同社の広報担当者はフランス通信社（AFP）に、メアリー・ケイはすでにこの要求は撤回手続き中と述べたが、声明への署名拒否を理由に解雇された従業員がいることは否定した<sup>(285)</sup>。

### 11.2.3 国際報道機関は中共のプロパガンダを繰り返す

中共が中国の門戸を閉ざした過去の政治キャンペーンと異なり、法輪功に対するキャンペーンでは開始時から海外の報道機関に働きかけ、反法輪功のレトリックを世界中に広め、迫害に対する国際的な支持を得ようとした。迫害の初期には、世界中の多くの主要な報道機関がCCTVなどの中国国営メディアで放送された中共のプロパガンダを再放送した。今日でも、欧米のメディアが法輪功と

その学習者について言及する際、「カルト」、「信者」、「脅迫」などの中国政権による軽蔑的な言葉を依然として使用することがしばしばある。

その後、幾つかの国際報道機関は、中国政権による経済的なインセンティブまたは脅迫により、中共による法輪功の誤報を繰り返すか、或いは法輪功問題について沈黙を守った。一例として、カナダの北京語放送局であるTalentvision TVは、北京で学習者が殺人事件を起こしたと虚偽の告発をしたCCTVの番組を再放送した。カナダのラジオ・テレビ・電気通信委員会は2002年8月16日、北京での殺人事件に法輪功が関係しているというTalentvision TVの主張は事実に基づく証拠がなく、同委員会の職業倫理規定の複数の方針に違反しており、法輪功を攻撃するに等しいとの判断を下した。委員会は同放送局に対し、上記決定をゴールデンタイムに放送することを要求した<sup>(286)</sup>。

中国政権は経済的な結びつきと広告費を利用し、海外のメディアが法輪功を取り上げないようにしていると考えられている。同時に、中共のプロパガンダ・キャンペーンを拡大するために、中国日報の折り込み広告を取扱うよう、大手新聞社と取引をしていた。

### 11.3 迫害の実施に加担した中国政府関係者

第9章2節に記載された主要な加害者たちは、主に迫害を開始したことに責任を負う一方で、以下の官僚らはキャンペーン後期に採用され、比較的中心的な役割までは果たしてはいなかったものの、自らの政治的地位を強固なものとするために迫害を積極的に推進し、学習者に計り知れない苦しみを与えた。

#### 11.3.1 李東生

1993年1月から2000年7月まで、中国中央電視台（CCTV）の副局長として、李東生は中共の法輪功に対する全国的な宣伝キャンペーンを行った。1999年6月に610弁公室が設立された際、彼は副局長に任命され、宣伝を担当した。2009年10月に劉京が退任した後、周永康は李を公安副部長と610弁公室の責任者に任命した。

李は、CCTVのゴールデンタイムに放送された時事問題に関する人気番組「フォーカス」で世論に影響を与えた。同番組は1999年7月21日から2005年末までの6年半の間に102回の反法輪功番組を放送した。1999年7月から12月までの間だけでも、70話ものエピソードがあった。

李はまた、天安門広場で行われた焼身自殺事件でも主要な役割を果たし、宣伝キャンペーンを新たなレベルに押し上げた。

### 11.3.2 薄熙来

遼寧省大連市の市長を務めた後、法輪功に対する江沢民の弾圧キャンペーンを積極的に実行したのは、薄熙来である。彼は刑務所と労働収容所を拡大しつつ、新たな収容所も建設した。

信仰の権利を訴えるために北京を訪れた学習者の多くは、新たに建設された収容所や刑務所に連行された。薄は法執行機関の全員に、学習者を殴り殺すよう命令を下した。また、彼は江の「肉体を破壊せよ」という命令を実行するにあたり、大連で学習者の臓器を摘出し、死体のプラスチックシンプロセスを主導した。薄は、直ちに遼寧省の省長に昇進した。

薄が2007年に重慶市の党書記に就任した後、重慶市では相次いで学習者が逮捕され、拘束され、洗脳班に連れて行かれた。

### 11.3.3 聞世震

1997年8月から2004年12月まで、遼寧省の党書記を務めた聞世震は、自らの地位と影響力を利用して、江沢民の法輪功に対する「闘争」の命令を実行した。1999年7月、彼は他の党指導者に「江沢民の中共中央委員会の命令に従って、わが省の法輪功を排除するように」、彼らに打ち勝つために拷問を使ってイデオロギーを転換させるように指示した（転向と言う）。1999年10月、江沢民がフランス新聞「ル・フィガロ」に誤った情報を流し、人民日報が江沢民の嘘を掲載した翌日、聞は遼寧省の党指導者に、江沢民の法輪功に対する誹謗中傷に基づいて、「闘争」キャンペーンを推進するよう促した。

### 11.3.4 王茂林

王茂林は最初に中央610弁公室を率いた人物で、江沢民の法輪功に対するキャンペーンを積極的に実行した。例えば、王は、影響力のある党の著書『法輪功と悪のカルト』の序文で、この本が「法輪功との戦いの重要性と必要性をよく説明している」と主張している。

### 11.3.5 丁世発

遼寧省PLACの書記である丁世発は、法輪功の弾圧を促進するために、聞世震の発言を強化した。1999年10月、彼は遼寧省の同志たちに「政治的な最大限の熱意を持って『反法輪功』の『闘争』に熱心に参加し、勝利するように」と促した。

1999年7月早々、丁は遼寧省の党組織部、宣伝部、公安局のスタッフを率いて胡蘆島市に行き、現地の役人に中共中央指導部の（江沢民が発表した）戦略を厳格に実行し、法輪功へのキャンペーンを成功させるように要求した。

### 11.3.6 張行湘

遼寧省党委員会副書記を務めていた張行湘は仲間の役人、特に胡蘆島の役人に「法輪功に対する長い『闘争』キャンペーンに備えるように」と促し、法輪功を「党の敵」と位置付けた。

## 第12章 江沢民に対する20万件を超える提訴

中国では、数人の学習者が2000年8月に江沢民を相手にした最初の訴訟を起こそうとした時、当局はあっさりとして訴状の登録を拒否した<sup>(287)</sup>。その後の数年間、中国国外で独自に幾つかの訴訟が起こされたが、中国の学習者が訴状を法廷に提出する際は常に障害に直面していた。

2015年5月1日、最高人民法院は新たな「登録制度改革」を実施し、全ての刑事告訴は、ひとたび裁判所が受理すれば登録されなければならないと規定した。多くの学習者は、法輪功への迫害を始動させ、学習者に多大な被害と苦痛を与えたとして、江沢民を訴える法的権利を行使し始めた。

### 要旨

法輪功への迫害を指示することによって、江沢民は中国憲法、中国刑法、そして拷問や集団虐殺、人道に対する犯罪に関する国際法に違反した。また、江は政府の各省庁に法的権限のない行動を実行するように命じた。

江に対しては209,908件の訴訟が最高人民法院と最高人民検察院に提出されている。2015年5月末から12月31日までの間に、201,803人が江に対して刑事告訴を行い、そのうち171,059人が明慧ネットにコピーを提出した。郵送された告訴のうち134,176人分(78.4%)が配達済であることが確認された。そして多くの地域の地方当局は、江に対する訴訟を提起した原告に報復を行った。報復事例には、嫌がらせや尋問、逮捕、更には実刑判決まで含まれている。2017年末、江を訴えた及び/または依然法輪功を修煉している学習者を追跡するために、中共は「ドアを叩く」キャンペーンを開始した。

### 12.1 江沢民に対する刑事告訴の事例

江沢民に対する告訴状は最高人民法院と最高人民検察院に郵送されている。また、明慧ネットも多くの学習者から、江に対する刑事告訴状の写しを受け取っている。

以下は、これらの訴訟事例から抜粋したもので、法輪功を修煉し、信仰の自由の権利を政府に請願ただけで、度重なる残忍な虐待を強いられた様子が記述されている。3人の告訴人は拷問によって死亡してもおかしくなかった。そのうちの1人である楊志強さんは、警察に拘留中の容赦ない虐待の結果、妻も亡くした<sup>(288)</sup>。

#### 事例1：羅智慧

故郷：河北省石家荘市

訴状提出日：2015年6月8日

64歳の羅智慧さんは石家荘市の橋西食糧供給センターで働いていた。彼女は1997年に法輪功を習い始め、重度の貧血から完全に回復した。健康が改善したことと法輪功から得た精神面の導きに感謝し、羅さんは迫害の停止を繰り返し訴えた。羅さんは20回以上逮捕され、労働収容所、精神病院、洗脳班に収容されている間、拷問され毒を盛られていた。

羅さんが最初に拘束されたのは1999年10月、法輪功のために訴えようと北京を訪れた時だった。彼女は何ヶ所もの警察署や拘置所に拘束され、少なくとも計55日間拘束されていた。警察は「飛行機を飛ばす」、「剣を背負う」（片手を肩に掛けて背中で手錠をかける）などの拷問を行った。彼女は8日間連続で椅子に拘束され、トイレを使う時も椅子を持ち歩かなければならなかった。

2000年3月、羅さんは自宅から連れ出され、精神病院に10日以上拘束された。彼女は「死人ベッド」と灌食による拷問を受けた。

羅さんは2000年5月と2001年7月に再び北京を訪れ、法輪功のために政府に陳情したが、2回とも逮捕された。1回目は強制労働を1年間、2回目は3年間の刑を言い渡された。労働収容所では、看守らは羅さんを何度も平手打ちし、壁に頭を叩きつけ、髪を引き抜いた。そして彼女をヒーターに鎖で繋ぎ、眠れないようにした。長期間の睡眠不足により、彼女は高血圧症になった。

また、看守らは羅さんの食事に薬物を入れるように囚人に指示し、めまいや物忘れを起こさせた。羅さんは強制労働を強いられ、一睡もせずに48時間働かされたこともあった。

彼女は健康状態があまりにも悪化したため、数ヶ月間、治療のために一時的に釈放されたが、仮釈放中に彼女が再び法輪功の陳情のために北京に行ったため、警察は彼女を労働収容所に戻した。

2008年の北京オリンピックを前に、警察は羅さんの自宅に押し入って彼女を逮捕し、3年半の懲役を言い渡した。しかし、彼女の健康状態があまりにも悪かったため、どの刑務所も受け入れようとしなかった。警察は羅さんを釈放せざるを得なかった。

## 事例2：董明

故郷：吉林省長春市

訴状提出日：2015年7月17日

45歳の董明さんは吉林省の技術情報研究所で働いていた。法輪功を修煉していたため、彼は雇用主から解雇され、6回逮捕され、3回強制労働収容所に連行され、そこで合計3年9ヶ月を過ごした。

董さんは1999年12月23日に法輪功の陳情で北京に行き、15日間拘束された。釈放された後、法輪功を放棄することを拒否したため解雇されたが、彼は主張し続けた。2000年12月31日、彼は再び北京に行き、法輪功のために訴えた。その時、彼は8日間拘束された。警察は彼の肋骨と顔を殴り、肉が剥き出しになるまで箸で彼の手指を絞り、激しく灌食し、口や歯茎に傷をつけた。

董さんは2001年3月、広西チワン族自治区での法輪功体験交流大会に参加中に3度目の逮捕を受けた。彼は警察署と洗脳班に1ヶ月以上拘束され、ハンストを行った後、灌食された。その後、彼は隔離され、法輪功を誹謗中傷するビデオを見ることを強制され、家族に会うことも許されなかった。

2002年3月13日、董さんは逮捕され、16ヶ月間労働収容所に収容された。看守は板で彼を殴り、板は三つに割れてしまうほどだった。また、彼は「小さな椅子」に長時間座らされ、トイレの使用も制限された。腰を蹴られたため、激しい痛みが1ヶ月間続いた。家族との面会も許されず、刑期終了後すぐに洗脳班に連れて行かれた。

2004年5月27日、董さんは別の学習者の家を訪ねた際に逮捕され、16ヶ月間労働収容所に入れられ、「トラの椅子」で拷問された。看守は、彼が気絶するまで何度も氷水をかけた。彼の鼻には、わさび油も入れられた。労働収容所での刑期が終わった直後、彼は再び洗脳施設に入れられたが、抗議のためのハンストを行った後、すぐに釈放された。

2007年7月、警察は董さんの店で彼を逮捕し、所持品を没収した。そしてその一部は、返却もされなかった。警察は董さんを殴り、未開封の水筒で頭を殴った。その後、董さんは1年28日間の労働収容所での監禁を強いられた。

### 事例3：楊志強

故郷：天津市

訴状提出日：2015年8月15日

61歳の楊志強さんが妻と自分のために訴訟を起こした。妻の董玉英さんは法輪功を信仰していたため、天津市女性労働収容所で3年10ヶ月を過ごした後、死亡した。収容所では、警察は彼女の膾に4本の歯ブラシを挿入して拷問し、性的暴行を加えた。彼女は殴られて灌食され、3本の歯を失い、体重は80kgから40kgになった。董さんは労働収容所から帰宅して4ヶ月後の2005年3月17日に亡くなった。

楊さんは3回逮捕され、計19ヶ月と15日間拘留された。彼が最初に逮捕され15日間拘留されたのは1999年7月20日、法輪功のために妻と共に北京に訴えに赴いた時だった。

夫婦は1999年10月に再び北京に赴いた。妻は1ヶ月以上拘束され、釈放されるまでに1万円の支払いを強要された。楊さんは18ヶ月間労働収容所で強制労働を課され、ゴムのバトンで殴られた。看守はスタンガンで彼の頭と身体に長時間の衝撃を与えた。15年後の今も、楊さんは身体のあちこちに傷跡が残っている。

妻が2000年から2004年にかけて労働収容所にいた時、楊さんは1ヶ月間洗脳班に連れて行かれ、子どもたちは放置されていた。

### 事例4：中国の元判事が江沢民を刑事告訴<sup>(289)</sup>

遼寧省錦州市の元裁判官・孫靈華さんは6月8日、中国最高人民検察院に対して江沢民を告訴した。孫さんは法輪功を信仰していたために解雇され、労働収容所や刑務所で拷問を受けた。

孫さんは錦州市義県裁判所経済部主任判事及び行政部主任判事に任命され、1995年と1996年に錦州市司法系統の模範職員として表彰された。

孫さんは遼寧省の悪名高い馬三家強制労働収容所に3回投獄された。2003年6月、彼女は7年半の実刑判決を受けて大北刑務所に送られ、重労働を強いられ、信仰を放棄するように圧力をかけられた。孫さんは実刑判決を受けた直後に仕事を解雇され、以来、無職の状態が続いている。

訴状の中で、孫さんは自ら担当した事件の当事者の女性が、自分が拘置所に収容されていた時に訪ねてきたことを思い出して、こう書いた。「その女性は拘置所の警察に『この地域には100人ほどの裁判官と裁判所職員がいるが、賄賂を拒否するのは恐らく孫靈華さんだけでしょう。そのような誠実な人が刑務所に入れられるべきではありません』と言った」

多くの人が彼女を支持し、迫害を非難していた。孫さんはこう振り返った。「拘置所のある警官が、私の道徳観を尊敬していると言ってくれたことがあります。私が勤務していた職場の上司は、拘置所に面会に来てくれた時、泣いていました。彼女は私を出すために最善を尽くすと約束しました」

法輪功を修煉する前の孫さんは腰椎症、神経衰弱、リウマチ性心疾患、乳腺炎、大腸炎など、多くの健康問題を抱えていた。ある年、ある医師が彼女に法輪功を紹介した。1年間煉功した後、それらの病気はすべて治った。1996年以来、彼女は一度も病院に行ったことがなかった。

また、訴状の中で、孫さんは江沢民が人々を欺き、法輪功への憎悪を煽るために中傷的なプロパガンダを創作し、政府の役人に迫害に関与させ、そそのかしていたことを告発した。

### 事例5：元海軍提督が中国の元独裁者を提訴<sup>(290)</sup>

退役したPLA海軍提督が最高人民検察院に刑事告訴状を送り、中国の独裁者である江沢民が法輪功への残忍な弾圧を開始し、彼に多大な苦痛を与えたと告発した。

79歳の周彝提督は海軍航空宇宙工学院の准教授を退任した。彼は、江が憲法上の信教の自由の権利を侵害し、何も悪いことをしていない人に対する違法な逮捕、及び誤った監禁への扉を開いたと主張している。法輪功に対する迫害全般について、周さんは江が集団虐殺、拷問、人道に対する罪を犯したと主張している。

周さんは、最高人民法院が江に対し、法輪功を誹謗中傷して国民の憎悪を煽り、法輪功の創始者と、周さんとその家族を含む学習者に与えた苦痛を償うための公開謝罪を命じることを求めている。

## 12.2 統計データの要約

2015年5月末から12月31日までの間に、

- ・201,803人の学習者とその家族が中国の最高裁判所に対し、江を刑事告訴した。

・そのうち、171,059人が明慧ネットに写しを提出した。

・134,176件が最高人民法院と最高人民検察院に送達されたことが確認され、郵送された訴状全体の78.4%を占めた。

原告のうち、2,189人が台湾からで、他に28カ国、米国、カナダ、オーストラリア、韓国、ニュージーランド、タイ、日本、英国、マレーシア、ドイツ、オランダ、スウェーデン、シンガポール、フランス、スペイン、インドネシア、アイルランド、デンマーク、フィンランド、ノルウェー、イタリア、ポルトガル、スイス、ポーランド、ルーマニア、ベルギー、ペルー、ハンガリーなどからだった。

中国の原告は22の省、4つの市（北京、天津、上海、重慶）、5つの自治区（広西チワン族自治区、内モンゴル自治区、チベット自治区、寧夏回族自治区、新疆自治区）、2つの特別行政区（香港、マカオ）を含む33の省レベルの行政区から来ている。

2016年10月25日時点、江沢民に対する合計20万9908件の法的告訴が提出されている。

### 12.3 学習者に対する報復

多くの学習者は江沢民に対して刑事告訴をしたことで嫌がらせを受け、尋問され、逮捕され、判決を言い渡されることさえあった。2017年末、中共は、江を訴えた及び/または現在も法輪功の修煉を続けている学習者を追跡するために、「ドアを叩く」キャンペーンを開始した。

学習者に対する嫌がらせと逮捕の19,095件のうち、7,056件は江沢民に対する訴訟の報復である<sup>(291)</sup>。

#### 12.3.1 報復の例

##### 12.3.1 (a) 遼寧省朝陽市で判決を受けた36人<sup>(292)</sup>

2015年11月、朝陽市とその近郊地域の300人以上の地元住民が逮捕された。学習者たちは、中国の元独裁者である江沢民が法輪功迫害を開始したことに対して刑事告訴を行ったため、度重なる逮捕と拘留に晒された。地元当局はわずか数ヶ月の間に、逮捕された学習者を直ちに起訴した。現時点で、逮捕された者のうち36人が実刑判決を受けたことが確認されており、刑期は6ヶ月から12年までである。

以下は学習者たちの名前と、その刑期期間である。

1. 姜偉 12年
2. 劉殿元 11年6ヶ月
3. 李国俊 11年

4. 林夢芬 10年
5. 陳素英 9年
6. 馬岩華 7年
7. 林江梅 7年及び2万元の罰金
8. 吳金萍 7年
9. 謝建平 7年
10. 徐金鳳 7年
11. 尹秀芝 7年及び2万元の罰金
12. 周瑞学 6年6ヶ月
13. 宋志富 6年
14. 劉淑花 5年
15. 王国軍 5年
16. 王慶 5年
17. 王玉華 5年
18. 遲淑華 4年
19. 王志国 4年
20. 趙紅軍 4年
21. 張永奎 3年
22. 張海豊 3年
23. 李志宏 3年、4年の執行猶予付き
24. 劉珥萍 3年、4年の執行猶予付き
25. 孫連成 3年、4年の執行猶予付き
26. 徐秀華 3年、4年の執行猶予付き
27. 楊澤梅 3年、4年の執行猶予付き
28. 張為民 3年、4年の執行猶予付き
29. 趙洪学 3年、4年の執行猶予付き
30. 楊慶花 3年、4年の執行猶予付き
31. 呂新 2年、3年の執行猶予付き
32. 景菲 1年及び2千元の罰金
33. 任曼 1年
34. 霍会賢 6ヶ月
35. 沙錦堂 執行猶予（具体的な判決は不明）
36. 黄麗新 執行猶予（具体的な判決は不明）

### 1 2. 3. 1 (b) 中国の元独裁者を訴えたために判決を受けた夫婦<sup>(293)</sup>

賓川県の石建偉さんと妻の肖竹さんは、中国の元独裁者である江沢民が法輪功への迫害を開始した責任を負っているとして刑事告訴したため、共に実刑判決を受けた。この夫婦は法輪功を放棄することを拒否したため、17年間繰り返し迫害を受けた。訴状を提出した後、石さんは6年6ヶ月、肖さんは5年の懲役を言い渡された。2人は現在、不服の申し立てをしている。

#### ポイント1：隣接する県が弁護士の告訴を引き継ぐ

夫婦は2015年10月16日に逮捕された。石さんは賓川県拘置所に、肖さんは大理市拘置所に連行された。

彼らの弁護士は、彼らの信教の自由の権利を侵害した江に対して正義を求める憲法上の権利を守る過程で多くの障害に遭った。

二つの拘置所は、弁護士の依頼人との面会要求を計4回拒否した。賓川県内務保安弁公室の楊瑜主任は、夫婦の案件は国家安全保障に関係しており、弁護士との面会は許されていないと主張した。

弁護士はその後、楊を政府の関係機関に告訴した。

その後、賓川県検察庁の副検事は、弁護士が要請した夫婦の案件の再審理を拒否した。弁護士は副検事を告訴し、案件を別の管轄に移すよう要求した。

その後、賓川市検察庁の行政監督である大理市検察庁は、隣接する祥雲県検察庁と祥雲県裁判所に引き継ぎを命じた。

#### ポイント2：聴聞会への出席が制限される

今年6月23日、祥雲県検察は夫婦を起訴し、祥雲県裁判所で審理された。

夫婦の家族のうち、数人だけが傍聴席に入ることが許された。夫婦を支持するために訪ねてきた学習者たちは、法廷に入ることを禁止された。

#### ポイント3：リストに載っていない検事の登場

審理が始まるや否や、石さんは中共人員でもある裁判官や検察官が自分と妻を審理するには相応しくないと判断したため、裁判官や検察官の退席を求めた。これを受けて裁判長は休廷を命じた。

弁護士は、起訴状には1人しか記載されていないのに、更に2人の検察官が出席していることに気づいた。彼はその2人の検察官の身元を明らかにすることを要求した。

裁判長は当初この要求を無視したが、弁護士が手続き上の違反であると抗議し続けたため、彼は譲歩し、2回目の休会を宣言した。審理が再開したとき、追加の検察官らは身元を明らかにした。彼らは大理市検察庁の特別捜査官だった。

#### ポイント4：夫婦が警察に不利な証言をする

石さんによると、前述の内務保安主任の楊瑜は10人以上の部下に命令し、自分を計3回殴り、腕を背中にひねったり、背中と腹部を蹴ったり、押し倒されて頭を踏みつけられたと主張した。

肖さんは、警察による取り調べの間にも残虐な仕打ちを受けたと主張し、警察が娘の身の安全に言及して自分を脅したとも証言した。

夫妻は、法輪功への迫害を止めるために、できる限りのことをしなければならぬと感じており、江沢民を訴えることは一歩前進であると説明した。

夫妻は8月5日に判決を受けた。

### 12.3.1 (c) 警察は学習者に嫌がらせをする「ドアを叩く」キャンペーンを開始

2017年10月の中共第19回全国大会の前に、中国の多くの地域の警察は学習者たちの自宅を回った。警官らは「ドアを叩く」指令を実行していると述べた。

学習者たちは法輪功をまだ修煉しているかどうかを問われ、職業や生活についても質問された。警官の中には、悪意はないが、上司に報告しなければならないことがあると言った者もいた。

一部地域では、警官が学習者たちに、もう修煉せず、法輪功に関連する活動に参加せず、高等裁判所にも訴えないという「保証書」に署名させようとした。そして、家にパソコンやプリンターがあるかどうか、学習者がインターネットを利用しているかどうかを調べる警官もいれば、法輪功の本を没収する警官もいた。

警察が、共産党による法輪功への迫害が始まる1999年前にすでに修煉し始めていた学習者のリストを持っていることや、迫害を指揮した中国の江沢民前指導者に対して刑事告訴した学習者の名前を知っていることもよくあった。

#### » 全国的なキャンペーン

広東省樂昌市の警察は、1999年に警察に記録されていた学習者や、江沢民を訴える動きに参加していた学習者に嫌がらせをし、すでに亡くなった学習者の家族にまで尋問することさえあった。

山東省濰坊市奎文区では、警察と国内治安官は江沢民に対する刑事告訴を提出した学習者たちに嫌がらせをした。ビデオレコーダーを持ち込んで法輪功や迫害について話す学習者をチェックした。

遼寧省撫順市では、約100人の学習者が嫌がらせを受けた。地元の警察とコミュニティの職員は、上司の命令を受けて調査していると言い、学習者の家に行ったり、電話をかけたりした。一部の警察は学習者を写真またはビデオで撮影し、法輪功の本や資料を没収し、インターネットを利用しているかどうかチェックした。

山西省冠山鎮では、警察は学習者に最近連絡を取った相手と、まだ法輪功を修煉しているかどうかを質問した。彼らは学習者に法輪功を非難する文書に署名させようとしたが、成功しなかった。

河南省、江蘇省、江西省、寧夏回族自治区の学習者の中には、法輪功の修煉を放棄する声明書へ署名させようと脅される者もいた。一部地域の学習者は、確かに署名した。中には、迫害が始まった時に修煉を断念した者も多くいた。

## 12.4 社会的支持の増大

江に対する訴訟の動きは、中国の国内外で広く支持を集めた。

### 12.4.1 2016年報告書：1万4千人を超える人々が江沢民に対する起訴を呼びかける<sup>(294)</sup>

学習者でなくとも多くの人々が、中国の元独裁者が学習者に対する罪で裁かれることを求める動きに加わった。彼らは学習者が作成した請願書に署名し、支持した。

明慧ネットがまとめた情報によると、2016年5月時点で、江に対して刑事告訴を行った、または請願書に署名した人の数は計14,408人に上ることが確認された。

その内訳は、湖南省岳陽市の7,484人、安徽省臨泉市の1,522人、湖北省武漢市の1,207人、山東省萊州市の2,707人、遼寧省鉄嶺市の1,488人である。

### 12.4.2 台湾：新北市議会が元中国指導者の起訴を支持する決議を可決<sup>(295)</sup>

新北市議会は、「江沢民に対する訴訟を支持し、法輪功に対する迫害の即時終結を求める決議」を全会一致で可決した。

法輪功迫害を発動した中共元指導者の江沢民を告発する動きは、数十万人の被害者と支持者によって起こされていたが、新北市は2016年10月20日、この動きを支持する決議を可決した。これは、台湾の都市の中では13番目の可決となった。

「中共の17年に及ぶ法輪功迫害と生きたままの臓器摘出は許されない」と、決議案を提唱した鄭金隆議員は述べた。「新北市、台中市、その他の都市を含む民主的な政府は基本的人権を尊重している。これは台湾の普遍的な価値観である」

彼は、中国は急速な発展を遂げているにもかかわらず、人権に関しては遅れをとっていると述べ、「自由と人権は普遍的価値である。今回の決議案の可決は、400万人の新北市民の声を代弁している。これは中国政府に対して、人権の尊重、特に学習者の人権を尊重することを求めるものである」と鄭議員は付け加えた。

許昭興議員はインタビューで、「不当な扱いに直面し、私たちは学習者を支持する立場に立っている。彼らが自由のために戦い続けることを願っている。その戦いは、正しいことなのだから」と述べた。

「強制的な生きてままの臓器摘出は非人道的であり、生命の基本的な権利に反する」と林秀恵議員はインタビューで述べた。「信仰の自由は生命の一部であり、それを破壊すれば、世界中から非難を浴びることになる」

陳啓能議員は、「江沢民は自らの罪に対して責任を負わなければならない。学習者に権利が返還され、彼らの名誉も回復されなければならない」と強調した。

### 1 2 . 4 . 3 江沢民に対する法的措置を支持する請願書に260万人以上が署名

2017年12月8日時点で、260万人以上の人々が、法輪功迫害を開始した江沢民を裁判にかけることを求める請願書に署名している。これには、2015年だけでアジア7カ国（中国を除く）で集められた77万人の署名が含まれている。

これに署名したある中国人は、次のように説明している<sup>(296)</sup>。

1999年7月以前に法輪功を修煉してから病気が治り、健康になった母は、江沢民が法輪功への迫害を開始した後、恐怖心から法輪功の修煉をやめました。その後、彼女は寛容さを失い、しばしば他人を叱るようになりました。そして病気が再発し、手術を受けざるを得なくなりました。迫害がなければ、母はこのような状態にならなかったでしょう。母に危害を加えたのは江沢民です。ですから私も江沢民を訴えて、最高検察院が江沢民を裁いてくれることを願っています。

ある台北の住民が署名した後、こう述べた。「署名するのは正しいことです。（中共が学習者の）臓器を摘出して売買するとは、とんでもない間違いです。誰もが立ち上がって（加害者を）非難し、江を起訴することを要求し、迫害を止めることができます」<sup>(297)</sup>

## 第三部 法輪功の現状

### 要旨

中国国内において、学習者は迫害に非暴力的な手段で抵抗し続けている。周囲の人々に法輪功を理解してもらい、そして当局による学習者への虐待を理解してもらうために、彼らは街頭で人に話をしたり、資料を印刷して配布したり、自らのコミュニティで横断幕やポスターを貼ったり、手紙を書いたり、電話をかけたりしている。中には、警察や司法関係の加害者に働きかけて、学習者を迫害する違法な命令に従わないように説得している者もいる。

中国国外では、学習者は地域のイベントの主催や参加を通じ、迫害への認識を高めている。また、彼らは重要な記念日に集会や平和的な抗議行動を行い、政府のあらゆる階層に支援を求め、中国で迫害に直面している学習者を救出するために、加害者にまで電話をかけている。更に、芸術家の学習者たちは、絵画を制作したり、ドキュメンタリー映画を制作したり、法輪功の精神と本質を表現する舞台芸術グループを結成したりしている。

世界中で法輪功を学ぶ人が増えている。公園や地域のイベントでの集団煉功の場で学習者から功法を学んでいる人もいれば、ニューヨークやソウルの天梯書店で開催されたワークショップに参加している人もいる。また、インド、インドネシア、その他の地域の多くの学校でも、学習者が法輪功の功法を教えている。中国人観光客の多くは、母国では厳しく検閲されている迫害について知るために、主要な観光地の学習者のブースに立ち寄っている。法輪功は現在80カ国以上で実践されており、その関連書籍は40以上の言語に翻訳されている。

国際社会は、中国での迫害を終わらせようとする学習者の努力を支援し続けている。各国の政府も非政府組織も、中国で信仰のために投獄されている学習者の釈放を求めている。迫害の主要な加害者らは、中国国外で集団虐殺と拷問の罪で訴えられている。今や米国は、法輪功への迫害に参加した中国の高官を含む人権侵害者らの入国を拒否するため、ビザ審査の強化を計画している。

## 第13章 中国国内で迫害に立ち向かう

1999年7月に迫害が始まって以来、中国の学習者は様々な手段を使って迫害に抵抗し、党がコントロールするメディアが広めた中傷的なプロパガンダに対抗してきた。訴求するにも全ての法的手段が閉ざされ、（政府から）独立した情報源は検閲されているため、学習者はしばしば、迫害に関する情報を広めるために独創的な方法に頼ってきた。

例えば、紙幣に「法輪大法は素晴らしい」などのメッセージを書き込む人もいる。迫害が始まった最初の数年間、学習者はテレビの信号に割り込んで、党のプロパガンダを暴露する番組を放送していた（このケースは1.4.7で詳述）。

以下では、中国の学習者が迫害に対抗するために用いた主な方法を紹介する。

### 13.1 初期の陳情及び抗議

1999年7月20日に逮捕が一夜にして始まって間もなく、全国の学習者たちは、政府の法輪功への弾圧が誤解によるものだと考え、政府陳情室や北京の国家陳情局を訪れた。彼らは自分たちが法輪功を実践して得た肯定的な経験と、法輪功が社会にもたらす利点について公務員に伝えようとした。

ここで注目すべき特徴は、法輪功には正式な会員制や組織というものがなかったため、それがマネジメントされた組織的なものではなく、個人としての行動だったという点にある。ほとんどの学習者が北京に行く決意をする前に、ある一定の内心の葛藤をしなければならなかった。なぜなら、その行為が自身の安全と生活を危険に晒すことになるかもしれないと知っていたからだ。

ある学習者は次のように語っている<sup>(298)</sup>。

国中が突然、嘘で埋め尽くされました。高潔で慈悲深い師父と大法がこのような扱いを受けているのを見て、大法の弟子として、私は政府に私たち学習者の思いを理解させなければならないと思い、まず地方政府に陳情しに行こうと決心しました。

省都に着いた彼は、通りは警察だらけで戒厳令が敷かれているのを目にした。

警察は私たちを強制的に車に乗せ、あるスタジアムに連れて行きました。そこはすでに、逮捕された大法の学習者で一杯でした。

私たちは静かに座り、省政府の役人に大法について、そして大法が如何に学習者の健康を改善し、道徳心を高めたかを説明させてもらうのを待っていました。

...

朝8時か9時頃から警察の車が集まり始めました。警察の波が押し寄せてきて、人々を逮捕し始めました。

最初に連行されたのは教授と学生でした。警察は学習者に説明の機会を与えませんでした。ある教授（40代と思われる上品で洗練された女性）は、腕を引っ張られて警察の車に連れて行かれま

した。男性たちは更にひどい扱いを受け、4人の警察に持ち上げられて車に放り込まれるだけでした。その時、省政府は私たちの嘆願を聞いてくれないだろうと思いました。

...

2000年7月20日より前、私は北京に陳情に行きました。着いた時に目にしたのは、国家陳情局が学習者に発言の機会を与えず、ただ逮捕していることでした。私は天安門広場に行って、『法輪大法は素晴らしい！』という横断幕を掲げて世界に伝えることにしました。

中国に滞在している、あるアメリカ人交換留学生は、法輪功との最初の出会いについて次のように語っている<sup>(299)</sup>。

友人と私は天安門広場で写真を撮っていました。私たちは学習者が静かに平和的に横断幕を掲げているのを見ました。中国の警察はすぐに彼らに飛びかかって殴ったり蹴ったりして、パトカーに引きずり込み、警察署に連れて行きました。2人の友人は警察が学習者を殴っている写真を撮ったが、フィルムは没収されて、2人とも拘束されました。

迫害が始まった最初の数年間、このような光景は毎日のように繰り返されていた。学習者が天安門広場で横断幕を掲げると、警察はすぐに近づき、学習者を殴ったり蹴ったりしながら、待機していたパトカーに連れて行った。

請願者が自発的に北京に行ったにもかかわらず、当時の中国の学習者の数は政府の推定によると7000万人から1億人に達しており、全学習者のごく一部が北京に行っても、その数は膨大なものになる。

2000年と2001年の陳情のピーク時には、北京公安局は100万人以上の学習者が北京で請願していたと推定している<sup>(300)</sup>。警察内部の記録によると、2001年4月の時点で、家族や同僚を守るために身元を明かすことを拒否した学習者を除き、北京で請願中に逮捕された学習者は83万人以上である<sup>(301)</sup>。

中国国外の学習者たちも北京に行き、陳情に参加した。中には、日本から40人以上の学習者のグループが天安門広場に行き、新千年紀の前夜に法輪功の煉功を行った<sup>(302)</sup>。2001年11月20日、イギリス、スイス、ドイツ、アメリカ、カナダ、オーストラリアを含む12カ国の36人の欧米の学習者が天安門広場で法輪功のために平和的な陳情を行った。彼らは「真・善・忍」と書かれた横断幕を掲げ、座禅していた。その中の1人が観光客に「法輪大法は素晴らしい！」と呼びかけ、警察に殴られた。数分後、36人は全員逮捕された。

ある学習者は天安門広場の近くにある警察署から友人に電話で状況を説明し、CNNなどの海外メディアの記者も一緒に逮捕されたと語った。

### 13.2 対面で人に伝える

学習者たちは日常生活の中で、バス、通り、公園、その他の公共の場所で出会った人々にも、法輪大法と迫害について伝えるようにしている。職場では、彼らは上司、同僚、取引先、ビジネスパートナーに伝え、独立した情報源へのアクセスが少ない田舎では、戸別訪問で伝える人もいる。

共産党のプロパガンダの影響で、法輪功に対して悪い印象を持っている上司や同僚がいる場合、学習者はそのような印象を覆すために努力しなければならない。

河南省のある学習者は次のように言った<sup>(303)</sup>。

法輪大法の修煉者として、私は『真善忍』の原則を持って自分自身を評価し、会社の同僚たちに事実を明らかにしています。多くの人は私とのやり取りで真実を理解し、中には法輪大法の原則に照らし合わせて、日常生活の中で自分を評価している人もいます。

私は庶務係として勤め始めましたが、3ヶ月で部長に昇進しました。上司に困難な状況に追い込まれた際、私は寛容になり、対立を解決しました。上司は『あなたは正直な人ですね。あなたに数億の資産を預けても安心です』と言いました。

都市部以外の地域では、自発的に村から村へ、家から家へと訪ねる学習者もいた<sup>(304)</sup>。

村では、私たちは家々を回って見ましたが、村民たちは1999年7月20日に共産党によって大法が禁止された時のことしか知らないようでした。彼らはメディアが大法について語ったことしか知らなかったのです。もっと早く訪問しなかったことを後悔しています。私たちは一軒一軒を訪ねて、家の前で談笑している人たちにも真実を伝えました。

私たちは辛抱強く彼らの質問に答え、世界中の人々が法輪大法を実践していることを伝え、天安門焼身自殺事件は、迫害を正当化するための中共による演出であることも伝えました。また、生きている大法の学習者から臓器を摘出していることも伝えました。

迫害を始めた中共の前党首である江沢民に対して、20万人以上の人々が刑事告訴したことを伝えると、ある年配の女性はこう言いました。「江沢民という邪悪な爺爺は、一度も良いことをしたことがありませんでした。彼はとても悪い人です。請願書はありますか？ 私も署名して訴訟を支援したいです。

信仰のために投獄されているにもかかわらず、学習者たちは機会がある度に受刑者や看守らに法輪功や迫害について話すようにしていた。その結果、多くの犯罪者や看守は学習者に同情し、彼らからインスピレーションを受けるようになった。中には、自分も法輪功の修煉を始めることを決めた者もいた。

投獄されたある学習者は次のように書いた<sup>(305)</sup>。

曉萍（偽名）という名の暴力的な受刑者が2005年に私の刑務所の独房に移されました。彼女と私は同じ二段ベッドを共有することになりました。

法輪功の事実を知っている看守の王玲さん（偽名）は、私を指差しながら彼女に、『あなたは彼女から学ぶべきです。彼女なら、どうすれば良い人になれるかを教えてください』と言いました。

曉萍さんは気性が荒くてマナーも悪いので、誰からも好かれませんでした。また、困難な状況に直面すれば、大声を出して泣くこともよくありました。彼女が法輪功を学ぶことができるかと疑問に思っていました。時々、彼女に法輪功について話しましたが、彼女はとても落ち着きがなく、なかなか聞くことができませんでした。ある日、彼女は私に『法輪功の練習方法を教えてくださいか?』と尋ねました。私は法輪功とは何か、中共がどのように法輪功を迫害しているかを説明し、いくつかの短い経文を書き留めて、彼女に読むように勧めました。

数日後、私が『師父が仰っていることを理解できますか?』と尋ねたところ、彼女は『はい、理解できます』と答えました。

彼女の出所後の唯一の願いは、学習者を見つけて、続けて修煉できるように助けてもらうことでした。

私は10年前に刑務所から出所しましたが、曉萍さんは法輪功の修煉をやめていません。彼女は今、私がいた時と同じように、刑務所の中で広く賞賛されています。

窃盗罪で何度も投獄された受刑者は、ある拘置所での学習者との出会いについて、次のように書いた<sup>(306)</sup>。

彼らは法輪功の請願のために北京に行ったり、公園で法輪功を行ったりしたために拘留されました。彼らは私が泥棒だからといって、私を見下していませんでした。その代わりに、彼らは私に、泥棒にならないように、もう悪いことをしないように、良い人になるように言ってくれました。

私は彼らの言葉に深く感動しました。特に、彼らは看守に罵られたり、殴られたりしても憎しみや不満を持たず、いつも親切に看守らに接し、良い人になるための原則も教えてあげていました。私は驚きつつ、戸惑いも感じました。テレビでは、法輪功がいかに悪いかが常に伝えられていました。ならば、どうしてこんなに多くの人が法輪功を学んだ後、こんなに良い人になったのでしょうか? 私が見た限りでは、彼らは本当に良い人たちでした。

この10年の間に悪いことばかりしてきたなど、急に後悔の念でいっぱいになりました。私もこの学習者たちのような良い人になれば、どんなに素晴らしいでしょう!

上記は、厳しい環境で学習者たちがどのように信仰を守っているかを示すだけでなく、犯罪者の更生に法輪功が有効であることも示している。このことは、学習者を拷問するように受刑者を扇動し、いじめや暴力を奨励する中国の刑務所という体制で行われている蛮行とは際立って対照的である。

### 13.3 資料の配布及び横断幕・ポスターの掲示

大変な苦勞をして、やっとコピー屋さんを見つけました。私は店主に『法輪功の資料をコピーしてもらえますか?』と尋ねました。彼は『その資料は法輪功を批判するものでなければなりません』と答えました。私は躊躇しましたが、それでも彼に[資料]を渡しました...後に、彼はその資料が法輪

功の事実を明らかにするものだと気づき、密かに警察に通報しました。間もなく、私は逮捕されました...そして、仕事も大法の本も失いました。

中国のある学習者は2001年に新しい省に移り住み、もっと多くの人に迫害についての認識を深めてもらおうと思ったとき、上記の経験を思い出した<sup>(307)</sup>。

法輪功に関する本当の情報の流布が許されない環境の中で、周囲で起こっている人権侵害を公に知らしめることは、より価値のあることであり、必要なことである。中国全土の学習者たちは自宅を小さな制作拠点に変え、パンフレットや書籍、CD/DVD、ポスター、カレンダー、記念品などを制作して配布し、人々に法輪功を伝えるための重大な挑戦をしている。

これらの制作拠点は、すべて学習者自身の収入と貯金で賄われており、彼らは身の危険を冒しながら無料で資料を配布することが多い。本報告書の多くの迫害案件に見られるように、中国当局は日常的に学習者の自宅で発見されたパソコンやプリンター、チラシなどを押収し、それを「証拠」として彼らを起訴し、投獄している。

それにもかかわらず、学習者たちは「共産党についての九つの論評」のコピーや雑誌、カレンダー、DVDを配布するとき、それに対する大きな需要があることに気づいた。以下は、中国のある学習者の話である<sup>(308)</sup>。

天候の良し悪しに関係なく、私たちは毎日、大きな市場や近隣の町や村に行っています。そのため、多くの人々が私たちのことを知るようになりました。私たちは、ある人をよく見かけました。彼に真相を伝えて、何度もパンフレットを渡しました。すると、彼は『ありがとうございます。あなた達は皆良い人ですね』と言ってくれました。

彼はしばしば私たちが卓上カレンダーを配布するのを手伝い、人に中共からの脱退を一緒に説得してくれました。彼はよく『法輪大法は素晴らしい！ 真善忍は素晴らしい！』と叫んでいました。

ある日、私たちを見た彼は『やっと見つけました！』と叫んだのです。

彼は手元の卓上カレンダーを全部配ってしまい、もっと欲しいと言いました。私も残りわずかまで、手放したくありませんでした。しかし、彼は『私は多くの人にカレンダーを渡すと約束したので、彼らを失望させたくないのです』と嘆願しました。私は渋々、持っていた数枚を彼に渡しました。

また、学習者たちは公共の場所に、迫害に関連する大きなポスターを貼り、江沢民の起訴を呼びかけていた。

### 13.4 加害者に対して個人的に手紙を送る

一般の人々に知らせるだけでなく、学習者たちは警察や役人にも手紙を送り、迫害に参加しないように説得していた。これらの手紙では多くの場合、受取人と関係がある地域の事件を取り上げ、政府によって広められた法輪功に関する誤った情報を説明している。

ある学習者は、地元の学習者たちと協力して、警察、司法官、刑務所、洗脳班、居民委員会、学校関係者などに手紙を送った経験を話してくれた<sup>(309)</sup>。

ある市警の局長が手紙を読んだ後、迫害に参加するのをやめました。彼は『学習者は皆親切で、殴られても殴り返さず、怒鳴られても怒鳴り返しません。彼らはただ自分の信念を保持したいだけです。彼らを不当に扱い続けるほど、私は残酷ではありません。毎月のように手紙が届き、全部読みました。私はそんな残酷なことにはできません！多くの手紙に感動を覚えて、行間の言葉が私の良心を揺さぶりました！この職位にいる限り、私は最善を尽くして学習者を保護し、彼らに優しく接します！』と言いました。

2004年、ある検察院の高官は、毎月1通の真相を書いた手紙を受け取るようになりました。手紙を読んだ後、彼の学習者に対する態度は劇的に変わりました。彼は、なぜこの人たちが刑務所や労働収容所に送られているのかと疑問を持ちました。彼は美德を失うようなことはもうしたくないと言いました。中共からの指示や任務が届いた時、彼はそれをしない言い訳をし、『轉法輪』を読もうと密かに学習者に頼んだこともありました。

学習者たちは、他の学習者への迫害を軽減し、加害者がさらなる罪を犯すのを防ぐためには、これが有効な方法であることに気づいたが、このような手紙を送るには課題があり、安全面のリスクもある。

我々は大量の手紙を送りますので、1人の学習者が多くの切手を購入しなければなりません。国の保安職員らは郵便局にコネを持っているので、我々は異なる地域から手紙を送らなければならず、時には1通の手紙を出すのに長い距離を歩かなければなりません。

遼寧省の別の学習者は次のように述べた<sup>(310)</sup>。

1999年7月20日、法輪大法への迫害が始まった後、郵便局は切手販売に関する規則を変更しました。1人が一度に20枚の切手しか購入できず、しかもなぜ切手を購入するのかも問われるようになりました。しかし旧正月の間だけは質問されることなく、無制限に切手を買うことができるので、私はこの時期に年中使える切手をたくさん買っていました。

私は地方の司法部、政法委員会、コミュニティ、刑務所、拘留所、村の役人たちに手紙を出しました。また、明慧ネットにある情報を元に、緊急に助けを必要としている学習者にも手紙を送りました。

手紙を書く時、私はその人と直接会って話をしているかのように、誠意を持って書きました。私の手紙は簡潔で、ポジティブなエネルギーを持っていました。焦りで筆跡が乱れてしまう時は手紙を書き直していました。

### 13.5 電話やインターネットを利用した情報発信

対面して話したり、印刷された出版物を配布したりする以外に、中国の学習者たちはテキストやマルチメディアのメッセージを送ったり、加害者や一般の人々に電話をかけたりしていた。

ある学習者は次のように述べた<sup>(311)</sup>。

私は刑務所、強制労働収容所、610弁公室、警察署、拘置所、洗脳班、裁判所、検察庁、病院、学校を対象にしました。メッセージを受け取ったのは局長、地方局長、裁判所長、司法長官、党書記、政治委員、チームリーダー、警察、警備員などでした。メッセージを受け取った後、後悔している人もいれば、間違っただけをし続けている人もいました。

別の学習者は次のように語った<sup>(312)</sup>。

携帯電話を使えば、短時間で広範囲にメッセージを広めることができます。他の方法では常に制約があるようですが、携帯電話を使えば、社会的地位や職業、年齢に関係なく、私たちは誰にでも連絡することができます。

しかし、携帯電話からのメッセージ送信や、電話をかけることにも安全面のリスクがある。なぜなら、中国当局は電話監視と追跡機能に多額の投資をしているからだ。2014年、河北省三河市の4人の学習者が法輪功に関するグループテキストメッセージを送信したとして逮捕された。後に、数人の学習者の携帯電話は、電源を切っただけでも監視されていたことが明らかになった<sup>(313)</sup>。

このような監視は、ソーシャルメディアを含む他の形態の電子通信にも及んでいる。2019年1月、広州のある大学教授が2014年10月から2017年1月までに、QQプラットフォームで法輪功迫害に関する情報を共有していたことが警察に発見され、3年半の懲役と1万元の罰金を言い渡された<sup>(314)</sup>。四川省では、2011年に中国報道出版局が法輪功書籍の出版禁止を解除したことをウィーチャットで司法関係者に知らせた後、ある男性が逮捕されて洗脳センターで虐待を受け、妻も殴られた<sup>(315)</sup>。法輪功に関する情報をネット上に掲載した後、学習者が逮捕された事例は他にも数多くあった。

中国の人々がニュースや情報に自由にアクセスできるように、学習者たちは自由門、動態網、UltraSurfなどのオンライン検閲を回避するためのソフトウェアも提供してきた。反検閲ソフトウェアを開発している二つの学習者グループは、最終的にグローバル・インターネット・フリーダム・コンソーシアムを結成し、そのツールはイラン、ミャンマー、キューバ、北朝鮮、シリアでも広く使用されている<sup>(316)</sup> <sup>(317)</sup>。

## 第14章 中国国外で迫害の実態を伝える

中国国内の学習者が身の危険を冒しながら、迫害を減らし、迫害についての情報を中国国民に提供する努力を行う中で、中国国外の学習者たちも、迫害の実態を伝え、中国政権が広めた誤った情報を明らかにするために積極的に努力してきた。

### 14.1 中国大使館及び領事館における抗議活動

過去20年間、学習者は世界中の中国大使館や領事館の前で、法輪功についてと中国での迫害を伝えるために横断幕を掲げ、活動を行ってきた。

中国当局はしばしば学習者の中国パスポートの更新を拒否したり、障害物やスプリンクラーで横断幕を隠したり、施設の所有者を脅したりして、イベントを妨害しようとしている。学習者たちは時折、自分たちの権利を守るために警察に助けを求めてきた。

### 14.2 集会と請願

毎年、中国での迫害に対する認識を高め、迫害を終わらせるための行動を呼びかけるために、学習者たちは米国の国会議事堂に集まる。米国の議員、人権活動家、非政府組織の代表者はよく集会に参加し、迫害に対する学習者の平和的抵抗への支持を表明している。2018年6月20日に行われた集会では、登壇者たちは、中国政権が良心の囚人から強制的に臓器を摘出するという国家的な行為を非難し、法輪功の普遍価値である「真・善・忍」を強調し、中共の欺瞞を見抜くよう国民に呼びかけた。

ダナ・ローラバッチー下院議員（カリフォルニア州）は、心のこもった発言で学習者たちに語りかけた。彼は、法輪功を長年支持してきたのは、単に人々の意見を表明する権利に基づいているだけではなく、法輪功の核心的な理念に共鳴しているからであると述べ、「これまでもずっとそうだったように、私は皆さんを支持することを誇りに思います」と述べた。

集会に続いて、大規模なパレードが国会議事堂を出発し、ペンシルバニア通りからコンスティテューション通りに沿って進み、ワシントン記念碑まで続いた。

パレードに参加した学習者たちは、中国での迫害で命を落とした人々の肖像画を携えたり、中共は法輪功迫害に責任があると人々に伝える横断幕を持って行進した。ワシントンD.C.での学習者たちによる大規模な活動の3日目となる2018年6月22日の夜、ワシントンモニュメントでキャンドル追悼集会が行われ、「私のそばに座ってください。静寂の中で目を閉じましょう。『拷問を終わらせ、殺戮を終わらせ、全ての弾圧を終わらせよう』という声が、私たちの心の奥底から響いてきます。私たちの思いやりと忍耐が打ち勝つでしょう」と主催者は語りかけた。

この他にも、中国での迫害に対する認識を高めるための集会が世界各地で開催されている。

### 14.3 SOSウォーク & 自由への歩み

前述のような大規模イベントの他に、学習者たちは中国での法輪功への迫害を明らかにするべく他の種類の活動も行ってきた。その一例が2001年に行われた「SOSウォーク」で、4人の学習者がオタワからニューヨークの国連本部まで歩いた。

成人の学習者と同じく、中国以外の若い学習者も法輪功の恩恵を受けている。彼らはニュージャージーからサンディエゴまで、フランスから台湾までの世界各地にあるサマーキャンプに参加している。2015年、ある若い学習者グループは、中国での法輪功迫害によって孤児となった5人の子どもを救うための、アメリカを横断する3,000マイルの自転車の旅「自由への歩み」に参加した。

参加者たちはパトリック・J・トゥーミー上院議員、マイケル・A・ナターフィラデルフィア市長、フィラデルフィア市議会議員から表彰を受け、学習者たちがワシントンD.C.で催したコンサートに参加した。地元住民のウィリアム・クレイグさんは「演奏は魔法のようです。このような刑務所で歌われた歌、そして中国の組織的な拷問を経験した人たちが歌うのを聞くことができるという事実だけでも驚きです。彼らが何百万マイルも離れているのに、私たちは手を差し伸べば、彼らに少しずつ触れていくような感じです」と語った。

### 14.4 地域のイベントや観光名所で呼びかける

迫害を明らかにするだけでなく、学習者たちは地域の行事に参加して祝日を祝い、より多くの人々に法輪功を紹介している。

5月は学習者にとって忙しい月である。1992年に法輪功が一般の人々に紹介されたことを称え、毎年5月13日の「世界法輪大法デー」を記念して活動を行っている。5月13日は、法輪功の創始者である李洪志先生の誕生日でもある。以下は、2019年に世界各地で開催されたこれらのイベントを抜粋したものである。

#### 14.4.1 カナダ・オタワ

オタワ地域の学習者は、2019年5月20日に開催された第67回国際チューリップ・フェスティバルに参加した。この人気のお祭りには約65万人の来場者が訪れ、多くの人が法輪功の功法を学ぶことに興味を示した。

大学一年生のムダル・アユビーさんは学習者が功法を実演するのを見て、座禅がストレスを和らげることができると知っていたので、参加したいと言った。ムダルさんは法輪功の基本原則である「真・善・忍」を高く評価し、「誰もがやってみるべきです。それは世界中の人々に平和をもたら

し、ストレスの軽減も感じさせるでしょう。そして、彼らの人生もより有意義なものになると思います」と語った。

#### 14.4.2 アメリカ合衆国・ニューヨーク州

2019年5月16日、数十カ国から集まった1万人近くの学習者たちがニューヨークのマンハッタンでパレードを行った。天国楽団がパレードを先導し、龍の舞、蓮華船、法輪大法の功法を実演する学習者、そして伝統的な衣装を身にまとった様々な国籍の学習者たちが続いた。

ルートは2マイル。国連広場をスタートし、タイムズスクエアを通り、中国領事館の近くまで続いた。退職した社会福祉士のジェーンさんは、ほぼ一通りのパレードを夫と一緒に見ていた。彼女は「爽快ですよ」と言い、「私たちは真・善・忍を忘れないでしょう。世界中の誰もがこの価値観を必要としています」と付け加えた。

#### 14.4.3 ドイツ・ハンブルク

2019年5月18日、ドイツ・ハンブルクの学習者たちは法輪功情報デーを開催した。彼らは功法を紹介し、中国での迫害に終止符を打つことを呼びかけた。多くの人が、中国政権が良心の囚人から臓器を強制的に摘出していることを非難する請願書に署名した。

ローズマリー・ゴールケ氏は、法輪功への迫害をナチスの大虐殺に例えた。彼女は平和的な団体に対する迫害が信じられないと言い、この残虐行為の存在を知らせてくれた学習者に感謝した。アフリカから来た3人の学生は、今度のクラス討論で中国の迫害問題を取り上げたいと話した。

#### 14.4.4 トルコ・アンタルヤ

2019年4月末、アンタルヤで開催された2日間の観光フェスティバルにトルコの学習者が参加した。

ベギュム・ボルセチンさんは、法輪功の「真・善・忍」の原則を聞いて感動し、涙を流した。彼女は法輪功の五式の功法を学び、地元のグループ煉功に参加したいと言った。

イフェットさんとニメさんは功法を学んだ後、体が「鳥のように軽い」と感じ、「すべてのストレスが消えた」とイフェットさんは言った。

イベントの主催者であるハティチェ・ボズクト氏は、法輪功の参加がなければ、フェスティバルの多様性や文化の豊かさに欠けていただろうと学習者に話した。彼女は学習者たちに、別の地域のイベントに参加するように誘った。

#### 14.4.5 ブラジル・サンパウロ

2019年5月11日、サンパウロの学習者たちは、中華街のようなビジネス街であるブラスに行き、中共が法輪功を中傷するために流布した誤った情報を一掃するためにチラシを配ったり、人々に話をしたりした。また、彼らは功法の実演を行い、横断幕や展示板を掲げた。

ブラジリアの学習者たちは翌日、同様の活動を行った。

#### 14.4.6 台湾・苗栗

5月11日、苗栗県頭份市で開催された毎年恒例の頭份パレードで、地元の学習者で構成された腰鼓隊がパフォーマンスを披露した。彼らのパフォーマンスは観客と地域のリーダーたちに歓迎された。一行が近づくと、多くの人が「法輪大法は素晴らしい！」と声を上げた。

#### 14.4.7 オーストラリア・シドニー：中国人観光客が法輪功を学び、中共から脱退する<sup>(318)</sup>

毎週末、オーストラリア全土の学習者は、法輪功及び、共産主義国家である中国での迫害についての認識を高めるためのイベントを行っている。その開催地の一つが、シドニーの人気観光スポットである「ミセス・マッコリーズ・ポイント」である。シドニー港を見下ろす風光明媚な場所にあるため、中国人をはじめとする海外からの観光客も多く訪れている。

学習者たちは法輪功についての情報を配布し、功法の実演を行い、中国人観光客に中共とその関連団体からの脱退を促している。

中国では法輪功が迫害されているため、多くの中国人観光客が法輪功の功法の実演を見に来ている。彼らは資料を読み、学習者と会話も交わす。ある観光客が香港で学習者を見たと言うと、学習者は彼に、中共から脱退したかを尋ねた。そして学習者は、自分達が人々からの質問に答え、中共のプロパガンダによって人々が受けた誤解を取り除くためにここにいると説明した。

男性はすぐに、共青团と少先隊を辞めたいと言った。別の中国人観光客が「法輪功についての資料を中国に持ち帰ることは許されていない」と言う、学習者は「『エポックタイムズ（大紀元）』のウェブサイトからソフトをダウンロードすれば、党の検閲を回避できます」と言い、その資料を彼に渡した。男性は喜び、学習者に感謝した。

#### 科学者カップルが中共から脱退

ある男性は、自分が科学者だと学習者に伝え、「私は無神論者で、霊性などを信じません。私は北京の有名な大学の教授で、研究機関の責任者でもあります。妻は同僚です。また、私は某会社の最高責任者です。どう私を納得させることができますか？」と言った。

学習者は彼にこう言った。「ニュートンやアインシュタインのような有名な科学者は宗教を信じていました。なぜでしょうか？ 彼らは神々だけが宇宙の複雑さを説明できることを知っていたからです。法輪功は世界中で実践されています。大勢の科学者が実践していますが、大勢の国家指導者も、そして様々な民族の人々も実践しています」

学習者が中共とその関連組織からの脱退を手伝いたいと申し出ると、彼らは同意した。

#### 14.5 国際美術展

「真善忍国際美術展」は世界各地で開催されてきた。この展覧会の絵画は、優秀な芸術家でもある学習者のグループによって制作されてきた。作品は、法輪功の美しさと静けさ、そして中共の迫害の残忍さを浮き彫りにしている。洗練された絵画と、それぞれの表現の背後にある真実の物語は、見る者の心を打つ。

ある展覧会が、2019年8月26日から9月1日までトロント市庁舎で開催された。カナダの元上院議員コンシリオ・ディ・ニーノ氏は開会式でこう述べた。「これらの作品の芸術性が非常に高いことに感銘を受けました。私たちを導きうる精神性が表されています。これは特に重要なことです」と述べた。展覧会を訪れた政府職員のシャープさんは主催者に、「とても美しい絵画ですね...このような素晴らしい作品をトロントに持ってきてくださって、ありがとうございます」と語った。

2010年8月17日、ルーマニア・ブカレストのガレリア・カミヌル・アルテイ・ギャラリーで美術展が開催され、2010年8月20日から8月29日まではローマンスホルンでも開催された。美術展の開催ニュースは地元紙に4回掲載され、住民の間で波紋を呼んだ。ある紳士は絵画を鑑賞した後、学習者に「私はあなた方を支持し、そしてあなた方と共に立ち向かいます」と言い、訪問者ノートにこう書いた。「最も深い哀悼の意を表します。皆さんを支持します。なぜなら、私は普遍的な愛と真実が勝つと信じているからです」

ある年配のカップルは、絵画の磨きがかかった技法を賞賛し、「誓いを果たす」という絵画がすべての問題に対する答えを提供していると言い、様々な生い立ちの人々が平和的に共存する限り、すべての問題は解決されると述べた。男性は、中共が法輪功を弾圧するのは間違った決定であり、代わりに、人々に法輪功を実践するように奨励すべきだと言った。女性は、泥の中からきれいに浮かび上がる蓮の花の図像を知り、感動した。

#### 14.6 ドキュメンタリー映画

法輪功への迫害について、幾つかのドキュメンタリー映画が制作された。以下は、このテーマで注目されている二つの映画である。

#### 14.6.1 『フリーチャイナ：信じる勇気』

数々の賞を受賞したドキュメンタリー映画『フリーチャイナ～信じる勇気』は、中国政権に投獄され、拷問された2人の学習者の物語である。学習者は、米国の国会議事堂、欧州議会、世界各地の映画館などで1500回以上の上映会を開催した。

イタリア・トリノのある観衆は、学習者のことを「現代の聖人だ」と言い、「歴史は繰り返されています。学習者が示し続けている確固たる決意は、ローマ帝国時代に迫害されていたキリスト教徒のそれと同じくらい神聖なものです」と述べた。

#### 14.6.2 『馬三家からの手紙』

ロサンゼルス・タイムズ紙のケビン・クラスト氏は、ドキュメンタリー映画『馬三家からの手紙』のレビューでこう評した。「『瓶の中のメッセージ』という一風変わったストーリーから始まるこの物語は、人間の苦しみ、思いやり、忍耐を描く力強い物語へと発展していく」。実話に基づき、オレゴン州のKマートで購入された「中国製」ハロウィーン飾りの箱から見つかったSOSの手紙は、すぐに中国の労働収容所システム全体の閉鎖につながる出来事の連鎖を引き起こした。

手紙を書いた学習者の孫毅さんは、彼の信仰のために、悪名高い馬三家強制労働収容所に投獄されていた。スカイプを通じて映画監督から撮影技術を学びながら、孫さんは中国国内の恐ろしい人権侵害を暴露するため、自身が経験した日常の悲惨な映像を密かに撮影していた。

2018年、当映画はカルガリー国際映画祭、アトランタ・ドキュフェスト、ミラノ国際映画祭賞など十数の賞を受賞し、第91回アカデミー賞の長編ドキュメンタリー部門の候補作でもあった。

「私たちはこれらの問題について中国とオープンな対話をする必要があります。問題の一つは（強制的な）臓器摘出であり、今もそうです。私たちはオープンな対話を止めてはいけません。この問題が存在しないと言うことはできません」と、チェコ共和国のトマス・ズデチョフスキー欧州議会議員（MEP）は2018年12月4日、欧州議会での上映後に語った。

#### 14.7 中国国内の学習者の釈放を確保するために働きかける国際関係者

「もしあなたに海外でサポートしてくれる人やメディアがいなかったら、あなたの状況は悲惨なものになっていたでしょう」と、ある警官が北京の学習者に言ったことがある<sup>(319)</sup>。中国の多くの学習者は、国外の学習者や政府からの電話及び、海外のジャーナリストからの問い合わせの効果について言及している。

以下はそのような記述の一つである<sup>(320)</sup>。

2013年5月15日、ある学習者が法輪大法の資料を配布していた際に逮捕され、拘留所に連れて行かれた。地元の学習者たちはすぐに明慧ネットのウェブサイトに加害者たちの電話番号を公開し、彼女の救出を計画した。

逮捕に関わった警官は国外の学習者から電話を受けて恐怖心を募らせ、誰が自分の電話番号を公開したのかを探り、逮捕に加わったことを後悔していると述べた。

逮捕された学習者は2013年5月22日に釈放されたが、これは前代未聞のことであった。警察がこれほどの短期間で学習者を釈放した例はなかった。

この種の公にする暴露や電話での呼びかけは、中国当局による学習者への迫害を効果的に防いでいる。例えば、河南省の政法委員会の副書記は個人的な利益のために積極的に学習者を迫害していたが、彼の情報が明慧ネットに掲載された後、そのようなことをしなくなった。彼の妻は次のように語った<sup>(321)</sup>。

海外では、法輪功を修煉している人が非常に多いです。毎日10本の電話がかかってきました。電話に出る度に、心臓の鼓動が速くなりました。このため、彼は転勤を余儀なくされました。よく考えてみると、学習者たちが言ったことは非常に理にかなっています。中共は無敵ではないのですから、私たちは自分の将来を考えなければなりません。

海外からのタイムリーな電話は、加害者が学習者に拷問を加えようとする直前に止めさせることもあった。ある報告に、学習者が強制労働収容所で経験したことが記されていた<sup>(322)</sup>。

収容所で、ある警官が学習者を拷問し、法輪功を放棄させようとしていました。しかし学習者が事務所に入った途端、海外から電話がかかってきました。

電話していた間、警官は『カルト』という言葉も5回も口にし、『能力があるなら、飛んできて、私に会いに来なさい。そうすれば、信じてあげる』と電話をかけてきた学習者を愚弄しました。しかし電話をかけてきた学習者は彼の言葉に動じず、5分ほど話し続けました。話を聞いていた警官は無表情になり、消耗しきったように見えました。彼はオフィスにいる学習者の方に向けて、『お前は帰れ!』と言いました。

その電話の後、この警官は大法の学習者を拷問する部署から資料作成部署への異動を要請しました。

## 第15章 迫害の中、新たに法輪功を学び始める人々

中国で迫害が続いているにもかかわらず、友人や家族から法輪功を学んだり、公園や地域のイベントで座禅をしている学習者に出会ったり、またはネットで検索したりして法輪功を学び始める人達が着実に増えている。

本章では、新しい学習者の個人的な体験談や、海外旅行中に学習者に遭遇した中国人旅行者たちの反応などを抜粋して紹介している。

### 15.1 中国：拘留中に法輪功を学んだ元囚人の体験談 (323)

2008年、私はマルチ商法に関与したために長春の黒嘴子女子刑務所に収監され、そこで、信仰のために拘留されていた数人の学習者と知り合いました。中共政権のプロパガンダの影響で、私は最初、彼女たちの話を聞くのを拒否しました。しかし、私はなぜ彼女たちが刑務所にいるのかと疑問に思いました。法輪功が悪いものなら、どうしてこんなに多くの人が学ぶのでしょうか？ しかしそれが良いものなら、なぜ彼女たちは逮捕されたのでしょうか？ 私はテレビで法輪功について言われていることを疑いました。この学習者たちは善良な人たちのように見えました。彼女たちは法輪功に騙されたのでしょうか？ そうでなければ、なぜ逮捕されたにもかかわらず、修煉を断念することを拒否したのでしょうか？

これらの学習者たちは、信仰を放棄することを拒否したために警察に拷問されたと言い、臓器のために殺されることすらあると言いました。私は信じませんでした。私は小さい頃から中共の本やテレビ番組で教化され、警察は良い人だと信じていました。当時、私は警察を尊敬していて、警察は世界を変えるために存在していると思っていました。警察が学習者をそれほど残酷に扱うことができるとは信じられませんでした。

ある日、ある学習者は殴られて、スタンガンで胸にショックを受けました。法輪功を習う前から彼女は脚が不自由で、心臓発作も起こしていました。しかし、看守は彼女の状態を無視しました。これは私の注意を引きました。私が悪人だと思っていた人たちは実は良い人で、善人だと思っていた人たちは実は悪人だったのです！

法輪功についてもっと知ろうと決めました。私は毎日、学習者たちに様々な質問をするようになりました。その後、私は彼女たちに李先生の『洪吟』の詩を暗唱してもらうように頼み、それを心に刻みました。ある日、ある詩を暗唱しているうちに、大法の奥深さを感じました。

ごく新しい学習者ではありますが、私は幾つかの不思議なことを経験しました。刑務所では、許可なく監房を変えることはできません。しかし、隣にいる学習者が知っている全てを私に教え終える度に、看守は私を別の監房に移動させ、別の学習者がまた別のことを教えてくれていました。ある日、私はついに法輪功の主要書籍である『轉法輪』を読むことができました。第一講を読み終え

た時、私はこれこそがずっと探し求めていたものだと思います。私はずっと修行したいと思っていましたが、ついに大法に出会いました！

私を見捨てずにいて下さった李洪志先生（法輪功の創始者）に感謝しています。1年間の服役中、私は師父の教えをいくつか学びました。もう10年近く修煉してきていますが、私は多くの奇跡を経験し、大法に対する揺るぎない信念を持っています。全ての人に法輪大法が良いものであることを知ってもらいたいです。

## 15.2 インド：法輪大法がチベット人学校に歓迎されている<sup>(324)</sup>

私はインドに住む西洋人学習者で、インド北部の山岳地帯にある二つの州に6週間ほど滞在しました。

訪れた23の施設のほとんどが学校で、幼稚園の年少さんたちは2～3歳くらいでした。また、2つのホステル、大学、民間の産業研修所にも行きました。

今回の旅の目的は、チベットの学校に法輪功を紹介することでした。過去60年の間に、チベットでの弾圧の増大と深刻な人権侵害により、何千人ものチベット難民がインドに逃れてきました。そのほとんどはインドに残っています。

11回も移動しなければならなかったこと、法輪功と中国での迫害についてのパンフレットや展示物が入ったたくさんの荷物、予想外の暑さと早雨で、旅は困難なものとなりました。想定内、想定外の様々な苦難があったにもかかわらず、今回の旅は非常に成功し、当初の予定よりも多くの学校に法輪功を紹介することができました。

訪れた場所のほとんどは、私が全く知らなかった場所でした。ラダックやインドの他の地域を何度も訪問する中で、どこに行っても、面識のある教師や子どもたち、他の人たちによく出会いました。中には、すでに学校で法輪大法を学んでいたり、展示会でチラシを受け取ったり、ポスターを見たことがある人もいました。会ったことのなかった人に会う度に、長らく音信不通だった友人と再会したような深いつながりを感じました。その感覚はお互い様のように感じたことがしばしばありました。ある学校の校長先生は、「法輪功の五式の功法を、本校の職員と生徒に教えてくださったことに心から深く感謝します」と手紙を書いてくれました。

何年も前に学校で法輪大法のレッスンを受けた子どもたちに通りや転校先の学校で私に会うと、「法輪大法」または「法輪大法は素晴らしい」と嬉しそうに言ってくれる時、いつも心が和みました。混んでいたり、暑かったり、土曜日だったりすると、生徒たちは立つ姿勢の功法をする時、落ち着かないことがありましたが、第五式の座禅ではすっかり落ち着きました。本当に、ピンが落ちても分かるほどの静寂でした。その後、全員が心を込めて「真善忍は素晴らしい、法輪大法は素晴らしい」と繰り返し暗唱しました。

前述の校長先生はまた、「あなたの精神力と献身的な努力には本当に敬服します。このような功法を通じて、最近欠けていた生徒たちの集中力が改善されるでしょう。あなたの努力と心配りに感謝します」と書いてくれました。

### (1) 中国での迫害の様子展示

多くの子どもたちは、中国で幼い子どもたちを含む法輪大法の学習者が直面している迫害を描いたポスターとキャプションに魅了されました。ある少女は一枚一枚の絵画を長い間眺めていました。

ある校長先生は「これは間違いなく人類に対する純粹で無条件な奉仕です。人類の大義のためのあなたの親切な奉仕に感謝します」と書いてくれました。

このような人権侵害の話をしたり、ポスターを見せたりしていると、目が潤んで、静かに涙を流したり、涙を拭いたりする人がいることに気がつきました。中には、しばしば拷問を受けたり、あるいは殺されることさえあった家族や友人を後に残したチベット人が直面してきた厳しい人権侵害を思い出した人もいたかもしれません。彼らの経験は、法輪大法の学習者や他の異なる信仰を持つ多くの人々が中国で耐え忍んでいることとよく似ています。多くのチベット人は、これらの残虐行為について、「私たちチベット人と法輪大法の学習者は同じ船に乗っている」とコメントしました。私が受け取った多くの感謝の手紙には、法輪大法への深い感謝の気持ちだけでなく、しばしば迫害に対する明確な理解も書かれていました。

ある校長先生は、「チベットでチベット人を迫害しているのと同じように、中国の共産党政権による自国民の法輪功への残酷な迫害の実情及び、平和と健康のメッセージを広めるためのあなたの努力に感謝し、称賛の意を示したいです。

あなたが法輪功と共にチベット問題についても語り、行き先の多くの場所で人々の認識を高める手助けをしてくれることが私たちの願いです。チベット内外のすべてのチベット人を代表して、あなたに大きく『ありがとうございます』と申し上げます」と書いてくれました。

法輪大法の原則は、現在チベットの全ての学校で教えられている通常の倫理と共鳴している。「真善忍の三原則は、私たちが亡命チベット政府教育局の指示の下、学校の通常の倫理授業を通して生徒に教えようとしていることと一致しており、このセッションは私たちにとっても有意義なものでした」と、前述の校長先生は続けて書いてくれました。

約60年前にチベット難民が初めてインドに到着して以来、彼らの最も重要なニーズの一つは、祖国からの逃避行中に孤児になったり、家族から引き離されたりした多くの子どもたちをケアする手段を見つけることであると明らかになりました。チベット人のための独立した学校をインドに設立した理由は、彼らに優れた教育を提供すると共に、チベットの言語と文化を保護するためでした。規模の大小を問わず、どの学校も驚くほど管理が行き届いており、多くの献身的な教師やスタッフが「自分より他者」という学校のモットーを忠実に守っています。

ある学校の校長先生は感謝状の中で、職員と生徒たちが「この特別なイベントを大切にし、法輪大法の原則である『真・善・忍』を私たちの倫理基準として取り入れます。

私たちは法輪大法の学習者との結束を真摯に表明し、この古来の精神的な修行の復活と繁栄を祈ります。地球上に平和が訪れますように。深く感謝します」と書いています。

法輪大法のセッションの後、ある私立工業研修所の責任者は、「今日の世界において最も重要である『真・善・忍』の重要性についての啓発プログラムを実施して下さったことに心から感謝します。私たちは法輪大法の皆様との連帯を表明し、皆様の世界平和への貢献が成功することを祈っています」と書いています。

学校の図書館にチラシ、雑誌、本、DVD、古代の知恵の物語、ポスターなどを配ったほか、私は『共産党についての九つの論評』を勧めました。ほとんどのチベット人が中共の邪悪さを十分に認識し、経験して来たにも関わらず、その詳細や中共の歴史を知る人は少ないのです。

学校の他、私は多くの場所や人を訪ね、店にポスターを貼ったりしました。

中国での迫害について話すとき、私は中国もただインドと同じく、非常に古い歴史を持った一つの国であり、中国にも世界中にいる人々と同じように、良い人もいれば悪い人もいて、変わる可能性を持った人間であると話しています。良い人が悪い人になるかもしれないし、悪い人が良い人になるかもしれません。

法輪大法のセッションでは、子どもたちは何が良くて何が悪いのか、それはなぜなのかを理性的に、思いやりを持って理解するようにアドバイスされました。

別の校長先生は、「今日あなたが実演してくれたこれらの身体と心のエクササイズは間違いなく、長期に亘り、より良い社会と調和のとれた世界を促進するのに役立つでしょう。生徒たちは種であり、私たちの未来は生徒たちをどのように育て、どのような価値観を教えるかにかかっているのです。

また、中共政権による無実の国民への迫害に立ち向かって下さったこと、そして理性的になり、良いことと悪いことの区別をつけるべきだという貴重な教えを生徒たちに伝えて下さったことに感謝します」と書いています。

多くの先生方はすでに『大紀元時報』や『NTDインド』などの法輪大法のウェブサイトを知っていましたが、知らなかった人たちは、これらの独立したメディアの存在を知るようになりました。今後、間違いなく、これらの情報チャンネルの助けによって、子どもたちや他の多くの人たちの間で、認識が更に広まっていくでしょう。

## (2) アイデアと取り組み

理事長、校長先生、先生方、スタッフ、子どもたち、そして、その他多くの方々に感謝しています。ひとえに皆様のお陰です。

私はチベット人が大好きで、チベット人の友人との繋がりも多くは、28年間のインド滞在中にできたものでした。そして修煉者としての道をどう進めていけばいいのかのアイデアやアドバイスも、幾度となくチベット人の方々から頂いたのです。

15年以上前、インドの最北端に位置するラダックで私が初めて法輪大法について聞いたのは、地元のチベット人が連れて来た訪問者で、中国系アメリカ人の修煉者からでした。二人とも、地元の女性の祭りで法輪大法の功法を行っていました。これが私の法輪大法との最初の触れ合いだったのです。

2007年8月、ラダック地方の中心都市レーの飲食店でポスターを貼っていた時、あるチベット人の先生から、学校に来てはどうかと提案されました。その学校の校長先生の賛同の下、私はラダックの学校で初めて法輪大法のセッションを開催し、以来数年間、この学校とその多くの分校、そして他の多くの学校でセッションを行いました。

2008年、中国での迫害が始まった1999年7月20日を記念し、レーで初めての展示を行った時、ある若いチベット人男性が自主的に屋外の「店」を空けてくれました。その後の数年間、多くの展示が行われました。

数年前、親しいチベット人の友人の親戚が、特別な日には彼女の家の長い外壁にポスターやバナールを飾ることを考えつきました。それ以来、何千人もの地元の人々や観光客が、これらの展示でチラシを受け取りました。私が住んでいるところでも、チベット人の若者が折り畳み式のベッドの上で商品を売っているのを見て、私は10月から4月までの間、毎週のように展示を行うことにしました。これを長年続けてきたことによって、私は地元の人々だけでなく、インド全土や世界の人たちにも情報を届けることができました。

これらのアイデアや取り組み、その他多くのものは皆、チベットの人々によって提案されたものでした。従って、今回のインドのチベット人学校への旅は、ある意味では、関係した個人にだけでなく、彼らのコミュニティの多くの人々への、そうした「好意」の恩返しでした。

インドは広大な国であり、多くの異なる文化、伝統、部族、宗教、カーストなどが存在しています。インドの何人かの学習者は以前に学校や大学を訪問し、多くの写真を撮り、多くの感謝の手紙を受け取っていました。広大な国土に多くの若者がいるこの国で、今後もインドの様々な地域の学校を訪問したいと考えています。

振り返ってみると、この驚異的な旅が成功できたのは、適切なタイミングや力強いご縁、そして他の多くの要因を含めて師父の安排があったからだと思いました。

幾つかの学校では、法輪大法のイベントに関するビデオクリップやニュース記事、写真をフェイスブックや他のソーシャルメディアに掲載しました。すでに3分間のビデオ「心への道」を見た学校もあれば、NTDインドでこのビデオと関連記事を事前に配信していた学校もありました。

### 15.3 インドネシア：中等教育学校の500人の生徒と教師が法輪功の功法を学ぶ<sup>(325)</sup>

インドネシアのバタム島にある第38公立中等教育学校の校長は、あるソーシャルメディアのサイトで生徒たちが法輪功を行っているのを見て、中国から来たこの心身修養の修煉法についてもっと知りたいと思った。そこで彼は2019年2月16日、学習者を招き、教師と生徒にこの修煉法を紹介してもらった。そして約500人の学生と教師が法輪功の功法と中国の伝統的な修煉の原理を学んだ。

学習者たちは法輪功の功法の動きが緩やかで学びやすく、その原理である「真・善・忍」は多くの人々の心に響くものであり、年齢や経歴を問わず、誰でも法輪功を学ぶことができると説明した。

インドネシアの学習者はしばしば地域の学校を訪問し、法輪功の良さを地域社会に伝え、より多くの人々が法輪功の恩恵を享受できることを願っている。功法を行った後、校長先生は「音楽と功法の動きは集中力を高めてくれます。全身、特に体幹、関節、背中がとても気持ちいいです」と話した。ある美術の先生は「目を閉じて音楽を聴いていると、光の存在を感じることができました。私は腕を怪我していて、あまり高く上げることができませんでした。しかし、第四式の功法を行った後、腕を頭上に上げられるようになりました。なんと素晴らしい功法でしょう！」と語った。

### 15.4 アメリカ合衆国：ソフトウェア開発者の精神的な旅<sup>(326)</sup>

良い教育を受け、思い遣ってくれる両親を持ち、前途有望なキャリアを積んでアメリカに移住し、ソフトウェア会社のマネージャーとして現在の仕事に就いているサンソッシュさんは、周囲から見れば、全てを持っているかのようなだった。彼には愛する妻と2人の美しい娘がいた。「私の健康は絶頂期でした。健康に何の問題もありませんでした」と彼は振り返った。しかし、突然の自己免疫疾患の発症が、その全てを一変させた。サンソッシュさんは医師に相談したが、根本的な原因を特定できなかった。結局、医師は強力なステロイド剤を勧めた。医師たちは副作用について警告し、一生ステロイド剤に頼らざるを得ないとアドバイスした。

予後は稲妻のように私を襲いました。私は、友人や家族と幸せな生活を送るための全ての答えを得ていると思っていました。しかし、これが襲ってきた時、私はすぐにイライラして落ち込んでしまいました。

状況は悪化していく可能性があって、私の場合は目に影響が出てくる可能性がありました。気をつけないと全盲になってしまうこともありました。

サンソッシュさんはすでに手首と膝に痛みが出ていて、日常的なものを持ち上げるのも困難になっていた。「何の運動もできず、希望がないと感じるほどになっていました」。解決策を求め、彼は人生そのものについて深く考えるようになり、神や宇宙についてネットで検索した。「しかし、

精神面から探し求めていくうちに、私は文字通り迷子になってしまいました。宗教的な家庭に生まれましたが、今の私に何が起きていて、これから何が起こるのが分からなくなっていました」

そしてある日、同僚が彼に法輪功の話をした。「私は非常に興味を持ちました。ちょうどいいタイミングでした」。同僚は法輪大法のウェブサイトのリンクを彼に与え、書籍と功法学習はオンラインで無料利用できると言った。ある週末、サンソッシュさんは『法輪功』と『轉法輪』をダウンロードした。

「読み始めた瞬間、これが特別なものと分かりました」と彼は言った。「それが非常に分かりやすい説明で、私が心に抱いていた多くの疑問に答えてくれました。そして、これは今まで学んできたこととは全く違うものだとすぐに分かりました」

### (1) 健康がすぐに回復した

ほんの数日で、サンソッシュさんの健康は驚異的に改善した。痛みや不快感はゆっくりと消えていき、やがて存在しなかったかのように完全に消えていった。

信じられませんでした。日々の功法で、これほどの変化を経験しました。これは実体験であり、否定できません！

法輪大法の主な教えである『真・善・忍』により、私の視点が変わりました。私の心を強く打ったのは、他人が怒ったり、或いはあなたを侮辱している時でさえも、あなたは正直でいなければならない、思いやりを持たなければならないという、教えの核心にある純粹さです。これは究極的なもので、本当に私の心に響きました。

サンソッシュさんは、自分が以前のように簡単にイライラしたり怒ったりしなくなったことに気づいた。「以前の私はとても短気で、極度に神経過敏でした。それがすっかり変わって、今では人に優しくする方です」と彼は付け加えた。その頃、両親が彼と一緒に暮らしていて、二人とも彼のポジティブな変化を目にした。彼の父親はサンソッシュさんが生まれ変わったように新しく、より良い人間になったと言い、とても感銘を受けていた。

### (2) より幸せな家庭

多くの夫婦がそうであるように、サンソッシュさんもよく妻と口論していた。「皿洗いなどの家事をしなければならない時、『昨日は私がやったから、今日は彼女の番だ。私が毎日やらなきゃいけないことはないだろう』と思ったりして、つまり、全てのことに順序を決めるべきだと思っていました」。法輪功を習い始めてから、彼の考えは完全に変わった。「今では、彼女がやらなければいけないとか、彼女のやることだからとかではなくなりました。私が手伝える時は必ず手伝うし、ただやるだけです」

彼の妻はすぐに気づいた。彼女は、サンソッシュさんが口論するのをやめて、代わりに静かに物事を進めるのを手伝っていることに気がついた。彼は文句を言わなくなった。そこで、彼女は彼に法輪大法について尋ね、興味を持つようになり、時には本も読むようになった。

彼の娘たちもポジティブな印象を受けた。以前の父親は色んなことに動揺していたが、今では穏やかで忍耐強くなった。8歳の娘さんは彼に「ずいぶんしばらく私たちが怒鳴っていないよね」と言った。

### (3) 仕事により励むようになった

サンソッシュさんは目標志向で、チームが達成しなければならない目標をしばしば設定していた。法輪大法を学び始めてから、彼はこのアプローチがやや利己的であることに気づいた。「正直、心の中では、チームメンバーのことを気にかけていませんでした。少し強引で、チームにプレッシャーをかけてしまいました」と彼は振り返った。

「しかし、私が要求を減らし、もっと手伝うようになってから、チームの私に対する見方が変わりました。チームと私とのつながりが強くなりました」と彼は言った。時には、サンソッシュさんが何かを頼む前に、チームがすでに予想を超えて目標を達成していると気づくこともあった。「チームメンバーの1人が実際に私に言ったことですが、私の全体的な管理スタイル、特に会議や締め切りについての改善が著しいとのことでした」と彼は付け加えた。

「真善忍という核心的な教えを仕事に取り入れることで、私にだけでなく、会社全体に大きな利益をもたらしました」と彼は締めくくった。

### (4) 社会全体へのメリット

法輪大法が中国で直面している迫害を理解するのに、彼は時間がかかった。法輪大法はより良い人になり、より高い道徳的価値観を身につけ、誠実で親切な人になることを教えているのに、なぜ法輪大法を迫害する人がいるのか？

善であるべきと教えられる一方で、否定派、つまり邪悪が善を抑圧しようとしているのですから、本当に悲劇です。私が思うに、本当の被害者は、中共の中傷的なプロパガンダに騙されている中国の人々です。迫害が早く終わり、中国の人々全員が法輪大法の素晴らしさと真実を知ることができるよう、心から願っています。

経験上、私は大法がこれまでの人生の中で出会った中で、最も高潔で、かつ真つすぐで、とてもシンプルでありながら便利な修煉法だと思います。私は精神性を重視する人で、伝統的価値観を重んじる家庭で育ちましたが、真に高い精神性をもたらしてくれる、これほどエレガントで、ポジティブで、シンプルな修煉法に出会ったことはありませんでした。しかも、この修煉法は本当にあなたの心と身体に恵みをもたらすのです。

実際、それは本当にあなたが完全で健全な人生を送るのに役立ちます。これはあなたの家族や友人、親戚、仕事、そして誰に対しても、見知らぬ人にとってさえ言えることです。あなたが常に優しく親切な自分であることは、とてもポジティブなことです。これはとても貴重なことなのです。

### 15.5 中国人旅行者は海外旅行中に法輪功の事実を求める

「中共が弾圧してきた全ての団体の中で、法輪功への迫害が最も残忍なものです」と、ある中国人観光客がスイスを旅行中に、迫害についての認識を高める活動を行っていた学習者に言った。

「あなたたち（学習者）は本当に多くの苦しい思いを強いられてきて、私は残念に思っています。あなたたち（学習者）はとてもひどい待遇を受けているのに、それでも他人を助けるためにこのようなことをしています」

世界中の主要な観光地は、西側諸国に中共が広めたプロパガンダのために中国国外では知ることができない中国国民の本音を知ることができる中心地となっている。そしてまた、一般の人々が迫害、特に学習者という良心の囚人からの強制的な臓器摘出という、隠蔽された国家主導の迫害を知ることができる中心地でもある。中国人観光客の中には、法輪功の創始者に挨拶を送り、早く中国に帰ってきてほしいと願っている人もいる。彼らは観光地で学習者と議論し、焼身自殺のデマと臓器狩りの残虐性についての情報を得ている。

また、海外旅行は中国人に、中共とその青年組織である「共青团」、「少先隊」からの脱退の機会も提供している。「全世界脱党支援センター」のボランティアたちは世界中の中国人を支援してきた。旅行者たちは自ら脱党するだけでなく、帰国後、友人や家族にも情報を伝えている。

会員資格を放棄することを選択する観光客は、北米やヨーロッパ全域で着実に増加している。イギリスの観光地でボランティアをしている学習者の周さんは2014年の夏に、ある傾向に気づいたと説明した。

2008年と2009年の時、1年で数百人の中国人の脱党しか助けることができませんでした。2010年には、それが年間約1000人にまで増えました。2012年以降は2倍、3倍と増え、年間数千人になりました。今年に入ってからには月に千人くらいという感じです。

### 15.6 台湾：法輪大法により、新しい学習者が生き生きとした生活を取り戻す<sup>(327)</sup>

3年前の私は本当に包容力がなく、傷つきやすい人でした。「名声と利得」を追求した拳句に溜まってきたストレスが健康に影響を及ぼし、頻繁に体調を崩していました。頭痛、めまい、動悸、胸の痛みで悩まされていました。学業の面では成功していて、しっかりとした経歴を持っているに

もかわらず、私は幸せではありませんでした。行き詰まり、追い詰められている感じもありました。人生には何の意味もなく、将来への希望もありませんでした。

そんな私が法輪大法を学び、修煉の道に入ることができたのは幸運でした。修煉のおかげで、私は充実した穏やかな生活が送れるようになり、少しずつ活気のある生活を取り戻すことができました。

### (1) 答えを探し求める

私は今年大学を卒業したばかりです。若い頃から、私は常にクラスでトップでした。最高の学校に通いながら、私は様々な分野のスキルを身につけるために様々なレッスンを受けていました。しかし、私の学業の成功の裏にある苦勞を知る人はほとんどいませんでした。大成功を取めたことによる賞賛や恩恵を受ける中で、私は本音や感情を無意識のうちに抑え込むようになりました。良い結果を得るために私は常に勉強に励み、常に優秀な自分を演出できるように、人生の中で誰にでも合わせようと努力していました。

心の奥底では、この全てが無意味であり、自分は本当のところ幸せではないと知りつつ、私はこの終わりのない追求に自分を溺れさせ続けました。両親にさえ、私は自分の本音を抑えていました。益々華やかな姿を外側に見せる一方で、内面はどんどん暗くなっていきました。

「生きる意味ってなんだろう？」とよく自問自答しました。学術的な評価や良好な対人関係を追求しても、科学では説明できない超自然的な出来事に関する私の愛読書にも、答えを見つけることができませんでした。

ベッドに横たわりながら、宇宙の広大さに思いを巡らせました。自分の考え、あるいは人間の存在さえも、数千年後には消えてしまっているのです。そんな空間は、どれほど空虚で孤独なものでしょうか？ 想像を絶する恐怖感が背筋を震わせ、眠れないほどでした。常にベストな自分でいようとしながら、私は自分を導く基準や原則を持っておらず、誰と一緒にいるかによって自分をいつも変えていました。自分の考えや表現方法まで変えるほどだったのです。正直に自分を表現することが難しく、誰かに批判的になりすぎたり、相手の気持ちを傷つけてしまうのではないかと心配していました。

生活や勉学のストレスで体にも負担がかかり、頭痛や胸の痛み、微熱もあつたりして、大きな病院に通院したり、自宅や学校の医療センターで休んだりすることもしばしばありました。これら全ては、私のメンタルに問題があったために発生したものでした。しかし私はそれに気づかず、その事実を直視する気もありませんでした。高校3年生の時、私は自分の人生の思い出を真っ黒な絵に描いたこともあったのです。

## (2) 法輪大法と修煉法に出会う

大学在学中に、先生がカウンセラーやメンターを務め、学生の人生の問題や課題を解決するための支援を行う研修プログラムに参加しました。生と死の概念や家族の問題などが取り上げられ、討論が行われました。人生の様々な方面で迷いや無力感を感じた私は、しばしばプログラムの先生に相談を持ちかけました。

その先生はとても賢そうな方で、人生で起こることの全てを把握しているように見えました。ある時の会話の中で、先生は法輪大法と修煉について言及し、私に『轉法輪』を読むように勧めました。先生は、一度読み始めたらやめられない本だと言ってくれました。「こんなに賢明な先生に信じてもらえたとは、いったいどんな本なのだろう」と、私はとても気になりました。

懐疑的に思いつつも『轉法輪』へのリンクをクリックした私は、まさに天国のような本に衝撃を受けました。私の感情はとても複雑でした。私は興奮し、感動し、そして悲しみました。真・善・忍に基づく普遍法則が本当に存在することを知り、私は興奮しました。

この本は、私が科学や信念について抱いていた全ての疑問に答えてくれました。人生の意味、神や高次元生命の存在、そしてこれから人間としてどのように生きるべきかを教えてくれました。

「なぜ今になってこのような貴重な教えに出会えたのだろうか？」と私は心の中で叫び、同時に、心底から泣きそうになりました。それは、これまでの自分の人生が法の教えからあまりにも逸脱していたことに気づいたからでした。

その後、私は「真・善・忍」の教えに基づいて自分の性格を磨き始め、法輪大法の五式の功法を行い始めました。勉強面では、単に結果を気にするのではなく、心を込めて勉強する楽しさを初めて感じました。勉強への姿勢を変えてから、勉強はリラックスして楽しくできるようになり、成績はもっと良くなりました。

法輪大法から学んだ論理を用いて、科学的な質問に答えることができた私は、時に教授も驚かせました。健康面では、私はもう病気にかかることもなく、体が軽くて健康であることを実感していました。心の中に法があるので、私は真善忍の教えに基づいて自分の行動を顧みるのみでした。そのため、人と交流したり、自分の考えを表現したりする時に気まずさを感じなくなり、人と気さくに話せるようになりました。

心性が向上するにつれて、私は人生の問題や挫折にも冷静に向き合えるようになり、穏やかで安定した精神状態を保つことができるようになりました。おかげで、自由で満足のいく生活が送れるようになり、人生の活力が戻ってきたような気がしました。

少し前に、彼氏が私たちの長年の付き合いに終止符を打ちました。その時、彼にはすでに新しい彼女ができていました。このことを知った私の友人や親戚は怒り、私のために悲しんでいました。元カレさえも私のことを心配していました。

急な出来事なのに、私にはネガティブな感情はほとんどありませんでした。寧ろ、私はかなり冷静に考えて、彼の立場になって彼のことを考えていました。彼も私の冷静さと優しさを感じ取りま

した。修煉において、私たちは思いやりを口にします。私たちは人に優しく、常に相手のことを第一に考えていなければなりません。思いやりが純粹であればあるほど、その力が強くなり、他人もそれを感じることができると分かりました。また、修煉では、私たちは忍耐も重んじます。

李先生は『精進要旨』の「忍とは何か」の中で、このように仰いました。「忍とは心性を高める鍵です。怒り恨むこと、不平、涙をたたえて忍ぶことは常人が世間体で執着する忍です。まったく怒り恨むことがなく、不平に思わないことこそ修煉者の忍なのです」

修煉を始める前の私なら、間違いなく、ここまで真に冷静になれなかったでしょう。

### （3）李先生と大法が私を沼地から救い出し、元気を取り戻すように導いて下さった

法輪大法の原則と教えに導かれて、私は人生に対する態度を正し、健康を取り戻しました。今の私は心底から自信を持って話すことができ、自分の人生に純粹さと満足感を見つけたと分かっています。これまでの成果の中から人生の意義を見出せるとは、今までは考えられないことでした。3年前に『轉法輪』を読むことを選択し、修煉の道に入ったことに感謝しています。1人で沼地でもがき、息苦しくて、未来が全く見えない昔の自分の姿を今でも思い出すことができます。修煉して3年目の今の私は、全くの別人です。

「法輪大法は素晴らしい。真・善・忍は素晴らしい」。この二つの言葉の深い意味を皆さんに知って頂きたい、私は修煉前と修煉後の経験を共有しています。李先生に感謝し、大法に感謝しています！

## 15.7 韓国・ソウル：新人学習者たちが経験を共有<sup>(328)</sup>

2019年1月31日、ソウルの天梯書店で1回目の9日間の法輪功セミナーが開催された。最終日に、新しい学習者たちは座談会を開き、法輪功との出会い及び修煉の経験を語り合った。

### （1）生きる意味を見つける

2007年の韓国経済危機の時、セミナー参加者の1人である姜さんは財産を失った。経済的に苦しい中、彼はどうやって生きていけばいいのかと悩んだ末、「人間は裸でこの世に生まれ、裸でこの世を去る。何に執着するのか？」と考えた。

彼は本を読んだり、山に登ったり、体操をしたり、教会に行ったりして、元気でいようとした。そして、人生の意味を見つけないと願った。

「私は宇宙の中のほんの一粒の塵埃に過ぎないが、宇宙のエネルギーを受け入れて健康になることができる。富を心配するより、宇宙に同化していく方がもっと重要だ」と姜さんは考えた。

ある晩、彼は自宅の近くで学習者たちが法輪功を行っているのを見た。法輪功のチラシを読んだ後、彼は「私も法輪功を習うべきだ」と思った。

彼は天梯書店に行き、そこで、功法の入門書である『法輪功』を読むべきだと言われた。姜さんは「あの本を読んで、人生の目的を見つけたような気がしました」と語った。そこで、彼は9日間のセミナーに参加して、更に法輪功を探求することにした。

セミナーでは、参加者が法輪功の創始者である李洪志先生の九つの基礎講義の録画を見て、功法を学んだ。姜さんは9日間に亘って講義を聞いているうち、自分の心はその教えに感化されたと気づいた。彼は、修煉を通じて体が浄化され、毒素が取り除かれるが、自分の心性も向上しなければならないと理解し、そして一生を通じて、法輪功の「真・善・忍」の原則に従っていくことの大事さに気づいた。

「修煉は簡単なことではないと感じました。耐えることができなければうまくいきません。そして純粋な心で修煉していく必要があります」と姜さんは語った。

彼は昔、神々のことを考えていた。「今、法輪功を修めれば、自分自身もスピリチュアルな存在になれると感じています」と姜さんは言った。

姜さんは空いた時間に書店に行って修煉についてもっと学び、多く本を読み、一生懸命修煉していかうと考えていると言った。

## (2) 健康になり、強いエネルギーを感じるようになった

もう1人の新しい学習者である金さんは、ある朝、公園で法輪功を行っている女性を見かけた。そして「彼女の手振りがとても美しく、彼女から強いエネルギーを感じました」と語る。

金さんはチラシを受け取り、法輪功の修煉を始めた。彼は毎日煉功場に行って功法を行い、1年半の法輪功の修煉を通じて、人生と修煉について深い理解を得た。彼は修煉を始めてから健康になったと言った。以前、彼は非常に痩せていたが、今では体重が正常に戻った。

「法輪功は健康を増進するだけでなく、高次元の教えでもあります。修煉しながら心性を高めれば、誰もが健康を取り戻すことができると思います」と金さんは言う。

金さんは、修煉の過程で強いスピリチュアルな感覚を実感した。「五式目の座禅をして入静できた時、自分が神聖な存在になったような気がしました」と語る。

夫の前向きな変化を見て、金さんの妻が法輪功に興味を持ち始めた。彼女も9日間のセミナーに参加した。彼女はもともと1日だけ参加しようと思っていたのだが、9日間のセッションに全て参加した。9日間のセミナーの後、彼女は自分がもっと美しくなった気がして、背中の不快感もなくなったと言った。

### (3) 「真・善・忍」に同化していく幸せな暮らし

姜さんは昨年、山登りをしていた時、学習者たちが煉功しているのを見かけた。彼女はそれから2ヶ月後に9日間のセミナーに参加したが、もっと学ぶ必要があると感じて再び9日間のセミナーに参加し、今年1月にソウルで開催されたセミナーに3度目の参加をした。

姜さんは「煉功を終える度に体がとてもリラックスしていて、特に今日の煉功後はとても気持ち良かったです!」と言った。彼女は自由時間に法輪功の本を読むのが好きで、地下鉄で移動している時にも読んでいる。彼女は李先生の『轉法輪』をすでに30回読んだと言った。

「法輪功の本を読むと、とても幸せな気分になります。真・善・忍への同化を助けてくれるからです」と彼女は言った。

## 15.8 マンハッタン：天梯書店は法輪功を学ぶための便利な方法を提供

天梯書店は10年以上前からオンラインで運営されていたが、ニューヨークエリアでの需要の増加に伴い、2013年10月10日にマンハッタンのミッドタウンに実店舗をオープンした。天梯はその名の通り（「天」は中国語では「天空」または「天国」を意味し、「梯」は「梯子（はしご）」を意味する）、法輪功の修煉を通じて、読者に自己向上の方法を提供することを目的としている。

天梯は2013年7月1日のカナダデーにトロントで2号店をオープンした。北米最大の中国系屋内モールであるパシフィックモールに位置するこの店舗は、多くの中国人が住むトロントのヨーク地区に位置し、法輪功に関する書籍とマルチメディアを提供している。

未筆ながら、天梯書店はソウルに新しい支店をオープンし、人々が法輪大法の本や教材にアクセスしやすくなり、座禅を学ぶこともより簡単になった。マンハッタン店で行われた9日間のビデオセミナーに参加したホリーさんが他の参加者に語ったところでは、以前に他の瞑想法を試したことはあったものの、法輪大法で経験した平穏な心の状態に達したことはなかった。

## 第16章 国際社会からの支援

世界中の人権団体、官公吏、立法機関は、中国での迫害に終止符を打つことを求める声を上げている。スペインとアルゼンチンの法廷は、中共幹部を拷問と集団虐殺で起訴した。米務省と中国問題に関する米連邦議会・行政委員会（CECC）は、年次報告書の中で法輪功迫害を強調しており、前者は法輪功迫害の加害者を含む人権侵害者らの入国を拒否するべくビザの審査を厳格化している。

### 16.1 他国で訴えられた中国政府関係者

どこで起こったかに関係なく、ジェノサイドや人道に対する犯罪事件であれば、国内の裁判所が審理できるという普遍的管轄権の法的原則の下で、各国の裁判所は江沢民を含む迫害の主な加害者らに対する訴状を受理している。

#### 16.1.1 スペインの裁判所は拷問とジェノサイドの罪で共産党幹部らを起訴した

前例のない決定であるが、スペインの裁判官は、学習者に対する拷問と集団虐殺の犯罪に関与したとして、中共の高官5人を起訴した。2009年の裁判所の発表によると、有罪判決を受けた場合、被告らは少なくとも20年の懲役と金銭的な罰則を受けることになるという。迫害実行の主な責任を負う5人（江被告と同被告に従った4人）は4～6週間の回答期限があり、その後、スペインと引き渡し協定を結んでいる国に渡航した場合、強制送還の対象となる可能性があるという。

2年間の調査の後、スペイン国家裁判所のイスマエル・モレノ判事は、人権法基金会（HRLF）のカルロス・イグレシアス弁護士に、法輪功迫害への各個人の関与に関連する質問を含む、中国の5人の被告への査問書（要請書）の送付の嘆願書を許可したと通知した。イグレシアス氏と他のHRLFスタッフによる裁判所への一連の書類提出後、原告に有利な判決が下った。

イグレシアス弁護士は、「スペインの判事によるこの歴史的な判決は、残忍な犯罪を犯した中共の指導者が裁判にかけられることに一步近づいたことを意味しています。集団虐殺や拷問の罪を犯した場合、それは中国の国民にだけでなく、国際社会全体に対する罪です。スペインは人権と普遍的正義の擁護者として台頭しつつあります」と述べた。

被告人の中で、江沢民は法輪功を「根絶」するために1999年に開始されたキャンペーンの主要な扇動者として広く認識されている。また、告訴に直面しているのは、暴力的なキャンペーンを主導してきた全国的な秘密警察対策本部「610弁公室」を監督していた羅幹である。中国の弁護士は、残忍さと超法規的な権限において、610弁公室をナチスドイツのゲシュタポに喩えている。

他に告発された3人は、重慶市の元党書記で元商務部長の薄熙来、党の4番目の高官である賈慶林、党内部の懲戒委員会の責任者である呉官正である。彼らに対する告訴は、遼寧省、北京市、山東省でそれぞれ幹部を務めていた時に、法輪功に対する迫害を積極的に進めたことに基づいている。

ピューリッツァー賞を受賞した記事で、ウォール・ストリート・ジャーナルのイアン・ジョンソン氏は、法輪功を十分に取り締まらなかった部下に呉が如何に罰金を課したか、そして場合によっては死に至らしめるような地域住民への拷問に如何に役人らを仕向けたかを説明している。

裁判官が調査中に考慮した他の証拠として、拷問被害者や中国で殺された人の親族も含めて、15人の学習者の書面による証言、7人の学習者の口頭証言があった。また裁判官は、国際アムネスティ、人権ウォッチ、及び国連人権委員会の報告書も参考にして判決を下したのだとイグレスィアス弁護士は述べた。

### **16.1.2 アルゼンチン連邦判事は加害者の江沢民と羅幹の逮捕を命じる**

アルゼンチン連邦裁判所第9法廷のオクタビオ・アラオス・デ・ラマドリッド判事は4年間の調査の後、2009年12月17日に歴史的な判決を下した。ラマドリッド判事は、法輪功迫害に関与したとして、中共の前指導者江沢民と610弁公室の前責任者羅幹の逮捕令状を発行した。2人の中共高官は人道に対する罪で起訴されたのだ。ラマドリッド判事はアルゼンチン連邦警察インターポール局に逮捕の実行を命じた。142ページに及ぶ法的文書の中で、判事は中共による中国における学習者への迫害と、江と羅の関与について詳細に評価した。

ラマドリッド判事は判決の中で、「計画された集団虐殺の戦略は、生命と人間の尊厳を完全に軽視したあらゆる行動を包含するものである。意図された法輪功の根絶という目的によって、利用されたあらゆる手段が正当化されることとなった。こうして、苦痛や拷問、失踪、死亡、洗脳、心理的拷問が、学習者への迫害として広まることとなったのだ」と述べた。

更にラマドリッド判事は判決で「今回の事件において、犯罪の深刻さ、被害者の数、法輪功という宗教グループのメンバーに対する行動という思想的性質を考慮して、普遍的管轄権の原則を適用しなければならないと理解している」と述べた。

#### **16.1.2 (a) 江と羅は被告人になった**

2005年12月12日に羅幹がアルゼンチンを訪問した際、アルゼンチン法輪大法学会の傅麗維会長は、弁護士のアドルフォ・カサバル・エラス氏とアレハンドロ・ギレルモ・カウズ氏に、羅幹を連邦刑事裁判所第9法廷に提訴することを委任した。羅に対する告訴は、集団虐殺と拷問の罪であった。アルゼンチン連邦裁判所は提訴を受理し、オクタビオ・アラオス・デ・ラマドリッド判事が案件を担当した。

案件を処理する中で、判事には羅幹の上司である江沢民が法輪功迫害の発案者であると分かった。そこで、彼は羅の事件に江沢民を加えて二つの案件を共に処理し、書類に江による迫害事実も追加し、江を羅幹と同じ罪で起訴した。

中共は原告の弁護士に圧力をかけるなど、再三にわたり事件を妨害してきたが、案件の進行を阻止することはできなかった。ラマドリッド判事は4年間かけて調査と証拠収集を行った後、江と羅を逮捕し、法廷に連れて来させる命令を下すことを決めた。

### **16.1.2 (b) 迫害の事実を調査するため、証拠集めで判事は自ら米国に**

アルゼンチン連邦刑事裁判所第9法廷は2006年初め、中国における羅幹の法輪功に対する犯罪の捜査を開始した。ラマドリッド判事は、複数の情報源から証拠を集めた。その間、各国からは学習者も学習者でない者も証言のためアルゼンチンに赴いた。その中にはカナダの元アジア太平洋地域国務長官デビッド・キルガー氏と人権弁護士デビッド・マクス氏も含まれている。判事は、2006年4月3日から2008年3月26日までの間、ブエノスアイレスの連邦裁判所で9人の証人から証言を集めた。

ラマドリッド判事はアルゼンチン最高裁判所の承認と財政援助を得て、2008年4月により多くの被害者と会うためにニューヨークに向かった。被害者の多くは中国を逃れて亡命を求めているため、アルゼンチンで証言するためのパスポートを持っていなかったのだ。2008年4月28日から5月5日まで、判事はニューヨークのアルゼンチン総領事館で、米国在住の10人の証人から証拠を集めた。

調査中、判事はまた、国連や多くの団体による江と羅の法輪功迫害に関する調査報告書を入手した。中共は何度も中止させようとしたが、ラマドリッド判事は粘り強く調査を終え、最終的に2人の被告の逮捕を命じる正式決定を下した。

## **16.2 各国政府の行動**

### **16.2.1 オーストラリア政府は学習者の救出を支援**

2003年12月1日、オーストラリア上院は、法輪功を修煉しているという理由で拘束されたオーストラリア国民の近親者への支援を表明した動議第704号を可決し、人権対話でこの問題を提起するようオーストラリア政府に求めた<sup>(329)</sup>。

オーストラリア民主党の外務報道官、ストット・デスポジャ上院議員は次のように述べた。「民主党はオーストラリア政府と中国政府の関係の重要性を評価している。しかし、貿易の機会のために人権問題を犠牲にしてはならない。オーストラリアと中国との関係は重要ではあるが、我々は、

基本的人権を侵害する行為には断固として反対する。民主党は、中国における人権侵害、特に学習者への迫害と殺害に引き続き注目していく」と述べた。

デスポジャ上院議員は「学習者が殺害され、拷問され、投獄されたという話は本当に恐ろしいものです。オーストラリア国民の多くは中国に親戚がいて、そのような迫害を受けているのですが、国会の場で彼らを代弁し、彼らの状況に注意を払わないのは間違いだと思います」

「今日、上院で可決されたような動議は、中国政府へのメッセージというだけでなく、オーストラリアの法輪功団体に、彼らの奮闘が認められており支持されているのだと伝えるメッセージでもあるのです」と続けた。動議が可決された当日、オーストラリア全土から約200人の学習者がキャンベラの国会議事堂の前に集まり、この動議への支持を表明した21,700人のオーストラリアの一般市民からの請願署名を提出した。

集会では、オーストラリア国民の李麒忠さんの婚約者である李迎さんの救出に尽力したオーストラリア政府、国会議員、非政府組織、一般市民に感謝の意を表すと共に、学習者たちはオーストラリア国籍を持つ欧陽昱さんの弟である欧陽明さんにも哀悼の意を表した。オーストラリア外務貿易省が二国間の豪中人権対話の際に中国政府に提示した家族リストには、明さんの名前が4回も含まれていたにもかかわらず、明さんは中国の労働収容所で拷問を受けて死亡した。

集会では、民主党のアンドリュー・バートレット党首、中国民主連盟の秦晋総理事、そして中国労働党オーストラリア支部の阮傑書記らが登壇し、演説した。

オーストラリア政府は他にも支援した救助活動があり、それには2003年1月30日に中国当局から釈放された学習者南希・陳さんの救助活動も含まれている<sup>(330)</sup>。この救助は、オーストラリア外交通商省、「南希・陳緊急救助チーム」を始めとする多くの関係者の共同作業の結果である。陳さんが身柄を拘束されてからの8日間、世界中の学習者は中国四川省の政府関係者に電話をかけ、ファックスを送った。オーストラリアのメディアは頻繁に彼女の事件を報道し、ABCラジオもニュース番組でいくつかの記事を放送した。

キャンベラのオーストラリア外務貿易省の関係者は中国からの報告を受けた後、すぐに陳さんの夫に電話をかけた。また、在北京オーストラリア大使館は四川省の陳さんのご両親に連絡し、救援活動の進捗状況を連絡すると共に成都市に直接赴き、中国の関係当局との仲介を行った。

また、オーストラリア政府は、オーストラリア国民フィリップ・羅さんの婚約者である謝焱さんの救出にも協力した<sup>(331)</sup>。謝さんは24歳の時、広州の悪名高い槎頭強制労働収容所で拷問を受けた。ニューサウスウェールズ州の自由党のアンソニー・ロバーツ議員は、謝さんの状況を同僚に伝えると述べた。

キャンベラのジョン・スタンホープ首席大臣（MLA）は中国大使館に対し、謝さんの状況、及びフィリップ・羅さんに対する中国ビザ発給を拒否した詳細について問い合わせを行った。ジョン・マーフィー議員はアレクサンダー・ダウナー外相に手紙を送り、外務貿易省に中国当局への問題提起を要請した。ダウナー外相は、中国当局が人権条約に違反していると指摘した。マーフィー氏は

更に広州のオーストラリア領事館と連絡を取り、謝焱さんのオーストラリア行きの申請を手伝い、一刻も早くオーストラリアに到着できるように支援してほしいと要請した。2004年7月31日、謝焱さんが無事にシドニー国際空港に到着し、若いカップルは再会した。

### 16.2.2 カナダ政府は中国に収監されていた2人の兄弟を救出<sup>(332)</sup>

2002年、カナダ議会はスコット・リード議員が提案した決議M-236を可決し、首相に中国から13人の学習者の救出を要請した。その中の1人である林慎立さんは、2002年にカナダ政府とアムネスティ国際の協力によって救出され、弟の林鳴立さんも2011年に解放された。兄弟は1999年に法輪功を修煉しているが為に逮捕され、13年ぶりにトロントで再会した。

「中国から救出して下さったカナダ政府、移民大臣、そして国会議員のスコット・リード氏に感謝しています」と、トロントに到着した林鳴立さんは語った。彼はまた、救出に尽力してくれたカナダの学習者たちにも感謝した。林鳴立さんの釈放から2週間ほど前に、2人のカナダ人議員が鳴立さんが拘束されていた労働収容所に手紙を送り、直ちに鳴立さんを解放するように促した<sup>(333)</sup>。

3月20日、ロブ・アンダース議員はオタワの国会で林慎立さんと共に記者会見を開き、鳴立さんを救うために全力を尽くすと語った。

ライザ・フルラ議員は自らの手紙に「他国の内政問題にコメントするのはデリケートな問題であることを理解していますが、中国で違法に拘束されている全ての学習者の即時釈放を求め、林鳴立さんの投獄が示す継続的な人権侵害を非難する私の同僚でマウント・ロイヤルの議員であるアウイン・コトラー氏、そして全国のカナダの人々の声とともに、私も主張していきたいと思います」と記した。

2000年、林鳴立さんは初めて洗脳班に送られ、そこで法輪功を放棄するように言われた。しかし、彼は拒否した。2001年、彼は強制労働収容所に送られ、2003年3月まで監禁された。

2005年10月、彼は再び逮捕され、今度は懲役6年の判決を受けた。「刑務所では服を脱がされ、5本のロープで吊るされ、竹の棒で殴られました。彼らはしばしば私を殴り、眠らせてくれない、法輪功を放棄するようにと言いました。私が放棄しないと言うと、また殴られました」と林さんは語った。

「また、彼らは法輪功を攻撃する音声録音を流し、私に強制的に聴かせました。

刑務所で、彼らが学習者が気絶するまで殴っていたのを見ました。その後、彼らは彼を病院に連れて行きました。別の日に、私は彼らが別の学習者を殴るのを見ました。彼は頭から血が出ていても、病院に連れて行ってもらえませんでした」

空港では、20人以上の学習者と支援者が林さんを出迎えた。彼はこう言った。「今日はとても幸せです。皆さんに感謝しています。まだ多くの学習者が想像を絶する拷問を受けています。拷問されているにもかかわらず、彼らはしっかりと信念を堅持しています」

### 16.2.3 台湾は迫害に関与した中国政府関係者の入国を拒否

2017年、台湾は法輪功迫害に関与した中国当局者の入国を、少なくとも3人拒否した。拒否された当局者が率いた代表団も入国を拒否された。

大陸委員会の邱垂正副主任は、同委員会が中国からの人権侵害者の入国許可を制限していることを確認した。中国の役人は、学習者を迫害した前科があり、法輪功迫害を監督する超法規的組織「610弁公室」に所属している場合、直ちに入国を拒否される。これは、人権を重視し保護するという台湾の政策を強調し、実行するためであると邱主任は述べた。

### 16.2.4 米国政府による措置

#### 16.2.4 (a) 米務省、年次報告書に懸念を示す

マイク・ポンペオ国務長官は2019年3月13日、国務省の人権慣行に関する国別年次報告書を発表した際、中国は「人権侵害に関しては一線を画している」と述べた。

報告書は200近くの数々と地域での侵害を記録したもので、うちの120ページ分は中国に関するものであった。法輪功への迫害は6回言及されている。

報告書は、2016年6月に下院が全会一致で可決した決議343号、即ち中国における強制臓器摘出の問題を明らかにした。「多くの学習者や他の宗教や民族の少数グループを含む良心の囚人からの同意のない、中国政府の承認に基づく組織的な臓器摘出に関する一貫した信頼できる報告について、懸念を表明する」

報告書によると、「一部の活動家と組織は、政府が良心の囚人、特に学習者から臓器を強制的に摘出していることを非難し続けている」。

現在中国で収監中の学習者である卞麗潮さんと馬振宇さんの2人が報告書の中で言及された。

卞麗潮さんは、河北省唐山市開滦第十高等学校で受賞歴のある教師である。2012年に12年の懲役を言い渡された。馬振宇さんは、中国電子技術グループ第14研究所のエンジニアであった。彼は2018年に南京中級裁判所から懲役3年の判決を受けた。

報告書は、「政府による恣意的または不法な殺害、政府による強制失踪、政府による拷問、政府による恣意的な拘留、過酷で生命を脅かす刑務所や拘置所の環境、政治犯」などの政府によるものを含む、中国における幾つかの深刻な人権侵害を列挙している。

報告書はまた、学習者がいかに中共による「組織的な拘束拷問」の犠牲になっているかを詳述している。

報告書は、学習者を含む政治活動家や宗教信者が中毒治療センターに拘束されていることを指摘しているが、最も長い拘束期間は2年間であった。

また、政治活動家やスピリチュアルな信奉者を助ける弁護士の中には、資格を剥奪された者もいると報告された。中には、拘束されたり、嫌がらせを受けたり、脅迫されたり、依頼人との面会を禁じられたりした弁護士もいるという。学習者を支援してきた弁護士の中には、失踪した者さえいる。彼らは密かに投獄されたと考えられている。その一例として、2017年8月から姿を消している高智晟弁護士が挙げられる。

国務省の民主・人権・労働局は、人権報告書を毎年発表している。今回で43回目の報告書となる。

#### **16.2.4 (b) 2018年CECC年次報告書：中国では法輪功への迫害が続いている**

中国問題に関する米連邦議会・行政府委員会（CECC）は10月10日、2018年の年次報告書を発表し、中国の人権状況が悪化していると強調した。特に、共産党政権は学習者や高智晟氏などの人権派弁護士、少数民族への弾圧を続けている。

また、強制的な臓器摘出についても言及された。「複数の国際機関は、学習者を含む拘束中の囚人の臓器を使用した臓器移植が中国で多数行われているという報告に対して、懸念を表明した」と、報告書の324ページで言及され、これはCECCのウェブサイトでも閲覧できる。

#### **極端な弾圧**

マルコ・ルビオ米上院議員とクリス・スミス米下院議員（CECC議長兼共同議長）は、記者会見で報告書を発表した。「中共は、政府、社会、企業に対する支配力を飛躍的に強め、目的を達成するために情け容赦なくテクノロジーを駆使している。アメリカの政策立案者たちが、米中関係における数々の誤った仮定を再検討する傾向が強まっている中で、私たちは中国の国内弾圧の世界的な影響についてクリアな目で見なければならぬ」と、ルビオ上院議員は述べた。

彼は、共産党による宗教団体への弾圧もまた、中米関係を損なうものだと述べ、共産党は、米国の安全保障、国益、道徳的価値観だけでなく、基本的権利の保護と真の政治改革を求める中国国民の要望とも一致する、普遍的価値観を堅持する必要があると述べた。

ルビオ上院議員は共産党幹部への制裁を要求した。彼は、委員会の問責は中共に向けられたものであり、中国国民に向けられたものではないと述べた。実際、中国の人々と中国文化は人類の文明に多大な貢献をしてきた、とルビオ氏は述べた。

スミス議員は、「この報告書は、普遍的な基準を守らない中国政府の失敗に光を当て、拷問され、虐待された政治犯の事例に光を当てている」と説明し、「中共の低い基準から見ても、今年の弾圧

は極端を極めている。宗教団体、少数民族、人権派弁護士への弾圧は文化大革命以来、最も深刻なものだ」と述べた。

スミス議員は、年次報告書に臓器摘出を含めることは、この嘆かわしい行為に対して行動を起こす必要があることを意味していると述べた。

報告書には、こう書かれている。

昨年に引き続き、当局は学習者を拘束し、過酷な扱いに晒した。人権団体と学習者は、身柄を拘束されている間に受けた身体的暴力、薬物の強制投与、睡眠を奪われるなどの拷問を含む、学習者に対する強制的で暴力的な行為を文書化した。

CECCの報告書は、中国刑法第300条によって有罪判決を受けた800人の大半は学習者が占めているという米国の非営利団体「中米対話基金会」の人数を指摘している。2017年のこれらの事例は、司法データベースに掲載されている。

その中で、雲南省玉溪市の鄧翠萃さんは6年の懲役に服役していた。河北省唐山市の卞麗潮さんは懲役12年の判決を受けた。遼寧省丹東市の張明さんと李全臣さんも6月下旬に逮捕された。

他国籍の市民でさえも被害を受けた。2018年1月5日、広東省深圳中級裁判所は、マレーシア国籍のMiew Cheu Siangさん（1年6ヶ月）と妻の余凌嵐さん（5年）の控訴審判決を支持した。2人は法輪功関連資料の所持と配布の罪に問われた。

『大紀元時報』は2017年12月、同年の当局による虐待致死が確認された学習者29人の事例を報道した。

### **FBIによる捜査を呼びかける**

報告書はまた、中共が「生体情報の収集の拡大、監視ネットワークの拡大、社会的信用システムの継続的な発展を通じて、中国国民の私生活に再侵入している」ことも明らかにした。

ルビオ上院議員とスミス下院議員はまた、米国在住の中国人コミュニティを標的とした「容認できない」脅しや脅迫への対処方法についての報告を求める、FBI宛ての書簡を公開した。

「中国の国内における権威主義は、我々の自由だけでなく、我々の最も基本的価値観や国益をも直接脅かしている」と報告書の要旨で指摘している。

### **16.2.4 (c) 国務省は人権侵害者に対してより厳しいビザ審査を課す**

明慧ネットは2019年5月31日、米国政府が人権侵害者や宗教的迫害の加害者に対してビザを拒否する可能性があると、米国務省の職員が様々な宗教団体に伝えたとの通知を発表した<sup>(334)</sup>。これには、移民ビザと、観光やビジネスビザなどの非移民ビザの両方が含まれる。すでにビザ（「グリーンカード」永住ビザを含む）を取得している人も入国を拒否される可能性がある。

学習者は、法輪功迫害に関与した加害者のリストを提出することができると、職員から特別に伝えられた。明慧ネットは米国政府への提出に向けて、こうした加害者の身元や家族、資産などの情報をまとめる作業を開始した。

加害者には、神韻公演、神韻交響楽団、法輪大法体験交流会、学習者の社会活動を妨害しようとしていた中国の役人と米国にいる個人が含まれる。また、法輪大法に対する中共のプロパガンダを様々なウェブサイトで広めた者も含まれる。

ビザ審査強化のニュースはすでに、中国の一部の役人の迫害への参加を阻止している<sup>(335)</sup>。黒竜江省では、国内の治安警察が15日間の拘留の後、4人の学習者を釈放し、所持品も返還した。ある警官は「私たちはあなたを殴っていませんでしたらう？ 罵ってもいませんでした。通報しないでくれ。子どもが海外に行けなくなるのは困る」と話した。山東省では、警察は2人の学習者を逮捕し、法輪功の本を没収した。没収した物品の中の「明慧通知」のチラシを発見した翌日、警察は学習者を釈放し、電動自転車も返した。

以前に移民・難民・市民権大臣を務めていたカナダ議会のジュディ・スグロ議員は、カナダでも同様の措置が採られることを求めた<sup>(336)</sup>。彼女はマグニツキー法を使い、中国の役人、特に学習者の臓器取奪に関与した者を制裁することを提案した。

#### **16.2.4 (d) 米国の指導者が信教の自由を訴え、学習者と会談**

##### **(1) トランプ大統領がホワイトハウスで学習者と面会**

張玉華さんは、2019年7月17日にホワイトハウスの執務室でドナルド・トランプ大統領と会談した17カ国の27人の宗教迫害生存者の1人である<sup>(337)</sup>。

27人の生存者は、2019年7月16日から18日にかけてワシントンD.C.で開催される米国務省主催の「第2回宗教自由推進閣僚会議」に出席するために訪れた。

張さん(59)は、現在中国江蘇省蘇州刑務所で3年の刑期を受けている夫の馬振宇さんへの迫害について、トランプ大統領に語った。

馬さん(56)は2017年9月に逮捕され、2018年6月に(判決文の記載である)「中央政府の指導者に法輪功のために訴える7通の手紙を書いた」として、実刑判決を受けた。

張さんはトランプ大統領に「夫のことをとても心配している」と話した。彼女は同じ施設に3年間投獄された別の学習者を知っており、その学習者は大量の血を吐き、釈放された2日後に死亡した。彼女はトランプ大統領に、中国の人権侵害や臓器狩りに対して、しっかりとした行動を取るよう促した。大統領は「分かりました」と答えた。

執務室での会合での冒頭の発言で、トランプ大統領は生存者との連帯を表明し、信教の自由を守ることを再確認した。

「あなた方一人一人が信仰のためにひどく苦しみを受けてきました。嫌がらせ、脅迫、攻撃、裁判、投獄、拷問に耐えてきました。あなた方一人一人が今、世界中で信教の自由を前進させることの重要性を示す証人となっています」とトランプ大統領は述べた。

アメリカでは、私たちの権利は政府からではなく、神から来るものと常に理解しています。私たちの権利章典で、第一の自由は宗教的自由です。私たち一人一人が、自分の良心の命じるところと、宗教的信念の求めに従う権利を持っています。

ここにいる皆さんは、多くの方が耐えられないほどの困難を乗り越えてきました。私は称賛したいと思います。皆さんと共にいられることを心から光栄に思い、そして永遠にあなたたちのそばに寄り添います。

## (2) 第二回宗教自由推進閣僚会議での法輪功迫害に関する発表

その日の1人目の発表者である張さんは、宗教自由促進閣僚会議で、夫と自身が受けている迫害について話した。張さんは南京師範大学のロシア語教授であった。彼女は法輪功を学んでいたことで4回も逮捕され、7年7ヶ月の懲役を言い渡された。獄中では、彼女はスタンガンによる電気ショックを与えられ、睡眠を奪われ、未知の薬を強制的に注射され、炎天下で何時間も走らされるなどの酷い拷問を受けた。

彼女の夫であるレーダー設計エンジニアの馬さんは何度も逮捕され、最近の刑期に入る前に7年間服役していた。当局は馬さんの弁護士との面会を禁止しており、以前、馬さんの代理人を務めた数人の弁護士が報復されたため、張さんは昼夜を問わず馬さんのことを心配していると言った。

「彼は、他の数千人の学習者のように拷問されて死ぬかもしれない、数え切れないほどの学習者がされたように、臓器のために殺されるかもしれません」

彼女は米国政府に、「不法に学習者を拘束し、拷問し、殺害したと知られている」中国当局者に対して、世界マグニツキー法に基づく制裁を課すことを求め、「私は米国政府、国際メディア、人権団体が私の夫と何十万人もの無実な学習者の釈放を手伝ってくれることを願っています」と述べた。

## (3) 下院議長と元議員が中国の人権侵害を非難

ペロシ氏は、元下院議員のフランク・ウルフ氏と中国における人権侵害に焦点を当てて、1時間の討論を行った。討論の中でペロシ氏は、中国における信教の自由への弾圧を「世界の良心への挑戦」として、「侵害行為の規模が大きく、商業的利益が非常に大きいため、それにどう対処すべきに際して、我々の価値観を揺るがしてしまうことがある」と述べた。

フランク・ウルフ元下院議員は、中国における信教の自由への弾圧がエスカレートしていることや、欧米諸国の企業が中国の政権と手を組んで、大量監視や人工知能などの技術を開発して信仰団体を弾圧していることへの懸念を表明した。

「西側諸国の企業は、中国に協力してこんなことをすべきではない」とウルフ氏は言い、「彼らは訴えられるべきだと思う」と言った。彼は、人々がそのような企業に対して訴訟を起こすべきであり、損害賠償はウイグル人、チベット人、学習者といった被害者のグループに与えられるべきだと述べた。

#### **(4) マイク・ペンス副大統領は、法輪功を含む中国で迫害されている宗教団体の代表者と会合**

中国で迫害されている3つの宗教団体の代表者は2019年8月5日、マイク・ペンス副大統領および国家安全保障会議の代表者と会談し、中国における宗教弾圧とその対処法について話し合った<sup>(338)</sup>。

ワシントンD.C.の法輪大法学会のメンバーは法輪功への迫害について語り、ペンス氏に「迫害は今も厳しい状況です。過去20年間で、4,000人以上が拷問やその他の身体的虐待によって死亡したことを確認しました。情報が封鎖されているため、実際の人数は何倍にもなるでしょう。臓器収奪は20年近く続いています。犠牲者の数は本当に多いのです」と伝えた。ペンス氏は「私たちはあなたたち（学習者）のことを忘れません。約束します」と返答した。

ペンス氏は、中国との貿易協議において、宗教的迫害に言及することの重要性を強調した。2019年7月18日の第2回閣僚会議で、ペンス氏は「...北京との交渉でどんな結果が出ようとも、安心してください。アメリカ国民は常に中華人民共和国の全ての信仰がある人々を支持します」と述べた<sup>(339)</sup>。

### **16.3 非政府組織が取った行動**

#### **16.3.1 フリーダムハウス、法輪功迫害に関する報告書を公表**

フリーダムハウスの142ページに及ぶ報告書のうち、22ページ分が、中国における法輪功や他の信仰団体への迫害を強調し、分析したものである<sup>(340)</sup>。「中共が開始した法輪功に対する弾圧は、文化大革命以来で最悪の宗教迫害だ」と、オタワ大学の中国宗教研究の第一人者であるアンドレ・ラリベルテ氏の報告書の発言を引用している。

以下は報告書の主な調査結果である。

**存続：**中共による17年間の根絶キャンペーンにもかかわらず、中国では無数の人々が法輪功を学び続けており、中には弾圧が始まってから修煉を始めた人も多くいる。これは、中共の治安機構の顕著な失敗を表している。

**進行中の大規模な迫害：**中国全土の学習者は広範囲の監視、恣意的な拘留、投獄、拷問を強いられており、超法規的な処刑を受ける危険性が高い。フリーダムハウスは2013年1月1日から2016年6月1日までの間に、信教の自由に加えて、主に表現の自由の権利を行使した罪で、最大12年の懲役刑を言い渡された学習者の933件の事例を独自に検証した。これは判決を受けた者の一部に過ぎず、更に数千人以上が様々な刑務所や法定外の拘置所に収容されていると考えられる。

**弾圧の亀裂：**迫害キャンペーンが継続中であるにもかかわらず、一部の地域では、弾圧行為が減少しているように見受けられる。習近平国家主席は法輪功に対する中共の政策を覆す計画を明確に示していない。しかし彼の汚職防止キャンペーンの一環とした元治安当局責任者の周永康を始めとする法輪功迫害に関与した幹部らの粛清・投獄や、警察による迫害を食い止めたり、迫害しないように説得したりしている学習者の粘り強い努力が功を奏している。

**経済的搾取：**党が率いる国家は、法輪功を弾圧するために毎年何億ドルもの資金を投じており、同時に、学習者を搾取し国家に利益をもたらす虐待（恐喝、囚人労働など）も行っている。入手可能な証拠によると、学習者の臓器を強制的に摘出し、移植手術用に販売することが大規模に行われており、現在も継続しているであろうとされている。

**反発と抵抗：**学習者は、自分たちを対象としたキャンペーンに対して、様々な非暴力的な方法で対応してきた。特に、警察や一般の人々に、法輪功の修煉そのもの、信者に対する人権侵害、国家のプロパガンダに対抗するためのコンテンツなどの情報提供に力を入れてきた。近年、中国では、人権弁護士、家族、隣人を含む益々多くの非学習者がこのような取り組みに参加している。

### 16.3.2 アムネスティ・インターナショナルは「緊急行動」の通知を発表

アムネスティ・インターナショナルは2017年2月21日、「緊急行動」の通知を発表し、学習者の陳慧霞さんが信仰のために、3年または無期懲役の刑期に直面していることへの注意を呼びかけ、中共政権に陳さんの即時釈放を求めた。アムネスティ・インターナショナルはまた、陳さんへの更なる迫害を止めるよう呼びかけた<sup>(341)</sup>。

アムネスティの更新情報によると、「2016年6月3日に警察に連行された陳慧霞さんは、2016年7月15日に河北省東北部の石家荘市第二拘置所に移送されるまでの1ヶ月以上、非公式の拘置所で鉄製の椅子に縛り付けられていた」

逮捕されて以来、陳さんの家族は彼女に会うことを許されなかった。「彼女の家族が依頼した多くの弁護士は、当局が学習者を弁護することを許可しないと信じ、この事件の引受けを拒否した」ため、陳さんには2016年11月まで弁護士がいなかった。

この通知は人々に手紙や電子メール、電話やファックス、ツイッターで関係者に「陳慧霞さんは信教表現の自由の権利を行使しただけで拘束されたので、直ちに無条件に釈放し、釈放までの間は彼女が家族や希望する弁護士と迅速かつ定期的に無制限に面会できるようにしてほしい」と要請するよう呼びかけた。

アムネスティ・インターナショナルはまた、陳さんが拘束されている間、拷問やその他の虐待から保護されることを求めた。更新情報によると「娘さんの話では、陳慧霞さんは慢性疾患と悪い健康状態を改善させるために1998年に法輪功を修煉し始めたが、2003年に約3ヶ月間拘束された。彼女の釈放後、家族は当局による執拗な嫌がらせと脅迫に晒されてきた」

通知は更に、中共が何十万人もの学習者を拷問、拘留、投獄していると説明した。

## 16.4 決議、宣言及び支援の手紙

法輪功は世界中の政府やNGOから多くの宣言と支援の手紙を受け取っている。これらの声明文は、法輪功が様々な地域やコミュニティにもたらした恩恵を強調し、例外なく中国政権の法輪功迫害を非難している。

### 16.4.1 各方面からの支援

現在に至り、法輪功は国家、省、地方選挙で選ばれた役人、または政府による2,025回の宣言、409件の決議、1,200の支持する書簡で主題として言及されていた。

1994年8月3日、米国ヒューストン市は李洪志氏を名誉市民と親善大使に任命した。2年後、ヒューストン市は1996年10月12日を「李洪志の日」とする2回目の宣言を発表した<sup>(342)</sup>。宣言文には次のように書かれている。

*法輪大法の創始者として、李洪志氏は世界中の人々の尊敬と称賛を集めている。法輪大法は宇宙の美徳である「真・善・忍」（真理、慈悲、忍耐）の原則に基づいている。法輪大法は健康増進を重視し、真摯な修煉者を悟りへと導く。*

*法輪大法は文化や人種の境界を超えて、地球の隅々まで普遍的な真理を共鳴させ、東側諸国と西側諸国のギャップを埋めるものである。*

過去20年以上に亘り、選挙で選ばれた役人や政府は毎年、世界法輪大法日を記念して声明を発表し、支援の手紙を発信してきた<sup>(343)</sup>。カナダのジュディ・スグロ議員は、2019年5月13日の祝賀の手紙で次のように書いた<sup>(344)</sup>。

*ここカナダだけでなく、世界中で開放性、寛容性、良心と信教の自由の価値を向上させるための皆様の努力を支持することできて光栄です。*

...

悲しいことに、あまりにも多くの非暴力的で敬虔な学習者たちが、暗闇の中で、迫害や死の脅威に晒されながら生きています。カナダ人として、私たちはこれらの恐ろしい過ちを正すのに必要な変化をもたらす役割を果たさなければなりません。

米国下院は中国政府に対し、法輪功への迫害の終結を求める決議案を可決している。それには2004年の下院同時決議304号<sup>(345)</sup>と、2010年の下院決議605号<sup>(346)</sup>が含まれているが、いずれもイリアナ・ロス・レイティネン議員が提案したものである。フランク・ウルフ下院議員は投票前の演説で、「中国は人権侵害を益々大胆に行っている。この弾圧に直面して、アメリカは無防備な人々、つまり沈黙を強いられている人々を支援する立場にあることを継続的に確認する責任がある」と述べた<sup>(347)</sup>。

迫害から20年目を迎える2019年7月20日頃、米国の上院議員と下院議員22人が、迫害に対抗する学習者たちの努力を称える書簡を送った<sup>(348)</sup>。

#### 16.4.2 ドイツは中国における20年間に及ぶ法輪功迫害を非難

連邦人権政策・人道支援委員のバーベル・コフラー博士は、ドイツ連邦外務省のウェブサイトにもニュースリリースを掲載し、北京の法輪功迫害を非難した<sup>(349)</sup>。

2019年7月20日に発表されたニュースリリースには、次のように記されている。

過去20年間、中共政権は、精神的な修煉法である法輪功の修煉者を悪意を持って扱っていた。学習者は法的手続きを経ずに迫害され、拘束されている。学習者は拘束中に拷問を受け、死亡に至ったことさえあるとする数多くの報告がある。迫害から20周年を迎えた今、私は中国の学習者が今も危険に晒されていることを深く憂慮している。

コフラー博士は北京に対して「学習者の権利も含めた人権保護のため、国際的なガイドラインと中国の法律に従うこと」を要求し、「拘束された学習者から長年にわたり系統的に臓器を摘出していたとの重大な告発」に対応し、「直ちに移植用臓器の供給源の透明性を高め、独立した監視員の拘置施設への自由な立ち入りを許可すること」を要求した。

#### 16.5 臓器狩りに対する国際社会の反応

2006年に始まった独立調査に続き、多くの政府機関は臓器密売に対するより強力な法律を制定し、中国での良心の囚人の殺害に終止符を打つことを求める決議を可決した。

医療機関や専門機関も倫理基準を守るための措置を講じているが、中国の移植関係者や外科医は、一部の国際会議では歓迎され続けている。

## 16.5.1 決議

### 16.5.1 (a) 欧州議会

欧州議会は2013年12月12日、「宗教的信仰のために投獄された多数の学習者や他の宗教または少数民族のメンバーを含め、良心の囚人からの同意のない臓器摘出が中華人民共和国でシステムの且つ国の認可によって行われている。このことに関し継続的で信憑性のある報告があるが、これに深い懸念を表明する」とする(2013/2981 (RSP)) 決議を採択した。

決議案は、「EUとその加盟国に対し、中国における臓器摘出の問題を提起すること、その臓器移植の暴走を公に非難し、中国に渡航する市民の間でこの問題に対する認識を高めること、更にその臓器移植の慣行について完全かつ透明性のある調査を行い、そのような非倫理的な慣行に従事していると判明された者を起訴すること」等を求めた。

2016年、欧州議会の12人の議員が、中共政権による違法な人体臓器の摘出と人身密売の調査を欧州議会に要請する共同宣言を発表した。6月29日の特別公聴会の後、欧州議会(MEP)の半数以上の議員が共同宣言書(2016/WD48)に署名し、中国での国家公認の強制臓器摘出を止めるための行動をとるよう欧州議会に求めた<sup>(350)</sup> <sup>(351)</sup>。

### 16.5.1 (b) 米国下院

米国下院は2016年6月13日夜、決議343号を全会一致で可決した。同決議は、中国の共産主義政権に対し、学習者や他の良心の囚人からの強制臓器摘出を直ちに停止するよう求めている。

同決議はまた、17年目を迎えた法輪功への迫害を直ちに終わらせることも求めた。そして更に、収監されている全ての学習者と良心の囚人を釈放するとともに、中国の臓器移植システムについて信頼性と透明性のある独立した調査を行うよう求めている。

この決議343号は、中東・北アフリカ小委員会委員長のイリアナ・ロス＝レイティネン議員(R-FL)、ジェラルド・コノリー議員(D-VA)、及び6人の下院議員によって発起された。6人とは、ダナ・ローラバッカー議員(R-CA)、テッド・ポー議員(R-TX)、マリオ・ディアズ・バラート下院議員(R-FL)、ジュリア・ブラウンレイ議員(D-CA)、サム・ファー議員(D-CA)、及びデイビッド・バラダオ議員(R-CA)である。この決議は、185人の共同提案者を擁する強力な超党派の支持を集めた。

#### (1) イリアナ・ロス＝レイティネン下院議員「学習者への迫害が続いていることを非難する」

決議案を作成したイリアナ・ロス＝レイティネン下院議員は、記者会見でこう語った。

中国は、法輪功や他の良心の囚人に対して、恐らく最も陰惨で非道な人権侵害を行ってきたが、これらの侵害に対して、制裁どころか、ほとんど批判も受けてこなかった。

個人の自由を奪い労働収容所や刑務所に放り込み、処刑し、更に移植のために臓器を摘出するという、政権の残忍で非人道的な行為は理解の埒外であり、世界中から反対され、無条件に終わらせなければならない。

彼女は投票前の議場での演説でこう言った。

この決議を通すことで、私たちは中国の政権に学習者への迫害が続いていることを非難するメッセージを送ることができる。そして、この受け入れ難い行為は止めなければならない。特に、同意なき個人から臓器を摘出することは、止めなければならない。

## **(2) エリオット・エンゲル下院議員「強制的な臓器摘出は陰惨で衝撃的」**

ニューヨークのエリオット・エンゲル下院議員は、中国での臓器売買について、「特に不安なのは、この行為が、学習者や他の宗教または少数民族を含む良心の囚人を標的にしていると言われていたことである」と述べた。

エンゲル下院議員は、決議343号に関する議場演説の中で、次のように述べた。

いかなる状況下であっても、同意なき臓器摘出は重大な人権侵害である。そして中国の刑務所当局が宗教を理由に囚人を標的とし、被害者の臓器を売買して利益を得ているという点において、これらの疑惑は特にひどいものである。これ以上に許し難いことは思いつかない。

エンゲル氏は臓器摘出の報告を「陰惨で衝撃的なこと」と呼び、更なる調査を求めた。

## **(3) クリス・スミス下院議員「法輪功への迫害は大いなる恐怖の一つ」**

ニュージャージー州のクリス・スミス下院議員は演説でこう述べた。

この法案は、21世紀の大罪に説明責任と透明性をもたらす重要な一步である。

臓器摘出という恐ろしい行為も含めて、学習者への恐るべき犯罪の証拠はどんどん出てきている。

衝撃的なことに、研究者のデービッド・キルガー氏、デービッド・マタス氏、イーサン・ガットマン氏は詳細な調査を行い、45,000人から65,000人の学習者が臓器のために殺され、その臓器は利益を得るために売られたと推定している。

スミス下院議員は、共産党政権が中国で法輪功を根絶しようとしているキャンペーンは、「大いなる恐怖の一つ」とされると確信していると述べた。

### **16.5.1 (c) 米国の州議会**

米国の少なくとも10の州議会が、国の認可の下で行われた臓器摘出を非難する決議を可決した。

ミズーリ州議会は2019年5月15日、上院同時決議（SCR）第6号を可決し、「中国政府は囚人だけでなく、良心の囚人、特に法輪功の良心の囚人からの臓器摘出の慣行を終わらせること」を求めた。

SCR第6号の提案者であるジル・シュップ州上院議員は、「長い時間が経過したが、戦いは続いている…。ここミズーリ州では、このような人権侵害には耐えられない」と述べた<sup>(352)</sup>。

メイン州議会は2019年5月7日、中国での強制的な臓器摘出を終わらせるよう呼びかける共同決議S.P.574を可決した。

この決議はメイン州の医療界に対し、良心の囚人からの強制的な臓器摘出という形での殺人に気づかずに巻き込まれることを防ぐため、臓器移植のための中国への渡航の危険性を市民に伝えることも促している<sup>(353)</sup>。

ペンシルベニア州総会は2014年10月8日、下院決議1052を全会一致で可決し、中国における非倫理的な臓器移植行為に対する認識を高めるための協力を医療界に求めた。

同様の決議は、ジョージア州上院<sup>(354)</sup>とアリゾナ州議会<sup>(355)</sup>でも可決された。

#### 16.5.1 (d) イタリア上院

2014年3月5日、イタリア上院人権委員会は全会一致で、イタリア政府に対し、外交その他のルートを通じて中国での臓器摘出について徹底した調査を開始するよう求める決議を採択した。

この決議では、人権保護・促進臨時委員会はまたイタリア政府に対し、中国人医師の研修プログラムを再考し、国際条約に基づき臓器売買に関与した個人を起訴するよう要請した。

この決議は、2013年12月19日に上院で行われた同問題に関する公聴会の後に行われた。カナダの人権弁護士デービッド・マラス氏は公聴会でプレゼンテーションを行い、イタリアが中国での強制臓器摘出という犯罪の共犯者にならないよう、法律を改正するよう促した。

#### 16.5.2 臓器売買法の強化

一部の国では、臓器売買法を強化して域外管轄権を行使するようにし、国民が違法な移植を受けるために中国を含む海外に渡航することを禁止している。立法機関で可決されたこのような法案の例をいくつか以下のとおり紹介するが、すべての法案が最終的に署名されて法律となったわけではない。

##### 16.5.2 (a) イスラエル

イスラエルでは2008年に臓器移植法が可決され、イスラエルの法律に違反して他国で受けた移植費用を保険会社が補償することを禁止している。イスラエル国外を含め、不正な臓器の売買や仲介を行った違反者は、最高で3年の懲役と多額の罰金を科せられることになる<sup>(356)</sup>。

### 16.5.2 (b) スペイン

スペイン刑法は2010年に以下のように改正された<sup>(357)</sup>。

1. 人の臓器の調達若しくは違法な臓器売買またはその移植を促進し、助長し、または宣伝した者は、生体臓器の場合には6年以上12年以下の懲役、生体臓器以外の場合には3年以上6年以下の懲役に処する。

2. 不法な出所を知らずながら移植を受けることに同意した移植者は、前項と同様の罰則を科せられ、犯罪の状況及び犯行者の状況に応じて、一段階または二段階の減刑を行うことができる。

3. 第31条第2項の規定により、法律上の個人が本条の違反行為の責任を負う場合、得た利益の3倍から5倍の罰金を支払わなければならない。

### 16.5.2 (c) イタリア

イタリアの上院は2015年3月4日、生きている人からの臓器を違法に販売した者を懲役刑を含む厳しい制裁で処罰する法案を全会一致で可決した<sup>(358)</sup>。

新法案では、生きている人からの違法な臓器の売買、販売、それらの管理に従事した者は、3年から12年の懲役と5万から30万ユーロの罰金を支払うことになる。法案は、中国への移植ツーリズム促進の宣伝や広告、臓器販売の奨励や宣伝に従事する者を処罰するものである。臓器を不正に入手するための渡航を患者に促したり、支援した医師は、医療倫理違反で終身資格停止処分を受けることになる。

同法案を提案したマウリツィオ・ロマーニ上院議員は、「移植のために人の臓器を売買する罪と、人身売買の罪は同等とした」と述べ、「これにより、臓器提供者、まとめ役、移植を行う外科医、そして臓器を購入する者まで、全ての関係者が有罪になる」と説明した<sup>(359)</sup>。

### 16.5.2 (d) 台湾

立法者は2015年6月12日、台湾の人体臓器移植法を改正し、違法な臓器販売を禁止した<sup>(360)</sup>。

同法は、出所不明の臓器の取引を対象とし、改正によりそのような取引が行われないようにしている。同法は、臓器はいかなる形の補償も受けずに（無償で）提供または受領しなければならないと規定している。海外で不正に移植臓器を購入した場合、最高刑は5年、更に150万ニュー台湾ドル以下（約555万円）の罰金が科せられる。また、違法な臓器移植に関与した医師は免許を失

う可能性がある。民進党の尤美女議員は、中国政権は臓器取引に積極的に関与しており、生きている学習者からの臓器摘出に大きく依存していると述べた。

「今回の改正で臓器売買を効果的に抑止したいと考えている」と尤議員は述べた。

### 16.5.2 (e) クロアチア

クロアチア議会は2019年3月1日、全会一致で「人身臓器売買禁止欧州評議会条約」を採択し、欧州で8番目の批准国となった<sup>(361)</sup>。

違法な臓器摘出行為を犯罪とすることに加えて、この条約は、このような行為の幫助、教唆、及び臓器提供者や移植者に対する不正な移植への勧誘を犯罪とすることを加盟国に義務づけている。

国会議員のブラニミール・ブニャク博士は国会議事録の中で次のように述べている。「わが国の国民は、知らず知らずのうちにこのようなサービスの利用者として参加している。つまり、臓器を早く手に入れるために海外へ、特に中国に渡航している。欧州連合（EU）とは対照的に、中国では待ち時間がないのはなぜなのか、という疑問を持つべきではないか？」

同博士は、臓器提供制度がないにもかかわらず、中国は10年以上に亘り、年間10万件の移植を行っているという国際機関の調査結果を引用した。

「中国当局にそのような臓器の出所について尋ねると、彼らは死刑囚から得たと言って正当化する。しかし、中国ではそのような死刑囚は年間2,000人しかおらず、これだけの件数の移植には明らかに足りない」と同博士は述べた。

「これらの報告書の後、中国当局は、それらは闇市場の数字であると答えている。しかし、中国での移植は全て、国家の監督の下、国立病院内で行われている。従って、そのような情報は信憑性があるとは思えない」と同博士は付け加えた。

イタリア、スペイン、チェコで可決された法律では、市民が中国に行って不正な臓器を手に入れることを禁止しているが、条約を採択するだけでは問題を完全に解決することはできないと同博士は警告した。

「特にクロアチアが移植医療のトップに位置していることを念頭に置いて、更なる法整備を続ける必要がある。そのためにも、法制上も実務上も、クロアチアは手本となるべきだ」と、同博士は述べた。クロアチア政府は、医療従事者や一般市民にこの問題の重大さを知らせ、非倫理的な移植行為を認識、予防、報告できるようにするための更なる取り組みを発表した。

### 16.5.2 (f) チェコ共和国

チェコ共和国議会上院は2019年3月20日、法輪功学習者、キリスト教徒、ウイグル人、チベット人など、中国で迫害されているグループへの支援を表明する決議第131号を可決した。決議はチェコの大統領と政府に対し、中国が国際人権条約を遵守すること、つまりこれらのグループ

への迫害を終わらせ、全ての良心の囚人を釈放することを要求するよう求めた。決議は「中共政権は法輪功学習者を大量虐殺している」という全国的な請願に対応したもので、37,000人以上のチェコ人が署名した。

### 16.5.2 (g) ベルギー

ベルギーの主要な立法機関は2019年4月25日、商業目的での人体の臓器売買に関与した全ての当事者を処罰する新法案を可決した<sup>(362)</sup>。

同法案は、EU加盟国に対し、中国での臓器摘出の慣行を住民に知らせ、これらの非倫理的な慣行に参加した者を訴追するよう求めた2013年の欧州議会決議と2016年の宣言書に直接言及した欧州初の法案である。

違反者には最大20年の懲役と120万ユーロ（約1億円）の罰金が科せられる。組織的な犯罪集団がこのような取引に関与した場合、その集団に属する個人全員が処罰を受けることになる。

新法では、臓器を売る側と受取る側の両方、そして営利目的で臓器の販売に参加した仲介人、医師、その他の医療従事者に処罰を科している。

この法律は、ベルギー国外で行われた取引にも適用される。

### 16.5.2 (h) カナダ

人体の臓器売買を対象とした法案「S-240」は、2019年4月30日の夜、カナダ下院で全会一致で可決された<sup>(363)</sup>。それは上院で導入され、下院での採決に先立ち、すでに外務・国際貿易委員会（AEFA）で承認されている。

同法は、海外での無許可臓器移植が犯罪行為として扱われるように刑法を改正すると共に、移民・難民保護法も改正し、臓器売買に関与した者には移民や難民としての資格が認められなくなるようにしたものである。

### 16.5.3 米国・国際宗教自由委員会：中国での臓器摘出を強調

米国の国際宗教自由委員会（USCIRF）は2019年4月29日に発表した2019年の年次報告書で、中国を世界で最も極悪な宗教迫害者の一つとして強調した。同報告書はまた、中共が今も大規模に学習者から臓器を摘出していると述べた<sup>(364)</sup>。

USCIRF委員のゲイリー・バウアー氏は、同委員会が米国政府に対し、信教の自由に対する重大な侵害を犯すか、あるいはそれを容認した中共の幹部や機関に対して、迅速かつ断固とした制裁を行うよう勧告したと伝えた。

### 16.5.3 (a) 信教の自由に対する継続的かつ重大な違反

同報告書によると、中共による組織的かつ執拗で深刻な信教の自由の侵害により、中国は2019年、USCIRFによって再び「特別懸念国」にリストアップされた。中国が「特別懸念国」に分類されたのは10年連続で2回目となる。同報告書には、2018年に中共が組織的かつ継続的に行った多数の深刻な信教の自由の侵害が記録されている。

### 16.5.3 (b) 学習者への迫害は現在も続いている

同報告書は、中共の前党首である江沢民が1999年に法輪功迫害を開始し、法輪功の排除を責務とする超法規的機関である610弁公室を設立したことに言及している。報告書によると、学習者は恣意的に拘束され、スタンガンで電気ショックを与えられ、医学や心理学の研究対象になることを強いられたという。

2018年、中国当局は信仰を理由に学習者へ嫌がらせ、拘留、脅迫を続けた。拘束された多くの学習者は殴られ、精神的虐待を強いられ、性的暴行を受け、不明の薬物を強制的に飲ませられ、睡眠を奪われたと報告されている。

学習者から提供された情報によると、中共は2018年、少なくとも931人の学習者を逮捕・拘留した。昨年夏、ソーシャルメディアを通じて法輪功への支援を呼びかけるメッセージを送ったり、公の場で法輪功の情報資料を配ったりした数人の学習者が逮捕された。

同報告書は、2015年1月1日の時点で、囚人（多くの拘禁者は学習者であると考えられている）から臓器を摘出する慣行を終了したという中共の主張を論じていた。しかし、2018年、人権活動家、医療専門家、調査員たちは、中共がいまだに大規模な臓器摘出を継続していることを示すさらなる証拠を提供した。また同報告書は、昨年11月、中国湖南省長沙市の司法局は、学習者を法廷で弁護したとして、2人の弁護士を半年間出入り禁止にしたという。

### 16.5.3 (c) 信教の自由の継続的な悪化

2018年11月、国連による中国定期審査の際、米国は事前に提出した質問書で、法輪功迫害とキリスト教会閉鎖の問題を質問した。

USCIRFのゲイリー・バウアー委員はUSCIRFの年次報告書の記者会見で、中国の状況は依然として悪化していると述べた。そのため、同委員会は政権に対し、米中のすべての二国間交渉、特に現在進行中の貿易交渉において、信教の自由と人権問題を協議対象にするなど、一連の勧告を行った。

同委員会はまた、米国政府が信教の自由に対する重大な侵害を犯すか、あるいはそれを容認した中国の役人や機関に対して、迅速かつ断固とした制裁を行うよう勧告している。最後に、同委員会は米国をはじめとする各国政府に対し、良心の囚人を無条件に釈放する圧力を中共政権にかけるよう求めた。

#### 16.5.4 人民法廷：臓器狩りが今日も続いていると結論づけた

中国の良心の囚人からの強制的な臓器摘出を調査するためにロンドンに設置された独立人民法廷は2019年6月17日、その調査結果を発表した。

同法廷は、中共が長年に亘り、中国で生きたまま学習者から臓器を摘出しており、この残虐行為は現在も続いていると結論づけた<sup>(365)</sup>。

強制的な臓器摘出は中国全土で何年にも亘ってかなりの規模で行われており、学習者が臓器の供給源の一つであり、そして恐らくは主な供給源となっている。ウイグル人に対する迫害と医学的検査はもっと最近のことであり、このグループに対する強制的な臓器摘出の証拠がいずれ出てくるかもしれない。中国の移植産業に関連した重要なインフラが解体されたという証拠はなく、容易に入手可能な臓器の供給源について納得のいく説明もないことから、当法廷は、強制的な臓器摘出は今日まで続いていると結論付けた。

旧ユーゴスラビア-ICTY-の国際刑事裁判所に勤め、スロボダン・ミロシェヴィッチの訴追も率いたジェフリー・ニース卿が議長を務める7人のメンバーで構成された法廷は、「2018年12月と2019年4月に行われた5日間の公聴会で50人以上の事実証言者、専門家、調査官、分析官に質問し、書面による提出物、調査報告書、学術論文」を確認した後、そうした結論に達した。

## 付録 法輪功迫害に関する三つの重要な事実

全体主義の中国では、「ニュース」は共産党の利益を促進するために、国営メディアによって注意深く作られている。この巨大なプロパガンダ・マシンは、法輪功への迫害において主導的な役割を果たしてきた。

法輪功とその創始者である李洪志氏を誹謗中傷する無数の記事をラジオやテレビ放送、新聞、雑誌に溢れさせることによって、共産党は社会全体を迫害者の仲間にした。人々は嘘を繰り返していきうち、それを信じるようになった。そのため、学習者には権利も安全もない環境ができあがり、中国の人々は彼らを攻撃しても罰を受けずに済み、拷問された罪のない人々の叫びに耳を閉ざすことが容易になった。

欧米の多くの人々もこのプロパガンダに騙され、法輪功に対して不正確な認識を持つようになった。以下の三つの章では、中共が世論に法輪功への反感を抱かせた際の最も一般的な嘘を暴いていく。

### 要旨

1999年4月25日に行われた1万人以上の学習者による平和的な陳情は、江沢民によって「中央政府への包囲」と位置付けられ、その後の迫害の正当化に利用された。デモ隊は天津で殴られ逮捕された45人の学習者を代表して訴えていたが、北京の国務院投書・陳情事務所に行くように指示された。この静かで秩序のある陳情は、学習者の代表者と朱鎔基総理との会談後に平和的に解決された。

2001年1月23日、天安門広場で5人の焼身自殺事件が起きたとされている。国営メディアは彼らが学習者だと主張したが、事実は違っていた。この事件は事前に計画されていたもので、場所を確保して複数の角度から撮影され、事件が起きた直後に中国全土に放送された。後に、この焼身自殺事件は自作自演であることが判明したにもかかわらず、世論が法輪功に反感を抱くように有効利用された。

中国当局は、法輪功が信者の「1400人以上の死をもたらした」と主張したが、それらの事例が捏造であることも判明した。調査され被害者とされた者たちは、法輪功を習っていなかったか、或いは単なる架空の人物であった。中国当局はまた、法輪功の教えは修煉者に薬の服用、そして治療を受けることを禁じていると偽って主張している。

### 付録1：1999年4月25日の平和的陳情

## A 1.1 概要 (366)

### A 1.1.1 背景

1999年4月23日と24日、北京近郊の天津市の警察は、最近出版された法輪功を攻撃する記事の誤りについて議論するために、ある雑誌の事務所の外に集まった数十人の学習者を暴行し、逮捕した。逮捕のニュースが広まり、多くの学習者が当局に問い合わせたところ、北京に訴えるようにと言われた。翌日の4月25日、1万人以上の学習者が天津市当局の指示通り、自発的に北京の中央陳情事務所に集まった。集会は平和的で秩序のあるものであった。法輪功代表者の数名は、中国の朱鎔基首相と彼のスタッフと会談するために呼ばれた。その日の夜、学習者の懸念は解消され、天津市で拘束されていた学習者は釈放され、全員が帰宅した。

### A 1.1.2 問題点

中国政府内の複数の情報筋によると、4月25日の集会後の数ヶ月間、中共幹部の間で激しい政治闘争が繰り広げられた後、中共指導者の江沢民は政府に対し、法輪功を「粉碎」するよう求めたが、政治局の他のメンバーらは法輪功から脅威を感じていなかったという。CNNのウィリー・ラム上級アナリストは、法輪功への弾圧は江沢民による非常に「個人的」なことになっているとの高官の発言を引用した。7月、江沢民は正式に法輪功への弾圧を命じた。間もなく、4月25日の集会は平和的な陳情であったというより、中央政府の複合施設を「包囲」し、法輪功がいかに脅威であるかを示す「証拠」として、改めて認識された。

### A 1.1.3 なぜそれが重要なのか

4月25日を中央政府の複合施設に対する「包囲」とした誤った表現は、中国国内外で法輪功を政治問題化した。こうして、中共による宗教的少数派への迫害が暴力的な弾圧であるとの見方が消え、法輪功と中共が権力を争っているというストーリーが展開され始めた。更に、西側の一部の中国ウォッチャーは、法輪功が4月25日に政府に「挑戦」したことで、自ら迫害を招いたと考えていた。このストーリーは、人権と宗教的権利の支持者であろう多くの人々の熱意を蝕み、法輪功迫害の調査と報道を取り巻く「被害者の責任」という現象の最大の要因となっている。

## A 1.2 簡単な事実 (367)

### **A 1.2.1 学習者はなぜ中共中央委員会に訴えたのか？**

早くも1996年6月に、中央宣伝部は政府の各レベルに、法輪功を批判するように指示した。『光明日報』は「警鐘が鳴り止まない」という記事で最初の攻撃を開始した。その後、新聞出版局は法輪功関連書籍の出版、配布、販売を禁止した。

4月25日以前から、中国全土の警察はすでに法輪功の書籍を押収し、グループ煉功の場を妨害し始めていた。天津市警察による学習者の逮捕は、迫害を更にエスカレートさせるものであった。

### **A 1.2.2 1999年4月25日に何人が陳情に行ったのか？**

北海公園の南門から西安門の西側まで、そして府右街から西側の路地まで、この2箇所だけで3万人もの人出であった。後から来た学習者は外周に止まっていた。市外から来た学習者は駅から出られず、または高速道路の検問所で止められていて、北京に入ることができなかった。中国政府は1万人という大幅に減らされた数字だけを認めていたが、実際の数字はそれを遥かに上回っていた。

### **A 1.2.3 学習者は何を求めていたのか？**

彼らは当時、三つの要望を持っていた。

1. 天津市警察に拘束された学習者を釈放すること。
2. 学習者には、敵対的ではない修煉環境が与えられること。
3. 法輪功関連書籍の印刷が許可されること。

### **A 1.2.4 陳情に行った人々はどのように行動したのか？**

北海公園から西安門までの大通りでは、一日中交通がスムーズだった。学習者の中には、車や歩行者の通行がスムーズになるよう、誘導する人もいた。学習者たちは車道の路肩に沿って歩き、他の歩行者が歩道を利用できるようにした。彼らは穏やかで平和的だった。

### **A 1.2.5 陳情はどのように終了したか？**

午後10時頃、中南海西門から一通のメッセージが送られてきた。「代表者が戻ってきた。彼らは中央委員会の指導者に学習者の要求を伝えた。天津市警察に逮捕された学習者は全員釈放された。皆は今から家に帰ることができる」。学習者たちは周囲を掃除し、警察が落としたタバコの吸殻も拾った。20分もしないうちに、学習者全員が帰っていった。

### A 1.2.6 未解決の一件

朱鎔基国家主席は当時の代表者に、自分が書いた法輪功についての見解を読んだことがあるかと尋ねたが、法輪功の代表者は、見たことがないと答えた。多くの人は、誰がその見解を隠し、そしてなぜ隠していたのかと疑問に思った。このことは今でも不明である。

## A 1.3 分析<sup>(368)</sup>

### A 1.3.1 出来事の順序

中国科学院の何祚庥という学者は、天津教育学院が発行した「青少年のための科学技術」という雑誌に、「私は青少年が気功を学習することに賛成しない」と題する文章を掲載した。文章の中で彼は、法輪功が精神疾患につながるという話を捏造し、法輪功が19世紀に反乱を起こし国家を滅ぼした義和団に似た組織になる可能性を仄めかした。

4月18日から4月24日までの間に、一部の学習者は天津教育学院に行き、雑誌編集者に誹謗中傷を晴らし、自分の法輪功の修煉体験を伝えた。会話は穏やかで平和的なものであった。しかし、天津市公安局は4月23～24日に治安警察を派遣し、学習者を殴り、45人を逮捕した。

他の学習者が天津市政府に釈放を求めに行ったところ、公安部が関与しており、北京の許可がなければ学習者を釈放できないと言われた。天津市警察は学習者に「北京に行きなさい。北京に行かないと問題は解決しない」と伝えた。

4月25日、北京の国家陳情事務所の外に集まった学習者たちは、1) 天津で拘束された学習者の釈放、2) 法輪功修煉のための開放的かつ合法的な環境、3) 法輪功関連書籍の出版禁止の解除を求めた。

複数の警官が陳情所に来た学習者たちに、「ここは安全ではない」、「あそこは立入禁止だ」と話した。警察の指示に従い、学習者たちは中南海に向かって二つのグループに分かれて立った。その後、何祚庥が来て学習者を挑発しようとしたが、学習者たちは彼に反応しなかった。

目撃者によると、4月24日の夜、公安部勤務の数人の学習者はすでに中南海にある当局に名刺を提出し、事情を話し合う機会を求めたが、返答がなかった。午後9時から、中南海近くの府右街には、荷物を持ったり、座禅用マットを持ったりした学習者が集まり始めた。

4月25日午前6時頃に、府右街北口を通る目撃者によると、警察が中南海への道を塞いでいた。無理に通ろうとする学習者は1人もいなかった。警察はまず、学習者たちを大通りの東側から西側に誘導し、その後、中南海に向かって南下するよう指示した。一方、反対方向から別のグループがやってきて、これも警察が先導しており、両グループは中南海の正門のすぐ外で合流した。メディアによると、中南海の外には1万人以上の学習者が集まっていた。

やがて、四方八方から学習者たちが集まってきて、中南海の外の歩道を埋め尽くした。しかし、交通は全く遮断されておらず、身障者のための道も空いていた。80代の男女、出産を控える妊婦さん、生まれたばかりの赤ちゃんを抱いたお母さんなどがいた。学習者たちは通りをうろうろしたり、スローガンを叫んだり、旗を振ったり、喧嘩をしたりすることはなかった。

中国では、政府への陳情は公安局の許可を必要としない。それぞれの学習者が自分の意見を伝えるに、または自分や友人が経験してきた虐待を報告しに行った。彼らはいかなる法律や規則にも違反していなかった。学習者たちは自分たちの懸念を伝え、政府による理解と支援を得られたと思うと、静かに解散した。

### A1.3.2 集まった理由

4月25日の陳情は表面上、天津での逮捕及び、何祚庥の反法輪功記事がきっかけとなったように見えるが、根本的には、法輪功の空前絶後の人気に対する中央当局の不安に起因している。李洪志氏が1992年に初めて公開講演を行ってから7年間で、中国国内に約7,000万人から1億人の学習者がいた。この事件には長期的な原因と短期的な原因の両方があり、共産党内部の政治闘争にも関係していたため、事件の全容解明は非常に複雑である。

#### (a) 長期的な原因

4月25日陳情の長期的な原因は、法輪功の持続的な普及であった。法輪功の急速な普及に伴い、中央党指導部は、国民に対するイデオロギーのコントロールを失うことを恐れていた。そのため、政府は数年前から、書籍の出版を禁止し、秘密裏に捜査を行い、煉功場を破壊し、メディアを通じて法輪功を弱体化させようとしていた。政府はすでに法輪功を実践する学習者たちの環境を破壊しようとしていたのだ。学習者たちは、中央当局に訴える以外に、弾圧の事実を知らしめる方法がなかった。4月25日の集まりは、まさにこれを目的としていた。

中央当局は1996年6月17日、法輪功を批判し始めた。その日、『光明日報』（国務院の公式の発言であり、政府高官の意見のみを反映した記事を掲載）は、法輪功を「反科学」、「迷信」と批判し、学習者に「愚か者」とレッテルを貼った記事を掲載した。

1996年7月24日、中国新聞出版局は、『法輪功』（旧題：中国法輪功）を含む5冊の書籍を直ちに没収するよう通達を出した。数十の新聞と雑誌がすぐに法輪功に対するキャンペーンに参加した。また、何祚庥など一部の御用学者もこのキャンペーンに積極的に参加した。中央出版局と中央宣伝部は全ての出版社に、法輪功関連書籍を出版しないように命じた。

1997年初め、羅幹（政治局常務委員会委員、政治法制委員会書記）は公安部に、法輪功が「悪の教団」であるという証拠を集めるために、全国的な調査を行うように命じた。しかし公安部が法輪功の犯罪行為を発見できなかったため、調査は終了した。

1998年5月、北京テレビ局（BTV）の「北京エクスプレス」は、法輪功とは関係のない資料を使い、法輪功を誹謗中傷した何祚庥の番組を放送した。放送後、北京・河北地区の数百人の学習者が同局に手紙を送り、番組で流された虚偽の情報を指摘した。1998年6月2日、BTVは番組の誤りを認める訂正放送を行ったにもかかわらず、後に何祚庥は自身の雑誌記事で同様の中傷的な内容を使用した。

また、1998年5月、中国スポーツ総局は法輪功の総合調査を開始した。同年10月20日、長春市とハルビンの調査主任は、法輪功は健康促進と精神面の向上に効果があると述べた。北京市、広東省、大連市、武漢市の調査も同様の結論に達した。

1998年7月、羅幹の命令により、公安部は法輪功を調査するための通達[1998]555号を発信した。通達はまず、法輪功が「邪悪なカルト」であると結論付けた後、地方の公安と政治保護部門に学習者の犯罪行為の証拠を探すように命じた。言い換えれば、公安部は調査を行う前に有罪を宣言したのである。

この通達が発信された後、多くの地方公安局は法輪功の活動を違法な集会とみなすと発表した。彼らは煉功グループを散会させ、学習者の私物を没収し、学習者を拘束、逮捕、殴打し、暴言を浴びせた。一部の地域では、学習者に罰金が科せられ、法輪功関連書籍が禁止された。学習者たちは何度も通常のルートで訴えようとしたが、成功しなかった。

中共は公の場での公式な発言だけを容認している。この時点までに、法輪功を批判、罵倒、誹謗中傷する記事が多数発表されたが、法輪功を擁護する記事の掲載は許されなかった。このような状況下で、学習者は北京に趣き、自分たちの信仰を實踐できる環境を与えるように政府に請願するしかなかった。

## **(b) 政治的な原因**

4月25日の陳情につながった政府の弾圧キャンペーンは、高官の政治闘争に関係していたと思われる。法輪功に関して、中央政府内ではグループによって様々な見解を持っていた。中には、法輪功を破壊することで、自分の政治的キャリアをアップさせようとする者もいた。

中央通信社の報道（5/4台北発）によると、4月25日の事件の背後にある政府の政治的な計画は、「逮捕前の釈放」と「（法輪功を）告発する前の（政府の）悩んだ末の策略」と表現することができる。その目的は、中南海が圧力を受けているように見せかけてから法輪功を非合法化し、このいわゆる脅威を打ち砕くことで、政府としての力の発揮を示せるようにすることである。

早くも1996年、法輪功の急成長は中央党指導部の注目を集めた。当時の国務院書記長であった羅幹は公安部に秘密裏の調査を命じた。しかし、公安部員は法輪功の様々な活動に潜入したが、犯罪行為の証拠は見つからなかった。

証拠がないにもかかわらず、法輪功をどう扱うかについて、政府内には二つの意見があった。一方は、法輪功は政治的な問題ではないので、禁止すべきではないと考えていた。他方では、法輪功の人気と影響力が高まっていることを懸念しており、共産党に対抗する勢力になる可能性があると考えていた。羅幹は法輪功の禁止を提唱し、朱鎔基首相はこれを拒否し、江沢民主席は意見を表明しなかった。

何祚庥の親戚である羅幹はメディアを利用して法輪功を中傷し、共産党の全派閥が法輪功を非合法化することに同意するような事件を起こした。4月25日の事件後、羅幹は、法輪功は数千万人の信奉者を擁し、「宗教的で迷信的な」性質を持っており、ニューヨークに住んでいる李洪志氏は国際的な複雑なネットワークを持っていると疑われているため、法輪功は社会の安定を脅かす潜在的な脅威であるとの情報を流した。これらの私見は、法輪功の潜在的な脅威を誇張する目的で、香港や海外のメディアに広く流布された。

実際、法輪功は緩やかに組織された修煉団体であり、会員性や階層がなく、その実践者は疑われているように「よく組織され、指示されている」とは言えなかった。

### **A 1.3.3 明確になった点**

#### **(a) 学習者は当局に騙されて中南海を包囲する形を作った**

中共は、学習者が中南海を「包囲した」と主張した。前述したように、この手配は警察が仕組んだものであり、警察が学習者を中南海の正面玄関に繋がる二つのルートに誘導し、円陣を形成させたのだ。自分の見たことを説明した目撃者自身でさえ、この段取りの結果には気づかなかった。

4月25日の陳情の3日前に、警察は差し迫った集会の情報を入手し、状況を注視していたが、その情報を報告しないことにした。この事件についてコメントを求められた何祚庥は、「全体の段取りを台無しにしたくないので、今のところ、コメントしないことにする」と答えた。

#### **(b) 学習者は北京へ陳情に行っただけである**

事実を報告し、自分たちに対する誹謗中傷の救済を求める以外に方法がなかったため、学習者たちは北京と天津に向かった。

中国憲法第41条では、市民が国家の機関や機能について批判したり、提案したりする権利が認められる。中国の「上訴規定」の第10条では、上訴過程での問題は、適切な執行部門または一つ上の階層部門に提出されるべきであり、これらの部門には法的な決定権があるとしている。

4月23日に天津市で学習者が逮捕された後、他の学習者は天津市政府の上訴弁公室に集まった。上訴は却下され、代わりに約40人の学習者が逮捕された。その結果、学習者は天津市政府の上の階層である北京の中央政府に訴えるしかなかった。天津市と北京市での訴えは、政府の規制に違反するものではなかった。

### **(c) 4月25日の集会は李洪志氏が主宰したものではない**

公安部の1万語に及ぶ報告書の中で、法輪功の創始者である李洪志氏は4月25日の陳情を裏で仕組んだと非難された。実際、同氏は法輪功大会に出席するためにオーストラリアに向かう途中、乗り継ぎを待つ間は北京にいたが、4月25日には北京にはいなかった。航空券の費用を抑えるために同氏は北京と香港で乗り継ぎをしたが、4月24日に香港へ出発する前の48時間、北京にいた。

### **(d) 「組織化」されずに1万人がどのように集まったのか？**

中国政府は、何の組織化もなく、なぜこれほど多くの人々が同時に中南海に到着したのかと疑問を呈した。天津で逮捕者が出たとのニュースは、口コミで広まった。学習者個人が友人や家族に法輪功による恩恵を受けたと口コミで伝えるうちに、法輪功自体が急速に広まったのと同様である。こうしたネットワークのおかげで、組織の中央に位置する人物による組織化や計画がなくとも、多くの人に情報が流れるようになった。

一部の目撃者の指摘によれば、中南海の外にいた学習者の方が大規模な訓練をされていたかのようで、警察よりも規律を守っていたとのことだった。言及すべきことは、法輪功は学習者に自分自身を律し、衝動に駆られた感情的な反応を避け、自身よりも他人のことを先に考えるように教えていることである。この冷静な姿勢は、彼らが日常的に心掛けている基準である。統制された群衆というよりも、規律のある人々の集まりであった。

### **(e) まとめ：実際に「社会の安定を乱した」のは誰なのか？**

上述したように、学習者は、個人的な利益にこだわらず、模範的な市民、勤勉で誠実な労働者になるように教えられている。長春市では、雇用者の間で「法輪功を修煉している人なら誰でも雇う。安心だからだ」という言い回しがあった。家庭では、学習者は良い夫、良い妻、良い子どもになる

ように努力し、平和で調和のとれた家庭生活を送るように努めている。また、対人関係の摩擦に遭遇したときには、自分の不足を探すように教えられている。

これらの資質は社会秩序を乱すものではなく、むしろ社会秩序を保つものである。これは、中国政権が常に口にしている「何よりも安定だ」という望みとも一致している。

しかし、これらの価値観を受け入れるどころか、政府は何千万人もの罪のない人々を疎外させてきた。親が逮捕され労働収容所や刑務所に連れて行かれ、子どもたちは置き去りにされ、放置されたままのこともあった。家族やコミュニティは引き裂かれ、母親は娘の誹謗中傷をさせられ、息子は父親を警察に突き出すように仕向けられ、近所同士は警察に通報し合うようにさせられた。法輪功を学んでいる学生は学校から追い出され、労働者は信仰を放棄しなければ解雇され、多額の罰金を科せられた。誰にも中立が許されず、迫害は社会の安定とは正反対の結果をもたらした。

## 付録 2 : 天安門広場焼身自殺のデマ

### A 2.1 概要 <sup>(369)</sup>

#### A 2.1.1 背景

中共が法輪功弾圧を開始してから一年半後の2000年末時点でも、このキャンペーンは中共の多くの幹部による支持を得られなかった。党首の江沢民は2000年初めに南部の各省を視察し、地元幹部によるキャンペーンへの支持を集めることを期待していた。一方、キャンペーンへの国民の支持は弱まっていた。2001年1月23日、北京の天安門広場で5人の焼身自殺とされる事件が発生し、その一部始終が複数の角度からカメラに収められた。

事件発生の数時間後、国営メディアは焼身自殺者が学習者であるとの報道で溢れ返った。これらの報道には犠牲者の悲惨な映像が含まれ、法輪功の教えが悲劇の直接の原因であると描かれていた。

#### A 2.1.2 問題点

事件後の数週間には多くの証拠が明らかになり（ワシントン・ポスト紙の記事によると、焼身自殺者のうち、2人は学習者ではなかったという）、事件は全て自作自演であることが分かった。しかし中国国内の人々はこうした情報にアクセスすることができないため、中国国営メディアは「焼

身自殺者」を学習者として描くキャンペーンを集中的に続けた。法輪功を尊敬または同情していた中国全土の人々は、法輪功に対して怒りを抱き、攻撃するようになった。学習者を標的としたヘイト犯罪が増加し、中共は逮捕、拷問、殺害、強制的な臓器摘出などの迫害をエスカレートさせた。

### A 2.1.3 なぜそれが重要なのか

中国では7,000万人から1億人が法輪功を修煉しており、1999年までに伝統的な法輪功の名が広く知られるようになり、尊敬されるようになった。しかし、「焼身自殺」劇は一夜にして全てを変えてしまい、今日に至るまで、中国の人々の法輪功に対する憎悪と恐怖に最も影響を与えている。その結果としての中国の人々の法輪功に対する無関心と敵意が、法輪功を根絶しようとする政権の企てを容易なものにした。

## A 2.2 簡単な事実

「偽りの火」は、NTDテレビが制作したドキュメンタリー映画で、第51回コロンバス国際映画・ビデオ祭で栄誉賞を受賞した。

国際教育発展 (IED) 団体は、中国における学習者への迫害を非難し、「国家テロリズム」として言及した。「我々はその事件のビデオを入手した。我々の見解では、ビデオは事件が政府による自演自作であることを証明している。そのビデオのコピーを配布できるようにしている」と、2001年8月14日にIEDから国連に向けた声明が発表された。また、多くの目撃者は、その日、天安門広場で戒厳令が施行され、学習者が広場に入るのを防いでいたと独自に証言した。

これらの証拠をもとに、国連教育科学文化機関 (ユネスコ) も焼身自殺事件をデマとみなした。

## A 2.3 分析

以下は、天安門広場での焼身自殺デマがどのように中国当局によってプロパガンダ目的で演出されたかを明らかにした事実の抜粋である<sup>(370)</sup>。これらの事実は、少なくとも10人の目撃者と、現場を見たか、または事前に知っていた6人の内部者の証言によって裏付けられている。

### A 2.3.1 犠牲者の劉春玲は法輪功を習っておらず、鈍的外傷で死亡した

中国中央テレビ (CCTV) の番組をスローモーションで流してみると、新華社の報道では火傷で死んだとされている女性の1人劉春玲は、実際は軍服の上着を着た男性によって、金属製の棒のようなもので額に鋭い一撃を受けたことが見える。彼女は瞬時に崩れ落ちるように地面に倒れていき、その一撃で死に至った可能性は高い。軍服を着た男は劉春玲を助けようとしなかった。

劉春玲が殴り殺されるシーンでは、彼女の髪の毛が燃えていた。つまり、彼女の身体に火がついたのは僅か数秒前のはずである。しかし、警察は炎の発生から消火を開始しており、彼女が致命傷を負う前に火を消すことができたはずである。

2001年2月4日、ワシントン・ポスト紙は「人間の火は中国の謎に火を付ける一炎上の動機は法輪功に対する戦いを激化させること」と題した全面記事を掲載した<sup>(371)</sup>。記事によると、劉春玲は開封市の出身ではなく、そして、誰も劉が法輪功を実践するのを見たことがないという。

### A 2.3.2 王進東を取り巻く数々の矛盾点

自殺者の1人である王進東は、ガソリンの入った緑色のプラスチック製のスプライトボトルを使い、可燃性の液体を自分にかけてとされている。ガソリンの入ったペットボトルは、火事で真っ先に溶けてしまうものの一つであったはずだが、映像では王の足の間に置かれていたペットボトルは無傷のままであった。

公式報告書によると、警察は1分足らずで炎を消したという。人の髪の毛は非常に燃えやすく、数秒で完全に燃えてしまう。しかし映像では、王の髪の毛は全く燃えておらず、顔が灰色に焼けているように見えた。王が炎と煙に包まれていたと新華社は主張していたが、CCTVの映像には王が炎上したり煙を出したりしている様子は映っていなかった。

CCTVの映像には、天安門広場で座っている王の後ろで待機している警察の姿も映っていた。王がスローガンを叫んだ後、警察はまるで合図を待っていたかのように、彼に消火用の毛布をかけた。これが本当に生死に関わることであれば、彼はすぐに覆い隠されていたであろう。

もう一つは、政府関係者は王進東が学習者であり、焼身自殺の調整を担当していたと主張したが、王が叫んだ言葉も座禅の姿勢も法輪功とは一致していなかった。

王は2003年4月の新華社とのインタビューの中で説明しようとした。「ライターに火をつけると、瞬時に炎が私を包み込みました。大盤の姿勢で座る時間がなかったので、片足を組んで座りました」。しかし、「大盤」という言葉は法輪功にはなく、王はCCTVのビデオの中で片足を組んで座ってもいなかった。

一部の視聴者は、王進東が中国の兵士のように座っていたと気づいた。中国からの信頼できる情報源によると、ビデオの人物は実際、人民解放軍の将校だったという。

### A 2.3.3 12歳の少女は気管切開後に歌う

気管切開術では、気管を切開してから声帯の下の喉にチューブを入れて、患者が呼吸できるようにしている。患者は口や鼻で呼吸することができず、声帯や喉頭に空気が届かないため、患者は話すこともできない。大人がこれに慣れるまで何日もかかり、子どもならもっと長い時間がかかる。

患者がどうしても話したい場合はチューブの開口部を塞ぐ必要があり、声は断続的で不明瞭なものになる。

しかし、新華社通信が報じた12歳の被害者である劉思影さんとのインタビューでは、気管切開からわずか4日後、幼い少女が大きな声で歌い、聞き手に向かってはっきりと話している姿が映っていた。これは医学的に不可能なことである。

当局は新華社の記者以外の記者が劉思影さんにインタビューすることを許可しておらず、彼女の家族による面会も許可しなかった。祖母は怖くて取材を受けることができないほど脅迫された。

劉思影さんは2001年3月17日、退院準備をしていた時に急死した。劉思影さんを治療した医療スタッフの1人は、「劉思影さんは火傷が多かれ少なかれ治っていた時期に急死しました。彼女はほぼ回復していて、退院の準備もできていました。彼女の死因は非常に疑わしいです」と言った。

#### A2.3.4 警察は現場に消防設備を用意していた

北京夕刊紙は2001年2月16日、「焼身自殺者それぞれに3～4人の警官が取り囲んで火を消していた」と報じた。彼らは合計で約25個の消火機器を持っていた。

この話は、現場には警察車両が2台しかなかったというCCTVの番組とは大きく異なっていた。通常、広場をパトロールする警察は消火機器を携帯せず、映像に天安門広場自体に消火機器が設置されているようにも映っていない。そして最も近い建物は、徒歩10分以上の距離にあった。

米国のある学習者は、焼身自殺が起きた日に見た光景をこう回想した<sup>(372)</sup>。

警官は我々大学生8人を英雄記念碑の片側に追いやったのですが、なぜなのかわかりませんでした。その直後、10メートルも離れていないところで異音がして、火の玉が見えた。火の玉は走っていました。

1分もしないうちに突然大勢の警官が現れ、消火器や毛布を持って消火しました。誰かがスローガンを叫んでいて、しばらくの間、警官たちはその焼け焦げた体と絡み合っていたのです。私たちは何が起きたか分からず、ただ首を伸ばして見ようとしてしましたが、警官にかなり離れたところまで追いやられてしまいました。

クラスメートの1人が「この強烈なガソリン臭はどこから来ているのか？」と聞くと、他のクラスメートが「確かに燃えていたのはガソリンだった」と答えました。振り向くと、4人が通り過ぎていき、全員がガソリンまみれになっていました。何が起きているのか分からないうちに、ガソリンに火がつく音がして、4人全員が燃えていたのです。

と同時に、記念碑の後ろから、消火器や毛布、板などを持った警官の大群が突如として出てきました。彼らはすぐに火を消し始め、同時に板で私たちの視界を遮りました。私たちは皆驚いて、

「準備万端だなぁ。火事に備えていたんだ！」と叫びました。「今夜にもテレビで報道されるかも」とクラスメートが言いました。

警察はすぐに火を消しましたが、救急車は見かけませんでした。外国人を含む観光客が写真を撮っていました。警察は相手構わず、急いでカメラを奪いに来ました。私たちは何が起きたか分からず、燃えていた人たちを法輪功と関連付けて考えることもしませんでした。

また、天安門広場近くの地下通路で、クラスの正直者が警官に呼び止められたことがありました。警察は彼に紙を渡し、そこに書かれている法輪功を誹謗中傷する文章を読むように命じました。彼が理由を尋ねると、警官は「読まなければ、法輪功学習者だとしておまえを逮捕する」と答えました。彼はとても怖がり、読んでから逃げ出したそうです。

### A2.3.5 法輪功は自殺と殺人を禁じている

以下は、1995年に出版された法輪大法の主要書籍『轉法輪』の本文からの引用である。

「殺生というのは非常に微妙な問題で、煉功者へのわれわれの要求もかなり厳しく、煉功者は決して殺生してはいけません。佛家だろうが、道家だろうが、奇門功法だろうが、どの門どの派でも、それが正法の修煉であるかぎり、みなこれを絶対視し、殺生を禁じています。これは間違いないところです。殺生によって起こる問題はあまりにも大きいので、皆さんに詳しく説明しなければなりません。殺生とは、原始佛教では主に人を殺すことを指していましたが、これは最も重大なことです。後になると、大きな生命、大きな家畜、あるいはやや大きな生命体をも重く見るようになりました。修煉界ではなぜ殺生を一貫して重大なことと見てきたのでしょうか？ 昔、佛教では、死ぬべからざるものが殺されたら、孤独にさまよう幽霊になると言っていました。昔から言われた、浮かばれない魂の済度をするというのは、そういう人々のためのことなのです。その済度をしてやらないと、これらの生命は食べ物も飲み物もなく、非常に苦しい境地に置かれることになるのです。これは昔、佛教で言われたことです」（『轉法輪』「殺生の問題」）

以下の引用は、1996年にシドニーで行われた李洪志先生の説法の中で、自殺についての学習者の質問に直接答えたものである。

「弟子：三番目の質問は本の中に書かれている殺生の問題です。殺生は一種のかなり大きな罪ですが、自殺も罪になりますか？

師：罪になります。現在の人類社会は悪くなり、奇々怪々なことが現れています。安楽死などと言って、注射で人を死なせます。皆さんも知っていますが、なぜ注射で人を死なせるのでしょうか？ 彼が苦しんでいると考えているからです。しかしその苦で業を消していると我々は考えています。彼は来世に転生する時、身体が軽くなり業力が消え、かなり大きな福が待っています。苦の中で業を消している時、当然辛いのです。しかし、業を消させることなく彼を殺してしまうことは、殺人ではありませんか？ 彼が業力を持ったまま死んでしまえば、来世でまた業を返すことになる

のです。それではどちらが正しいと思いますか？ 自殺にはもう一つの罪があります。人の生命は按排されており、あなたは神が按排した全体の順序を破壊したことになるのです。あなたが社会に果たす義務を通じて、人と人との関係が繋がっています。死ねば神の按排した全体の順序を乱したことになるのではありませんか？ 乱せば神も許さないのです。ですから自殺は罪なのです」（1996年、『シドニー法会での説法』）

これらの教えをもとに、真の法輪大法の学習者であれば、焼身自殺などは考えない。「焼身自殺」を演じた人達は法輪功学習者ではないことが判明している。また、事件の前後に、学習者による殺人または自殺といった、根拠のある、または信頼できる報告はなかった。

## 付録3：1,400人の死亡疑惑

### A3.1 概要<sup>(373)</sup>

#### A3.1.1 背景

中国当局は、「法輪功を学ぶことにより、1,400人以上の死者が出た」と主張している。法輪功は1990年代を通じて中国で広く学ばれていたが、この主張は1999年7月、政権が法輪功への迫害を開始した後に初めて行われた。以来、この主張は党の出版物や報道官によって繰り返されている。

#### A3.1.2 問題点

立証責任は、この主張を続ける中国当局にあるが、証拠は一度も提供されなかった。何よりも、独立した調査が許されていなかった。個人ベースで行った調査結果によると、法輪功が原因で死亡したとされる事例は捏造されたものであり、犠牲者とされた中には実在しない者もいた。法輪功を自由に行うことができる中国以外では、そのような死亡例は発生していない。また、この主張は、法輪功の健康と薬に関する教えを歪曲し、法輪功の修煉を危険で不健康としばしば表現している。しかし、この主張は、つじつまが合わない。

#### A3.1.3 なぜそれが重要なのか

中国共産主義者の役人や出版物によって生み出された法輪功とその学習者たちに対する様々な虚偽の表現（法輪功が危険である、誤った考えを持っている、または極悪である）は、法輪功の信用を失墜させ、自由世界での支持を弱めようとしている。特に中国国内では、「1,400人が死亡」をめぐるプロパガンダが、多くの人々の間で法輪功に対する嫌悪感と反感を醸成する中心的な役割を果たしてきた。最近のナチスドイツとの歴史的な類似性をみると、このような誤った表現が壊滅的な結果をもたらす可能性があることが分かる。

### A3.2 分析<sup>(374)</sup>

中国政府による非難の中で、法輪功が健康問題、精神疾患、自殺または死をもたらすという主張ほど記憶に長く留まるものはなく、これほど欺瞞的で想像力に富んだ主張もない。法輪功は北京のエリート科学者と医療専門家から多くの賞賛と支持を得ていた。幾つかの健康調査によると、法輪

功の修煉は90%以上の病気の治癒に効果があり（「治癒率」は60%近く）、精神健康と生活の質を大幅に向上させることができることも分かっていた。法輪功の絶大な人気は、その前例のない健康改善によるところが大きい。実際、中国政府は最初の4年間、政治的な風向きが変わる前は法輪功を後押ししていた。

法輪功の副作用についての「因果関係」の主張は、二つの架空の主張のうちの一つに基づいている。まずは、法輪功の修煉と精神病や自殺傾向との間に隠れた因果関係があることを示唆するものである。しかし、これは医学的にも法的にも知られていない主張であり、中国の政府関係者からは何の根拠も示されていない。そのような接点が確立されていたならば、とっくに東西の医学雑誌の表紙を飾っただろう。

二つ目は、中国政府は李洪志氏が学習者に薬を飲むことを禁止し、彼らを危険にさらしていると主張している。李氏の教えを調べてみると、これは全くのでっち上げであることが分かる。なぜならば、李氏は学習者が治療を求めることを止めたことがなく、もし止めようとしても止めることができなからだ。法輪功を禁止することで、中国政府は存在しないものから中国の人々を「保護」しているのである。

中国政府の主張がそれほど突拍子もないものでなければ、その空想的で非論理的な性質が面白いとさえ思えるかもしれない。しかし、これらの主張は間違っているにもかかわらず、欧米のメディアに潜り込み、幾つかの中国政府の英語版出版物の話題になっているため、以下、はっきりと説明していこう。

中国政府の情報源と国営メディアによると、法輪功に起因する公式の死者数は1,400人とされている。この統計についての詳細な情報を何度も求められているにもかかわらず、中国の情報筋は未だこの数字がどのように算定されたのかを説明していない。

公安部の報道官は、法輪功が743人の「信奉者」の死亡の責任を負っていると述べた。しかし、法輪功が迫害される前の7年間、743人や1400人の「信奉者」の死亡などが報告されたことはなかった。

### **A3.2.1 法輪功が精神病と自殺を誘発するとの主張**

まず、法輪功が重度の精神疾患、非合理的な行動、自殺、死まで「引き起こした」との主張を考えてみよう。

精神疾患は今日の中国が直面している深刻な問題である。1,600万人以上の精神疾患患者が、中国社会のあらゆる職業や社会集団に分布している。

しかし、より大きな問題は、精神疾患を法輪功に帰属させることにある。李先生が精神疾患者に法輪功を実践しないよう諭していることはさておき、この1,600万人の中に、誰一人として法輪功を修煉することを決めた者がいないことも考えられるのではないだろうか？

法輪功の教材はすべてインターネット上で無料で見ることができ、ダウンロードすることができ、組織、指導者、会員などもないため、誰でも法輪功の修煉を始めることができる。しかし、精神疾患を持つ人は、法輪功の原則通りに生きることができず、法輪功の健康効果を体験することができないため、彼らは以前と同じ症状や課題に悩まされることになる。

中国政府はまた、「1,400人の死亡者」とされる一部が法輪功による自殺であると主張しているが、これも誤りである。第一に、自殺者には精神的な障害があると言えるが、一般的な（うつ病のような）精神疾患であれ、重度の（精神病のような）精神疾患であれ、何らかの精神疾患があると思われる。法輪功が精神疾患を誘発するとの主張には既知の医学的根拠がないに等しく、法輪功が自殺を誘発するという証拠もない。

それにもかかわらず、中国政府はこの問題で法輪功を罠に嵌めようとしている。李洪志氏が書いたとされる手紙は、何度も政府機関によって偽造された。これらの手紙には、「必ず集団自殺の為にこの日にどこどこに来るように」、或いは「もうこの世を去る時が来た」など、様々な意味不明な内容が書かれている。これらの偽の手紙は、学習者を惑わせ、ほとんどの国で処罰対象となる犯罪である自殺幫助をしようとしている。しかし、学習者が（手紙に書かれた通りに）現れたと報告されたことは一度もなかった。

### A3.2.2 薬と医療に関する法輪功の教え

法輪功は最も正確には一種の「修養法」（修煉）と呼ばれ、西洋の「自己修養」に類似するものである。五式の簡単な気功エクササイズが含まれているため、一般的に一種の気功と認識されている。

修養法として、法輪功の修煉は心性（徳性、または心/精神の質）の向上に重点を置いている。心性の修養は、主に宇宙の根本的な性質である「真・善・忍」に同化することである。このような同化は修煉の目標であり、修煉者が自分の知恵を発達させ、道教や仏教などの東洋の精神修煉の本願である「悟り」に到達することを可能にする。

そのため、法輪功の目的は従来の気功のように健康やフィットネスではない。にもかかわらず、法輪功の修煉における心性の修めによって、癒しが副産物として得られることが多い。そのため、多くの人々が法輪功の治癒効果に魅了されている。

李洪志氏は、法輪功の目的は病気治療ではないことを幾度となく明らかにしてきた。この点について、李氏は著書や講義でも明確にしており、重症患者による講義や授業への参加を拒否してきた。最も広く読まれている法輪功の本である『轉法輪』の中で、李氏は「わたしはここで病気治療の話をしませんが、病気治療などもしません」（p.3）と述べ、後に続けてこう話された。「病気治療が目的で来ている人もいますが、われわれは重病患者を講習会に入れずにしています。なぜかという、そういう人は病気治療の心を捨てることは難しく、自分に病気があるという考えを捨

てられないからです。重病を患ってとても苦しい時に、そういうものを捨てられますか？　そういう人は修煉できそうもありません」 (p. 39)

同様に李氏は、重度の精神疾患（精神病）患者は、自身をコントロールできないため、法輪功のクラスに参加したり、法輪功を学んだりすることを禁じられていると述べた。（気功に似て非なる）法輪功を学ぶためには、心身両面におけるセルフコントロールができることが一つの厳格な条件である。意識がはっきりしていて、自分がどこにいて、何をしているかを常に認識していなければならない。これらの条件を満たすことができなければ、学習者の基準に沿って行動することはできない。李先生は「精神病などで苦しんでいる人は、他の場所に助けを求めなければならない」と毅然とした態度で臨んでこられた。

二つ目の問題は、法輪功の修煉と服薬の関係である。中国政府は、李氏が全ての学習者に薬を飲むことを禁じていると繰り返し主張してきた。法輪功に対する弾圧が加熱する中、中国政府が運営する英字新聞「チャイナ・デイリー」は、法輪功と李氏を誹謗中傷する記事を4本掲載した。ここでは、反法輪功キャンペーンとして、「信者」に薬を飲ませないことは最大の罪だとされている。しかし、このような報道はカルト的な依存と個人的な選択の停止を示唆しており、完全に問題を混乱させている。李氏が教えてきたことや、学習者が李氏の教えをどのように思ってきたかを明らかに歪めていることは言うまでもない。

『中国法輪功』（第一冊目の入門書）で述べられている、服薬の問題についての李氏本人の言葉を見てみよう。「煉功してもまだ薬を服用する必要がありますか？」という質問に対して、李氏は「これはあなた自身で悟ってください」 (p. 94) と答えた。また、1997年以来、ほぼ全ての学習者に読まれている『ニューヨーク法会での説法』の中で、李氏は「常人は病気に罹ったら薬を飲まなければなりません、一人の修煉者として、どうしても薬を飲んではいけないと言っているわけではありません」と述べ、更にこう続けられた。「大法を破壊しようとする人は、薬を飲まないということに対して、『この功を修煉したら薬を飲んではいけないことになる』などと言いました。実は私は薬を飲んではいけないと言っていません」<sup>(375)</sup>。にもかかわらず、中国政府やメディアはそのような教えを真逆の意味に翻訳している。

この問題をめぐる混乱は、多くの学習者が修煉を始めた後、薬を飲まないことを選択したこと起因している。ここでのキーワードは「選択」である。法輪功修煉における他の全ての側面と同じく、自分の健康をどのように扱うかは自由な選択である。ほとんどの学習者は健康になったり、健康でいるため、薬を飲まないことを選択したのはただ単に、それが必要でなくなっただけである。

### A3.2.3 中国政権が法輪功をどのように嵌めたか

### (a) 中国当局は、報告書が全くの捏造だと認める

張之雯は子どもを殺した後、自殺したと、党の機関紙が主張している。この記事は、他の多くのニュースサイトに転載された。問題はただ一つ、ある独立調査員が、張は存在していなかったことを発見したのだ。

ボイス・オブ・アメリカのジャーナリスト、海濤さんはロサンゼルスから以下のレポートを提出した。1999年7月に中国政府が法輪功の弾圧を開始して以来、すべての国営メディアは法輪功の創始者と主要メンバーたちを攻撃し始めた。

11月28日、西安労働者日報に李新剛が執筆した特別記事が掲載された。その記事は、陝西省渭南市に住む張之雯という女性が、生後6ヶ月の娘を焼いた後、火をつけて自殺し、政府による法輪功への弾圧に抗議したと報じた。

この記事は全国に波紋を呼び、深圳、ハルビン、上海などの多くの新聞に転載された。しかし香港人権民主運動情報センターが調査したところ、この報道は完全な捏造であることが判明した。

中国の役人の話を引用した同センターは、その記事の人物、場所、時間、ストーリーはすべて捏造されたものだと述べた。陝西省渭南政法委員会の呉という役人は、「焼身自殺は絶対になかった」、「張之雯という女性は全く存在しなかった」と証言した。また、中国の多くの報道機関が検証を求めて電話をかけたところ、同じ答えが返ってきた。

学習者が西安労働者日報の記事の著者に、なぜ「ニュース」を捏造したのかと尋ねたとき、著者は「私はフィクションを書いていた」と答えた。

### (b) 母が法輪功によって死亡したことを家族は否定

中国国営テレビは、馬錦秀さんの死を「法輪功による死者1,400人」の1人として大々的に報道した。

この報道を知った彼女の夫は、「それは真実ではない。彼女は20年近く糖尿病を患っていて、法輪功を習う前は2回も脳卒中を起こした」<sup>(376)</sup>と言った。馬さんの娘の金友明さんは、母の死について真実を説明する記事を書いた<sup>(377)</sup>。

母は明らかに脳動脈瘤で亡くなりました。入院中、母は細心の注意を払ってもらい、医師から処方された全ての薬を服用し、注射も受けましたが、それでも亡くなりました。では、なぜ母が病院で受けた治療によって亡くなったと彼らは言わなかったのでしょうか？ 彼女が一時法輪功を修煉したからといって、どうして法輪功の修煉によって亡くなったと当局は言えるのでしょうか？

### (c) 自殺者の母が記録を正す<sup>(378)</sup>

自殺者の母親が息子の死の真相、及び未亡人の嫁が直面した強要の数々を以下のように語った。

私は夏祖容と申します。私と夫は共に法輪大法の学習者です。私は川に飛び込んで自殺した龍剛の母親です。彼の死は中国中央電視台（CCTV）によって、法輪功のせいにするために造られた「1,400人の死亡事件」の1人として報道されました。私たちは重慶市永川区双石鎮双橋街70番地に住んでいます。

親として、もし息子に精神的な問題があるなら、知っているはずですが。実際、彼は確かに精神的な問題を抱えていました。息子が川に飛び込んだ時、精神病エピソード（思考障害、妄想、幻覚などの症状がある）の時期にいたが、法輪功とは何の関係もありませんでした。息子の両親として、私たちは真実を言わなければなりません。私たちは良心に反して、政府が息子を利用して大法を誹謗中傷しているのを見ていることはできません。

息子が亡くなった後、杜という名の記者が嫁に取材しに来て、自分の夫が法輪功学習者であったと主張してほしいと頼みました。記者は一枚の紙に法輪功を誹謗中傷する言葉を書いて、それを読むように言いました。その時、嫁は記者の圧力に屈して、言われた通りにしました。翌日、彼女は200元の現金を渡されました。悪事を働く者は、お金で良心を買い、悪事を働くように操ることが多いのです。孫（亡くなった息子の子ども）も、大法を誹謗中傷するように教えられました。テレビの「ニュース」はこうして捏造されていました。

\*\*\*\*\*

## 法輪大法について

\*\*\*\*\*

法輪大法（ファールンダーファー）は法輪功（ファールンゴン）とも呼ばれ、中国の古来から伝わる高いレベルの自己修養法です。宇宙の根本的な特性である「真・善・忍」に基づき、心身の向上に努めます。法輪大法の教えは全て、主要著書である『轉法輪』に記されています。

『轉法輪』によると、徳を重んじ、心性を修めることが、功を高めエネルギーを強化する肝心な要素です。

法輪大法には体の鍛錬も含まれており、五式の功法の実践と、精神の修養によって、奥深い精神性の道を見つけることができます。

## グラフと写真

1992年5月～1999年7月

法輪功は1992年5月に中国で初めて公に紹介された。

その理念（真・善・忍）と、健康促進への顕著な効果により、口コミで瞬く間に広まった。

わずか7年後の1999年7月には、1億人、つまり10人に1人の中国人が法輪功を実践していた。

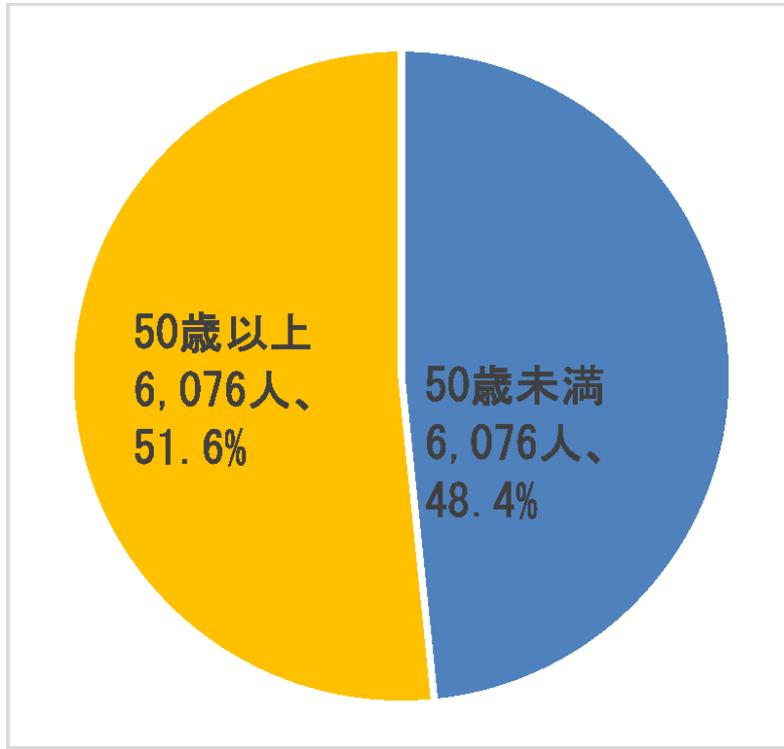


1999年7月以前は、毎日明け方になると、多くの人が出勤前や登校前に公園で法輪功の煉功をしていた。その光景は壮観で、静寂に満ちていた。しかし、中国のメディアはこの現象をほとんど報道しなかった。

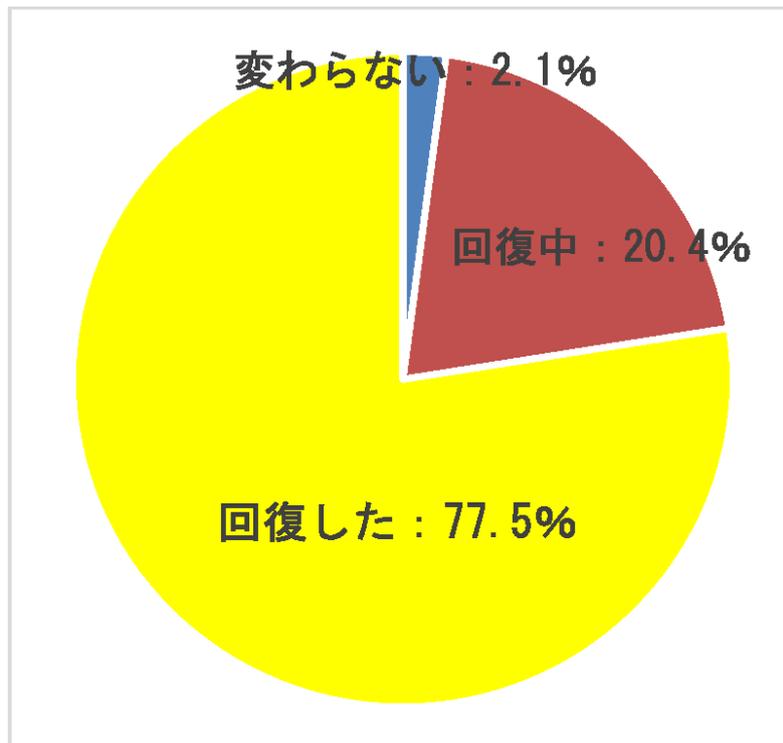
広州のある新聞に掲載された上記の記事は、「全年齢層の人々が法輪功を实践」と題され、法輪功の真の状況を示した稀有な記事であった。

## 97.9%が健康の改善を実感

1998年に中国北京で行われた健康調査によると、法輪功の主著である『轉法輪』を学び、法輪功の五式の功法を実践した人の97.9%が健康状態の改善を実感したという。



調査に参加した学習者12,553人のうち、51.6%が50歳以上であり、48.4%が50歳未満であった。



回答者のうち、10,475人が一つ以上の病気を患っていた。法輪功を2ヶ月～3年ほど学んだ後、病気を患っていた人の77.5%が「回復した」と回答し、20.4%が「改善した」と回答した。



迫害が始まる前の香港のランタオ島で、法輪功の煉功をしている学習者たちの様子



迫害前の広州での集団煉功の様子。バナーには「法輪大法ボランティア指導所」と書かれている。



法輪功の煉功をするため、公共の公園にあらゆる階層の人々が集まった。右の写真は、1999年初めに四川省成都市で撮影されたもの。



1993年に北京で開催されたアジア健康博覧会で、法輪功の創始者である李洪志氏に授与された賞の数々。

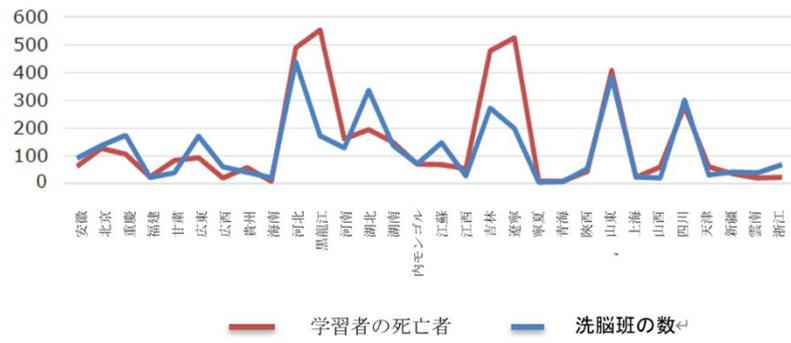
## 1999年7月～現在

注：このセクションのデータには、中国での迫害が続く中、明慧ネットが報道できた事例のみが含まれている。

中共の検閲と迫害のため、このような報道をする際は大きな困難とリスクが伴う。そのため、これらの数字は発生した全ての事例のごく一部を反映しているにすぎず、私たちのチームがまだまとめたり報道できていない多くの事例がある。



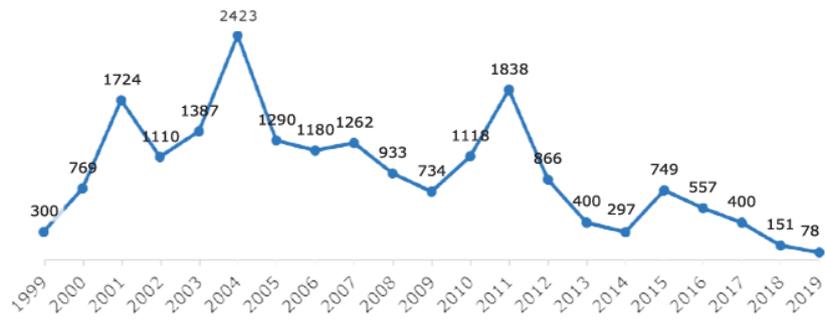
**Brainwashing Centers vs. Practitioner Deaths  
by Region**



**洗脳班と学習者の地域別死亡者数の比較**

## Number of Falun Gong Practitioners Taken to Brainwashing Centers by Year

Documented cases from July 1999 to July 2019



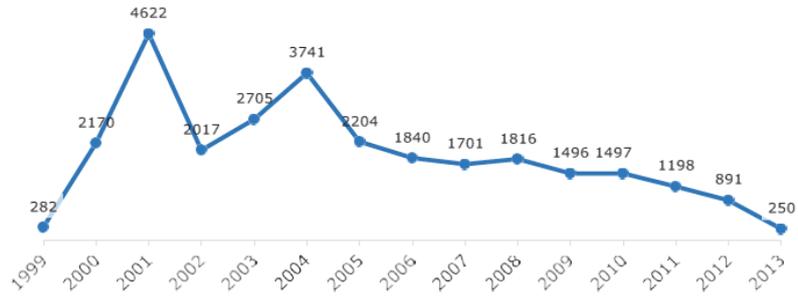
### 洗脳班に連行された学習者の人数（年次）

1999年7月から2019年7月までの記録された事例に基づく

### Number of Falun Gong Practitioners Taken to Forced Labor Camps by Year

Documented cases from 1999 to 2013

Note: Labor camps were officially abolished in 2013.

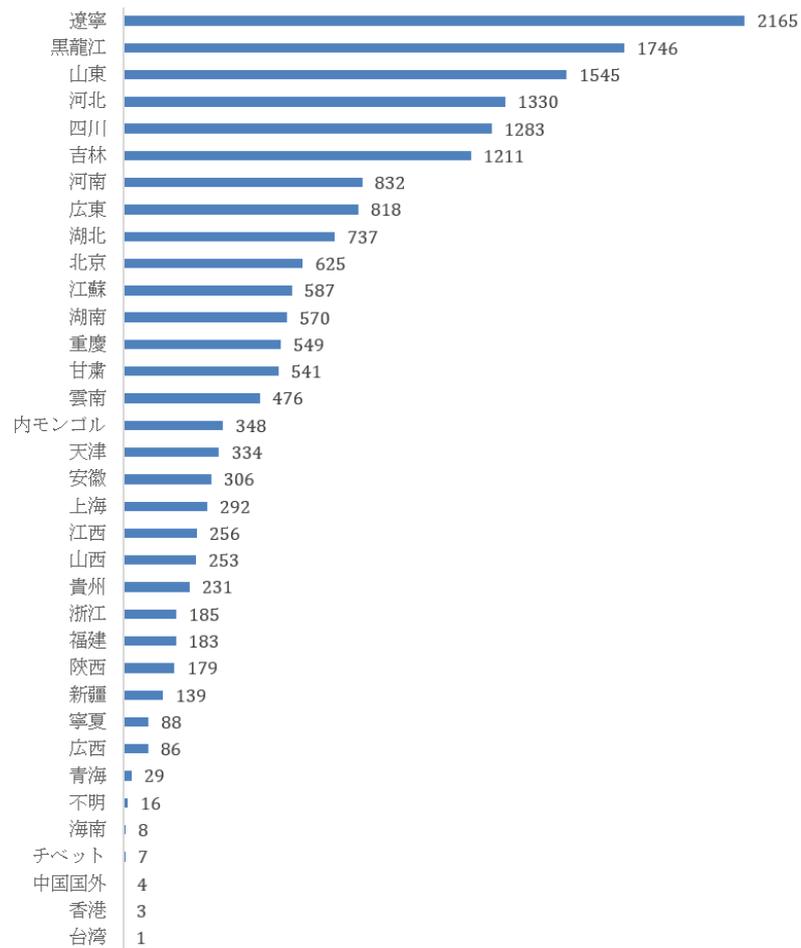


### 強制労働収容所に収容された学習者の人数（年次）

1999年から2013年までの記録された事例に基づく

注：労働収容所は2013年正式に廃止

### Number of Falun Gong Practitioners Sentenced by Region

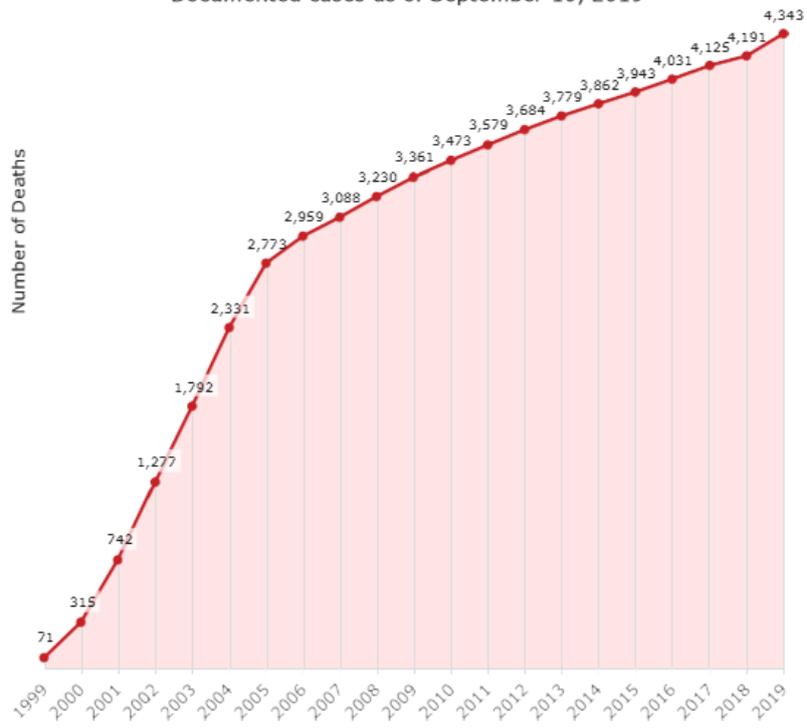


### 判決を受けた学習者の地域別人数

1999年から2019年までの記録された事例に基づく

## Cumulative Total of Falun Gong Practitioners Persecuted to Death

Documented cases as of September 10, 2019



### 迫害致死の学習者の累計

2019年9月10日現在の記録された事例に基づく

## Number of Falun Gong Practitioners Sentenced by Year

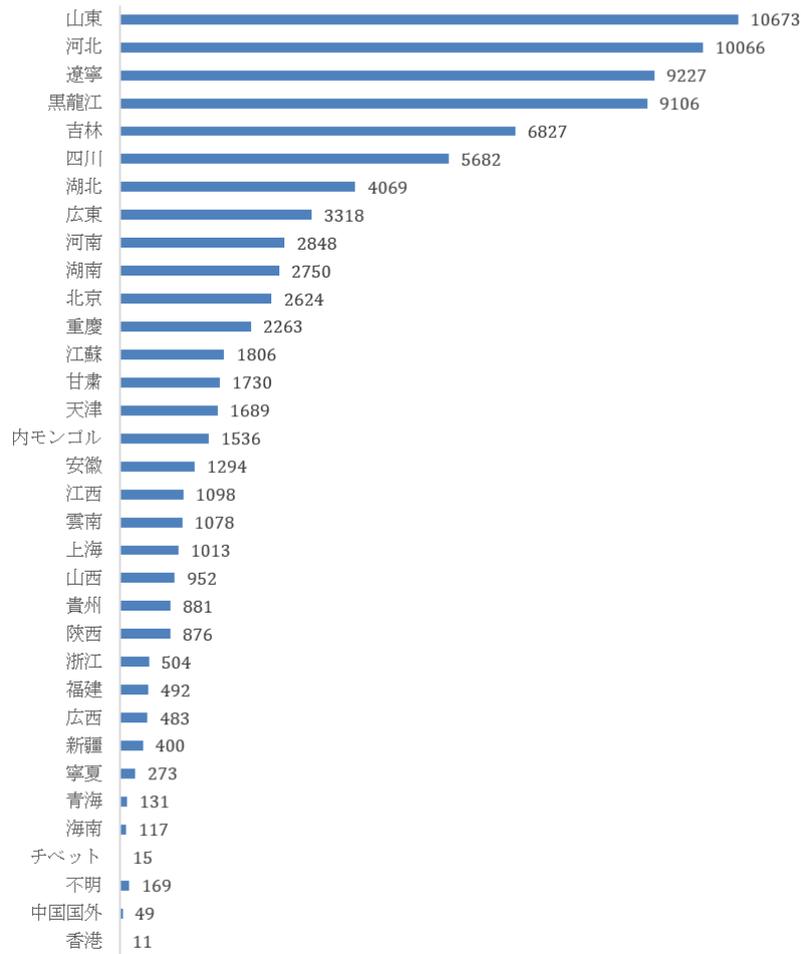
Documented cases from July 1999 to July 2019



### 学習者の年別受刑者数

1999年7月から2019年7月までの記録された事例に基づく

## Number of Falun Gong Practitioners Arrested by Region



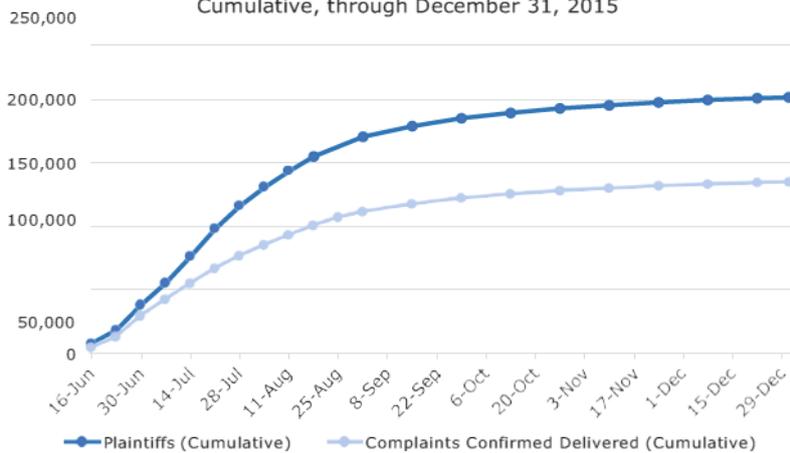
## 地域別学習者の逮捕者数

1999年7月から2019年7月までの記録された事例に基づく



### Criminal Complaints Against Jiang Zemin

Cumulative, through December 31, 2015



### 江沢民への刑事告発件数

2015年12月31日までの累計



天津市で学習者が殴られ逮捕された後、北京の中央政府総合ビルの隣にある国家陳情室の外で学習者が並ぶようになった。彼らは静かに歩道に立ち、本を読みながら、役人との面会を待っていた。1999年4月25日のこの平和陳情は、後に、中共によって法輪功への迫害を正当化するため意図的に仕組まれたものだったことが判明した。（詳細は付録1を参照）

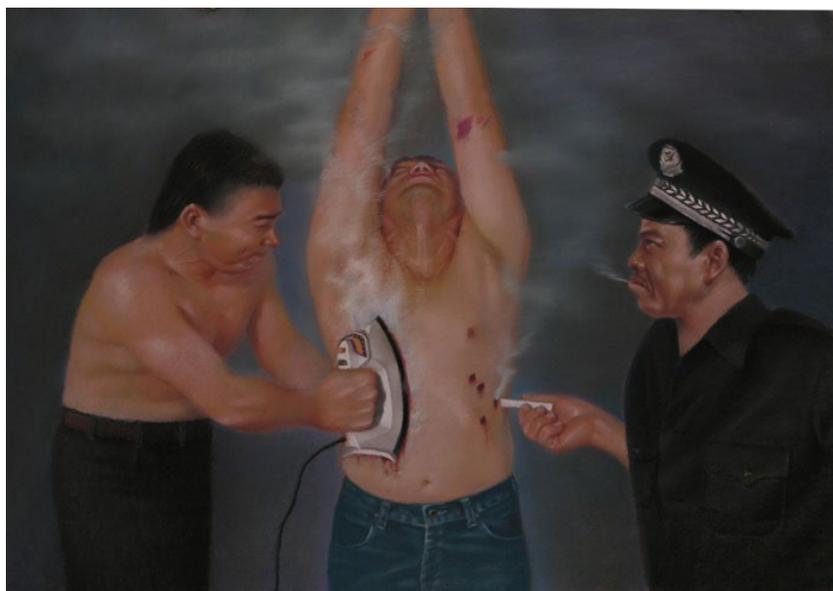


労働収容所は、中共による中国人迫害の中で、最も都合のよい施設であり、明慧ネットで最も多く報告された。2013年、全世界の学習者の努力により、労働収容所制度は終焉を迎えた。



北京の天安門広場で私服警官が学習者を逮捕している様子。

背景：1999年7月、中国政府の陳情室は、学習者の訴えを聞くどころか、彼らを逮捕するようになった。行き場を失った多くの学習者は公の場に出て、法輪功がいかに自分たちの生活に恩恵をもたらしたかを伝え、迫害の残忍さを明らかにした。



イラスト：熱したアイロンとたばこで火傷をさせられる学習者

学習者に法輪功を放棄させようとして、中共は日常的に百種類以上の拷問を用いている。



遼寧省瀋陽市の会計士・高蓉蓉さんは、警官から7時間に及ぶ電気ショックによる拷問を受けて顔に水ぶくれができ、髪の毛は膿と血で固まった。顔が腫れ上がったせいで目をわずかしか開けられず、口もひどく腫れて変形してしまった。警官の虐待の目的は、高さんに法輪功を放棄させることだった。高さんは37歳で殺害された。

同じく法輪功を修煉している高さんの2人の姉妹は2015年、迫害を始めた中共の指導者である江沢民を告訴した。



中国人民銀行本部に勤務していた王潺（オウセン）さん（39）は、友人や同僚から高い評価を受けていた。

迫害が始まった後、王さんは当時の国家主席である江沢民に迫害の停止を促す手紙を書いた。江沢民の個人的な承認を得て、北京警察は1999年末、理由もなく王さんを3ヶ月間拘束した。

王さんは職を失った。その後の3年間、彼は10以上の省を訪れ、その地域の学習者と明慧ネットとの間の通信チャンネルを確立させ、中国国内外の人々が迫害の最新情報をリアルタイムで受け取ることができるようにした。当局は王さんの逮捕に10万元の報奨金を提示した。

王潺さんは2002年8月に逮捕され、拷問により死亡した。



山東省濰坊市の退職した工場労働者で未亡人の陳子秀さんは、旧正月に洗脳班に拘束され、2000年2月21日に58歳で殴り殺された。

拷問されて死ぬ前日でも、陳さんは法輪功の修煉をやめることを拒否し、法輪功を修煉することは自分の権利であると主張した。

2人の子どもたちは母親のために正義を求めようとしたが、案件を引き受けようとする弁護士がいなかった。

2000年4月23日、陳さんの娘の張学玲さん（32）は、ウォール・ストリート・ジャーナル紙のイアン・ジョンソン記者のインタビューに応じた。その後、張さんは「国家機密を漏らした」として逮捕され、3年間強制労働収容所に入れられた。



陳淑蘭さん（後列右から2番目）は両親、2人の兄弟、妹を迫害で失った。唯一の生存者である陳さんは2回の実刑判決を受け、計11年6ヶ月の懲役刑を言い渡され、拷問で衰弱するほどの傷を負った。



法輪功の核心理念である「真・善・忍」と書かれた横断幕を掲げている修煉者たち。1999年に迫害が始まった後、北京の天安門広場では、このような平和的な抗議行動がよく見られるようになった。



2001年11月、80カ国以上の学習者が中国国内の学習者を支援し、迫害について知らせ阻止しようとしていた時、36人の西洋人学習者が天安門広場に集まり、人々に「法輪大法は素晴らしい」と伝えた。



2016年4月14日の米国議会公聴会で、尹麗萍さんは悪名高い中国の馬三家労働収容所で、看守らが男性収容者に18人の女性学習者を輪姦させ、被害者の死亡、障害、精神的トラウマを引き起こした際の生存者として証言している。



2019年7月17日、学習者の張玉華さんがドナルド・トランプ米大統領と会談した。張さんは、米務省主催の「第2回信教自由の推進に関する閣僚級会合」に出席するためワシントンD.C.に滞在していた、宗教的迫害の生存者27人のうちの1人である。



山東省青島市の「中国全土が江沢民を訴えるべきだ」と書かれたステッカーに、無名の人物が「私は賛成だ」と黒字で書き込まれている。（2017年撮影）



黒竜江省ジャムス市の農民市場の客は、明慧カレンダーを受け取った。

中国では、学習者がパンフレットや記念品を配り、周囲で起きている迫害を人々に伝え、国営メディアのプロパガンダで伝えられている法輪功に関する誤った情報を一掃している。（写真は2015年撮影）



中国のほぼ全ての都市と米国、香港、韓国を含む他の地域でダウンロード、印刷、配布が可能な明慧定期刊行物の例。



ロシアのイルクーツクにある中国領事館の外で、冬の寒さに耐えている学習者たち。  
世界中の学習者たちは迫害の実態を知らせるため、中国大使館や領事館の外で活動している。  
(写真は2016年撮影)



米フィラデルフィアのリバティベルセンターで中国での法輪功迫害についての記事を読む中国人観光客。(2013年撮影)



「人権デー」である2014年12月10日、ニューヨークの国連本部前で集会を開く学習者たち。



中共による学習者への臓器狩り行為を非難する請願書に署名するために列に並ぶ人々。2014年  
10月4日、  
スペイン・マドリードにて撮影。



2019年7月18日、数千人の学習者がワシントンD.C.で中国政権による精神修煉への迫害20周年記念イベントに集結。



2019年8月10日、ドイツ・ベルリンの学習者たちがブランデンブルク門前のパリエル・プラッツでパレードと集会を行った。



2019年9月、中国の学習者たちから李洪志先生に送られた中秋節の挨拶状の数々。明慧ネットは毎年、中国の伝統的な祝日と5月13日の世界法輪大法デーに、世界中の学習者と支援者から李洪志先生宛ての数万通の挨拶状を受け取っている。



2016年、国連人権高等弁務官に対し、前中国共産党総書記の江沢民を法輪功迫害の罪で裁くことへの協力を求める共同書簡に、スイスの国会議員36人のうち、18人が署名した。



第15回世界法輪大法デーを祝うため、2014年5月13日、マンハッタンのユニオンスクエアで法輪功の煉功を行っている人々。

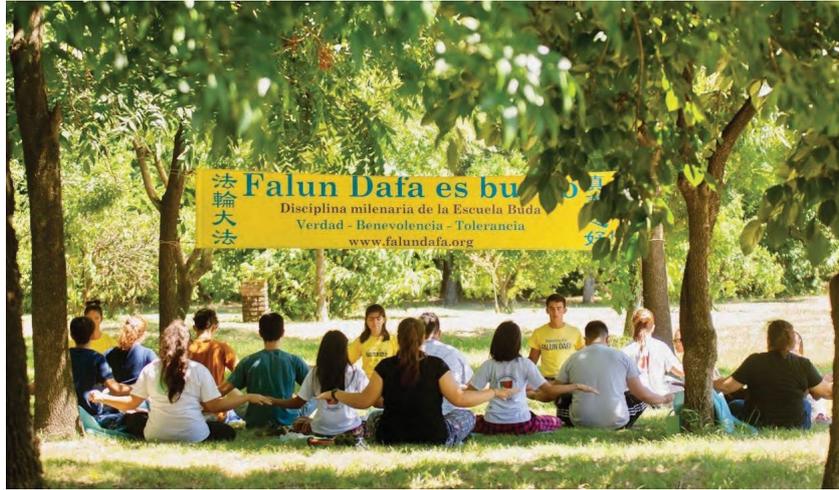


2019年2月、韓国・ソウルの天梯書店で、法輪功の第五式の功法である座禅を学ぶ新しい学習者。



インドのチベット学校で法輪功の功法を学ぶ生徒たち。

(2018年撮影)



2019年3月3日、アルゼンチンで行われた異宗教間活動で、法輪功の座禅を学ぶ参加者たち。



2007年に設立された天梯書店。

法輪大法は法輪功としても知られており、主な著書である『轉法輪』を学び、五式の功法を練習する。法輪功の書籍、九講のビデオシリーズ、及び功法指導ビデオは40カ国語以上に翻訳されている。非営利団体である天梯書店は、新しい学習者に無料の学習セミナーを提供している。

『轉法輪』と法輪功の五式の功法



## 参考文献

- 
- <sup>1</sup> Brainwashing Centers: A Massive Extrajudicial Branch of China's Multi-Pillar Detention System to Hold Falun Gong Practitioners  
<https://en.minghui.org/html/articles/2019/3/28/176300.html>
- <sup>2</sup> Brainwashing Centers in Hubei Province: "What I Say Is Law"  
<https://en.minghui.org/html/articles/2019/3/31/176335.html>
- <sup>3</sup> The story behind making China's "Sanitary" Chopsticks -- Exposing Slave Labor Practices Inside Chinese Labor Camps (Part 1)  
<https://en.minghui.org/html/articles/2004/3/25/46394.html>
- <sup>4</sup> Exposing the Evil Nature of Jiang's Regime: the Ordeals I Suffered under the Persecution (Part Three)  
<https://en.minghui.org/emh/articles/2004/2/26/45356.html>
- <sup>5</sup> University Student Expelled for his Practice of Falun Gong Exposes the Persecution He Faced in Beijing's Tuanhe Forced Labor Camp (Part 2)  
<https://en.minghui.org/emh/articles/2004/2/20/45228.html>
- <sup>6</sup> Exposing Slave Labor Practices Inside Chinese Labor Camps (Part II)  
<https://en.minghui.org/html/articles/2004/3/26/46395.html>
- <sup>7</sup> The Story Behind Making China's "Sanitary" Chopsticks -- Exposing Slave Labor Practices Inside Chinese Labor Camps (Part Three)  
<https://en.minghui.org/html/articles/2004/4/8/46851.html>
- <sup>8</sup> After Labor Camps, China Plays Black Jail Whack-a-Mole  
<https://en.minghui.org/html/articles/2014/7/18/2093.html>
- <sup>9</sup> Heilongjiang Province: Former Labor Camp Guards Continue Carrying Out the Persecution in Drug Rehabilitation Center  
<https://en.minghui.org/html/articles/2014/5/7/508.html>
- <sup>10</sup> Practitioners Tell of Their Ordeals in Qinglongshan Brainwashing Center  
<https://en.minghui.org/html/articles/2014/4/19/254.html>
- <sup>11</sup> 兄弟夫婦の解放求めた法輪功修煉者 不正裁判に直面  
<https://jp.minghui.org/2014/07/11/39167.html>
- <sup>12</sup> Officers from Dismantled Labor Camp Regroup to Persecute Falun Gong Practitioners  
<https://en.minghui.org/html/articles/2014/8/2/2351.html>
- <sup>13</sup> Heilongjiang Province: Former Labor Camp Guards Continue Carrying Out the Persecution in Drug Rehabilitation Center  
<https://en.minghui.org/html/articles/2014/5/7/508.html>
- <sup>14</sup> 吉林省：610弁公室が洗脳班設置 法輪功修煉者を迫害  
<https://jp.minghui.org/2014/06/23/39138.html>
- <sup>15</sup> 江蘇省の法輪功修煉者 不当に連行される

---

<https://jp.minghui.org/2014/06/22/39131.html>

<sup>16</sup> Persecution Continues in Brainwashing Centers in Jiangjin District, Chongqing  
<https://en.minghui.org/html/articles/2014/2/23/145575.html>

<sup>17</sup> <https://www.uscirf.gov/reports-briefs/annual-report/2014-annual-report>

<sup>18</sup> Dark Secrets of China's "Ankang" Psychiatric Hospitals  
<https://en.minghui.org/html/articles/2015/1/11/147930.html>

<sup>19</sup> 安康医院は 法輪功学習者を迫害する隠れ基地  
<https://jp.minghui.org/2019/04/02/63028.html>

<sup>20</sup> 迫害された清華大学の才女 非業の死を遂げる  
<https://jp.minghui.org/2015/03/07/42418.html>

<sup>21</sup> Falungong press conference organiser gets 12 years: sect [See Note]  
<https://en.minghui.org/html/articles/2000/2/9/8618.html>

<sup>22</sup> Woman Beaten Unconscious for Her Faith, Police Arrest Her Instead of Assailant  
<https://en.minghui.org/html/articles/2019/6/9/177990.html>

<sup>23</sup> One Police Station, Several Deaths, Countless Brutalities  
<https://en.minghui.org/html/articles/2019/3/20/176213.html>

<sup>24</sup> Police, Procuratorate, and Court Violate Legal Procedures to Convict Falun Gong Practitioner  
<https://en.minghui.org/html/articles/2018/4/20/169425.html>

<sup>25</sup> Shandong Man Sentenced to 4.5 Years in Prison, Verdict Pre-determined One Month Before Secret Court Hearing  
<https://en.minghui.org/html/articles/2019/1/31/174829.html>

<sup>26</sup> The 14th Anniversary of Tapping into China's State Television to Broadcast the Truth about Falun Gong: Remembering a Courageous Act  
<https://en.minghui.org/html/articles/2016/3/15/155917.html>

<sup>27</sup> Practitioners Persecuted in Liaoning Women's Prison and Its "Correction Division"  
<https://en.minghui.org/html/articles/2018/2/8/167860.html>

<sup>28</sup> Atrocities Committed Against Practitioners at Heilongjiang Province Women's Prison  
<https://en.minghui.org/html/articles/2013/3/18/138548.html>

<sup>29</sup> 黒竜江省女子刑務所病院での迫害実態  
<https://jp.minghui.org/2013/02/21/32583.html>

<sup>30</sup> Tianjin Man Finally Gets to Appeal His Case, Five Years into a 7-Year Term  
<https://en.minghui.org/html/articles/2017/3/28/162647.html>

<sup>31</sup> Imprisoned Woman Almost Driven Insane, Pleads for Help  
<https://en.minghui.org/html/articles/2017/11/20/166463.html>

<sup>32</sup> Prison Authorities Ignore Criminal's Assault of Falun Gong Practitioner Serving 11 Years for His Faith

---

<https://en.minghui.org/html/articles/2019/5/1/176691.html>

<sup>33</sup> 廖健甫さんは雲南省第一刑務所で迫害死

<https://jp.minghui.org/2019/03/31/63074.html>

<sup>34</sup> Imprisoned Woman Denied Family Visits for Four Months for Doing Falun Gong Exercises

<https://en.minghui.org/html/articles/2019/7/9/178379.html>

<sup>35</sup> Ms. Liu Wenjuan Kicked Out of School and Forced into Homelessness for Practicing Falun Gong

<https://en.minghui.org/emh/articles/2008/4/14/96420.html>

<sup>36</sup> 高中女生讲真话 被学校逐出校门

<https://www.minghui.org/mh/articles/2008/11/17/189850.html>

<sup>37</sup> Young Man Continues to Be Monitored and Harassed after Release from Forced Labor Camp

<https://en.minghui.org/html/articles/2017/11/5/166297.html>

<sup>38</sup> Chinese Academy of Science Pressures a Father to Turn In His Son for Practicing Falun Dafa

<https://en.minghui.org/html/articles/2010/5/3/116637.html>

<sup>39</sup> 上海交通大学の学生・鐘一鳴さんが連行される

<https://jp.minghui.org/2019/07/17/64593.html>

<sup>40</sup> 黑龙江高中污蔑法轮功 女生说实话被开除

<https://www.minghui.org/mh/articles/2008/1/2/169469.html>

<sup>41</sup> 法学院违法 要求考生填写“对法轮功的认识” (图)

<https://www.minghui.org/mh/articles/2010/4/6/221088.html>

<sup>42</sup> Airplane Engineer Unable to Work and Support Family After ID Cards Confiscated

<https://en.minghui.org/html/articles/2010/11/19/121502.html>

<sup>43</sup> Snapshot of Falun Gong Practitioners Whose Copies of Lawsuits Against Jiang Zemin Were Received by Minghui on June 14, 2015

<https://en.minghui.org/html/articles/2015/6/21/151186.html>

<sup>44</sup> 父亲被迫害致死 女儿遭冤刑十三年

<https://www.minghui.org/mh/articles/2016/9/8/334057.html>

<sup>45</sup> Company in Chaoyang City, Liaoning Province Forced to Close Due to CCP Persecution (Photos)

<https://en.minghui.org/emh/articles/2008/4/20/96583.html>

<sup>46</sup> 遭竹签穿掌等酷刑 四川作家控告元凶江泽民

<https://www.minghui.org/mh/articles/2015/10/28/318256.html>

<sup>47</sup> 四川省：優秀教師が迫害される

<https://jp.minghui.org/2015/03/13/42536.html>

<sup>48</sup> Ms. Zhang Guilan Recounts 14 Years of Brutal Persecution (Photos)

<https://en.minghui.org/html/articles/2013/9/26/142412.html>

- 
- <sup>49</sup> 当着五岁女儿的面，狱警对我拳打脚踢  
<https://www.minghui.org/mh/articles/2016/2/19/324307.html>
- <sup>50</sup> Police Use Tear Gas and Axe to Break Into Mr. Zhang Yu's Home in Manchuri City, Inner Mongolia Autonomous Region (Photos)  
<https://en.minghui.org/html/articles/2009/8/26/110323.html>
- <sup>51</sup> Police Attempt to Storm Practitioner's Residence, Three Daughters Seek Urgent Help (Photos)  
<https://en.minghui.org/html/articles/2009/10/14/111530.html>
- <sup>52</sup> Police in Heilongjiang Province Brutally Beat Practitioners Mr. Yao Tiebin and His Wife, Ms. Zhang Fengrong (Photo)  
<https://en.minghui.org/emh/articles/2008/8/20/99992.html>
- <sup>53</sup> 延壽県の羅彩森さんは懲役1年6カ月の不当判決  
<https://jp.minghui.org/2019/04/28/63436.html>
- <sup>54</sup> Four Falun Gong Practitioners in Qinhuangdao Given Long Prison Terms for Their Faith, a Non-practicing Family Member Also Convicted  
<https://en.minghui.org/html/articles/2019/1/28/174791.html>
- <sup>55</sup> Man Imprisoned for His Faith Has 27 Years of Service Wiped Out from His Pension Plan  
<https://en.minghui.org/html/articles/2016/10/6/159429.html>
- <sup>56</sup> Man in His Seventies Arrested Again for Refusing to Give up His Faith  
<https://en.minghui.org/html/articles/2016/7/19/157878.html>
- <sup>57</sup> Liaoning Woman's Pension Suspended After Serving Two Prison Terms of 12 Years for Not Renouncing Her Faith  
<https://en.minghui.org/html/articles/2019/5/15/177495.html>
- <sup>58</sup> 大庆恶警刁难、阻挠大法弟子办身份证  
<https://www.minghui.org/mh/articles/2008/10/16/187820.html>
- <sup>59</sup> 江西省：章有亮さん、付金雲さん夫婦はパスポート発行の申請を連続3年間も拒否された  
<https://jp.minghui.org/2007/11/08/mh091166.html>
- <sup>60</sup> The CCP Persecutes Falun Gong by Restraining Practitioners from Leaving China (Photo)  
<https://en.minghui.org/emh/articles/2007/4/11/84453.html>
- <sup>61</sup> 優秀な財務員の蔡偉華さんに懲役7年を宣告  
<https://jp.minghui.org/2019/04/26/63318.html>
- <sup>62</sup> Mr. Guan Yunzhi Recounts the Persecution He Suffered  
<https://en.minghui.org/html/articles/2016/2/21/155645.html>
- <sup>63</sup> 二零一二年四月二十日大陆综合消息  
<https://www.minghui.org/mh/articles/2012/4/20/255917.html>
- <sup>64</sup> 龙口市邮局和“六一零”狼狽为奸迫害顾客  
<https://www.minghui.org/mh/articles/2008/9/26/186587.html>
- <sup>65</sup> An Impoverished Farmer Arrested after Making a Donation to the Sichuan Earthquake Crisis

---

<https://en.minghui.org/emh/articles/2008/8/18/99929.html>

<sup>66</sup> 徳州の車国萍さん モーメントに情報転送し 不当判決

<https://jp.minghui.org/2018/01/05/56600.html>

<sup>67</sup> Huili City Police in Sichuan Province Lure Children with Money to Be "Undercover Agents"

<https://en.minghui.org/emh/articles/2007/2/17/82759.html>

<sup>68</sup> 吉林省辽源市法轮功学员丁晓霞遭迫害经历

<https://www.minghui.org/mh/articles/2019/4/10/384948.html>

<sup>69</sup> 中共空军强迫家属填写调查表诽谤法轮功 (图)

<https://www.minghui.org/mh/articles/2010/3/24/220327.html>

<sup>70</sup> Poisoned by the Chinese Communist Party, Daughter Turns in and Assaults Mother Ms. Hu Lingying (Photo)

<https://en.minghui.org/emh/articles/2007/6/5/86470.html>

<sup>71</sup> “荣誉证书”背后的罪恶

<https://www.minghui.org/mh/articles/2018/4/27/364489.html>

<sup>72</sup> Mother Beaten to Death by Son for Her Practice of Falun Gong

<https://en.minghui.org/html/articles/2018/12/3/173492.html>

<sup>73</sup> Snapshots of My Family Before and After the Persecution of Falun Dafa

<https://en.minghui.org/html/articles/2017/1/23/161232.html>

<sup>74</sup> 一名10岁美国学生看到的今日中国

<https://www.minghui.org/mh/articles/2001/3/25/9322.html>

<sup>75</sup> The Les Presses Chinoises Falun Gong Slander/Hate Propaganda Case: How Jiang Exports Hate Propaganda Through Official Channels

<https://en.minghui.org/html/articles/2004/2/25/45469.html>

<sup>76</sup> The Truth Behind the "Million Signatures" Against Falun Gong

<https://en.minghui.org/emh/articles/2001/5/8/9360.html>

<sup>77</sup> 50人发表声明——声明强化洗脑作废

<https://www.minghui.org/mh/articles/2001/3/4/8702.html>

<sup>78</sup> Where Do the "Million Signatures" Come From?

<https://en.minghui.org/emh/articles/2001/3/9/5796.html>

<sup>79</sup> Where Do the "Million Signatures" Come From?

<https://en.minghui.org/emh/articles/2001/3/9/5796.html>

<sup>80</sup> Investigative Report of the Chinese Anti-Cult Association's Role in the Persecution of Falun Gong

<https://www.upholdjustice.org/node/85>

<sup>81</sup> Chinese Elementary School Textbook Uses Staged "Self-Immolation" Incident to Incite Children to Hate Falun Gong (Photos)

<https://en.minghui.org/emh/articles/2005/2/22/57795.html>

- 
- <sup>82</sup> Exposing the Evil Acts Committed By the So-Called "Anti-Cult Association" in the Shenli Oil Fields  
<https://en.minghui.org/emh/articles/2004/12/8/55371.html>
- <sup>83</sup> Hebei Province 610 Office Utilizes the Yanzhao Evening Post to Compile and Spread Lies  
<https://en.minghui.org/emh/articles/2005/2/18/57663.html>
- <sup>84</sup> The Suffering of Children in the Persecution of Falun Gong (Part 1)  
<https://en.minghui.org/emh/articles/2004/5/1/47604.html>
- <sup>85</sup> Children Persecuted by the CCP  
<https://en.minghui.org/html/articles/2013/9/24/142375.html>
- <sup>86</sup> Children Persecuted by the CCP  
<https://en.minghui.org/html/articles/2013/9/24/142375.html>
- <sup>87</sup> Zhang Yichao, an 18-Year-Old Girl from Huolinguole City, Inner Mongolia, Died as a Result of the Persecution of Her Family  
<https://en.minghui.org/emh/articles/2005/4/20/59888.html>
- <sup>88</sup> Practitioner Mrs. Fu Guiying Dies From Persecution After Her 18-year-old Daughter Passes Away  
<https://en.minghui.org/emh/articles/2006/1/5/68687.html>
- <sup>89</sup> 苦难中的童年岁月 (一)  
<https://www.minghui.org/mh/articles/2013/11/13/282322.html>
- <sup>90</sup> Turned Out Into the Cold: The Situation of Children Orphaned as a Result of the Persecution of Falun Gong (Photos)  
<https://en.minghui.org/emh/articles/2005/1/17/56650.html>
- <sup>91</sup> Pu Yonghe, Son of Deceased Dafa Practitioner Ms. Cui Zhengshu, Lives with Father and Grandmother in Jilin (Photos)  
<https://en.minghui.org/html/articles/2010/2/26/114956.html>
- <sup>92</sup> The Plight of Orphan Wu Yingqi (Photos)  
<https://en.minghui.org/emh/articles/2008/7/11/98881.html>
- <sup>93</sup> Tears at a Time for Family Reunions - On Behalf of Helpless Falun Gong Orphans (Photos)  
<https://en.minghui.org/emh/articles/2007/2/20/82864.html>
- <sup>94</sup> Xiaolong's Bitter Childhood (Photos)  
<https://en.minghui.org/emh/articles/2006/11/13/79873.html>
- <sup>95</sup> Voice from a Five-Year-Old in Jilin Province: "I Miss My Mommy - I Want my Mommy and Daddy Back!" (Photos)  
<https://en.minghui.org/emh/articles/2005/2/15/57578.html>
- <sup>96</sup> 一位狱中母亲的牵挂  
<https://www.minghui.org/mh/articles/2018/1/12/359542.html>
- <sup>97</sup> 幸せだった家庭が崩壊 (写真)  
<https://jp.minghui.org/2015/12/27/40563.html>
- <sup>98</sup> Teenaged Girl Driven Insane After Being Forced to Watch Parents Tortured by Police

---

<https://en.minghui.org/html/articles/2018/10/31/173068.html>

<sup>99</sup> High School Student Persecuted to the Point of Mental Collapse for Practicing Falun Gong  
<https://en.minghui.org/html/articles/2009/10/23/111780.html>

<sup>100</sup> Eighteen-Year-Old Practitioner Ms. Zhang Conghui Is Tortured to a State of Mental Collapse  
<https://en.minghui.org/emh/articles/2004/6/7/48974.html>

<sup>101</sup> What Crimes Have These Children Committed?  
<https://en.minghui.org/html/articles/2010/6/29/118230.html>

<sup>102</sup> Ten-year-old Girl Brutally Beaten and Locked in an Iron Cage by Police  
<https://en.minghui.org/emh/articles/2008/9/4/100378.html>

<sup>103</sup> "610 Office" Personnel of Chongqing City Persecute a Thirteen-year-old Girl  
<https://en.minghui.org/emh/articles/2004/3/22/46293.html>

<sup>104</sup> 13-Year-Old Boy Beaten by Police When He Went to the Public Security Bureau to Look for His Mother (Photos)  
<https://en.minghui.org/emh/articles/2006/11/11/79828.html>

<sup>105</sup> Daughter of Abused Practitioner Beaten in School, Sues Jiang Zemin  
<https://en.minghui.org/html/articles/2015/10/24/153371.html>

<sup>106</sup> 黑龙江富裕县大法弟子王爱荣被绑架经过  
<https://www.minghui.org/mh/articles/2006/10/12/139955.html>

<sup>107</sup> Judicial Bureau Blocks Medical Parole for Imprisoned Man in Critical Condition  
<https://en.minghui.org/html/articles/2019/6/5/177928.html>

<sup>108</sup> 生後8カ月の囚人  
<https://jp.minghui.org/2015/01/16/39815.html>

<sup>109</sup> Why Was a Six-year-old Girl Detained Twice?  
<https://en.minghui.org/emh/articles/2006/8/4/76337.html>

<sup>110</sup> Persecuted Since She Was a Child, Ms. Li Ying Arrested Again  
<https://en.minghui.org/html/articles/2013/12/21/143754.html>

<sup>111</sup> The Whole Family of Dafa Practitioner Wang Zideng from Laiwu City, Shandong Province Is Subjected to Persecution (Photos)  
<https://en.minghui.org/emh/articles/2004/11/14/54530.html>

<sup>112</sup> 强奸——流氓党的流氓手段（上）  
<https://www.minghui.org/mh/articles/2013/2/3/268659.html>

<sup>113</sup> 大慶の姜滢さんの惨死は11年も表沙汰にならず  
<https://jp.minghui.org/2018/09/26/60285.html>

<sup>114</sup> Falun Gong Practitioners Held in the Duyun Prison, Guizhou Province Transferred to a New, Completely Enclosed Prison Ward  
<https://en.minghui.org/html/articles/2006/5/8/73004.html>

- 
- <sup>115</sup> Torture Methods: How Guards Torture Practitioners With Their Bare Hands (Part 1 of 5)  
<https://en.minghui.org/html/articles/2014/9/7/2884.html>
- <sup>116</sup> 灌食され死亡した遼寧省の法輪功学習者14実例  
<https://jp.minghui.org/2017/10/26/55746.html>
- <sup>117</sup> The Persecution of Falun Gong Practitioners at Heilongjiang Women's Prison  
<https://en.minghui.org/html/articles/2004/2/24/45435.html>
- <sup>118</sup> Torture Methods: Police and Prison Guards Use a Wide Variety of Everyday Objects to Torture Falun Gong Practitioners (Part 2 of 5) (Graphic Images)  
<https://en.minghui.org/html/articles/2014/9/28/3472.html>
- <sup>119</sup> Torture Methods: Police and Prison Guards Use a Wide Variety of Everyday Objects to Torture Falun Gong Practitioners (Part 2 of 5) (Graphic Images)  
<https://en.minghui.org/html/articles/2014/9/28/3472.html>
- <sup>120</sup> A Personal Account of Persecution: "I Didn't Think I'd Ever Get Out Alive!"  
<https://en.minghui.org/html/articles/2013/7/21/141160.html>
- <sup>121</sup> 灌食され死亡した遼寧省の法輪功学習者14実例  
<https://jp.minghui.org/2017/10/26/55746.html>
- <sup>122</sup> Imprisoned Energy Engineer on Hunger Strike for Five Years to Protest Persecution of Falun Gong, Survives Daily Forcible-feeding  
<https://en.minghui.org/html/articles/2015/8/15/152075.html>
- <sup>123</sup> 内モンゴル第四刑務所の拷問 長時間小椅子に座らせる  
<https://jp.minghui.org/2018/08/25/60084.html>
- <sup>124</sup> The Violent Persecution Carried Out at Xuchang Third Forced Labor Camp  
<https://en.minghui.org/html/articles/2013/8/20/141621.html>
- <sup>125</sup> Guan Ge Tortured to Death 12 Years Ago—Her Mother Files Criminal Complaint Against Former Dictator Jiang Zemin  
<https://en.minghui.org/html/articles/2015/9/13/152517.html>
- <sup>126</sup> Woman Dies in Custody 18 Years Ago, Body Still Not Returned to Family  
<https://en.minghui.org/html/articles/2019/5/28/177816.html>
- <sup>127</sup> Arrested and Tortured Repeatedly, Inner Mongolia Woman Sentenced Again  
<https://en.minghui.org/html/articles/2019/6/16/178099.html>
- <sup>128</sup> Prolonged Exposure to the Scorching Sun: a Form of Torture Employed by the Chinese Communist Party  
<https://en.minghui.org/html/articles/2013/11/9/143091.html>
- <sup>129</sup> CCP Torture Methods: Steaming and Roasting  
<https://en.minghui.org/html/articles/2014/10/24/146541.html>
- <sup>130</sup> CCP Torture Methods: Freezing

---

<https://en.minghui.org/html/articles/2015/2/1/148189.html>

<sup>131</sup> The Story of Ms. Qiu Liying (Photo)

<https://en.minghui.org/html/articles/2012/4/13/132684.html>

<sup>132</sup> CCP Torture Methods: Freezing

<https://en.minghui.org/html/articles/2015/2/1/148189.html>

<sup>133</sup> Torture Methods: Abuse of Sight and Hearing (Part 5 of 5)

<https://en.minghui.org/html/articles/2015/1/10/147911.html>

<sup>134</sup> Torture Methods: Assaulting the Senses of Smell and Taste (Part 4 of 5) (Graphic Images)

<https://en.minghui.org/html/articles/2014/11/20/146957.html>

<sup>135</sup> Eleven Years of Torture for Practicing and Speaking Out for Falun Gong

<https://en.minghui.org/html/articles/2019/2/16/175846.html>

<sup>136</sup> Animals and Insects Used to Torture Falun Gong Practitioners

<https://en.minghui.org/html/articles/2015/11/19/153730.html>

<sup>137</sup> Animals and Insects Used to Torture Falun Gong Practitioners

<https://en.minghui.org/html/articles/2015/11/19/153730.html>

<sup>138</sup> CCP Torture Method: "Hunger Therapy"

<https://en.minghui.org/html/articles/2015/3/2/149160.html>

<sup>139</sup> Practitioner Ms. Li Xiuzhen Cruelly Tortured at Jinan Women's Prison (Photo Re-enactments)

<https://en.minghui.org/html/articles/2005/1/19/56709.html>

<sup>140</sup> Thirteen Days of Sleep Deprivation

<https://en.minghui.org/html/articles/2018/7/19/171167.html>

<sup>141</sup> Depriving Toilet Access: Another Feature of a Shameless Persecution

<https://en.minghui.org/html/articles/2010/11/3/121221.html>

<sup>142</sup> The Brutal Persecution of Practitioner Ms. Hu Rulian from Leshan City, Sichuan Province

<https://en.minghui.org/emh/articles/2008/5/20/zip.html>

<sup>143</sup> Woman Recounts 10 Years of Torture in Prison, Including Hundreds of Force Feedings

<https://en.minghui.org/html/articles/2019/4/13/176478.html>

<sup>144</sup> Seventy-Year-Old Practitioner Tortured and Shocked by Police

<https://en.minghui.org/html/articles/2018/4/23/169463.html>

<sup>145</sup> Dafa Practitioner Ms. Gao Rongrong's Face Is Severely Disfigured by Seven Hours of Electric Baton Torture in the Longshan Labor Camp (Warning: Graphic Photos)

<https://en.minghui.org/html/articles/2004/7/12/50141.html>

<sup>146</sup> 長春市の穆君奎さんは不正裁判に直面

<https://jp.minghui.org/2019/04/18/63210.html>

- 
- <sup>147</sup> 山东招远市十八年来法轮功学员被迫害综述  
<https://www.minghui.org/mh/articles/2017/7/16/351165.html>
- <sup>148</sup> Physiological Torture: Waterboarding, Starvation, and Deprivation of Toilet Access  
<https://en.minghui.org/html/articles/2019/3/19/176195.html>
- <sup>149</sup> Plastic Bags Used as Instruments of Torture on Falun Gong Practitioners (Photos)  
<https://en.minghui.org/html/articles/2014/8/27/2704.html>
- <sup>150</sup> Masanjia Forced Labor Camp: Solitary Confinement Torture Caused Edema and Great Difficulty Walking  
<https://en.minghui.org/html/articles/2003/1/17/31007.html>
- <sup>151</sup> Young Artist Brutally Tortured in Prison for His Faith  
<https://en.minghui.org/html/articles/2018/11/20/173324.html>
- <sup>152</sup> Practitioner Kept in Solitary Confinement for Half Her Term at Heilongjiang Women's Prison  
<https://en.minghui.org/html/articles/2007/11/17/91408.html>
- <sup>153</sup> Torture and Sexual Abuse of Falun Gong Women is Rife in China's Detention Centers and Labor Camps (Part 1)  
<https://en.minghui.org/html/articles/2013/3/12/138485.html>
- <sup>154</sup> 劝善之心化飞鸿  
<https://www.minghui.org/mh/articles/2020/2/18/399018.html>
- <sup>155</sup> 湖南省：高齡の法輪功修煉者 性的虐待・私生活の妨害を受け死亡(写真)  
<https://jp.minghui.org/2011/08/26/24612.html>
- <sup>156</sup> CCP Torture Methods: Water Torture  
<https://en.minghui.org/html/articles/2015/2/6/148251.html>
- <sup>157</sup> Survivors of Liaoning Women's Prison Recount Their Torture  
<https://en.minghui.org/html/articles/2015/4/20/149807.html>
- <sup>158</sup> Torture and Sexual Abuse of Falun Gong Women is Rife in China's Detention Centers and Labor Camps (Part 1)  
<https://en.minghui.org/html/articles/2013/3/12/138485.html>
- <sup>159</sup> The Horrors of Benxi Prison  
<https://en.minghui.org/html/articles/2018/8/28/171674.html>
- <sup>160</sup> Torture Methods: How Guards Torture Practitioners With Their Bare Hands (Part 1 of 5)  
<https://en.minghui.org/html/articles/2014/9/7/2884.html>
- <sup>161</sup> Torture Methods: How Guards Torture Practitioners With Their Bare Hands (Part 1 of 5)  
<https://en.minghui.org/html/articles/2014/9/7/2884.html>
- <sup>162</sup> 河南省洛寧県の陳少民さん 酷く迫害され死亡  
<https://jp.minghui.org/2019/06/11/64123.html>
- <sup>163</sup> 山東沂南県の法輪功学習者の李長芳さん 迫害死  
<https://jp.minghui.org/2019/07/24/64671.html>

- 
- <sup>164</sup> 李艶秋さんは刑務所に収容され 2週間で迫害死  
<https://jp.minghui.org/2019/06/11/64245.html>
- <sup>165</sup> 夜中警官に家に侵入され 河北廊坊の楊曉輝さん転落死  
<https://jp.minghui.org/2019/04/21/63285.html>
- <sup>166</sup> 撫順市朝鮮族の金順女さん 迫害され死亡  
<https://jp.minghui.org/2018/10/25/60926.html>
- <sup>167</sup> Mother Seeks Justice in Son's Death  
<https://en.minghui.org/html/articles/2014/7/12/2002.html>
- <sup>168</sup> Ms. Cheng Fuhua Filed Lawsuit Against Jiang Zemin Before Her Death  
<https://en.minghui.org/html/articles/2016/11/20/160016.html>
- <sup>169</sup> Healthy Man Dies Two Days after Hospitalization for Hunger Strike  
<https://en.minghui.org/html/articles/2017/8/1/164866.html>
- <sup>170</sup> 黒竜江省：刑務所で強制墮胎された法輪功修煉者が死亡  
<https://jp.minghui.org/2012/05/28/28594.html>
- <sup>171</sup> Husband Dies 7 Years After Being Driven Insane While in Custody, Wife Continues Fight to Seek Justice  
<https://en.minghui.org/html/articles/2018/9/22/172022.html>
- <sup>172</sup> An Open Letter from Mr. Xu Dawei's Wife to Chinese Government Agencies (Graphic Photos)  
<https://en.minghui.org/html/articles/2010/8/14/119242.html>
- <sup>173</sup> The Tragic Life of a Musical Genius (Photos)  
<https://en.minghui.org/emh/articles/2007/5/1/85127.html>
- <sup>174</sup> Blinded by Abuse in Labor Camp, Former Businesswoman Suffering More Abuse in Prison for Her Faith  
<https://en.minghui.org/html/articles/2019/6/3/177907.html>
- <sup>175</sup> 中国・江西省の老母 息子夫婦の無実を訴え不当に連行（写真）  
<https://jp.minghui.org/2016/05/29/48549.html>
- <sup>176</sup> 80-Year-Old Man Serving 11.5 Years in Prison for His Faith in Falun Gong  
<https://en.minghui.org/html/articles/2017/2/23/162277.html>
- <sup>177</sup> 内モンゴル：一家が迫害され 全員で41年もの刑期  
<https://jp.minghui.org/2014/11/10/40969.html>
- <sup>178</sup> 16歳の女の子のあまりにも辛い生い立ち  
<https://jp.minghui.org/2018/01/04/56514.html>
- <sup>179</sup> 儿子遇害 牡丹江市穆稜市老太悲怆离世（图）  
<https://www.minghui.org/mh/articles/2018/1/9/359438.html>
- <sup>180</sup> Ms. Zhao Yuhua and Her Husband Forced Into Homelessness; Young Daughter Dies in Grief  
<https://en.minghui.org/emh/articles/2006/12/24/81128.html>

---

<sup>181</sup> 儿子被非法判刑 老父捡破烂惨死

<https://www.minghui.org/mh/articles/2018/4/4/363722.html>

<sup>182</sup> Shandong Woman in Critical Condition Again After Being Taken Back to Prison from Medical Parole

<https://en.minghui.org/html/articles/2018/11/27/173410.html>

<sup>183</sup> 98-Year-Old Woman Seeks Her Granddaughter Liang Yuzhen's Release (Photos)

<https://en.minghui.org/emh/articles/2009/4/14/106511.html>

<sup>184</sup> 84-Year-Old Mother Stands by Son Jailed Second Time for His Faith

<https://en.minghui.org/html/articles/2019/6/4/177915.html>

<sup>185</sup> 清明泪

<https://www.minghui.org/mh/articles/2017/4/6/%E6%B8%85%E6%98%8E%E6%B3%AA-345234.html>

<sup>186</sup> 三位家人被迫害致死 冯晓梅控告江泽民

<https://www.minghui.org/mh/articles/2015/6/23/311257.html>

<sup>187</sup> Tortured for Her Belief, Falun Gong Practitioner Sues Former Dictator Jiang Zemin

<https://en.minghui.org/html/articles/2015/6/11/151012.html>

<sup>188</sup> 妻子被迫害离世 四川万源农民控告江泽民 (图)

<https://www.minghui.org/mh/articles/2015/10/3/316996.html>

<sup>189</sup> Practitioner Ms. Fuli's Hands Disabled by Torture at Wanjia Labor Camp (Photos)

<https://en.minghui.org/emh/articles/2004/12/3/55202.html>

<sup>190</sup> Disabled Practitioner's Compensation Claim Ignored in Zhejiang Province (Photos)

<https://en.minghui.org/emh/articles/2007/6/4/86417.html>

<sup>191</sup> Woman Blinded While in Custody, Files Complaint Against Judges that Dismisses Her Case Against the Perpetrators

<https://en.minghui.org/html/articles/2018/1/3/167465.html>

<sup>192</sup> Woman Remains Hospitalized 3 Years After Being Beaten Unconscious by Police

<https://en.minghui.org/html/articles/2017/11/11/166356.html>

<sup>193</sup> Imprisoned and Tortured for Five Years, Heilongjiang Man Unable to Walk or Speak Upon Release

<https://en.minghui.org/html/articles/2018/12/17/173660.html>

<sup>194</sup> 辽宁营口市张菊贤被迫害致精神失常十多年 (图)

<https://www.minghui.org/mh/articles/2017/7/1/350360.html>

<sup>195</sup> Practitioner Mr. Mo Zhikui in Serious Condition at Hulan Prison, His Mother Desperately Appeals for His Release

<https://en.minghui.org/html/articles/2014/5/2/428.html>

<sup>196</sup> 苦难中坚信真善忍

<https://www.minghui.org/mh/articles/2016/12/26/339387.html>

<sup>197</sup> Poet Files Lawsuit Against Jiang Zemin for Nine Years of Imprisonment

<https://en.minghui.org/html/articles/2016/7/30/158029.html>

- 
- <sup>198</sup> Two Sources Testify Publicly about the CCP's Atrocities of Harvesting Organs from Living Falun Gong Practitioners (Photos)  
<https://en.minghui.org/html/articles/2006/4/22/72310.html>
- <sup>199</sup> Two Sources Testify Publicly about the CCP's Atrocities of Harvesting Organs from Living Falun Gong Practitioners (Photos)  
<https://en.minghui.org/html/articles/2006/4/22/72310.html>
- <sup>200</sup> Minghui Human Rights Report: Falun Gong Practitioners Systematically Murdered in China for Their Organs  
<https://en.minghui.org/html/articles/2016/5/16/157028.html>
- <sup>201</sup> Minghui Human Rights Report: Falun Gong Practitioners Systematically Murdered in China for Their Organs  
<https://en.minghui.org/html/articles/2016/5/16/157028.html>
- <sup>202</sup> A Tribute to Truthfulness-Compassion-Forbearance  
<https://en.minghui.org/html/articles/2014/5/19/1241.html>
- <sup>203</sup> A Tribute to Truthfulness-Compassion-Forbearance  
<https://en.minghui.org/html/articles/2014/5/19/1241.html>
- <sup>204</sup> The Journey of Falun Dafa: A Bright but Arduous Path  
<https://en.minghui.org/emh/articles/2004/9/26/52823.html>
- <sup>205</sup> 两次进京上访的经历和认识的升华  
<https://www.minghui.org/mh/articles/2001/9/19/16732.html>
- <sup>206</sup> 2000年8月20日大陆综合消息  
<https://www.minghui.org/mh/articles/2000/8/21/2887.html>
- <sup>207</sup> “上面有令 死了白死”  
<https://www.minghui.org/mh/articles/2009/12/17/214589.html>
- <sup>208</sup> New Leads in the Investigation of the Sujiatun Concentration Camp  
<https://en.minghui.org/emh/articles/2006/3/22/71075.html>
- <sup>209</sup> Minghui Human Rights Report: Falun Gong Practitioners Systematically Murdered in China for Their Organs  
<https://en.minghui.org/html/articles/2016/5/16/157028.html>
- <sup>210</sup> Guizhou Province: Falun Gong Practitioners in Anshun City Subjected to Compulsory Blood Draws  
<https://en.minghui.org/html/articles/2014/12/29/147492.html>
- <sup>211</sup> Forced Blood Drawing from Falun Gong Practitioners Continues in Guizhou Province  
<https://en.minghui.org/html/articles/2016/5/20/157085.html>
- <sup>212</sup> Minghui Human Rights Report: Falun Gong Practitioners Systematically Murdered in China for Their Organs  
<https://en.minghui.org/html/articles/2016/5/16/157028.html>
- <sup>213</sup> CCP's Means of Controlling Oversea Chinese Communities and Infiltrating Mainstream Society Exposed in Canada (Photos)  
<https://en.minghui.org/emh/articles/2007/6/10/86636.html>

- 
- <sup>214</sup> Epoch Times: Chinese Regime Uses Subterfuge to Frame Falun Gong in New York (Photos)  
<https://en.minghui.org/html/articles/2008/6/9/98027.html>
- <sup>215</sup> During Zeng Qinghong's Visit to South Africa, Australian Falun Gong Practitioners Shot by Hired Thugs While on the Way to Initiate a Lawsuit  
<https://en.minghui.org/html/articles/2004/6/28/49646.html>
- <sup>216</sup> CCP Agents Attack U.S. Falun Gong Practitioner—File Cabinets Pried Open, Laptops Stolen, Valuables Left Alone (Photos)  
<https://en.minghui.org/html/articles/2006/2/9/70114.html>
- <sup>217</sup> Epoch Times: Japan's Epoch Times Office Targeted by CCP's Special Agents  
<https://en.minghui.org/html/articles/2006/3/15/70824.html>
- <sup>218</sup> Epoch Times: Chinese Regime Uses Subterfuge to Frame Falun Gong in New York (Photos)  
<https://en.minghui.org/html/articles/2008/6/9/98027.html>
- <sup>219</sup> US Congressman Ed Royce Writes to Department of State Concerning Attacks on Falun Gong Practitioners in San Francisco  
<https://en.minghui.org/html/articles/2012/8/13/134924.html>
- <sup>220</sup> Rally in Hong Kong Condemns Harassment from CCP-Controlled Organization  
<https://en.minghui.org/html/articles/2018/4/30/169541.html>
- <sup>221</sup> My Trip to Hong Kong and Macau  
<https://en.minghui.org/html/articles/2019/4/7/176410.html>
- <sup>222</sup> 中国共産党は人を雇って 香港の学習者を襲撃  
<https://jp.minghui.org/2019/09/29/65780.html>
- <sup>223</sup> 江氏集团在海外迫害法轮功的案列报道  
<https://www.minghui.org/mh/articles/2004/7/17/79549.html>
- <sup>224</sup> Russia: Succumbing to CCP Pressure, Russian Government Deports UN Refugees (Photo)  
<https://en.minghui.org/html/articles/2007/3/31/84084.html>
- <sup>225</sup> World Daily: Falun Gong Practitioners Protest outside Russian Consulate  
<https://en.minghui.org/html/articles/2007/5/23/86003.html>
- <sup>226</sup> FDIC: Sad Day in Vietnam as Falun Gong Radio Broadcasters Jailed in Show Trial  
<https://en.minghui.org/html/articles/2011/11/12/129394.html>
- <sup>227</sup> FDIC: Urgent Appeal: Falun Gong Trial in Vietnam Postponed, but Dozens Detained at Chinese Consulate  
<https://en.minghui.org/html/articles/2011/10/7/128578.html>
- <sup>228</sup> Member of European Parliament Calls on South Korea to Stop the Repatriation of Falun Gong Practitioners (Photos)  
<https://en.minghui.org/html/articles/2011/9/11/128024.html>
- <sup>229</sup> Falun Gong Practitioner Deported from South Korea is Persecuted after Returning to China  
<https://en.minghui.org/html/articles/2013/3/4/138364.html>

- 
- <sup>230</sup> FDI: Iceland Citizens Rally Around Falun Gong  
<https://en.minghui.org/html/articles/2002/6/11/23011.html>
- <sup>231</sup> “Chinese Repression Making Its Way to Europe”—Accounts from Practitioners Illegally Detained in Serbia during the CEE-China Summit  
<https://en.minghui.org/html/articles/2014/12/21/147390.html>
- <sup>232</sup> Hong Kong: Falun Gong Practitioners Deported, Potential Blacklist in Place  
<https://en.minghui.org/html/articles/2019/4/30/176670.html>
- <sup>233</sup> San Francisco: Falun Gong Draws Media Attention at Parade, Chinese Communist Party's Interference is Further Exposed (Photos)  
<https://en.minghui.org/html/articles/2006/2/15/69986.html>
- <sup>234</sup> Chinese Embassy's Interference With Danish Asian Cultural Festival Criticized  
<https://en.minghui.org/html/articles/2002/10/19/27715.html>
- <sup>235</sup> Australia: Media Exposes Chinese Consulate's Failed Attempt to Block Falun Gong from Perth Christmas Parade  
<https://en.minghui.org/html/articles/2018/12/10/173570.html>
- <sup>236</sup> UK: Chinese Consulate Fails to Thwart Dafa Activities in Edinburgh's One World Festival  
<https://en.minghui.org/html/articles/2003/6/22/37242.html>
- <sup>237</sup> <https://www.shenyunperformingarts.org/spirituality/challenges-we-face>  
<https://www.shenyunperformingarts.org/spirituality/challenges-we-face>
- <sup>238</sup> Berlin, Germany: Local Media Exposes Chinese Communist Interference of Shen Yun Performances  
<https://en.minghui.org/html/articles/2014/3/24/146052.html>
- <sup>239</sup> Denmark: Officials Condemn Chinese Regime's “Dirty Tricks” in Interfering with Shen Yun  
<https://en.minghui.org/html/articles/2018/3/12/169019.html>
- <sup>240</sup> Threatened by Beijing, South Korean Theater Cancels Shen Yun Performances  
<https://en.minghui.org/html/articles/2016/5/9/156604.html>
- <sup>241</sup> <https://www.shenyunperformingarts.org/spirituality/challenges-we-face>  
<https://www.shenyunperformingarts.org/spirituality/challenges-we-face>
- <sup>242</sup> Shen Yun Performance in Hong Kong Canceled as a Result of Visa Denial to Six Key Production Staff; Local Officials Condemn Hong Kong Government's Decision (Photos)  
<https://en.minghui.org/html/articles/2010/1/24/114110.html>
- <sup>243</sup> Shen Yun to Put on Eighteen Shows in South America after Overcoming CCP's Interference  
<https://en.minghui.org/html/articles/2009/6/28/108660.html>
- <sup>244</sup> Shen Yun Divine Performing Arts Wins People's Hearts; CCP Interference Ends Up Promoting the Show (Photos)  
<https://en.minghui.org/html/articles/2009/3/1/105229.html>
- <sup>245</sup> 米CA州議員 「中共は迫害を海外まで延伸」と譴責  
<https://jp.minghui.org/2017/09/15/55182.html>

- 
- <sup>246</sup> 美国市长国会作证 揭露中国官员胁迫自己放弃支持法轮功  
<https://www.minghui.org/mh/articles/2003/11/30/61425.html>
- <sup>247</sup> Minnesota: Chinese Consulate Interferes with Bills Regarding Organ Harvesting  
<https://en.minghui.org/html/articles/2015/6/9/150989.html>
- <sup>248</sup> 中国共産党スパイがなりすましメール 国会議員を脅迫 (写真)  
<https://jp.minghui.org/2015/06/22/43662.html>
- <sup>249</sup> The Chinese Regime Attempts to Slander Falun Gong Using the Christchurch Earthquake (Photo)  
<https://en.minghui.org/html/articles/2011/3/11/123733.html>
- <sup>250</sup> Vancouver, Canada: CCP Exports Its Crimes Abroad (Photos)  
<https://en.minghui.org/html/articles/2011/7/21/126885.html>
- <sup>251</sup> 参考资料：加议员亲历中共收买伎俩  
<https://www.minghui.org/mh/articles/2010/7/20/227226.html>
- <sup>252</sup> Canada: Practitioners Hold Press Conference Exposing CCP Attempts to Manipulate Canadian Officials (Photo)  
<https://en.minghui.org/html/articles/2010/7/10/118486.html>
- <sup>253</sup> CCP's Means of Controlling Oversea Chinese Communities and Infiltrating Mainstream Society Exposed in Canada (Photos)  
<https://en.minghui.org/emh/articles/2007/6/10/86636.html>
- <sup>254</sup> Italy: Chinese Ambassador Admits He Pressured EutelSat to Stop NTDTV Broadcasts into China  
<https://en.minghui.org/html/articles/2008/7/18/99068.html>
- <sup>255</sup> Reflecting the Shadow of the Chinese Government: Bangkok Marriott Suddenly Cancels Falun Gong Class  
<https://en.minghui.org/emh/articles/2003/12/10/42984.html>
- <sup>256</sup> Chinese Consulate Persecutes a Chinese Doctor in the UK - An Eyewitness Account  
<https://en.minghui.org/emh/articles/2003/10/15/41280.html>
- <sup>257</sup> 中国共産党 「孔子学院」を利用してイデオロギー浸透調査レポート発表  
<https://jp.minghui.org/2016/02/03/38567.html>
- <sup>258</sup> Bulgarian Practitioners Educate Public During World Confucius Institutes Day  
<https://en.minghui.org/html/articles/2017/10/11/166023.html>
- <sup>259</sup> Toronto District School Board Ends Partnership with Confucius Institute  
<https://en.minghui.org/html/articles/2014/11/2/146667.html>
- <sup>260</sup> 中国共産党 「孔子学院」を利用してイデオロギー浸透調査レポート発表  
<https://jp.minghui.org/2016/02/03/38567.html>
- <sup>261</sup> Former Chinese Diplomat Chen Yonglin Reveals Secret Documents that Show How the CCP Exports Its Persecution of Falun Gong Abroad (Supplement: Documents Translated)  
<https://en.minghui.org/html/articles/2007/8/6/88378.html>

- 
- <sup>262</sup> Former Chinese Student Association Chairman Explains How CCP Controls the Association Behind the Scenes (Photo)  
<https://en.minghui.org/html/articles/2007/7/7/87431.html>
- <sup>263</sup> How the Chinese Communist Regime Instigates Chinese Student Associations to Persecute Falun Gong  
<https://en.minghui.org/emh/articles/2007/7/6/87395.html>
- <sup>264</sup> 学校内で修煉し、真相を伝える (一)  
<https://jp.minghui.org/2011/09/25/24730.html>
- <sup>265</sup> Clarifying the Truth at an American University  
<https://en.minghui.org/html/articles/2008/6/13/98135.html>
- <sup>266</sup> A Hidden Story: Chinese Student Associations Hired to Spy for CCP  
<https://en.minghui.org/html/articles/2007/9/4/89235.html>
- <sup>267</sup> A Hidden Story: Chinese Student Associations Hired to Spy for CCP  
<https://en.minghui.org/html/articles/2007/9/4/89235.html>
- <sup>268</sup> 澳外交部官员关注悉尼科技大学网站遭中共封杀 (图)  
<https://www.minghui.org/mh/articles/2005/7/13/106055.html>
- <sup>269</sup> Female Ph.D. Scholar Is Denied Passport Extension as the Chinese Consulate Brings the Persecution of Falun Gong to Stanford University (Photo)  
<https://en.minghui.org/emh/articles/2004/6/30/49673.html>
- <sup>270</sup> While Visiting China to Get Married, U.S. Students Arrested at Beijing Airport and Coerced to Spy on Falun Gong  
<https://en.minghui.org/html/articles/2013/10/16/142771.html>
- <sup>271</sup> イギリスの修煉者が2010年に帰国した際、北京の国安安全局に脅迫された経験  
<https://jp.minghui.org/2013/11/11/36147.html>
- <sup>272</sup> 二十一世紀的古拉格真相 (5)  
<https://www.minghui.org/mh/articles/2019/9/9/392266.html>
- <sup>273</sup> 二十一世紀的古拉格真相 (5)  
<https://www.minghui.org/mh/articles/2019/9/9/392266.html>
- <sup>274</sup> 二十一世紀的古拉格真相 (4)  
<https://www.minghui.org/mh/articles/2019/9/8/392265.html>
- <sup>275</sup> CONSTITUTION OF THE PEOPLE'S REPUBLIC OF CHINA  
<https://npcobserver.files.wordpress.com/2018/12/PRC-Constitution-2018.pdf>
- <sup>276</sup> The Role of Jiang Zemin in the Persecution of Falun Gong - a Legal Brief  
<https://en.minghui.org/html/articles/2015/5/1/149952.html>
- <sup>277</sup> Rome Statute of the International Criminal Court  
[https://www.icc-cpi.int/nr/rdonlyres/ea9aeff7-5752-4f84-be94-0a655eb30e16/0/rome\\_statute\\_english.pdf](https://www.icc-cpi.int/nr/rdonlyres/ea9aeff7-5752-4f84-be94-0a655eb30e16/0/rome_statute_english.pdf)
- <sup>278</sup> 云南省610胁迫邮局工作人员违法

---

<https://www.minghui.org/mh/articles/2016/9/9/334185.html>

<sup>279</sup> 大庆油田至少27名法轮功学员被中共虐杀 (图)

<https://www.minghui.org/mh/articles/2013/4/15/272084.html>

<sup>280</sup> 大庆油田公司610头子刘希平遭恶报丧命

<https://www.minghui.org/mh/articles/2017/5/29/348800.html>

<sup>281</sup> Gezhouba Group Corporation 610 Office Agents Persecuted Practitioner Ms. Shen Ju to Death

<https://en.minghui.org/emh/articles/2006/2/13/69911.html>

<sup>282</sup> 街办是中共监控民众的机构

<https://www.minghui.org/mh/articles/2013/7/30/277328.html>

<sup>283</sup> San Francisco Newspaper Reports Cisco's Role in Assisting China's Crackdown on Falun Gong

<https://en.minghui.org/html/articles/2012/3/22/132332.html>

<sup>284</sup> Breaking through Internet Censorship for the People of China

<https://en.minghui.org/html/articles/2013/7/18/141114.html>

<sup>285</sup> 深圳法轮功学员遭中共迫害纪实 (三)

<https://www.minghui.org/mh/articles/2011/8/19/245367.html>

<sup>286</sup> Infiltration of International News Media by the Chinese Communist Party

<https://en.minghui.org/html/articles/2019/11/10/180673.html>

<sup>287</sup> New Wave of Lawsuits Against Jiang Zemin—This Time in China

<https://en.minghui.org/html/articles/2015/5/25/150749.html>

<sup>288</sup> Snapshot of Falun Gong Practitioners Whose Copies of Lawsuits Against Jiang Zemin Were Received by Minghui on Nov 4-6, 2015

<https://en.minghui.org/html/articles/2015/11/14/153658.html>

<sup>289</sup> Former Chinese Judge Files Criminal Complaint Against Jiang Zemin

<http://en.minghui.org/html/articles/2015/6/20/151163.html>

<sup>290</sup> 元海軍大学校教授 迫害の元凶・江沢民を告訴

<https://jp.minghui.org/2015/06/11/43581.html>

<sup>291</sup> Minghui Human Rights Report: Nearly 20,000 Incidents of Citizens Targeted in 2015 for Their Faith in Falun Gong

<https://en.minghui.org/html/articles/2016/5/9/156606.html>

<sup>292</sup> Chaoyang, Liaoning Province: 36 Sentenced for Suing Jiang Zemin

<https://en.minghui.org/html/articles/2016/8/9/158186.html>

<sup>293</sup> Couple Sentenced for Suing Former Chinese Dictator

<https://en.minghui.org/html/articles/2016/9/4/158548.html>

<sup>294</sup> Over 14,000 More People Call for Prosecution of Jiang Zemin

<https://en.minghui.org/html/articles/2016/5/31/157223.html>

---

<sup>295</sup> Taiwan: New Taipei City Council Passes Resolution Supporting Prosecution of Former Chinese Leader  
<https://en.minghui.org/html/articles/2016/10/23/159647.html>

<sup>296</sup> Over 10,000 More Chinese Citizens Sign Petitions to Prosecute Jiang Zemin  
<https://en.minghui.org/html/articles/2016/5/8/156581.html>

<sup>297</sup> Taiwan: All Walks of Life Support Bringing Former Chinese Dictator to Justice  
<https://en.minghui.org/html/articles/2015/11/23/153787.html>

<sup>298</sup> Endless Gratitude for Master's Grace  
<https://en.minghui.org/html/articles/2019/4/24/176604.html>

<sup>299</sup> American Student: On Tiananmen Square I Witnessed Chinese Police Beating Falun Gong Practitioners  
<https://en.minghui.org/html/articles/2001/11/6/15473.html>

<sup>300</sup> 【特稿】 5/13法轮功洪传14周年  
<https://www.epochtimes.com/gb/6/5/12/n1316568.htm>

<sup>301</sup> The Journey of Falun Dafa: A Bright but Arduous Path  
<https://en.minghui.org/emh/articles/2004/9/26/52823.html>

<sup>302</sup> Practitioners From Japan Did Group Practice on the Tiananmen Square to Celebrate the New Millennium  
<https://en.minghui.org/html/articles/2000/1/3/10733.html>

<sup>303</sup> 企業の中で真相を伝える  
<https://jp.minghui.org/2014/08/02/38167.html>

<sup>304</sup> China Fahui | Raising Awareness Throughout All the Villages in My County  
<https://en.minghui.org/html/articles/2018/11/6/173152.html>

<sup>305</sup> Learning Falun Gong in Prison  
<https://en.minghui.org/html/articles/2017/7/18/164699.html>

<sup>306</sup> I Have Learned Falun Dafa in Jail --- How Falun Dafa Has Changed a Former Thie  
<https://en.minghui.org/html/articles/2000/3/4/8938.html>

f  
<sup>307</sup> We Can't Lower the Standard Just Because of Difficulties  
<https://en.minghui.org/html/articles/2006/6/17/74550.html>

<sup>308</sup> Spreading the Goodness of Falun Dafa at Markets  
<https://en.minghui.org/html/articles/2019/4/12/176471.html>

<sup>309</sup> Writing Letters to Spread the Truth  
<https://en.minghui.org/html/articles/2008/11/30/102642.html>

<sup>310</sup> Mailing Truth-Clarification Materials  
<https://en.minghui.org/html/articles/2019/5/5/176736.html>

<sup>311</sup> My Experiences of Clarifying the Truth by Sending Text Messages  
<https://en.minghui.org/html/articles/2007/7/8/87471.html>

- 
- <sup>312</sup> 明慧法会 | 携帯電話で真相を伝える体験談 (一)  
<https://jp.minghui.org/2012/02/29/26977.html>
- <sup>313</sup> 河北省：多くの法輪功修煉者が同日に不当連行  
<https://jp.minghui.org/2014/05/22/38568.html>
- <sup>314</sup> Guangzhou Professor Sentenced to Prison for Posting Information on Social Media about His Persecuted Faith  
<https://en.minghui.org/html/articles/2019/2/7/175738.html>
- <sup>315</sup> Sichuan Man Detained for Sending Messages about Falun Gong through WeChat  
<https://en.minghui.org/html/articles/2018/1/23/167683.html>
- <sup>316</sup> On the 12th Anniversary of Tapping into State Television to Broadcast the Truth about Falun Gong: Remembering the Heroes (Part 3 of 3)  
<https://en.minghui.org/html/articles/2014/3/15/145856.html>
- <sup>317</sup> Falun Gong News Bulletin: March 12, 2010  
<https://en.minghui.org/html/articles/2010/3/13/115322.html>
- <sup>318</sup> Sydney, Australia: Chinese Tourists Learn about Falun Gong and Renounce the Chinese Communist Party  
<https://en.minghui.org/html/articles/2019/2/17/175854.html>
- <sup>319</sup> To Fellow Practitioners Overseas  
<https://en.minghui.org/html/articles/2006/5/8/73016.html>
- <sup>320</sup> 海外の同修からの電話は威力が非常に大きい  
<https://jp.minghui.org/2013/06/03/34235.html>
- <sup>321</sup> Overseas Telephone Calls that Expose the Persecution Have Power  
<https://en.minghui.org/html/articles/2008/9/6/100425.html>
- <sup>322</sup> A Phone Call from Overseas Stops a Police Officer from Torturing a Falun Gong Practitioner  
<https://en.minghui.org/html/articles/2013/11/22/143339.html>
- <sup>323</sup> A Former Prisoner Learns Falun Gong During Her Detention  
<https://en.minghui.org/html/articles/2018/8/26/171653.html>
- <sup>324</sup> Tibetan Schools in India Welcome Falun Dafa  
<https://en.minghui.org/html/articles/2018/7/24/171246.html>
- <sup>325</sup> インドネシア 高校で500人の教師と学生が集団煉功  
<https://jp.minghui.org/2019/03/06/62809.html>
- <sup>326</sup> Spiritual Journey of a Software Developer  
<https://www.mhpublishing.org/story/spiritual-journey-of-a-software-developer/>
- <sup>327</sup> Falun Dafa Helps a New Practitioner Recover a Vibrant Life  
<https://en.minghui.org/html/articles/2019/6/21/178153.html>

- 
- <sup>328</sup> 韓国ソウルでの九日間講習会終了 体得を語る参加者  
<https://jp.minghui.org/2019/02/26/62703.html>
- <sup>329</sup> Motion No. 704 Passed in Australian Senate to Rescue the Family Members of Australians (Photos)  
<https://en.minghui.org/html/articles/2003/12/9/42979.html>
- <sup>330</sup> Australian Falun Dafa Practitioner Nancy Chen To Return to Sydney Due To Successful Rescue Effort  
<https://en.minghui.org/html/articles/2003/1/30/31516.html>
- <sup>331</sup> Another Successful Overseas Rescue (Photo)  
<https://en.minghui.org/html/articles/2004/8/9/51185.html>
- <sup>332</sup> Canadian Government Helps Rescue Falun Gong Practitioner (Photos)  
<https://en.minghui.org/html/articles/2012/1/6/130542.html>
- <sup>333</sup> Canadian Government Aids in Rescue, Falun Gong Practitioner Lin Mingli Is Released (Photos)  
<https://en.minghui.org/html/articles/2003/3/28/33899.html>
- <sup>334</sup> 通告  
<https://jp.minghui.org/2019/06/03/64146.html>
- <sup>335</sup> Tightened U.S. Visa Vetting a Deterrence to Perpetrators Involved in Persecution of Falun Gong in China  
<https://en.minghui.org/html/articles/2019/8/9/178812.html>
- <sup>336</sup> カナダ議員 政府に人権迫害者入国禁止促す  
<https://jp.minghui.org/2019/08/08/64927.html>
- <sup>337</sup> 米国トランプ大統領 宗教迫害被害者達と面会  
<https://jp.minghui.org/2019/07/28/64712.html>
- <sup>338</sup> Pence Meets With Representatives of Religious Groups Persecuted in China  
[https://www.theepochtimes.com/pence-meets-with-representatives-of-religious-groups-persecuted-in-china\\_3032274.html](https://www.theepochtimes.com/pence-meets-with-representatives-of-religious-groups-persecuted-in-china_3032274.html)
- <sup>339</sup> 米国の多数の政治家たちが 法輪功を支持する  
<https://jp.minghui.org/2019/09/10/65055.html>
- <sup>340</sup> 2017 Falun Gong: Religious Freedom in China  
<https://freedomhouse.org/report/2017/battle-china-spirit-falun-gong-religious-freedom>
- <sup>341</sup> Amnesty International Releases Urgent Action Update: Falun Gong Practitioners Face Imprisonment in China  
<https://en.minghui.org/html/articles/2017/2/26/162317.html>
- <sup>342</sup> Recalling Master's 1996 Visit to Houston  
<https://en.minghui.org/html/articles/2013/9/23/142366.html>
- <sup>343</sup> Dafa Day Recognition  
<https://en.minghui.org/cc/80/>

---

<sup>344</sup> Canada: Elected Officials Sent Congratulatory Letters to Commemorate World Falun Dafa Day  
<https://en.minghui.org/html/articles/2019/5/17/177657.html>

<sup>345</sup> H.Con.Res.304 - Expressing the sense of Congress regarding oppression by the Government of the People's Republic of China of Falun Gong in the United States and in China.  
<https://www.congress.gov/bill/108th-congress/house-concurrent-resolution/304>

<sup>346</sup> H.Res.605 - Recognizing the continued persecution of Falun Gong practitioners in China on the 11th anniversary of the Chinese Communist Party campaign to suppress the Falun Gong spiritual movement and calling for an immediate end to the campaign to persecute, intimidate, imprison, and torture Falun Gong practitioners.  
<https://www.congress.gov/bill/111th-congress/house-resolution/605>

<sup>347</sup> U.S. House Resolution 605: a Voice of Concern That Rises Above Politics  
<https://en.minghui.org/html/articles/2010/3/31/115786.html>

<sup>348</sup> U.S. Senators and House Representatives Commend Falun Gong Practitioners' Efforts to End 20-Year Persecution in China  
<https://en.minghui.org/html/articles/2019/7/21/178519.html>

<sup>349</sup> Germany Condemns 20 Years of Persecution of Falun Gong in China  
<https://en.minghui.org/html/articles/2019/7/24/178567.html>

<sup>350</sup> WRITTEN DECLARATION  
[https://www.europarl.europa.eu/doceo/document/DCL-8-2016-0048\\_EN.pdf?redirect](https://www.europarl.europa.eu/doceo/document/DCL-8-2016-0048_EN.pdf?redirect)

<sup>351</sup> 欧州議会：中国共産党による生体臓器狩りに議員の過半数が制止声明文に連署  
<https://jp.minghui.org/2016/08/01/49226.html>

<sup>352</sup> Missouri State Legislature Condemns Forced Organ Harvesting in China  
<https://en.minghui.org/html/articles/2019/5/25/177770.html>

<sup>353</sup> State of Maine Legislature Passes Organ Harvesting Resolution  
<https://en.minghui.org/html/articles/2019/5/19/177683.html>

<sup>354</sup> Georgia State Senate Passes Resolution Condemning Organ Harvesting Atrocities in China  
<https://en.minghui.org/html/articles/2018/4/1/169235.html>

<sup>355</sup> Arizona State Congress Passes Legislation Against Organ Harvesting Atrocities in China  
<https://en.minghui.org/html/articles/2018/4/5/169276.html>

<sup>356</sup> Israel Transplant Law – ORGAN TRANSPLANT ACT, 2008  
<https://sections.tts.org/DOI/Israel%20Transplant%20Law.pdf>

<sup>357</sup> [https://documents.law.yale.edu/sites/default/files/criminal\\_code\\_spain.pdf](https://documents.law.yale.edu/sites/default/files/criminal_code_spain.pdf)  
[https://documents.law.yale.edu/sites/default/files/criminal\\_code\\_spain.pdf](https://documents.law.yale.edu/sites/default/files/criminal_code_spain.pdf)

<sup>358</sup> DISEGNO DI LEGGE  
<http://www.quotidianosanita.it/allegati/allegato4671710.pdf>

- 
- <sup>359</sup> National Broadcaster in Italy: Parliamentary Symposium on Transplant Ethics Brainstorms Legislative Actions to Comb  
at Organ Harvesting  
<https://en.minghui.org/html/articles/2014/7/23/2191.html>
- <sup>360</sup> Taiwan: Legislature Bans Transplant Tourism  
<https://en.minghui.org/html/articles/2015/6/19/151159.html>
- <sup>361</sup> Croatian Parliament Adopts Convention Against Organ Trafficking  
<https://en.minghui.org/html/articles/2019/3/24/176260.html>
- <sup>362</sup> Belgium Passes New Bill Banning Medical Tourism for Organ Transplants  
<https://en.minghui.org/html/articles/2019/6/18/178116.html>
- <sup>363</sup> Bill to Curb Organ Trafficking Passes Unanimously in Canadian House of Commons  
<https://en.minghui.org/html/articles/2019/5/5/176732.html>
- <sup>364</sup> U.S. Commission on International Religious Freedom: Chinese Regime Still Harvests Organs on Large Scale  
<https://en.minghui.org/html/articles/2019/5/2/176692.html>
- <sup>365</sup> CHINA TRIBUNAL FULL JUDGMENT – released March 2020  
<https://chinatribunal.com/final-judgment/>
- <sup>366</sup> Peaceful Protest of April 25, 1999  
<https://en.minghui.org/cc/86/>
- <sup>367</sup> Some Quick Facts about the Peaceful Appeal in Beijing on April 25, 1999  
<https://en.minghui.org/html/articles/2010/4/22/116248.html>
- <sup>368</sup> The Truth About the April 25 Appeal -- Deceptive Propaganda Twists Peaceful Protest into "Justification" for Violent R  
epression  
<https://en.minghui.org/html/articles/2010/4/24/116311.html>
- <sup>369</sup> Self-Immolation Hoax on Tiananmen Square  
<https://en.minghui.org/cc/88/>
- <sup>370</sup> 54 Facts That Reveal How the "Self-Immolation" on Tiananmen Square Was Actually Staged for Propaganda Purposes  
- Part 1  
<https://en.minghui.org/html/articles/2011/10/1/128477.html>
- <sup>371</sup> Washington Post: Human Fire Ignites Chinese Mystery Motive for Public Burning Intensifies Fight Over Falun Gong  
<https://en.minghui.org/html/articles/2001/2/5/4783.html>
- <sup>372</sup> An Eyewitness Recalls the "Self-Immolation" Incident on Tiananmen Square  
<https://en.minghui.org/emh/articles/2004/11/21/54787.html>
- <sup>373</sup> 1,400 Alleged Deaths  
<https://en.minghui.org/cc/87/>
- <sup>374</sup> 1,400 Deaths or Party Propaganda?  
<https://en.minghui.org/html/articles/2011/10/1/128695.html>

---

<sup>375</sup> ニューヨーク法会での説法

[https://ja.falundafa.org/book/html/199703\\_NewYork.html](https://ja.falundafa.org/book/html/199703_NewYork.html)

<sup>376</sup> Exposing the Facts Behind the "1,400 Death Cases": The Case of Ma Jinxiu

<https://en.minghui.org/html/articles/2012/5/15/133372.html>

<sup>377</sup> 1,400 Deaths or Party Propaganda?

<https://en.minghui.org/html/articles/2011/10/1/128695.html>

<sup>378</sup> Exposing the Truth of the "1,400 Death Cases": My Son's Death Has Nothing To Do With Falun Gong

<https://en.minghui.org/html/articles/2002/1/20/17934.html>



法輪大法の最新ニュース、および法輪大法を実践する人々の生活については [jp.Minghui.org](http://jp.Minghui.org) をご覧ください。

#### ご支援について

明慧ネットはボランティアによるネットワークであり、中国での法輪功迫害について、直接の情報を報道している唯一の組織です。20年間に亘る絶え間ない報道により、私たちは何百万もの人々に有益な情報を提供してきました。

本書のご購入により、私たちが引き続き法輪功、および数十億人もの人々の生活に影響を与えている進行中の迫害に関して、最新情報を提供することの支えとなります。

他の書籍のご購入、または寄付をご希望の方は、[mhpublishing.org](http://mhpublishing.org) をご覧ください。